科目名:OH41S0001　教育制度	担当者:金子 晃之	開講学科等	保育学部 保育学科
		授業形態	講義
免許･資格:幼稚園・小学校教諭1種免許状・保育士資格		開講時期	前期
		配当学年	4
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	必須

授業概要と方法
　今日の学校教育や地域の社会教育を含む教育制度についての知識を理解し、特性や問題点について展望できる思考力を獲得する（保育学科DP３）（国際教養こども学科DP1、2)。方法は、各回、ムードルに資料を掲載し、授業時に説明し、各自がその資料に書き込みをして学修を進める。それと共に、授業ノートをムードルへ提出する(15回)。映像を用いて説明し事例検討を行う。グループ・ディスカション(2回)。毎回、パソコンを持参すること。【AL】

授業の到達目標
　到達目標は、①現代の学校教育に関する制度的な事項について、基礎的な知識を身に付け、そこにある課題を理解できること、②学校と地域との問題について理解できること、③学校安全への対応に関する基礎的知識について理解し、教育制度の特性と問題点について考察できることにある。（保育学科DP3）（国際教養こども学科DP12）◎知識・技能　○思考力・判断力・表現力

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
　基本的に、次回の資料を開示するので、予習として読んでおくこと（事前学修30分）。授業後は、書き込んだ資料を読み直し、ポイントを振り返りながら、授業ノートに記載し後日提出すること(事後学修90分)。

評価方法
　事後学修として毎回提出する授業ノートの点数を合計して100点満点で評価する。授業ノートのフィードバックについては授業内で行う。

教科書
　毎回、資料と授業ノートをムードルに掲載する。

参考図書
「幼稚園教育要領」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」「保育所保育指針」「小学校学習指導要領」その他については授業内で指示する。

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
　毎回、パソコンを持参して下さい。
　オフィスアワー　木曜日昼休み　研究室。　　メールアドレス　t-kaneko@ohkagakuen-u.ac.jp

01	教育制度の原理と理念①　教育基本法、改正教育基本法、教育振興基本計画
02	教育制度の原理と理念②　学校教育法及び学校教育法施行規則
03	教育制度の原理と理念③　地方教育行政の組織及び運営に関する法律
04	教育制度の原理と理念④　学校評議員、コミュニティスクール、学校評価、学校選択制
05	教育制度の原理と理念⑤　教育職員免許法、教育公務員特例法
06	学校施設整備指針と学校づくり
07	家庭教育の支援政策
08	幼保一元化の問題
09	小中一貫校と義務教育
10	学校・子どもの生活の変化と近年の教育政策の動向
11	地域学校協働本部と学校づくり
12	地域と学校の安全への取り組み
13	学校保健安全法と事件・事故・災害への取り組み
14	学校安全といじめ問題
15	今日の教育制度の特性と課題
16	試験なし

科目名:OH41S0101　保幼小連携総論	担当者:淺野 卓司、基村 昌代、森川 拓也、寺田 泰人、内田 将平	開講学科等	保育学部 保育学科
		授業形態	講義
免許･資格:幼稚園教諭1種免許状・保育士資格		開講時期	前期
		配当学年	4
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	必須

授業概要と方法
保幼小連携の意義と重要性について、接続期の発達課題、教育カリキュラムの課題、現場での課題から学ぶ。実践事例を参考にしながら子どもの育ちを具体的にイメージし、遊びと活動、学習の関係について考察する。グループワーク、ディスカッション等を取り入れながら、保幼小連携の具体的方策についての考えを深め、保育者・教育者としての意識を高める。【AL】

授業の到達目標
①保幼小連携の意義・重要性・課題について、今後の自らの課題として意識し、積極的に関わり考察できる【DP】
②保幼小連携の意義・重要性・課題について、他者と共にそれぞれの考えを出し合いながら学び合うことができる【DP】
③保幼小連携についての知識や技能を備え、保幼小の関連性を理解し、連携期の子どもの姿を具体的にイメージできる
④保幼小連携の課題について、教育・保育に関する知識や技能を基に、その課題に向かう方法を考察し、その結果を他者に正確に伝える力を身につけている。

【到達目標と深く関連する学科DP】
○主体的に学ぼうとする力
◎思考力・判断力・表現力

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
各回で指示された課題に取り組む

評価方法
フィードバック：レポート・課題・グループワーク等を適宜評価し課題点や留意事項などを直接伝える
最終レポート40%　　授業内提出物・課題　40%　　授業内活動・態度　20%

教科書
文部科学省：小学校教育学習指導要領　　文部科学省：幼稚園教育要領　　厚生労働省：保育所保育指針
内閣府：認定こども園教育保育要領

参考図書
各教員が指示する

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
欠席の場合、必ず事前に連絡をすること。無断欠席・遅刻は厳禁。連絡先は授業内で伝える。

01	オリエンテーション・保幼小接続期教育の課題の諸相
02	幼児期と教科学習との接続とカリキュラム・マネジメント①（保幼小連携を担う教科としての音楽科）
03	幼児期と教科学習との接続とカリキュラム・マネジメント②（保幼小連携を担う教科としての図画工作科）
04	幼児期と教科学習との接続とカリキュラム・マネジメント③（保幼小連携を担う教科としての体育科）
05	幼児期と教科学習との接続とカリキュラム・マネジメント④（保幼小連携を担う特別支援教育）
06	幼児期と教科学習との接続とカリキュラム・マネジメント⑤（保幼小連携を担う教科としての国語科）
07	アプローチ・カリキュラムとスタート・カリキュラムの現状と構成
08	まとめ　保幼小連携のあり方と具体的方策について
09	
10	
11	
12	
13	
14	
15	
16	

科目名:OH41S0102　教育・保育学特講Ⅱ	担当者:辻岡 和代、上村 晶、金子 晃之、森川 拓也、小柳津 和博、木村 達志、小原 倫子、嶋守 さやか	開講学科等	保育学部 保育学科
		授業形態	講義
免許･資格:		開講時期	前期
		配当学年	4
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	選択

授業概要と方法
保育学に求められる専門的知識の確認・定着を図ることを目指す。ここまでの講義・演習等を振り返るために、保育士試験や公務員保育職の専門試験レベルの内容を確認していく。

授業の到達目標
保育者として十分な専門的知識と技能を確認し、就職後に活用できるようにしていく(DP)。
【到達目標と深く関連する学科DP】
○主体的に学ぼうとする力
◎思考力・判断力・表現力

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
これまでの教科書・講義や演習で使用したプリントの見直しができるようにしておくこと。また演習内容はノートなどにまとめ、確認できるようにしていくこと。

評価方法
「授業に対する取り組み(50%）、提出物・課題等(50%）で評価を行う。各回の課題等はmoodleを用いてフィードバックを行う。

教科書	参考図書
適宜紹介する	適宜紹介する

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
質問等は、メール、Moodleまたはオフィスアワーで受け付ける。詳細については授業で開示する。
公立保育職希望者で専門試験がある者はぜひ受講してほしい。またここまでの授業の総復習をしたい者の受講も歓迎する。

01	ガイダンス　子どもの食と栄養のまとめ　　(辻岡)
02	保育者としてあるべき姿①　―保育内容まとめ―　(上村)
03	社会福祉のまとめ　　(嶋守)
04	障害児関連のまとめ　(小柳津)
05	子育て支援のまとめ　(小原)
06	教育学のまとめ　　(金子)
07	健康・保健のまとめ　(木村)
08	保育者としてあるべき姿②　―小論文を通して―　(森川)
09	
10	
11	
12	
13	
14	
15	
16	

2024年度シラバス

科目名:0H42S0201　音楽科教育法	担当者:五十嵐 睦美	開講学科等	保育学部 保育学科
		授業形態	講義
免許・資格:小学校教諭1種免許状		開講時期	後期
		配当学年	4
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択

授業概要と方法
本授業では、小学校音楽科の目標、内容、評価および校種間の連携について理解を深めながら、音楽科教育の意義や今日的課題について学ぶ。また、表現（歌唱、器楽、音楽づくり）および鑑賞の教材研究や指導案作成、模擬授業を通して、音楽科の授業づくりについて多角的に検討する。なお、授業づくりの際にはICT機器を積極的に活用し、時代に即した実践力を身につけるようにする。【AL】

授業の到達目標
①小学校音楽科の目標、各領域における具体的な内容、評価および校種間の連携について理解する。②児童の音楽的発達や今日的課題を踏まえながら教材研究、指導計画の立案を行い、授業分析を通して実践力を身につける。（DP）

【到達目標と深く関連する学科DP】
○知識・技能
◎思考力・判断力・表現力

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
音楽科で扱う教材について、実際に演奏を聴いたり歌ったりしながら理解を深めること。
ICT機器などを活用しながら、教材研究に必要な資料や音源、映像を自主的に収集すること。
授業づくりに関する資料や事例を自主的に収集すること。

評価方法
確認テスト（30%）、指導案の作成（30%）、模擬授業の振り返りとレポート（30%）、授業への参加態度（10%）提出された課題（確認テスト、指導案、レポート）は添削およびコメントを付し、返却する。

教科書	参考図書
文部科学省『小学校学習指導要領解説　音楽編』 初等科音楽教育研究会編『改訂版　最新初等科音楽教育法 　2017年告示「小学校学習指導要領」準拠』音楽之友社	小学校音楽科教科書　第1学年～第6学年 小学校学習指導要領

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
ソプラノリコーダーを各自用意すること。
実際に表現活動を行いながら授業づくりについて検討するため、積極的に参加すること。
連絡方法などは、授業内に開示する。

01	オリエンテーション、音楽教育の意義と小学校音楽科の実際
02	音楽科の目標と指導内容の枠組み
03	各領域の内容(1)：表現
04	各領域の内容(2)：鑑賞と〔共通事項〕
05	音楽科の評価、確認テスト
06	授業実践の事例検討(1)：表現（歌唱）
07	授業実践の事例検討(2)：表現（打楽器、リコーダー）
08	授業実践の事例検討(3)：表現（ICT機器、教材を活用した音楽づくり）
09	授業実践の事例検討(4)：鑑賞（ICT機器、教材を活用した鑑賞）
10	教材研究の重要性、学習指導案の作成と内容
11	模擬授業の実践と検討(1)：表現（歌唱）
12	模擬授業の実践と検討(2)：表現（器楽）
13	模擬授業の実践と検討(3)：表現（音楽づくり）
14	模擬授業の実践と検討(4)：鑑賞
15	これからの音楽科教育の課題
16	試験（レポート）

2024年度シラバス

科目名:0H42S0202　家庭科教育法	担当者:栗田 舞	開講学科等	保育学部 保育学科
		授業形態	講義
免許・資格:小学校教諭1種免許状		開講時期	後期
		配当学年	4
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択

授業概要と方法
講義で小学校における教科としての家庭科に必要な知識と具体的な指導方法を身に付け、家庭科の概要と指導内容、そして様々な指導法を修得する。また家庭科の様々な分野について教材研究を行なう。そして、最終的には各自で学習指導案を作成、発表し全体検討を行ない高め合う。

授業の到達目標
①学習指導要領における家庭科の内容を修得する
②教育を高める意識を持ち教材研究を行ない、学習指導案を作成することができる（DP）
③家庭科の授業を成立させることができる（DP）
【到達目標と深く関連する学科DP】
○知識・技能
◎思考力・判断力・表現力

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
準備学修：日々の生活を送るなかで、疑問に思ったことや気になったことをそのままにせず、調べて実践することにより自分なりの解釈を広げていくこと。生活のあらゆることが、家庭科の学習の糧になるので、常にアンテナをたて生活をしてほしい。このことが教材研究へとつながる。
教科書によく目を通し、家庭科の知識を修得する。２時間
事後学修：講義内容をきちんと理解でき、教師として生徒に教えることができるよう復習し身に付ける。疑問点があったら明らかにする。２時間

評価方法
学習指導案　３０％　　教材研究　２０％　　確認テスト　２０％
課題　２０％　　グループ討議参加態度、自己評価シート　１０％

教科書	参考図書
小学校　家庭科教育法　大竹美登利・鈴木真由子・綿引伴子　㈱建帛社、新しい家庭５・６　東京書籍	小学校学習指導要領

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
教材研究、学習指導案の課題はMoodleにて提出する。
質問等は、授業後に教室にて受け付ける。またMoodleでも受け付ける。

01	ガイダンス　学習指導要領における家庭科の概要と展開
02	家庭科の学習指導と評価
03	確認テスト　教材研究の方法
04	家族・家庭生活分野における教材研究、学習指導案の構成と全体検討
05	食生活分野、調理における教材研究、学習指導案の構成と全体検討
06	衣生活分野、製作における教材研究、学習指導案の構成と全体検討
07	住生活分野における教材研究、学習指導案の構成と全体検討
08	消費生活と環境分野における教材研究、学習指導案の構成と全体検討
09	家庭科の授業づくりと学習指導案
10	学習指導案の構成
11	家族・家庭生活分野における模擬授業と全体検討
12	食生活分野、調理における模擬授業と全体検討
13	衣生活分野、製作における模擬授業と全体検討
14	住生活分野における模擬授業と全体検討
15	消費生活と環境分野における模擬授業と全体検討
16	試験なし

2024年度シラバス

科目名:OH42S0203　英語科教育法	担当者:加藤 あや美	開講学科等	保育学部 保育学科
		授業形態	講義
免許・資格:小学校教諭1種免許状		開講時期	後期
		配当学年	4
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択

授業概要と方法
小学校における外国語活動及び外国語指導法の理論と実践の両面について学びながら、児童に対する外国語の指導法についての知識を深めていく。授業は講義及び実践の形を取り、小学校における外国語きょういくについての概要を学ぶとともに、教材研究や指導案の作成の方法を学び、実際に模擬授業を行うことで実践的なトレーニングも行う。【AL】

授業の到達目標
小学校における外国語活動と外国語の学習・指導に関する知識及び授業における指導と学習評価の基礎を身につける。（DP）また、模擬授業に取り組むことにより授業実践力の向上を図る。（DP）
【到達目標と深く関連する学科DP】
○知識・技能
◎思考力・判断力・表現力

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
指導案の作成に必要な参考資料収集に取り組み、教材研究に活かせるようまとめておくこと。また、授業で使う教材には事前に目を通しておくこと。

評価方法
グループワーク・ディスカッション等を含めた授業への参加度　20%　授業レポート　20%　模擬授業　30%　定期試験　30%　次回の授業時に前回授業における授業コメントに基づいたフィードバックを全体に行う。

教科書
小川隆夫（他）（2021）小学校英語はじめる教科書 改訂版（mpi松香フォニックス）

参考図書
文部科学省『小学校学習指導要領』『小学校学習指導要領解説　外国語編』
その他は授業内にて適宜紹介する。

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
グループワークやディスカッションを多く取り入れるため、積極的に自分の意見を発信すること。連絡手段等は授業内にて伝える。

01	学習指導要領から見る外国語活動と外国語
02	小中高の連携と小学校の役割
03	児童や学校の多様性への対応
04	言語使用を通した言語習得・音声によるインプット
05	コミュニケーションの目的や場面、状況等を明確にした言語活動
06	受信から発信、音声から文字へ
07	国語教育との連携
08	児童の発話の引き出し方、児童とのやり取りの進め方
09	文字言語との合わせ方、読む活動から書く活動への導き方
10	題材の選定と教材研究
11	学修到達目標、指導計画カリキュラム・マネジメント
12	学修指導案の作成
13	模擬授業①　ALT等とのTTによる指導の在り方
14	模擬授業②　ICT等の活用の仕方
15	学修状況の評価（パフォーマンス評価）
16	定期試験

科目名:OH41S0201　特別活動・総合的な学習の時間の指導法	担当者:木村 幸泰	開講学科等	保育学部 保育学科
		授業形態	講義
免許･資格:小学校教諭1種免許状		開講時期	前期
		配当学年	4
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択

授業概要と方法
特別活動や総合的な学習の時間は、子供たちが身の回りの事象に主体的にかかわり、問題解決を行う場である。また、特別活動については、模擬授業や場面指導を取り入れながら、一人一人を生かす学級活動や行事の指導の在り方を学ぶ。また、総合的な学習の時間の授業では、グループワークで指導計画の作成や模擬授業など行いながら指導の在り方を学ぶ。【AL】

授業の到達目標
・児童の主体性を育み、有用感を高める特別活動の指導法を理解することができる。「知識・技能」
・子どもたちの主体的な問題解決を促す総合的な学習の在り方を理解することができる。「知識・技能」
・教科・行事の体験的活動の場としての総合的学習・特別活動の運営の在り方を考えることができる。「思考力・判断力・表現力」
【到達目標と深く関連する学科DP】
○知識・技能
◎思考力・判断力・表現力

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
事前学修：指導要領解説を事前に読み、大切な内容をメモする。また、グループワークや模擬授業の前には、自分なりの案をノートなどにメモしておく。
事後学修：授業で扱った資料を確認し、重要事項をノートに書き留めておく。

評価方法
①授業への積極的参加度：２０％　②毎時の小レポート：４０％　③課題レポート：４０％
フィードバック：フィードバック：小レポートの内容をもとに、授業ポのポイントについて解説をする。個々で考えた授業をグループワークや模擬授業に生かす。

教科書 小学校学習指導要領解説　総合的な学習の時間編・特別活動編	参考図書 なし

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
・授業内容が、新学習指導要領のどんな事項にかかわっているかを確認しておく。
・指導計画づくり・模擬授業を行う際は、グループで意見が出せるようにしておく。
・質問は、Mooddleで受け付けます。

01	ガイダンス：優れた総合的な学習や特別活動の優れた取り組みに触れ、講義の見通しをもつ。
02	学習指導要領が示す特別活動の資質・能力の育成と探究学習。
03	子どもたちの主体性を育む学級活動と学級づくり。
04	学級会の運営の方法と模擬学級会の準備。（グループワーク）
05	学級会の運営の工夫と模擬学級会（発表会）
06	学校づくりに参加することで、有用感を育む児童会活動の組織と運営。
07	行事を生かした学級・学校づくりの手立てとその具体例。
08	学習指導要領が示す総合的な学習の時間の目標と資質・能力の育成の手立て。
09	地域の文化や環境を学ぶ総合的な学習の時間の教材と具体的な取組例。
10	教科学習と連携した総合的な学習の時間の在り方と授業づくり。
11	学年行事や教科の体験の場としての総合的な学習の時間の在り方について考える。
12	自己実現を目指す進路指導の場としての総合的な学習の在り方。
13	学校のグランドデザインと総合的な学習の時間への取り組みの在り方について考える
14	自分で総合的な学習のテーマを見つけ、単元の学習指導計画をつくる。
15	単元の指導計画についてグループ内で発表会を行い、修正案を考える。（グループワーク）
16	なし（課題レポート）

2024年度シラバス

科目名:OH42S0204　生徒・進路指導論	担当者:澤田 好江	開講学科等	保育学部 保育学科
		授業形態	講義
免許・資格:小学校教諭1種免許状		開講時期	後期
		配当学年	4
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択

授業概要と方法
　本授業では、学校教育の全領域における生徒指導（教育相談、進路指導を含む）の原則と指導方法を検討し、学校教育における生徒指導のあり方を探求する。子ども達に、安心してその持てる力を十分に発揮させながら、学校生活を送らせるための指導について、教科書を用いながら理論や実践について学ぶ。講義形式をとるが、随時、受講生の意見や感想を求めるので、自らの問いを立てて授業にのぞむことを求める。双方向型の授業を重視し、グループディスカッションも多く取り入れていきたい。【AL】　本授業はディプロマポリシーにある「自主的、主体的に学び活動する力を身につけている」「他者と交流・協力し、学び合う力を身につけている」「課題を発見・理解し解決しうる力を身につけている」と、関連している。

授業の到達目標
①学校教育における生徒指導の目的と原則について理解できる。（DP）
②生徒指導の意義と課題、並びに具体的な指導のあり方について理解できる。（DP）
③生徒指導の各場面における「子ども理解」の重要性が意識でき、子どもの権利尊重の視点に立った子ども理解ができる。（DP）
④現代の生徒指導にかかわる諸課題と、指導の内容と方法について、学校現場での事例を通して理解できる。（DP）
⑤近年、進路指導の中核となりつつあるキャリア教育の意義と課題を理解できる。（DP）

【到達目標と深く関連する学科DP】
◎知識・技能
○思考力・判断力・表現力

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
準備学修として、次回の学習内容である教科書を読んでおく（30時間）
事後学修として、授業で示されたポイントや課題についてノートにまとめたり、グループワークを振り返ったりする（30時間）

評価方法
授業への参加態度20%　小レポート30%　確認テスト50%
課題やレポートのフィードバックは返却時のコメント付記や添削、授業での全体講評によって行う。

教科書	参考図書
「新しい時代の生活指導」山本敏郎・藤井啓之・高橋英児・福田敦志著　有斐閣　2,014年	文部科学省『生徒指導提要』 その他は授業中に紹介　　学習資料（文献）の一部は事前学習課題として位置づける。

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
教科書「新しい時代の生活指導」は、ほぼ全章を授業で使用します。購入の方、よろしくお願いします。また、【AL】では、意見交流を重視します。質問や意見、感想などを積極的に述べてください。

01	生徒指導の意義と課題　「生徒指導提要」を読む
02	生徒指導と生活指導　（教科書　第１章・３章）
03	生活指導の原理　（教科書　第１章）
04	子どもを権利行使主体に育てる　（教科書　第４章）
05	子ども理解　（教科書　第５章）
06	子どもの生活世界と生きづらさ　（教科書　第６章）
07	いじめ・暴力のなかの子ども達　（教科書　第７章）
08	子ども集団づくり　（教科書　第９章）
09	学びと生活指導　（教科書　第１０章）
10	進路指導・キャリア教育　（教科書第　１１章）
11	実践検討「不登校と生活指導」　【AL】
12	実践検討「発達障害を抱える児童への対応」【AL】
13	実践検討「特別活動における生徒指導」　【AL】
14	実践検討「保護者対応・保護者との出会い直し」【AL】
15	まとめと確認テスト
16	なし

2024年度シラバス

科目名:0H41S0202　音楽	担当者:基村 昌代、五十嵐 睦美	開講学科等	保育学部 保育学科
		授業形態	演習
免許・資格:小学校教諭1種免許状		開講時期	前期
		配当学年	4
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	選択

授業概要と方法
歌唱、器楽、音楽づくり、鑑賞の授業内容を理解し、各分野（各2回）の体験を通して音楽活動の楽しさや音楽表現の面白さについて学ぶ。各分野の授業は個人演奏、グループワークを含めた実技演習を中心に行い、その都度実技試験、発表、振り返りを行う。【AL】

授業の到達目標
小学校音楽科の目標や内容について理解を深め、表現（歌唱、器楽、音楽づくり）及び鑑賞の活動に必要な基礎的な知識・技能を身につける。また、音楽的な見方・考え方を働かせ、表現を通して他者に伝える力を身につける。（DP）
【到達目標と深く関連する学科DP】
◎知識・技能
○思考力・判断力・表現力

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
歌唱、器楽、音楽づくりは、実技が中心です。授業外でも歌や楽器に触れ、表現を工夫できるよう練習しましょう。
音楽づくりと鑑賞は、グループワークが中心です。これまで培った音楽知識を活かしながら互いに学びを深めることができるよう、教材について事前に調べたり、授業アイデアについて考えたりしましょう。

評価方法
歌唱及びリコーダーの実技試験(40%)、音楽づくりの発表(20%)、鑑賞の振り返り(20%)、平常点(20%)で評価する。平常点は担当教員が学習意欲、目標到達度等を総合して評価する。課題（実技試験、発表、振り返りシート）にはコメントを付して返却、または口頭でフィードバックを行う。

教科書	参考図書
初等科音楽教育研究会編『改訂版 最新 初等科音楽教育法 2017年告示「小学校学習指導要領」準拠 小学校教員養成課程』音楽之友社、2020年	小学校学習指導要領解説　音楽編

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
ソプラノリコーダーを各自用意してください。
授業に関する質問は、各授業担当者へ連絡してください。
連絡事項はすべてMoodleを通して行うため、各自こまめに確認をしてください。

01	小学校音楽科の目標と内容、歌唱共通教材（基村）
02	さまざまな歌唱形態（斉唱、輪唱、合唱）（基村）
03	ソプラノリコーダーの正しい奏法（基村）
04	ソプラノリコーダーを用いた合奏（基村）
05	打楽器を用いた音楽づくり（五十嵐）
06	旋律楽器を用いた音楽づくり（五十嵐）
07	日本の伝統音楽と鑑賞の授業づくり（五十嵐）
08	世界の民族音楽と鑑賞の授業づくり（五十嵐）
09	
10	
11	
12	
13	
14	
15	
16	

科目名:OH41S0203　家庭	担当者:辻岡 和代	開講学科等	保育学部 保育学科
		授業形態	演習
免許･資格:小学校教諭1種免許状		開講時期	前期
		配当学年	4
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	選択

授業概要と方法
１．小学校家庭科で取り扱う「衣・食・住」の分野における基礎知識の学習　（全4回）
２．調理実習、縫製実習、授業研究・教材研究などの演習　（適宜）
３．家庭科における教材研究とプレゼンテーション　（全4回）

授業の到達目標
①学習指導要領における小学校家庭科の目標及び主な内容並びに全体構造を理解している。【DP】
②小学校家庭科の「衣・食・住」分野の内容について指導上の留意点・評価の考え方を理解している。【DP】
③小学校家庭科と背景となる領域との関係を理解し、教材研究に対する考えを仲間とともに深め合い、よりよい方法を追求しようとする力を身につけることができる【DP】

【到達目標と深く関連する学科DP】
◎知識・技能
○思考力・判断力・表現力

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
　生活のあらゆる場面で家庭科の内容をふり返り、住まい方への関心をもつとともに、生活に役立つ物の製作や調理を積極的に行って実践力を磨くこと。準備学修として、事前学習や事前課題を提示することがある。事後学修として、各回で設定する制作物や課題が完成していない場合は家庭で完成させる。模擬授業の準備を行う（指導案作成・教具の作成・授業時に使用する教材や食材の購入・模擬授業のための直前準備）

評価方法
プレゼンテーションを含む授業態度40%、提出課題60%で評価する。
提出された課題のフィードバックは、次回授業内での話題提供、提出物の返却、Moodle等を通して行う。

教科書	参考図書
新しい家庭5・6　東京書籍	小学校学習指導要領解説　家庭編

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
質問等は、Moodleまたはオフィスアワーで受け付ける。詳細については授業で開示する。

01	ガイダンス　学習指導要領における「小学校家庭」の目標および主な内容
02	小学校家庭科衣生活分野の概要および指導上の留意点①　手縫いの基礎
03	小学校家庭科衣生活分野の概要および指導上の留意点②　ミシンの使い方　児童への指導法
04	小学校家庭科食生活分野の概要および指導上の留意点①　栄養素のはたらき
05	小学校家庭科食生活分野の概要および指導上の留意点②　調理実習
06	小学校家庭科住生活分野の概要および指導上の留意点　4R SDGs と小学校家庭科
07	模擬授業
08	家庭科における効果的な発問、授業の工夫　総括
09	
10	
11	
12	
13	
14	
15	
16	

2024年度シラバス

科目名:0H41S0204　英語	担当者:加藤 あや美	開講学科等	保育学部 保育学科
		授業形態	演習
免許・資格:小学校教諭1種免許状		開講時期	前期
		配当学年	4
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	選択

授業概要と方法
小学校における外国語活動及び外国語における教材研究を中心に、外国語科の授業づくりの基礎を学修する。英語に関する背景的な知識を土台に、小学校における外国語活動・外国語の授業実践に必要となる総合的な英語運用能力の習得を目指し、ペア、グループワーク・プレゼンテーション等の活動を積極的に取り入れ、コミュニケーションに焦点を置いた実践的なトレーニングを行う。【AL】

授業の到達目標
小学校における外国語活動及び外国語の授業実践に必要な基本的な英語表現を正確に運用する力を身につけるとともに、英語や言語習得に関する背景的な知識を理解する。（DP）
【到達目標と深く関連する学科DP】
◎知識・技能
○思考力・判断力・表現力

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
教材研究に必要な資料等は日頃から当たっておくこと。また、資料には事前に目を通し、まとめておくこと。

評価方法
グループワーク・ディスカッション等を含めた授業への参加度　20%　授業レポート　20%　提出物　20%　プレゼンテーション　40%　次回の授業時に前回授業における授業コメントに基づいたフィードバックを全体に行う。

教科書	参考図書
小川隆夫他著（2021）小学校英語はじめる教科書 改訂版（mpi松香フォニックス）	小学校学習指導要領解説　外国語編　その他は授業内にて適宜紹介する。

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
日本語だけでなく英語でのコミュニケーションのトレーニングにも積極的に取り組むこと。連絡手段等については授業内にて連絡する。

01	オリエンテーション：言語学と第二言語習得論
02	英語の音声と発音と綴りの関係
03	英語の語彙と文構造
04	児童文学（絵本と子ども向けの歌や詩）
05	異文化理解
06	英語コミュニケーション① 聞くこと・読むこと
07	英語コミュニケーション② 話すこと・書くこと
08	英語コミュニケーション③ 領域統合型の言語活動
09	
10	
11	
12	
13	
14	
15	
16	

科目名:OH41S0205　乳児保育Ⅲ	担当者:武藤 直子	開講学科等	保育学部 保育学科
		授業形態	演習
免許・資格:保育士資格		開講時期	前期
		配当学年	4
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	選択

授業概要と方法
【担当者の実務者経験】保育士・保育所園長
乳児保育ⅠⅡで学修したに知識や技術をより深め、保育士の専門性や実践力を高めるための授業とする。乳幼児の発達の理解、子ども理解を深め、どのように関わると良いかを、映像や実践事例に基づき学修する（AL）。乳児保育における指導計画や記録、おたより帳の書き方、教材研究などを実際に考えながら学修する（AL）。保育現場における保護者支援や保育者どうしの連携や担当制についても知識を深めていく。

授業の到達目標
①乳児保育の基本的な考え方を基に乳児保育の在り方を考える（DP）。②保育士としての専門性や実践力をさらに高め、乳児保育に必要な知識や技術を主体的に身に着ける（ＤＰ）。③乳幼児に安心安全な保育を行うための環境構成の仕方・臨機応変な対応や配慮についてより深く学び、実践力を高める（ＤＰ）
【到達目標と深く関連する学科DP】◎主体的に学ぼうとする力○思考力・判断力・表現力

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
乳児保育に関する知識や技術をより深め、専門性・実践力を身に着け、保育士としての自覚を高めるための授業です。主体的に学修していくために以下のことに取り組みましょう。
保育所における乳幼児の生活の流れや保育士の関わり方を実習等を通して理解を深めましょう。
乳幼児の発達や子どもの動きや反応が理解できるよう、実際に子どもと触れ合う機会を持つようにしましょう。子どもの反応をどのように受け止めていいかが理解できるように、乳幼児を観察したり、積極的に関わるように実践力を高めていきましょう。手作りおもちゃや、3歳未満児向けの絵本についても主体的に研究していきましょう。

評価方法
筆記試験６０%。授業への参加態度２０％。レポート・提出物２０％を基準として総合的に判断する。フィードバック方法は毎回の授業時に学びや感想、質問を記載する。
筆記試験は希望者に開示、それ以外のレポートや提出物の評価については、評価の基準内容を第１回目授業に示し、評価して返却する。

教科書	参考図書
「やさしい乳児保育」神蔵幸子ら編著（青踏社）、保育所保育指針解説平成30年厚生労働省編（フレーベル）	必要に応じ指示する。

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
保育実践力が豊かになるように、日ごろから乳幼児との関わりを持つようにしましょう。手遊びや、読み聞かせをする絵本や紙芝居などの教材研究をして、自分のレパートリーを増やしておきましょう。連絡はメールで行います。研究室7402。

01	授業概要等の説明
02	安全な環境（生活）
03	安全な環境（遊び）
04	人権に配慮した環境
05	乳児保育の実際（4～９月）
06	乳児保育の実際（10～3月）
07	保育士の連携と協働
08	まとめ、定期試験
09	
10	
11	
12	
13	
14	
15	
16	

科目名:0H42S0205　教育相談Ａ	担当者:小原 倫子	開講学科等	保育学部 保育学科
		授業形態	講義
免許･資格:幼稚園・小学校教諭1種免許状		開講時期	後期
		配当学年	4
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	必須

授業概要と方法
幼稚園や小学校の教員には子どもたちや保護者、地域からの相談に適切に応じる資質が求められている。教育相談Aでは、教育相談の意義や目的に関する理解を深め、カウンセリングの理論や諸技法の知識を修得する。更に、コミュニケーション力を高め、自己理解や他者理解を深めるために、アクティブラーニングを取り入れる。具体的にはロールプレイを用いたグループワークとグループ発表（全2回）を行い、体験的、実践的な学びを深める。【AL】

授業の到達目標
1. 教育相談の基礎的な知識と基本的態度を理解し、グループワークを通して幼児、児童、保護者への教育相談が実践できるようになる。(DP)　２．自己理解・他者理解を深めることを通して、教育相談を実践するために必要な人間関係形成力やコミュニケーション力を身につける。(DP)　３．教育現場での幼児・児童の発達課題や発達プロセスへの理解を深め、発達の特性や多様性に合わせた相談ができるようになる。(DP)
【到達目標と深く関連する学科DP】
◎知識・技能
○思考力・判断力・表現力

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
【準備学習】あらかじめMoodleにアップされている配布資料を読み、疑問点を確認し、自ら調べ、考えた内容を記録する。（2時間）
【事後学習】Moodleを通して各授業ごとの課題を提出するとともに、理解が不十分な点を教員に確認し、自ら調べてまとめなおす。（2時間）

評価方法
確認テスト（50%）、授業への取組意欲（20%）小レポート（30%）により総合的に評価する。授業において提示した課題（確認テスト、レポート等）に対しては、次回の授業日で、課題の中の特徴的な見解や誤解についての解説や学生のよくできた答案、論文などの紹介をする。

教科書 使用しない	参考図書 「幼稚園教育要領」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」「小学校学習指導要領」

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
【連絡方法・オフィスアワー】授業で開示する。【資料提示・課題提出】Moodleで受け付ける。【その他】
幼稚園や小学校の実習を通して子どもたちの会話や遊びなどを観察し、子どもの想いや行動を理解する力量を養ってください。新聞やニュースから、子どもや保護者の置かれている生活実態に日ごろから関心を持ってください。

01	オリエンテーション：授業のテーマや到達目標及び授業の方法について
02	幼稚園・小学校における教育相談の意義と課題
03	教育相談に関係する心理学の基礎的な理論・概念
04	カウンセリング理論とカウンセリング技法（来談者中心療法を中心に受容・共感・自己一致）
05	ロールプレイを用いたグループワークの実践
06	ロールプレイを用いたグループワークの振り返りと発表
07	幼児期・児童期の心の問題の理解と支援、および関係機関との連携
08	確認テストおよび解説とフィードバック、まとめ
09	
10	
11	
12	
13	
14	
15	
16	

科目名:0H42S0206　教育相談Ｂ	担当者:小原 倫子	開講学科等	保育学部 保育学科
		授業形態	講義
免許･資格:小学校教諭1種免許状		開講時期	後期
		配当学年	4
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	選択

授業概要と方法
小学校の教員には子どもたちや保護者、地域からの相談に適切に応じる資質が求められている。教育相談Bでは、教育相談の意義や目的に関する理解を深め、カウンセリングの理論や諸技法の知識を修得する。更に、コミュニケーション力を高め、自己理解や他者理解を深めるために、アクティブラーニングを取り入れる。具体的には事例検討を用いたグループワークとグループ発表（全2回）を行い、体験的、実践的な学びを深める。【AL】

授業の到達目標
1. 教育相談の基礎的な知識と基本的態度を理解し、グループワークを通して児童、保護者への教育相談が実践できるようになる。(DP)　２．自己理解・他者理解を深めることを通して、教育相談を実践するために必要な人間関係形成力やコミュニケーション力を身につける。(DP)　３．教育現場での児童の発達課題や発達プロセスへの理解を深め、発達の特性や多様性に合わせた相談ができるようになる。(DP)
【到達目標と深く関連する学科DP】
◎知識・技能
○思考力・判断力・表現力

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
【準備学習】あらかじめMoodleにアップされている配布資料を読み、疑問点を確認し、自ら調べ、考えた内容を記録する。(2時間)
【事後学習】Moodleを通して各授業ごとの課題を提出するとともに、理解が不十分な点を教員に確認し、自ら調べてまとめなおす。(2時間)

評価方法
確認テスト（50%）、授業への取組意欲（20%）小レポート（30%）により総合的に評価する。授業において提示した課題（確認テスト、レポート等）に対しては、次回の授業日で、課題の中の特徴的な見解や誤解についての解説や学生のよくできた答案、論文などの紹介をする。

教科書 使用しない。	参考図書 「幼稚園教育要領」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」「小学校学習指導要領」「学校で役立つ教育相談」

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
【連絡方法・オフィスアワー】授業で開示する。【資料提示・課題提出】Moodleで受け付ける。【その他】
小学校の実習を通して子どもたちの会話や遊びなどを観察し、子どもの想いや行動を理解する力量を養ってください。新聞やニュースから、子どもや保護者の置かれている生活実態に日ごろから関心をもってください。

01	小学校における教育相談の意義と理論及び実際の進め方について理解する
02	児童の発達の理解と教育相談に必要な心理学の理論や技法の習得
03	教育相談で使われるカウンセリングの理論を学ぶ
04	教育現場で活用できるアセスメントの方法やカウンセリングの技法を習得する
05	教師の行う相談支援の利点を学び、その有効活用の方法を知る
06	具体的事例（いじめ）の基本的概念の整理と事例検討（グループワーク）及びグループ発表
07	具体的事例（発達障がい）の基本的概念の整理と事例検討（グループワーク）及びグループ発表
08	確認テストおよび解説とフィードバック、まとめ
09	
10	
11	
12	
13	
14	
15	
16	

科目名:OH41S0206　子育て支援	担当者:小原 倫子	開講学科等	保育学部 保育学科
		授業形態	演習
免許･資格:保育士資格		開講時期	前期
		配当学年	4
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	必須

授業概要と方法
近年、核家族化や少子高齢化の進展などの社会情勢の変化に伴い、家族形態や機能が変化しています。また、発達障がいや情緒面の問題を持つ子どもの対応に悩み、育児ストレスを抱える保護者も少なくありません。この授業では子どもの発達の理解を深め、子育て支援についての演習をしっかり行い、保育現場で求められている相談支援の実践力をつけていきます。授業方法は一斉授業及び事例を用いたグループ・ワークを行います。【AL】

授業の到達目標
１．子育て家庭に対して保育士の行う相談等の支援の展開について具体的に理解する（DP）
２．子育て支援について、様々な場や対象に即した支援ができるようになる（DP）
【到達目標と深く関連する学科DP】
○主体的に学ぼうとする力
◎思考力・判断力・表現力

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
【準備学習】あらかじめMoodleにアップされている配布資料を読み、疑問点を確認し、自ら調べ、考えた内容を記録する。（2時間）
【事後学習】Moodleを通して各授業ごとの課題を提出するとともに、理解が不十分な点を教員に確認し、自ら調べてまとめなおす。（2時間）

評価方法
確認テスト（50%）、授業への取組意欲（20%）小レポート（30%）により総合的に評価する。授業において提示した課題（確認テスト、レポート等）に対しては、次回の授業日で、課題の中の特徴的な見解や誤解についての解説や学生のよくできた答案、論文などの紹介をする。

教科書 使用しない	参考図書 保育所保育指針及び解説（平成29年告示版）二宮祐子著(2018)子育支援　萌文書林

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
【連絡方法・オフィスアワー】授業で開示する。【資料提示・課題提出】Moodleで受け付ける。【その他】授業に関する積極的な質問や主体的な授業参加を歓迎します。常に疑問や関心を持ちながら受講し、教育や保育にどのように活かせるのかを一緒に考え続けていきましょう。

01	子育て支援の意義・基本的価値・基本的姿勢ー子育て支援が求められる社会背景と意義
02	子育て支援の原則ー子どもの最善の利益
03	保育者の専門性を生かした子育て支援ー子育て支援の基本的技術
04	守秘義務に関する理解ー保育士倫理綱領
05	受容的関わりの理解ー傾聴と受容（グループワークとグループ発表）
06	子育て支援の実践を学ぶー面接の基本的概念と概要
07	発達に特性を持つ子どもと精神疾患のある保護者の事例（グループワークとグループ発表）
08	確認テストおよび解説とフィードバック、まとめ
09	
10	
11	
12	
13	
14	
15	
16	

科目名:0H41S0301　知的障害教育論Ⅱ	担当者:小川 純子	開講学科等	保育学部 保育学科
		授業形態	講義
免許･資格:特別支援学校教諭		開講時期	前期
		配当学年	4
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択

授業概要と方法
【担当者の実務経験】特別支援学校（知的障害）教諭、教頭、校長
　特別支援学校（知的障害）教諭及び管理職として勤務した経験を踏まえ、知的障害のある幼児・児童・生徒の教育的ニーズ及び教育現場の現状を踏まえた授業内容を計画・実施する。【AL】
知的障害のある児童生徒の学習特性に応じた各教科等や教育課程編成、個別の教育支援計画・個別の指導計画などについて、体験的な学習（グループワーク・グループ発表を含む）を中心として主体的に学ぶ。

授業の到達目標
①知的障害教育における教育課程編成の考え方をもとに、年間指導計画や個別の指導計画、授業の指導案等を作成できる。
②知的障害（発達障害を含む）のある子どもに関する知識・理解を深め、実態に応じた指導法、支援方法について考えることができる。
③知的障害教育の課題、教員の専門性について理解し、自ら専門性を高めるように行動することができる。（DP）

【到達目標と深く関連する学科DP】
○知識・技能
◎思考力・判断力・表現力

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
　準備学修としては、特別支援学校幼稚部教育要領　小学部・中学部学習指導要領を読み込んでおくこと。また、日常的に障害児・者に関するニュース、話題、映画などに触れ、自分自身の疑問や考えを持てるようにすること。事後学修としては、指示されたレポート等の課題に必ず取り組むこと。

評価方法
　授業への参加態度（３0%）、課題（３0%）、定期試験（４0%）の達成度をもとに総合的に評価する。課題等に関するフィードバックは次回講義内及びメールで行う。

教科書	参考図書
使用教科書　なし（資料を配布する。）	特別支援学校 幼稚部教育要領 小学部・中学部学習指導要領及び解説 特別支援教育の基礎・基本 2020

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
　半期学んだことをベースとして、自分で問い、考え、それらを仲間と共有し、さらに深めていきましょう。そこから実践的な力がついてくると考えます。
連絡先は授業で開示します。

01	オリエンテーション　知的障害教育における課題Ⅰ（ワークを通して課題を知る。）
02	知的障害のある幼児児童の学習特性と教育課程の特色、教育課程に係る法令・制度
03	知的障害教育における各教科の特性と取扱い
04	知的障害教育における道徳及び特別活動などの取扱い
05	知的障害教育における領域・教科を合わせた指導Ⅰ（生活単元学習について）
06	知的障害教育における領域・教科を合わせた指導Ⅱ（日常生活の指導、遊びの指導について）
07	知的障害教育における年間指導計画及び日課・週日課 導) 知的障害特別支援学校における各教科等を合わせた指導（日常生活、遊びの指導）
08	知的障害児教育における学習指導案作成と学習評価
09	知的障害教育における個別の指導計画
10	知的障害教育におけるキャリア教育
11	知的障害教育の専門性
12	知的障害者の自立と社会参加・アンケート
13	知的障害教育における自立活動Ⅰ（障害の捉え方と内容について）
14	知的障害教育における自立活動Ⅱ（時間の指導と関する指導について）
15	知的障害教育における課題Ⅱ（自分自身の課題のまとめ、発表）　本講義のまとめ
16	試験なし

科目名:0H42S0301　肢体不自由教育論Ⅱ	担当者:猶原 秀明	開講学科等	保育学部 保育学科
		授業形態	講義
免許・資格:特別支援学校教諭		開講時期	後期
		配当学年	4
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択

授業概要と方法
脳性まひや筋ジストロフィー症など様々なタイプの肢体不自由児に関する障害の成り立ちと実態について、その概要を解説する。特別支援学校現場での実務経験を活かして、特別支援学校の肢体不自由領域における指導内容、指導方法、教育的支援の在り方について教育課程を踏まえて解説する。
自立活動において多く実践されている動作法について実技を交えて解説する。

授業の到達目標
脳性まひをはじめ、特別支援学校に在籍する様々なタイプの肢体不自由児の理解とそれらの子ども達への指導と教育支援、発達支援の在り方について、特に教育現場での実践を踏まえた理解を目指す（DP）。
【到達目標と深く関連する学科DP】
　○ 知識・技能　　◎ 思考力・判断力・表現力

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
授業資料をよく読み、理解と必要な知識の習得に努めること。

評価方法
授業への取り組み、課題の提出（30%）とまとめの課題（70%）により総合的に評価する。
フィードバックは、授業時等において、課題等に関して個別あるいは全体講評等を行う。

教科書 指定しない	参考図書 特別支援学校教育要領・学習指導要領解説　自立活動編（幼稚部・小学部・中学部）

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
授業内で伝えるメールアドレスあてにメールで連絡すること。

01	イントロダクション
02	肢体不自由教育の現状　学校、家庭、医療機関との連携
03	肢体不自由児の実態把握　発達と障害について　起因疾患と心身への影響
04	肢体不自由児の実態把握　障害の捉え方とICF　発達段階と指導内容
05	肢体不自由児の指導計画　姿勢と身体の動き・心理的な安定　自立活動の指導
06	肢体不自由児の指導計画　ICFの活用　発達段階を踏まえた授業設計
07	肢体不自由児のコミュニケーション指導　コミュニケーションの重要性
08	肢体不自由児のコミュニケーション指導　コミュニケーションの成り立ち
09	肢体不自由児のコミュニケーション指導　自立活動での取り組み
10	肢体不自由児の動作法　リラクセイション　自立活動での目標設定と指導
11	肢体不自由児の動作法　姿勢保持と動き　自立活動での目標設定と指導
12	肢体不自由教育におけるキャリア教育の実践　自立と社会参加と家庭との連携
13	肢体不自由教育における指導案の作成　教育課程と個別の指導計画
14	医療的ケアを必要とする肢体不自由児の指導　課程及び医療機関との連携
15	まとめ
16	試験なし

科目名:0H42S0302　聴覚障害児の心理・生理・病理	担当者:鹿嶋 浩	開講学科等	保育学部 保育学科
		授業形態	講義
免許･資格:特別支援学校教諭		開講時期	後期
		配当学年	4
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	選択

授業概要と方法
聴覚の仕組みや聴覚障害の原因についての知識を得るとともに、聴覚障害児の教育の歴史や、ことばと文化に触れながら、聴覚に障害があることによって生じる言語獲得や言語力における課題、発達段階ごとの教育支援や言語指導方法について学ぶ。特にコミュニケーション方法の選択による様々な課題、アイデンティティの形成、家族との関係性、保護者を含めた障害認識・障害受容について具体的に論じる。

授業の到達目標
【到達目標と深く関連する学科DP】
◎知識・技能
○思考力・判断力・表現力
聴覚障害児の原因や実態を踏まえながら、その心理発達や家族を含めた心理的支援、言語獲得や教育支援の具体的な方法について理解する（DP）。

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
コミュニケーション手段である手話や指文字に関心をもち各自学修の機会を設けるとともに、文部科学省HP（特別支援教育）や国立特別支援教育総合研究所HPを閲覧することにより、聴覚障害児教育についての基礎知識や特別支援教育の最新情報と動向について理解しておくこと。

評価方法
レポート：50％
平常点（出席状況、小レポート等、授業内での発言）：50％
フィードバックは、授業時等において、レポート等に関して個別あるいは全体講評等を行う。

教科書	参考図書
必要な資料については、適宜配付する。	特別支援学校教育要領・学習指導要領 言語聴覚士のための事例で学ぶことばの発達障害　編者大石敬子　医歯薬出版株式会社

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
聴覚障害児教育について、現場経験を活かしながら講義をすすめるので、疑問点等多くの質問を前向きに行って欲しい。連絡先は授業で開示する。

01	オリエンテーション（授業の目標・進め方・評価）・聴覚障害の定義
02	聴覚障害の原因と聴覚管理・活用（聴覚生理および病理）
03	聴覚障害教育の歴史
04	聴覚障害児の発達課題（聴覚障害に起因する２次的３次的障害）
05	コミュニケーション手段とアイデンティティの課題（心理）
06	聴覚障害児の言語獲得を目指した教育支援・指導方法
07	聴覚障害教育における教材開発と保護者支援
08	まとめ（テスト）
09	
10	
11	
12	
13	
14	
15	
16	

2024年度シラバス

科目名:OH41S0302　発達障害の理解	担当者:藤井 七瀬	開講学科等	保育学部 保育学科
		授業形態	講義
免許･資格:特別支援学校教諭		開講時期	前期
		配当学年	4
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	選択

授業概要と方法
これまでの学習内容を踏まえて、発達障害に関するより専門的な知識（教育課程や指導法、心理特性）について身につける。また、グループワークの中で個別の教育支援計画・個別の指導計画の作成を通し、特別の支援を必要とする子どもに個々に合った指導・支援について理解を深める。【AL】

授業の到達目標
①発達障害に関するより専門的な知識（教育課程・指導法・心理特性・病理面）を理解する。［DP］
②学習スタイルに基づいた指導法（継次処理優位型と同時処理優位型）について理解し、個別の教育支援計画・指導計画を作成することができる。［DP］
③グループワークの中で議論を深め合いながら特別の支援が必要な子どもの支援・指導について実践的なスキルを身につける。［DP］

【到達目標と深く関連する学科DP】
◎幅広い視野と知識と教養
○協同的に学び合う力

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
発達障害傾向のある幼児・児童の個別の教育支援計画等を作成をしてもらい、授業にてグループごとに発表を行う予定である。そのため、これまでの実習、インターンシップ、ボランティア、アルバイト等で出会ったきた、発達障害（発達障害傾向も含む）のある幼児・児童との実践経験を振り返っておいてください。また、各自で発表会に向けて、資料作成を責任もって事前に取り組むこと。

評価方法
授業内発表課題（50%：50%のうち、個別の教育支援計画・個別の指導計画の作成30%、グループ発表20%）、小テスト（30%）、授業への参加態度（20%）により総合的に評価を行う。

教科書	参考図書
授業中に配布する資料を使用する。	藤田和弘「長所活用型指導で子どもが変わるPart3認知処理様式を生かす各教科・ソーシャルスキルの指導」図書文化社

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
2年生の特別支援基礎論の続きとなります。また、発表会や指導案作成の際には、積極的に意見や質問をして互いに理解を深め合い、特別の支援を必要とする子どもの指導・支援の実践的なスキルを身につけていきましょう。
【連絡先】藤井七瀬 fujiin@ohkagakuen-u.ac.jp

01	オリエンテーション・発達障害とは・教育課程・学びの場・カリキュラムマネジメント
02	ASD児の理解（心理・生理・病理）および指導法について
03	ADHD児の理解（心理・生理・病理）および指導法について
04	LD児の理解（心理・生理・病理）および指導法について
05	言語障害児の理解（心理・生理・病理）および指導法について
06	情緒障害児の理解（心理・生理・病理）および指導法について
07	発達障害児の個別の教育支援計画・個別の指導計画の作成
08	発表・相互検討（個別の教育支援計画・個別の指導計画）
09	
10	
11	
12	
13	
14	
15	
16	

科目名:OH42S0303　聴覚障害教育論	担当者:鹿嶋 浩	開講学科等	保育学部 保育学科
		授業形態	講義
免許･資格:特別支援学校教諭		開講時期	後期
		配当学年	4
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	選択

授業概要と方法
聴覚障害教育における現状及び音声言語を身につける口話法、手話、トータルコミュニケーション等の活用における成果と課題を検討するとともに、インテグレーション教育からインクルーシブ教育への変遷に触れながら、聴覚障害児の認知・言語的な発達の特徴及び具体的な教育・指導の内容について学習する。さらに聴覚障害教育における課題についての理解を深める。

授業の到達目標
【到達目標と深く関連する学科DP】
○知識・技能
◎思考力・判断力・表現力
聴覚障害教育における現状と聴覚障害児教育史をふまえた課題を理解するとともに、聴覚障害教育におけるインテグレーション教育・インクルーシブ教育への考察を深め、特別支援教育体制の中での聴覚障害教育のあり方についての理解を深める（DP）。

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
コミュニケーション手段である手話や指文字に関心をもち各自学修の機会を設けるとともに、文部科学省HP（特別支援教育）や国立特別支援教育総合研究所HPを閲覧することにより、聴覚障害教育についての基礎知識や特別支援教育の最新情報と動向について理解しておくこと。

評価方法
レポート：50%
平常点（出席状況、小レポート等、授業内での発言）：50%
フィードバックは、授業時等において、課題等に関して個別あるいは全体講評等を行う。

教科書	参考図書
必要な資料については、適宜配付する。	特別支援学校教育要領・学習指導要領 聴覚障害Ⅱ―臨床編　山田弘幸　建帛社

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
聴覚障害教育について、現場経験を活かしながら講義をすすめるので、疑問点等多くの質問を前向きに行って欲しい。連絡先は授業で開示する。

01	聴覚障害に関する基礎的知識：音の耳の仕組みと音の性質
02	聴覚障害に関する基礎的知識：聴覚障害の種類と補聴器・人工内耳
03	聴覚障害教育に関する教育機関：特別支援学校と特別支援学級・通級指導教室
04	言語獲得における課題（手話・人工内耳）と教育支援・保護者支援
05	聴覚障害の指導方法：乳幼児（入学前）
06	聴覚障害の指導方法：児童及び生徒（教科学習・自立活動）・学習指導案
07	聴覚障害教育における近年の動向と課題
08	まとめ（テスト）
09	
10	
11	
12	
13	
14	
15	
16	

2024年度シラバス

科目名:OH41S0303　重複障害等教育論	担当者:小柳津 和博	開講学科等	保育学部 保育学科
		授業形態	講義
免許・資格:特別支援学校教諭		開講時期	前期
		配当学年	4
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	選択

授業概要と方法
重複障害教育に関する基礎的な知識の習得から、実際の学校現場における指導方法および支援の方策について学ぶ。参加者同士で体験したり、検討したりする中で、特別支援教育教員として必要な力量について考察する。【AL】

授業の到達目標
①特別支援学校（重複障害）の教育において教育課程が有する意義を理解する。[DP]
②幼児、児童又は生徒の重複障害の状態や特性及び心身の発達の段階等並びに特別支援学校の教育実践に即した教育課程の編成の方法とカリキュラム・マネジメントの基本的な考え方を理解する。[DP]

【到達目標と深く関連する学科DP】
○知識・技能
◎思考力・判断力・表現力

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
重複障害児・者に係わるテレビや新聞・ネットの記事などに普段から着目するようにしていくこと。

評価方法
授業内課題（40%）、小テスト（20%）、授業への参加態度（40%）により総合的に評価する。
授業の最後にフィードバックを行う。

教科書
①特別支援学校幼稚部教育要領　小学部・中学部学習指導要領
②特別支援学校教育要領・学習指導要領解説　総則編（幼稚部・小学部・中学部）
③特別支援学校教育要領・学習指導要領解説　自立活動編（幼稚部・小学部・中学部）

参考図書
①特別支援学校学習指導要領解説　各教科等編（小学部・中学部）
②幼稚園教育要領
③小学校学習指導要領

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
重複障害児の教育方法について理解することによって、特別の教育的ニーズに応じた適切な支援・指導ができるようになる。他の特別支援教育に関わる科目と関連させながら理解を深めてほしい。
連絡先：oyaizu@ohkagakuen-u.ac.jp

01	オリエンテーション、重複障害児の定義、重複障害児教育の現状と課題
02	重複障害児の発達・障害特性（運動、認知、社会性）
03	重複障害児の教育課程・カリキュラムマネジメント
04	重複障害児への学習指導（身体の動きを通した学習の意義）
05	重複障害児の障害特性を踏まえた授業づくり（自立活動）・活動づくり（幼児教育）、学習指導案の作成
06	模擬授業・模擬保育　発表・相互検討
07	重複障害児への学習指導上の留意点、重複障害児を含むインクルーシブ保育の実際
08	重複障害児に必要な教育的支援（姿勢管理、健康管理、環境設定）本講義のまとめ、小テスト
09	
10	
11	
12	
13	
14	
15	
16	

科目名:0H41S1001　教育実習Ⅳ	担当者:辻岡 和代、森川 拓也、松永 康史、千種 彰典	開講学科等	保育学部 保育学科
		授業形態	実習
免許・資格:小学校教諭1種免許状		開講時期	前期
		配当学年	4
受講者制限:		単位数	3
		必須.選択	選択

授業概要と方法
【担当者の実務経験】小学校教諭
この授業科目では、元小学校教諭としての経験を踏まえ、小学校での授業実践を行う力量を高めるために具体的な指導を展開していく。また、小学校における教育活動の心構えや子どもへの支援について実践的な方法を学べるようにする。
小学校における３週間の教育実習を行う。教育実習Ⅰの学びや体験を活かして、自ら課題を持ちながら児童と関わる中、初等教育の基本・教師としての職業倫理などの理解を深め、発展的な知識・技術・態度の実践的な履修をめざす。 同様に、修得した理論を自ら応用しながら実践することを通して、教師としての専門性や資質を理解し、自らの教育観を形成していく。

授業の到達目標
①小学校における教育実習の意義や目標、課題を理解し、現場に立つ教員としての意識を高めることができる【DP】
②学級担任の立場にとして、授業づくり、学級経営を適切に行う力量を高めることができる【DP】
③研究授業や児童への指導などを通して、自身の課題を意識し、今後の学びに活かす手立てを具体的にもつことができる【DP】

【到達目標と深く関連する学科DP】
◎主体的に学ぼうとする力
○思考力・判断力・表現力

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
①実習の実施に先立って、教育実習指導Ⅳで学んだことをよく確認すること。 ②事前訪問時に実習校からいただいた指導をよく確認して、実習の事前準備をすること。③事前に担当学年の教材研究をしておくこと

評価方法
フィードバック：研究授業を参観し、講評を行う
実習校からの評価 50%、実習日誌 20%、実習事後レポート 10%、 その他（実習への意欲・実習状況・巡回指導報告書など）20%を総合して評価する。

教科書	参考図書
教育実習Ⅳの手引き	教育実習Ⅳの手引き、小学校学習指導要領、幼稚園教育要領解説・幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説書　愛知県教員研修の手びき

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
① 本実習を行うにあたり、原則、当該年度の「教育実習指導Ⅳ」を履修し、小学校教員を志す強い意志があることが条件となる。② 実習期間中の遅刻・早退・欠席等については、事前にその旨を申し出、許可を受けること。特に欠席の場合は大学にも連絡すること。（急病などで急に欠席する場合は、実習校には午前7時30分までに、大学には午前9時30分までに電話連絡すること。大学の受付は教務課実習担当：0562－85－2345

01	実習実施期間：2024年6月1日を含む３週間の小学校における実習で、観察、参加、実習を通して、教育の実際を体験的に理解する。 ① 幼稚園・小学校の役割や機能についての理解 ② 小学校における子どもの実際についての理解 ③ 観察、参加、実習等を通して小学校の教育（教科・道徳・外国語活動・総合 的な学習の時間、特別活動、生徒指導等）の実際についての理解 ④ 特別支援保育・教育についての理解 ⑤ 外国語活動についての理解 ⑥ 幼稚園・小学校と家庭、地域との関係についての理解
02	
03	
04	
05	
06	
07	
08	
09	
10	
11	
12	
13	
14	
15	
16	

科目名:0H42S1001　教育実習Ｖ	担当者:小柳津 和博、藤井 七瀬	開講学科等	保育学部 保育学科
		授業形態	実習
免許･資格:特別支援学校教諭		開講時期	後期
		配当学年	4
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択

授業概要と方法
・特別支援学校における２週間（実習校の指定により3週間の場合もある）の教育実習を行う。
・今までの学びや体験をいかし、自ら課題をもちながら特別支援教育を必要とする幼児児童生徒と関わる中で、特別支援学校での教育の実際を学ぶ。
・教師としての職業倫理などの理解を深め、発展的な知識・技術・態度の実践的な履修を目指す。
・修得した理論を自ら応用しながら実践することを通して、特別支援学校教師としての専門性や資質を理解して特別支援教育における教育観を形成していく。

授業の到達目標
①特別支援学校の役割や機能について実際に即して学ぶ[DP]
②幼児児童生徒の実際の姿や活動を通して子ども理解を深める。[DP]
③実践・授業の観察、参加、（指導）実習等を通して、各教科・道徳・外国語活動・総合的な学習の時間、特別活動、自立活動等の実際について理解する。[DP]
④家庭・地域・関係機関との連携について理解する。[DP]
①～④から自らの問題意識や課題意識を実際に即して検証し深める。

【到達目標と深く関連する学科DP】
◎主体的に学ぼうとする力
○思考力・判断力・表現力

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
実習での実践に向けて、心身の健康管理や養護に必要な知識・技術・態度等の力量を磨き高める努力を日頃から自覚して行うこと。
実習実施に先立ち、教育実習指導Ｖで学んだことをよく理解すること。事前訪問時に実習校からいただいた指導をよく確認して実習の事前準備をすること。

評価方法
実習校からの評価 60%、実習日誌 20%、実習事後レポート 10%、 その他（実習への意欲・実習状況・巡回指導報告書など）10%を総合して評価する。
実習終了後にフィードバックを行う。

教科書	参考図書
教育実習Ｖ手引き（大学より配布）	①特別支援学校幼稚部教育要領　小学部・中学部学習指導要領 ②特別支援学校教育要領・学習指導要領解説　総則編（幼稚部・小学部・中学部） ③特別支援学校教育要領・学習指導要領解説　自立活動編（幼稚部・小学部・中学部） ④特別支援学校学習指導要領解説　各教科等編（小学部・中学部）

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
① 本実習を行うにあたり、原則、当該年度の「教育実習指導Ｖ」を履修し、特別支援学校教員を志す強い意志があることが条件となります。② 実習期間中の遅刻・早退・欠席等については、事前にその旨を申し出、許可を受けること。特に欠席の場合は大学にも連絡すること。（急病などで急に欠席する場合は、実習校には午前7時30分までに、大学には午前9時30分までに電話連絡すること。大学の受付は教務課実習担当直通：0562－85－2345）。

01	実習実施期間：実習校が指定する期間の２週間の特別支援学校における実習で、観察、参加、実習を通して、教育の実際を体験的に理解する。 ①特別支援学校の役割や機能についての理解 ②特別支援学校における子どもの実際についての理解 ③観察、参加、実習等を通して特別支援学校の教育（教科・道徳・外国語活動・総合的な学習の時間、特別活動、自立活動等）の実際についての理解 ④家庭、地域、関係機関との連携についての理解稚園・小学校と家庭、地域との関係についての理解
02	
03	
04	
05	
06	
07	
08	
09	
10	
11	
12	
13	
14	
15	
16	

科目名:0H41S1002　教育実習指導Ⅳ	担当者:辻岡 和代、森川 拓也、松永 康史、千種 彰典	開講学科等	保育学部 保育学科
		授業形態	実習
免許･資格:小学校教諭1種免許状		開講時期	前期
		配当学年	4
受講者制限:　３年生時、学校インターンシップを履修していること		単位数	1
		必須.選択	選択

授業概要と方法
【担当者の実務経験】小学校教諭
この授業科目では、元小学校教諭としての経験を踏まえ、小学校での授業実践を行う力量を高めるために具体的な指導を展開していく。また、小学校における教育活動の心構えや子どもへの支援について実践的な方法を学べるようにする。
教育実習Ⅳのための事前事後指導として、実習のあり方、指導案の作成、実習への心構えを学び、実習後の振り返り、自己課題を明らかにし、今後の課題に活かしていく。

授業の到達目標
①小学校における教育実習の意義や目標、課題を理解し、自らの課題を意識して学びを深める【DP】
②学級担任の立場に立つ心構えを備え、授業づくり、学級経営に必要な知識・技能を高め、実習の準備ができる【DP】
③授業づくり、学級経営の具体的方法について、グループ学習や模擬授業等通して協同的に学び合うことができる【DP】
④教育実習を振り返り、自己課題を把握し、教員としての力量を高めるための学びを広げる【DP】

【到達目標と深く関連する学科DP】
◎主体的に学ぼうとする力
○思考力・判断力・表現力

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
それまでの実習を踏まえて、本実習ではさらに何を学びたいのか自己課題を明確にもてるよう自ら進んで事前学修をすること。指導案作成などが課題となる

評価方法
フィードバック：個別の課題やグループワークについて適宜評価し、課題点や留意事項などを伝える
事前課題（ワークシート・指導案発表）50%、事後課題（実習ノート・事後課題発表ワークシート）40%、授業への意欲10%を総合的に評価する。

教科書	参考図書
教育実習Ⅳの手引き	小学校学習指導要領、幼稚園教育要領解説・幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説書　愛知県教員研修の手引き

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
本授業を受講する学生は、小学校教員を志すこと　　連絡手段は授業内に伝える

01	1　教育実習Ⅳの課題と事前事後指導の計画の理解 2　小学校における授業や学級経営の実際 3　教材研究の方法 4　学習指導案の作成方法 5　児童理解と学級経営の方法 6　観察・参加・実習　について 7　事前訪問のための学内指導　直前指導 8　教育実習事後指導
02	
03	
04	
05	
06	
07	
08	
09	
10	
11	
12	
13	
14	
15	
16	

科目名:0H41S1003　教育実習指導Ⅴ	担当者:小柳津 和博、藤井 七瀬	開講学科等	保育学部 保育学科
		授業形態	実習
免許・資格:特別支援学校教諭		開講時期	前期
		配当学年	4
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	選択

授業概要と方法
教育実習Ⅴのための事前事後指導として、実習のあり方、指導案の作成、実習への心構えを学び、実習後の振り返り、自己課題を明らかにし、今後の課題にいかしていく。

授業の到達目標
①特別支援学校教育実習の意義や目標を理解する。[DP]
②実習の心構えを学び、実践に必要な準備に自ら取り組む。[DP]
③観察実習、参加実習、授業実習の内容について理解し、準備、実践、振り返りに意欲的に取り組む。[DP]
④実習終了後、実習への取り組みを振り返り、自己課題を把握し、今後の学修や就職にいかしていく。[DP]

【到達目標と深く関連する学科DP】
◎主体的に学ぼうとする力
○思考力・判断力・表現力

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
1・2・３年の実習を踏まえて、本実習ではさらに何を学びたいのか自己課題を明確にもてるよう自ら進んで事前学修をすること。

評価方法
事前課題（ワークシート・指導案発表）70%、事後課題（ワークシート）20%、授業への意欲10%を総合的に評価する。
各課題の後でフィードバックを行う。

教科書
教育実習Ⅴ手引き（大学より配布）

参考図書
①特別支援学校幼稚部教育要領　小学部・中学部学習指導要領
②特別支援学校教育要領・学習指導要領解説　総則編（幼稚部・小学部・中学部）
③特別支援学校教育要領・学習指導要領解説　自立活動編（幼稚部・小学部・中学部）
④特別支援学校学習指導要領解説　各教科等編（小学部・中学部）

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
本授業を受講する学生は、特別支援学校教員を志すこと。無断欠席は実習そのものの履修資格を失います。やむを得ず遅刻や欠席をする場合、事前であれば教育・保育職支援センターに連絡すること。当日の場合は、教務課実習担当に自分で連絡すること。教育実習Ⅴを再履修する学生においても、教育実習指導Ⅴも再受講することが原則で、実習履修資格となります。
毎回の授業時にはパソコンを持参してください。

01	１、オリエンテーション（教育実習Ⅴの位置づけ・目標・課題）、事前訪問についての説明 ２、実習校の教育について ３、授業参観・参加記録の書き方 ４、特別支援学校教員から学校現場の話を聞き、現状を学ぶ ５、指導案の書き方 ６、実習直前指導（諸注意、各自の課題整理・確認） ７、実習事後指導①（学びの振り返り・交流） ８、実習事後指導②（自己課題の明確化・交流）
02	
03	
04	
05	
06	
07	
08	
09	
10	
11	
12	
13	
14	
15	
16	

科目名:0H42S1002　教職実践演習（幼・小）	担当者:金子晃之、辻岡 和代、上村 晶、小柳津 和博、松永 康史、五十嵐 睦美、藤井 七瀬、伊藤 茂美、内田 将平	開講学科等	保育学部 保育学科
		授業形態	演習
免許･資格:幼稚園・小学校教諭1種免許状		開講時期	後期
		配当学年	4
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択

授業概要と方法
　教職課程（小免・幼免）に関する学修の集大成としての演習となる。保育学科DPの中の、主体的に学ぶ力(DP1)、他者と共有し学び合う力(DP2)、知識・技能、思考力・判断力・表現力(DP3)と共に、文部科学省が要請する教師としての力、本学科が目標とする教師像、教育専門職を巡る政策の流れを含めて、教職課程の学びを振り返り、教職生活の出発点としての教師像を明確に描き、学び続ける教師としての今後の展望を明確にする。方法は、各回、グループ・ディスカション、ICTを用いたプレゼンテーションを行い、ICT活用力も確認する。

授業の到達目標
　文部科学省が要請する教師としての力である、①教員の使命や責任を自覚し、自主的・積極的に自己課題を立て学び続ける姿勢、②他の教員との協力や保護者・地域住民との連携の重要性の理解、③子どもの発達状況に応じた適切な指導を行うことができる学級経営の基礎、④「小学校学習指導要領」や「幼稚園教育要領」に対応した教職と教科の的確な指導力・実践的なマネージメント力が身に付いていることを確認する。そして本学科が目標とする教職課程教師像の到達すべき目標を含めての振り返りを行ない、⑤スタートとしての自己の教師像を明確にする。

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
　各回、授業時に発表し討論する内容（事前課題）に９０分以上、授業後のまとめ（事後課題）を３０分以上行う。

評価方法
　提出課題（事前課題＝発表シート、事後課題＝授業ノート等）が８０点、参加・発表の姿勢が２０点で、合計100点満点で評価する。欠席回については、欠席課題を課す。その詳細については初回に指示する。

教科書	参考図書
特に設定しない。毎回、ムードルを経由して資料と課題を配布する。	「幼稚園教育要領」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」「小学校学習指導要領」

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
　毎回、パソコンを持参すること。ムードルを経由して課題や資料等を配布し、ムードルを経由して提出する。　連絡先は初回に指示する。

01	今日の教員養成の課題、保育学科の教職課程が目指す教師像、教職実践演習の目的について
02	「学びのカルテを通した教職課程　振り返りシート」（１）（２）の検討
03	「学びのカルテを通した教職課程　振り返りシート」（３）（４）の検討
04	外部講師講義①　養護教諭　（講義内容に基づいたグループ・ディスカションを行う）
05	外部講師講義②　小学校教諭　（講義内容に基づいたグループ・ディスカションを行う）
06	外部講師講義③　幼稚園教諭　（講義内容に基づいたグループ・ディスカションを行う）
07	外部講師講義④　特別支援学校教諭　（講義内容に基づいたグループ・ディスカションを行う）
08	「桜花学園大学保育学科・教師像　振り返りシート」（１）（２）の検討
09	「桜花学園大学保育学科・教師像　振り返りシート」（３）（４）の検討
10	教職・教科内容の補足①　　オムニバス形式の演習
11	教職・教科内容の補足②　　オムニバス形式の演習
12	教職・教科内容の補足③　　オムニバス形式の演習
13	教職・教科内容の補足④　　オムニバス形式の演習
14	「自分が目指したい教員像シート」（１）（２）の検討
15	「自分が目指したい教員像シート」（３）（４）の検討
16	なし

科目名:0H41S1004　保育実習Ⅱ	担当者:金子 晃之、堀 由里	開講学科等	保育学部 保育学科
		授業形態	実習
免許･資格:保育士資格		開講時期	前期
		配当学年	4
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択

授業概要と方法
保育実習Ⅰで学んだことを踏まえて、保育所での実習を通して、保育・養護・地域福祉・子育て支援・保育士としての職業倫理等に関する発展的な知識・技術・態度の体験的な修得を目指す（AL）。より多くの有意義な学びができるよう、実習前には保育の現状や子どもの見方についての理解を深め、指導案の作成・発表等を行うことで準備を進め、実習後はグループ討議等を通して実習を振り返り、自己の課題を明確化する（AL）。

授業の到達目標
1）保育所の役割や機能について具体的な実践を通して理解を深める（DP）。
2）子どもの観察や関わりの視点を明確にすることを通して保育の理解を深める（DP）。
3）既習の教科や保育実習Ⅰの経験を踏まえ、子どもの保育及び子育て支援について総合的に理解する（DP）。
4）保育の計画・実践・記録及び自己評価等について実際に取り組み、理解を深める（DP）。
5）保育士の業務内容や職業倫理について具体的実践に結びつけ理解する（DP）。
6）自己の課題を明確化する（DP）。

【到達目標と深く関連する学科DP】
◎主体的に学ぼうとする力
○思考力・判断力・表現力

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
実習での実践に向けて、心身の健康を中心とした自己管理や、保育に必要な知識・技術・態度等の力量を磨き高める努力を、学生各自が自覚して日頃から意識的に行うようにして下さい。実習実施に先立ち、保育実習指導Ⅱで学んだことをよく確認すること。また事前訪問時に実習園からいただいた資料やご指導をよく理解して入念な準備を行うこと。実習後は、自身が実習を通して学んだことをよく振り返り整理して、今後の自己の課題を明らかにし、その達成に向けて計画的に取り組み、実践力を高めましょう。

評価方法
実習園からの評価（60%）、実習日誌（20%）、実習事後レポート（10%）。その他、実習への取り組み（10%）を総合して評価する。

教科書	参考図書
保育実習Ⅱ手引き、Campus Life Guide（大学より配布）	平成29年告示の「保育所保育指針」及び「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」（フレーベル館）

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
大学生活最後の実習であることの重要な意味を各自よく胸に刻み、真摯に実習に取り組みましょう。
連絡手段等については、授業時に指示します。

01	学生自らの課題意識に基づき、学外の保育所で、以下の内容について2週間の実習を実施する予定である。 1）観察・参加実習 ①保育の概要の理解、②当該施設の人的・物的・地域的環境についての理解、③在園児の行動や姿の観察・理解、④保育士の職務内容と役割についての概要の理解、⑤家庭や地域社会との関係についての概要の理解 2）参加・指導実習 ①保育全般に参加しながら、子どもの生活や発達、ニーズについての体験的な学習（特に、子どもの個人差についての理解と対応、発達の遅れや偏り、生活環境に伴う子ども
02	
03	
04	
05	
06	
07	
08	
09	
10	
11	
12	
13	
14	
15	
16	

科目名:0H41S1005　保育実習Ⅲ	担当者:寺田 泰人、嶋守 さやか	開講学科等	保育学部 保育学科
		授業形態	実習
免許・資格:保育士資格		開講時期	前期
		配当学年	4
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択

授業概要と方法
保育実習Ⅰで学んだことを踏まえて、保育所以外の児童福祉施設での実習を通して、保育・養護・地域福祉・子育て支援・保育士としての職業倫理等に関する発展的な知識・技術・態度の体験的な修得を目指す。より多くの有意義な学びができるよう、実習前には保育の現状や子どもの見方についての理解を深め、援助案の作成・発表等を行うことで準備を進め、実習後はグループ討議等を通して実習を振り返り、自己の課題を明確化する。（AL）

授業の到達目標
1）既習の教科や保育実習の経験を踏まえ、児童福祉施設等（保育所以外）の役割や機能について実践を通して、理解する（DP）。
2）家庭と地域の生活実態にふれて、子ども家庭福祉、社会的養護、障害児支援に対する理解をもとに、保護者支援、家庭支援のための知識、技術、判断力を習得する（DP）。
3）保育士の業務内容や職業倫理について具体的な実践に結びつけて理解する（DP）。
4）実習おける自己の課題を理解する（DP）。

【到達目標と深く関連する学科DP】
◎主体的に学ぼうとする力
○思考力・判断力・表現力

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
実習での実践に向けて、心身の健康を中心とした自己管理や、保育に必要な知識・技術・態度等の力量を磨き高める努力を、学生各自が自覚して日頃から意識的に行うようにすること。実習実施に先立ち、保育実習指導Ⅲで学んだことをよく確認すること。また事前訪問時に実習施設から配布された資料や指導をよく理解して入念な準備を行うこと。実習後は、自身が実習を通して学んだことをよく振り返り整理して、今後の自己の課題を明らかにし、その達成に向けて計画的に取り組み、実践力を高めること。

評価方法
実習施設からの評価60%、実習日誌20%、実習事後レポート10%、その他（実習への意欲・実習状況等）10%を総合して評価する。

教科書	参考図書
保育実習Ⅲ手引き（大学より配布）	平成29年告示の「保育所保育指針」及び「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」（フレーベル館）

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
大学生活最後の実習であることの重要な意味を各自よく胸に刻み、真摯に実習に取り組みましょう。
連絡手段等については、授業時に指示します。

01	学生自らの課題意識に基づき、保育所以外の児童福祉施設で、以下の内容について概ね10日間の実習を実施する予定である。 1）観察・参加実習 ①保育の概要の理解、②当該施設の人的・物的・地域的環境についての理解、③利用者の行動や姿の観察・理解、④保育士の職務内容と役割についての概要の理解、⑤家庭や地域社会との関係についての概要の理解 2）参加・指導実習 ①業務全般に参加しながら、利用者の生活や発達、ニーズについての体験的な学習 ②業務全般に参加しながら、保育の方法や技術の体験的な学習 ③援助計画についての立案・実践を通しての体験的な学習 ④職員間の役割分担とチームワークについての体験的な学習 ⑤利用者の最善の利益を具体化する方法についての体験的な学習 ⑥保育士としての倫理・使命・責任等についての体験的な学習
02	
03	
04	
05	
06	
07	
08	
09	
10	
11	
12	
13	
14	
15	
16	

科目名:OH41S1006　保育実習指導Ⅱ	担当者:金子 晃之、堀 由里、樋口 桂子	開講学科等	保育学部 保育学科
		授業形態	演習
免許･資格:保育士資格		開講時期	前期
		配当学年	4
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	選択

授業概要と方法
保育実習Ⅱを充実したものにするための事前事後指導を行う。事前指導では、実習の在り方や指導案の作成、実習への心構え等について学び、事後指導では省察を通して自己の課題を明確にし、各自今後に活かしていくという流れの中で、保育実践力を培うことを目指す。基本的にクラスごとに演習形式で行う（AL）。

授業の到達目標
1）保育実習Ⅰや既習科目で学んだことを関連づけて理解し、保育実習Ⅱでの実践に活かすことができる（DP）。
2）実習のために必要な知識・技術・態度を修得し、事前の準備課題・留意事項等をよく理解している（DP）。
3）自己の実習体験を整理し、振り返りと自己評価を通して、以後の学習課題を明確にすることができる（DP）。

【到達目標と深く関連する学科DP】
◎主体的に学ぼうとする力
〇思考力・判断力・表現力

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
日頃から自己を振り返り、実習で何を学びたいのか、今すべきことは何かをよく考えて行動するように努めること。
実習に必要な知識・技術・態度は、自主的に修得し磨いていくこと。

評価方法
事前課題：課題レポート・指導案の提出、発表等（65%）
事後課題：実習日誌、実習レポート、事後振り返りシート、体験発表等（35%）
を総合的に評価する
事前課題は、当回もしくは翌回の授業時にフィードバックを行い、事後課題は授業内でフィードバックを行う。

教科書	参考図書
保育実習Ⅱ手引き、Campus Life Guide（大学より配布）	29年度告示の「保育所保育指針」及び「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
無断欠席は厳禁であり、実習そのものの履修資格を失う。止むを得ず欠席や遅刻をする場合は、教務課実習担当に必ず自分で連絡をすること。欠席者には課題を出すため、必ず担当教員を訪ね指導を受けること。保育実習Ⅱを再履修する学生においても、保育実習指導Ⅱを再受講することが原則であり、実習の履修資格となる。
教員への連絡手段は授業時に提示する。

01	オリエンテーション：保育実習Ⅱの位置づけ、目標、課題、事前訪問での注意点
02	発達理解：1-6歳までの子ども身体・運動、認知、言語、社会性の発達
03	人権：子どもを尊重する保育
04	指導案・日誌の書き方：添削を通して記述を再確認する
05	教材研究：廃材を利用して遊びを考える
06	実践：製作した教材と宿題の指導案をグループ内で披露し、省察する
07	事後指導：個別面談
08	事後指導：学びを他者に伝える
09	
10	
11	
12	
13	
14	
15	
16	

科目名:OH41S1007　保育実習指導Ⅲ	担当者:寺田 泰人、嶋守 さやか	開講学科等	保育学部 保育学科
		授業形態	演習
免許･資格:保育士資格		開講時期	前期
		配当学年	4
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	選択

授業概要と方法
保育実習Ⅲを充実したものにするための事前事後指導を行う。事前指導では、実習の在り方や援助案の作成、実習への心構え等について学び、事後指導では省察を通して自己の課題を明確にし、各自今後に活かしていくという流れの中で、保育実践力を培うことを目指す。基本的にクラスごとに演習形式で行う（AL）。

授業の到達目標
1）保育実習Ⅰや既習科目で学んだことを関連づけて理解し、保育実習Ⅲでの実践に活かすことができる（DP）。
2）実習のために必要な知識・技術・態度を修得し、事前の準備課題・留意事項等をよく理解している（DP）。
3）自己の実習体験を整理し、振り返りと自己評価を通して、以後の学習課題を明確にすることができる（DP）。

【到達目標と深く関連する学科DP】
◎主体的に学ぼうとする力
〇思考力・判断力・表現力

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
日頃から自己を振り返り、実習で何を学びたいのか、今すべきことは何かをよく考えて行動するように努めること。実習に必要な知識・技術・態度は、自主的に修得し磨いていくこと。

評価方法
事前課題（授業課題シート、援助案、発表、提出物等）50%、事後課題（実習日誌、実習レポート、実習振り返りシート、体験発表等）40%、授業への参加態度10%で総合的に評価する。
最終授業時に全体向けにフィードバックを行う

教科書	参考図書
保育実習Ⅲ手引き（大学より配布）	平成29年告示の「保育所保育指針」及び「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」（フレーベル館）

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
無断欠席は厳禁であり、実習そのものの履修資格を失う。止むを得ず欠席や遅刻をする場合は、教育・保育職支援センターに必ず自分で連絡をすること。欠席者には課題を出すため、必ず担当教員を訪ね指導を受けること。保育実習Ⅲを再履修する学生においても、保育実習指導Ⅲを再受講することが原則であり、実習の履修資格となる。
教員への連絡手段は授業時に提示する。

01	オリエンテーション（保育実習Ⅲの位置づけ・目標・課題）、事前訪問についての説明
02	児童福祉施設利用者との交流
03	施設長から施設における保育現場についての講話を聞き、現状を学ぶ
04	児童福祉施設での援助案演習①　援助案の書き方説明
05	児童福祉施設での援助案演習②　援助案の作成
06	児童福祉施設での援助案演習③　援助案の発表・交流（グループ別）
07	実習直前指導（諸注意、各自の課題整理・確認）
08	実習事後指導（各自の振り返り及び実習体験を通して学んだことの発表・交流）
09	
10	
11	
12	
13	
14	
15	
16	

科目名:0H42S1003　保育実践演習	担当者:淺野 卓司、基村 昌代、堀 由里、武藤 直子、嶋守 さやか、寺田 泰人	開講学科等	保育学部 保育学科
		授業形態	演習
免許･資格:保育士資格		開講時期	後期
		配当学年	4
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択

授業概要と方法
グループ討議、ロールプレイイング等を通し、保育に関する知識や技術などのこれまでの自らの学びを、実習体験と結びつけながら学修する（AL）。専門職として必要な知識、総合的な能力や倫理観が習得、形成されたかについて自らの学びを振り返り把握する。それらをふまえ、自己の課題を明確にし保育実践に必要な知識、技術、資質を定着させる。

授業の到達目標
①保育士として必要な専門的な知識及び技術、幅広く深い教養及び総合的な判断力、専門職としての倫理観等の習得と形成について自らの学びを振り返り把握する（DP）。②保育実習等を通した自らの体験や収集した情報に基づき、保育に関する現代的課題を分析し、保育士や保育現場、地域社会に求められることは何かを多様な視点から考察する力を習得する（DP）。③自己の課題を明確にし、保育実践に必要となる基礎的資質・能力を定着させる（DP）。
【到達目標と深く関連する学科DP】〇協同的に学び合う力◎思考力・判断力・表現力

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
保育士資格を習得し、保育士として働くための自覚を持つために重要な授業です。専門職としてのふさわしい態度や知識、技術を身につけるためにも以下のことを自主的に学修しましょう。
①保育実習に必要な知識や技術は自らの課題や目標に照らし合わせ、保育関係科目を復習し、自主的に学修する。　②保育に関する現状や課題に関心を持ち、その要因や背景、課題の解決方法について考察する。③コミュニケーション能力を高めるために、多くの人との対話を楽しみながら、より良い人間関係づくりに努める。

評価方法
提出物・課題レポート60％。授業への参加態度４０％を総合的に判断し評価する。
筆記試験は希望者に開示、それ以外のレポートや提出物の評価については、評価の基準内容を授業時に示し、評価して返却する。

教科書	参考図書
使用しない（資料配布）	保育所保育指針＜29年告示＞フレーベル館、幼保連携型認定子ども園教育・保育要領＜29年告示＞フレーベル館

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
日頃から健康管理に留意し、保育士として必要な体力を身に着けるようにしましょう。保育士としての役割を意識し、職業倫理や、社会人としてふさわしい考え方や態度が身につくよう自己研鑽しましょう。

01	ガイダンス（本教科の意義、授業内容の進め方についての説明）保育士の職業倫理
02	保育実践のための教材研究　（保育実践１）
03	保育実践のための教材研究　（造形実践）
04	保育実践のための教材研究　（音楽実践）
05	保育に関わる現代的課題についてのグループワーク（１）保護者、職員との連携と人間関係
06	保育に関わる現代的課題についてのグループワーク（２）保育現場における危機管理とその対応
07	保育に関わる現代的課題についてのグループワーク（３）支援の必要な子どもの理解と支援
08	学びの振り返り（４）保育士としての社会性、対人関係能力
09	学びの振り返り（５）保育士としての判断力、対応能力と関係機関との連携
10	学びの振り返り（６）多様な子どもや子育て家庭への支援の展開
11	実践力を高めるための教材研究　（保育実践２）
12	実践力を高めるための教材研究　（造形実践）
13	実践力を高めるための教材研究　（音楽実践）
14	保育実践者との交流から学ぶ（保育現場の現状を聞き、実習体験での疑問や課題を討論する）
15	まとめ（これまでの学びや保育実習等での体験から、自己の課題を記述し明確化する）
16	

科目名:OH41S2001　卒業研究演習Ⅰ	担当者:淺野 卓司、辻岡 和代、基村 昌代、上村 晶、金子 晃之、森川 拓也、小柳津 和博、松永 康史、五十嵐 睦美、寺田 泰人、堀 由里、小原 倫子、武藤 直子、藤井 七瀬、柏倉 秀克、嶋守 さやか、伊藤 茂美、内田 将平	開講学科等	保育学部 保育学科
		授業形態	演習

免許･資格:	開講時期	前期
	配当学年	4
受講者制限:	単位数	1
	必須.選択	必須

授業概要と方法
卒業研究演習は、教育・保育に関わる特定の課題について、個人またはグループで研究し、創作し、「卒業研究」としてまとめることを課題とする。形式は「論文」と「創作」の二つがある。「論文」の場合、地域研究、人物研究、理論研究、歴史研究、比較研究、ケーススタディといった研究方法があり、テーマに則して多様な形態がある。「創作」の場合も、その分野により方法は多様な形態がある。指導方法は、主に個別指導とゼミ全体の集団指導となる。

授業の到達目標
①個々の研究テーマ・ゼミの共通課題に主体的に取り組むことができる【DP】
②個々の研究テーマ・ゼミの共通課題についての学びや体験を共有できる【DP】
③個々の研究テーマ・ゼミの共通課題を探求するための知識・技能・体験を理解し身に付けている
④学修した知識・技能・体験を用いて、思考し判断し表現できる

【到達目標と深く関連する学科DP】
◎主体的に学ぼうとする力
○協同的に学び合う力

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
自分の研究テーマを考察する作業（文献研究、フィールドワーク、アンケート調査、データ分析等）は、授業外での膨大な学習時間を自主的に費やさなければならない。

評価方法
fフィードバック：個別指導及び集団指導の中で、適宜講評し課題点や留意事項などを直接伝える
課題提出物（70点）、参加態度（30点）を合計して100点満点で評価する。卒業研究報告会への参加・発表は、単位修得の際の前提条件とする。

教科書 各教員が指示する	参考図書 各教員が指示する

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
卒業要件　４年ゼミ（卒業研究演習）の履修対象者は、原則的に１年ゼミから３年ゼミを修了した者とする。
但し３年ゼミが、やむを得ない事由から単位修得に至らなかった場合に限り、４年ゼミと３年ゼミの同時履修について、特別に認められることがある。オフィスアワー　各教員へ尋ねること。

01	卒業研究指導について
02	教職履修カルテの振り返り
03	卒業研究についての個別指導＆集団指導①
04	卒業研究についての個別指導＆集団指導②
05	卒業研究についての個別指導＆集団指導③
06	卒業研究についての個別指導＆集団指導④
07	卒業研究についての個別指導＆集団指導⑤
08	卒業研究についての個別指導＆集団指導⑥
09	卒業研究についての個別指導＆集団指導⑦
10	卒業研究についての個別指導＆集団指導⑧
11	卒業研究についての個別指導＆集団指導⑨
12	卒業研究についての個別指導＆集団指導⑩
13	卒業研究についての個別ゼミ中間報告①
14	卒業研究についての個別ゼミ中間報告②
15	卒業研究についての個別ゼミ中間報告③
16	なし

科目名:0H42S2001　卒業研究演習Ⅱ	担当者:淺野 卓司、辻岡 和代、基村 昌代、上村 晶、金子 晃之、森川 拓也、小柳津 和博、松永 康史、五十嵐 睦美、寺田 泰人、堀 由里、小原 倫子、武藤 直子、藤井 七瀬、柏倉 秀克、嶋守 さやか、伊藤 茂美、内田 将平	開講学科等	保育学部 保育学科
		授業形態	演習

免許･資格:	開講時期	後期
	配当学年	4
受講者制限:	単位数	1
	必須.選択	必須

授業概要と方法
卒業研究演習は、教育・保育に関わる特定の課題について、個人またはグループで研究し、創作し、「卒業研究」としてまとめることを課題とする。形式は「論文」と「創作」の二つがある。「論文」の場合、地域研究、人物研究、理論研究、歴史研究、比較研究、ケーススタディといった研究方法があり、テーマに則して多様な形態がある。「創作」の場合も、その分野により方法は多様な形態がある。指導方法は、主に個別指導とゼミ全体の集団指導となる。

授業の到達目標
①個々の研究テーマ・ゼミの共通課題に主体的に取り組むことができる【DP】
②個々の研究テーマ・ゼミの共通課題についての学びや体験を共有できる【DP】
③個々の研究テーマ・ゼミの共通課題を探求するための知識・技能・体験を理解し身に付けている
④学修した知識・技能・体験を用いて、思考し判断し表現できる

【到達目標と深く関連する学科DP】
◎主体的に学ぼうとする力
○協同的に学び合う力

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
自分の研究テーマを考察する作業（文献研究、フィールドワーク、アンケート調査、データ分析等）は、授業外での膨大な学習時間を自主的に費やさなければならない。

評価方法
フィードバック：個別指導及び集団指導の中で、適宜講評し課題点や留意事項などを直接伝える
課題提出物（70点）、参加態度（30点）を合計して100点満点で評価する。卒業研究報告会への参加・発表は、単位修得の際の前提条件とする。

教科書 各教員が指示する	参考図書 各教員が指示する

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
卒業要件　４年ゼミ（卒業研究演習）の履修対象者は、原則的に１年ゼミから３年ゼミを修了した者とする。
但し３年ゼミが、やむを得ない事由から単位修得に至らなかった場合に限り、４年ゼミと３年ゼミの同時履修について、特別に認められることがある。オフィスアワー　各教員へ尋ねること。

01	卒業研究についての個別指導＆集団指導①
02	卒業研究についての個別指導＆集団指導②
03	卒業研究についての個別指導＆集団指導③
04	卒業研究についての個別指導＆集団指導④
05	卒業研究についての個別指導＆集団指導⑤
06	卒業研究についての個別指導＆集団指導⑥
07	卒業研究についての個別指導＆集団指導⑦
08	卒業研究についての個別指導＆集団指導⑧
09	卒業研究についての個別指導＆集団指導⑨
10	卒業研究についての個別指導＆集団指導⑩
11	卒業研究についての個別指導＆集団指導⑪
12	卒業研究抄録集の指導
13	個別ゼミでの卒業研究プレゼンテーション①
14	個別ゼミでの卒業研究プレゼンテーション②
15	個別ゼミでの卒業研究プレゼンテーション③
16	なし

科目名:OH42S2002　卒業研究	担当者:淺野 卓司、辻岡 和代、基村 昌代、上村 晶、金子 晃之、森川 拓也、小柳津 和博、松永 康史、五十嵐 睦美、寺田 泰人、堀 由里、小原 倫子、武藤 直子、藤井 七瀬、柏倉 秀克、嶋守 さやか、伊藤 茂美、内田 将平	開講学科等	保育学部 保育学科
		授業形態	演習

免許・資格:	開講時期	後期
	配当学年	4
受講者制限:	単位数	2
	必須.選択	必須

授業概要と方法
卒業研究は、教育・保育に関わる特定の課題について、個人またはグループで研究し、創作し、「卒業研究」としてまとめるものである。形式は「論文」と「創作」の二つがある。「論文」の場合、地域研究、人物研究、理論研究、歴史研究、比較研究、ケーススタディといった研究方法があり、テーマに則して多様な形態がある。「創作」の場合も、その分野により方法は多様な形態がある。

授業の到達目標
①教育教育・保育に関する個々の研究・ゼミの共通課題を探求するために適切な知識や技能・方法を用いた上、研究が論理的に展開され、的確な考察ができている。また創造的な作品に仕上がっている。【DP】
②教育・保育に関する個々の研究やゼミの共通課題としての作品制作に、他者との学び合いや協力が、成果として表れている【DP】

【到達目標と深く関連する学科DP】
◎主体的に学ぼうとする力
○協同的に学び合う力

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
自分の研究テーマを考察する作業、論文執筆、作品製作等は、授業外での膨大な学習時間を自主的に費やさなければならない。

評価方法
フィードバック：提出・終了後に最終的講評を直接伝えると共に、卒研発表会で様々な教員からもコメントを伝える
卒業研究の論文もしくは創作、卒業研究発表会の参加・内容を100点満点で評価する。

教科書 各教員が指示する	参考図書 各教員が指示する

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
卒業要件　４年ゼミ（卒業研究）の履修対象者は、原則的に１年ゼミから３年ゼミを修了した者とする。
但し３年ゼミが、やむを得ない事由から単位修得に至らなかった場合に限り、４年ゼミと３年ゼミの同時履修について、特別に認められることがある。

01	
02	
03	
04	
05	
06	
07	
08	
09	
10	
11	
12	
13	
14	
15	
16	

科目名:OH32S0101　子ども家庭支援の心理学	担当者:小原 倫子	開講学科等	保育学部 保育学科
		授業形態	講義
免許･資格:保育士資格		開講時期	後期
		配当学年	3
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択

授業概要と方法
子どもは社会に生まれ、社会の中で発達していきます。子どもにとって最初に出会う最も重要な意味を持ち身近な社会が家庭です。家庭の中での保護者やきょうだいなどとの様々な相互作用を通して子どもは発達していきます。そのような家庭における子どもの発達と家族の役割について深く理解し、保育の場で実践する際の自分なりの視点を持つことを目指します。授業方法は視覚資料を使用し、一斉授業及びVTR資料を用いたグループ・ワークを行います。【AL】

授業の到達目標
１．生涯発達に関する心理学の基礎的な知識を習得し、初期経験の重要性、発達課題等について理解し説明することができる（DP）
２．家庭・家族の意義や機能を理解するとともに、親子関係や家族関係等について発達的な観点から理解し、子どもとその家庭を包括的に捉える視点を習得し説明することができる（DP）
３．子どもの精神保健とその課題について理解し説明することができる（DP）

【到達目標と深く関連する学科DP】
◎知識・技能
○思考力・判断力・表現力

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
【準備学習】あらかじめMoodleにアップされている配布資料を読み、疑問点を確認し、自ら調べ、考えた内容を記録する。（2時間）
【事後学習】Moodleを通して各授業ごとの課題を提出するとともに、理解が不十分な点を教員に確認し、自ら調べてまとめなおす。（2時間）

評価方法
確認テスト（50%）、授業への取組意欲（20%）小レポート（30%）により総合的に評価する。授業において提示した課題（確認テスト、レポート等）に対しては、次回の授業日で、課題の中の特徴的な見解や誤解についての解説や学生のよくできた答案、論文などの紹介をする。

教科書	参考図書
小原倫子、小林佐知子編著(2024)　エピソードから学ぶ　子ども家庭支援の心理学　ミネルヴァ書房	保育所保育指針及び解説（平成29年告示版）

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
【連絡方法・オフィスアワー】授業で開示する。【資料提示・課題提出】Moodleで受け付ける。【その他】授業に関する積極的な質問や主体的な授業参加を歓迎します。常に疑問や関心を持ちながら受講し、教育や保育にどのように活かせるのかを一緒に考え続けていきましょう。

01	生涯発達とは何か
02	乳幼児期の発達
03	学童期の発達
04	青年期の発達
05	成人期・老年期の発達
06	家族・家庭の意義と機能
07	家族関係・親子関係の理解
08	子育て経験と親としての育ち
09	ライフコースと仕事、子育て
10	多様な家庭とその理解
11	特別な配慮を要する家庭への支援
12	発達支援の必要な家庭への支援
13	子どもの生活・生育環境と発達への影響(VTR資料を用いたグループワークとグループ発表)
14	子どもや保護者のこころの健康への理解
15	確認テストおよび解説とフィードバック、まとめ
16	試験なし

2024年度シラバス

科目名:OH31S0101　教育心理学	担当者:堀 由里	開講学科等	保育学部 保育学科
		授業形態	講義
免許･資格:幼稚園・小学校教諭1種免許状・保育士資格		開講時期	前期
		配当学年	3
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	必須

授業概要と方法
発達や学習の概念や理論についてスライドを使用して紹介する。発達については、認知発達や関係性の心理発達を中心に考える。その他、学習のメカニズムや集団のメカニズム、学校への適応や教育評価について、乳幼児・児童を対象とした教育に資する基本的な知識を扱い、受講生同士で議論する時間も設ける【AL】。

授業の到達目標
1) 幼児、児童の心身の発達および学習の過程について、基礎的な知識を説明することができる（DP）。
2) 各発達段階における心理的特性を踏まえた子どもたちの学習活動を支える指導の基礎となる考え方を理解できる（DP）。
3)子どもの主体的な活動を支える教師のあり方や、現代社会での教育に関する課題について、心理学的観点から考察することができる（DP）。

【到達目標と深く関連する学科DP】
◎知識・技能
○思考力・判断力・表現力

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
準備学修：発達心理学で学んだ知識を復習しておく。
事後学修：配布プリントを自分なりにまとめ直す。

評価方法
授業への取り組み（30%）、授業内の確認テスト（70%）
尚、確認テストは1時間で行い、残りの時間にテストの解説等フィードバックを行う。

教科書	参考図書
適宜、資料配布	適宜、資料配布

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
常に疑問を持ちながら受講し、保育や教育にどのように活かせるのかを考え続けましょう。オフィス・アワーや連絡手段については授業内で伝えます。

01	教育心理学とは何か、ガイダンス
02	発達の捉え方・発達段階
03	領域別の発達
04	記憶のメカニズム
05	条件づけやモデリング等の学習理論
06	知識構造と問題解決
07	やる気のメカニズム
08	学級集団
09	仲間集団
10	教授法と教育評価
11	発達や認知における個人差
12	知能とアセスメント
13	情緒・適応問題
14	カウンセリング
15	まとめと授業内確認テスト
16	試験なし

2024年度シラバス

科目名:OH32S0102　教育・保育学特講Ⅰ	担当者:森川 拓也、堀 由里、武藤 直子、新沼 英明	開講学科等	保育学部 保育学科
		授業形態	講義
免許・資格:		開講時期	後期
		配当学年	3
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	選択

授業概要と方法 保育・教育学に求められる専門的知識の確認・定着を図ることを目指す。ここまでの講義・演習等を振り返るために、保育士試験や公務員保育職の専門試験レベルの内容を確認していく。
授業の到達目標 保育者として十分な専門的知識と技能を確認し、すぐにでも活用できるようにしていく(DP)。 【到達目標と深く関連する学科DP】 ◎知識・技能 ○思考力・判断力・表現力
授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修 これまでの教科書・講義や演習で使用したプリントの見直しができるようにしておくこと。 また演習内容はノートなどにまとめ、確認できるようにしていくこと。
評価方法 授業に対する取り組み（50%）、提出物・課題等（50%）で評価を行う。 各回の課題等はムードル等を用いてフィードバックを行う。

教科書	参考図書
適宜紹介する	適宜紹介する

その他(学生へのアドバイス、連絡手段) 公立保育職希望者で専門試験がある者はぜひ受講してほしい。 またここまでの授業の総復習をしたい者の受講も歓迎する。 担当教員の連絡先については、授業内で提示する。

01	ガイダンスー保育学の専門的知識の必要性ー
02	社会福祉ー社会福祉の制度ー
03	児童家庭福祉①ー保育の制度ー
04	児童家庭福祉②ー子どもの人権保障の制度ー
05	保育の心理学①ー発達ー
06	保育の心理学②ー教育ー
07	保育学関連①ー目指す人物像（面談）ー
08	保育学関連②ー目指す論述のありかた（小論文・作文・エントリーシート）ー
09	
10	
11	
12	
13	
14	
15	
16	

科目名:OH32S0201　保育カリキュラム論	担当者:上村 晶	開講学科等	保育学部 保育学科
		授業形態	講義
免許･資格:幼稚園教諭1種免許状・保育士資格		開講時期	後期
		配当学年	3
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	必須

授業概要と方法
【担当者の実務経験】幼稚園教諭
本科目は、幼児教育及び保育現場における教育課程や、教育・保育の内容に関する全体的な計画の意義を理解した上で、園の指導計画と実践の系統性・往還性を認識しながら、指導計画と評価の在り方について理解を深める。また、学生自身が幼児教育・保育のグランドデザインを編成する中で、カリキュラム・マネジメントについて理解を深める。特に、幼稚園教諭の立場から、実践現場に根差した様々な指導計画の在り方を深く考えることを基軸に、11-12月の教育実習Ⅲに向けた実践的学びの往還を踏まえながら、授業を展開する。【AL】

授業の到達目標
①幼児教育・保育カリキュラムの意義、教育課程及び教育・保育に関する全体的な計画の編成や指導計画の役割や機能について理解する（HDP3）。
②子どもの発達過程を踏まえた教育課程や指導計画の意義、作成方法について理解する（HDP4）。
③さまざまな教育・保育の実際と内容、記録の在り方・評価の意義と方法を踏まえ、カリキュラム・マネジメントやカリキュラム評価の基本的な考え方を理解する（HDP3）。

【到達目標と深く関連する学科DP】◎HDP3：知識・技能　○HDP4：思考力・判断力・表現力

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
毎回の授業で、課題（テキスト予習及び次回のテーマ）を発表します。次回の授業までに、事前に教科書を熟読するなどして、テーマについて自身の考えを明確にして授業に臨んでください。また、理想園課題に関しては、授業での学びを生かしながら作成し、発表・提出に備えてください。

評価方法
最終筆記試験（45%）、私の理想園（指導計画）ファイル及びプレゼンテーション（25%）、授業への取組（各回FB：30%）で総合評価を行う。
フィードバックの方法：各回のFB等における質問に関しては、次回授業時の冒頭で口頭回答する。また、理想園に関しては第15回授業時に総評すると同時に、最終試験に関しては成績開示後に総合結果と特に留意すべき事項等を解説する。

教科書	参考図書
「保育カリキュラム論　－計画と評価－」（2018）豊田和子・新井美保子編著　建帛社	平成29年告示版 幼稚園教育要領解説、幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説、保育所保育指針解説書

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
指導計画の作成は保育現場で必要な力量の1つです。どのような幼児教育や保育をデザインしていきたいかなど、常に課題意識を持ちながら授業に臨んでください（OH等は初回に開示します）。

01	オリエンテーション、幼児教育・保育の基本とカリキュラムーカリキュラムの考え方と展望
02	幼児教育・保育の実践とカリキュラムの関係　－社会に開かれた教育課程・全体的な計画の意義
03	保育所保育指針における全体的な計画と指導計画の基礎理解
04	幼稚園教育要領における教育課程及び全体的な計画と指導計画の基礎理解
05	幼保連携型認定こども園教育・保育要領における全体的な計画と指導計画の基礎理解
06	子どもの発達理解の長期及び短期指導計画のデザインと実践展開（１）－乳児・3歳未満児
07	子どもの発達理解の長期及び短期指導計画のデザインと実践展開（２）－幼児・3歳以上児
08	多様な保育・幼児教育の「指導計画」のデザイン（１）－預かり保育・長時間保育等
09	多様な保育・幼児教育の「指導計画」のデザイン（２）－保幼小接続カリキュラム
10	保育のカリキュラム・マネジメント　－PDCA サイクル、記録・反省・評価の意義
11	指導計画のデザインと実践展開　－長期指導計画と短期指導計画の系統性と往還性
12	私の理想園作成（１）－教育及び保育に関する理念・方針・目指す子ども像
13	私の理想園作成（２）－教育課程・全体的な計画、教育・保育の内容に関する全体的な計画
14	私の理想園発表（１）－グループプレゼンテーションと質疑応答
15	私の理想園発表（２）－全体プレゼンテーションとカリキュラムの評価
16	定期試験

科目名:OH32S0202　保育内容指導法（健康）	担当者:寺田 恭子、寺田 泰人	開講学科等	保育学部 保育学科
		授業形態	演習
免許･資格:幼稚園教諭1種免許状・保育士資格		開講時期	後期
		配当学年	3
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	必須

授業概要と方法
幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定子ども園教育・保育要領解説の領域「健康」のねらいと内容及び内容の取扱いについて理解し、健康な心と体を育て、自ら健康で安全な生活を作り出す力を養うために必要な知識・技術を身につける。特に乳幼児期の健康に関わる生活習慣や心身の発育・発達、運動発達の特徴の理解を深め、適切な指導方法を身につける。授業ではICTの活用、協働学習も行う。（AL）

授業の到達目標
・幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定子ども園教育・保育要領解説に示された領域「健康」のねらい及び内容を理解する（DP）。
・幼児の発達や学びの過程を理解し、領域「健康」に関わる具体的な指導場面を想定した保育を構想する方法を身につける（DP）。

【到達目標と深く関連する学科DP】
◎主体的に学ぼうとする力
○専門的知識・技術
○思考力・判断力・表現力

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
・保育実践における子どもの活動理解やねらいの達成について関連する資料をもとに要点をまとめる。
・模擬保育のための教材・資料づくりや保育実践の振り返りを行う。
・乳幼児を取り巻く社会状況に関する情報には常に関心を持つようにする。

評価方法
①授業への取り組みに対する意欲や態度（20%）、②指導計画の立案、模擬保育の実践（60%）、③講義内容に関する筆記試験（20%）
最終授業時に全体向けにフィードバックを行う

教科書	参考図書
担当教員作成の資料を使用する。	幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定子ども園教育・保育要領解説

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
・授業においてパソコンを使用し、資料の閲覧を行うこともある。
・授業形態としては、各自でまとめた指導案を基に模擬保育を行い、グループで話し合ったり、話し合った内容を発表し合ったりする参加型の学習活動を重視する。
・質問や相談等の連絡手段　y-terada@ohkagakuen-u.ac.jp

01	保育における「健康」とは
02	基本的生活習慣の形成を支える援助
03	健康管理と安全管理を育む援助
04	健康な心と体を育む保育の構想（計画立案１）
05	健康な心と体を育む保育の構想（教材研究１）
06	健康な心と体を育む保育の実践（模擬保育１）
07	健康な心と体を育む保育の評価と改善１
08	多様な動きの経験を促す援助
09	領域「健康」における心身の発達の特徴を踏まえた環境構成と援助
10	健康な心と体を育む保育の構想（計画立案２）
11	健康な心と体を育む保育の構想（教材研究２）
12	健康な心と体を育む保育の実践（模擬保育２）
13	健康な心と体を育む保育の評価と改善２
14	乳幼児期に育まれる健康な心と体と小学校の生活や学習で生かされる力
15	領域「健康」をめぐる現代的課題と保育実践
16	授業のまとめ

2024年度シラバス

科目名:OH32S0203　社会科教育法	担当者:松永 康史	開講学科等	保育学部 保育学科
		授業形態	講義
免許・資格:小学校教諭1種免許状		開講時期	後期
		配当学年	3
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択

授業概要と方法
本授業では、「学習指導要領」等を理解し、学校現場において行う社会科の目標、教育内容、指導法について理解を深める。また、先人の実践事例に学び、検討する。
本授業では、【担当者の実務経験】元小学校教諭の経験を踏まえ、教材研究や授業実践の分析について具体的な検討を行う。また、指導方法の工夫などを学ぶことができるようにする。学習指導要領を理解したうえで、社会科の授業づくりを検討する。授業づくりにおいては、教材研究、指導計画（単元構想）の検討、学習指導案作りを行う。その際、学習課題の把握、学習課題の追究、学習課題の解決といった問題解決的な学習を想定するとともに、模擬授業を行うことで授業づくりを振り返りながら、実践的な力を養う。【AL】

授業の到達目標
社会科教育の目標、内容、指導計画等を理解し、問題解決的な学習の充実を見据えた教材研究や学習指導案の作成、授業実践の分析を通して、実践的な指導力を身につける【DP】。
【到達目標と深く関連する学科DP】
○知識・技能
◎思考力・判断力・表現力

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
教材研究のため資料を収集すること、読むこと、指導案の作成など課題を指示します。

評価方法
レポート試験70%、課題及び授業への参加態度30%
フィードバック：課題の特徴的な見解や解説は、次回の授業時に紹介する。

教科書	参考図書
文部科学省『小学校学習指導要領解説　社会編』	小学校学習指導要領

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
オフィスアワー木曜昼休み

01	学習指導要領解説①：オリエンテーション、社会科を学ぶ意義
02	学習指導要領解説②：社会科教育の目標と内容
03	日本における社会科教育の歴史
04	社会科教育における授業理論、問題解決的な学習と
05	授業実践の事例検討①：3学年実践
06	授業実践の事例検討②：4学年実践
07	授業実践の事例検討③：5年生実践
08	授業実践の事例検討④：6年生実践
09	学習指導案の作成と内容、作成手順
10	学習指導案の作成と模擬授業①：教材研究
11	学習指導案の作成と模擬授業②：指導計画・単元構想の検討
12	学習指導案の作成と模擬授業③：指導案の検討
13	学習指導案の作成と模擬授業④：教育技術とICT活用
14	学習指導案の作成と模擬授業⑤：評価
15	これからの社会科教育に求められる指導力と課題
16	試験（レポート）

2024年度シラバス

科目名:OH32S0204　理科教育法	担当者:木村 幸泰	開講学科等	保育学部 保育学科
		授業形態	講義
免許・資格:小学校教諭1種免許状		開講時期	後期
		配当学年	3
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択

授業概要と方法
理科教育の目標や新しい授業づくりについて、学習指導要領や授業事例をもとに講義を行う。特に、「見方・考え方」「主体的・対話的で深い学び」など、授業づくりのキーワードをについは、具体例を挙げながら講義を進める。また、指導案づくりの場面では、グループワークや模擬授業などで実際の授業場面や児童の反応を考えながら学習を進める。【AL】
【到達目標と深く関連する学科DP】
○知識・技能
◎思考力・判断力・表現力

授業の到達目標
児童の資質・能力の育成を目指した授業づくりの手立てを考え、実際の授業を想定した指導案を作成することができる。「思考力・判断力・表現力」「知識・技能」 (DP)
【到達目標と深く関連する学科DP】
○知識・技能
◎思考力・判断力・表現力

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
事前学修：小学校学指導要領解説や講義中に配布する資料をあらかじめ読み込んでおく。指導案作りや模擬授業扱う場合は、自分なりの案をもって授業に取り組めるようにしておく。
事後学修：授業で取り上げた学習に対する自分の考えや仲間の考えをノートに書き留めておく。

評価方法
①授業への参加度：２０％　②毎時の小レポート：３０％　③指導案：５０％
フィードバック：個々の授業づくりの工夫を次時のグループワークや模擬授業に生かしていく。

教科書	参考図書
小学校学習指導要領解説　理科編	なし

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
・授業内容が、新学習指導要領のどんな事項にかかわっているかを確認しておく。
・指導案づくり・模擬授業を行う際は、グループで疑問や意見が出せるようにしておく。
・質問は、Mooddleで受け付けます。

01	オリエンテーション、講義の導入：達人の理科授業から
02	理科の教育目標と新学習指導要領（資質・能力の育成と改定の背景）
03	見方・考え方と問題解決（理科授業の在り方と授業づくり）
04	問題解決的な学習と教材づくり１（「生命」「地球」の授業と教材の開発）
05	問題解決的な学習と教材づくり２（「粒子」「物質」の授業と教材の開発）
06	子どもたちの興味・関心を高める教材づくり１
07	子どもたちの興味・関心を高める教材づくり2：グループワーク
08	ミスコンセプションと子どもの概念形成（子どもたちの自然の捉え方）
09	子どもたちの問題意識を高める学習問題と発問（子供たちの問いと学習問題）
10	国立教育政策研究所の指導例をもとにした授業づくり：グループワーク
11	国立教育政策研究所の指導例をもとにした授業づくり：模擬授業
12	指導案の書き方（教材感・指導計画・展開などの記述内容）
13	教材の工夫と授業づくり：グループワーク
14	資教材の工夫と授業づくり：模擬授業
15	これからの理科教育と授業づくり（講義のまとめ）
16	なし（課題レポート）

科目名:OH32S0205　体育科教育法	担当者:寺田 泰人	開講学科等	保育学部 保育学科
		授業形態	講義
免許・資格:小学校教諭1種免許状		開講時期	後期
		配当学年	3
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択

授業概要と方法
小学校学習指導要領「体育」の主旨を理解する。そして、現在抱える体育科教育の課題を勘案しながら、実際の学校教育の場において実践できるための体育授業づくりを中心に、小学校の体育教育全般を通して指導者としてどうあるべきかを学ぶ。
・体育の授業づくりにおいて必要な基礎的な知識や方法を理解する。
・授業づくりにおける子どもの活動理解や評価の視点について学ぶ。
・模擬授業を行い、授業の進め方や評価について学ぶ。(AL)

授業の到達目標
①小学校学習指導要領に示された「体育科」の目標及び内容を理解している。（DP)
②児童の発達や学びの過程を理解し、「体育科」に関わる具体的な指導場面を想定した授業を構想する力を身につけている。（DP)

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
・授業づくりにおける子どもの活動理解や評価の視点について関連する資料をもとに要点をまとめる。
・模擬授業のための教材・資料づくりを行い、学習者の成績評価や授業の振り返りを行う。
・現場を体験する意味で、公園の固定遊具や運動施設の見学、母校や近隣の学校の行事・部活動・授業後活動等（名古屋市のふれあいフレンド活動やトワイライトスクール・ルームの学生ボランティア活動等）への積極的な参加・体験・見学を行う。

評価方法
①指導計画の立案、模擬授業の実践（60%）、②講義内容に関する筆記試験（20%）③授業への取り組みに対する意欲や態度（20%）最終授業時に全体向けにフィードバックを行う

教科書	参考図書
小学校学習指導要領（平成29年告示）解説　体育編	「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 国立教育政策研究所

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
・授業においてパソコンを使用し、資料の閲覧を行う。
・授業形態としては、各自でまとめた学習指導案を基に模擬授業を展開し、グループで話し合ったり、話し合った内容を発表し合ったりする参加型の学習活動を重視する。
・質問や相談等の連絡手段　y-terada@ohkagakuen-u.ac.jp

01	オリエンテーション　小学校学習指導要領における体育の目標と学習領域に関する理解
02	体育科教育の課題１　体育科教育の必要性について
03	体育科教育の課題２　体育科におけるスタートカリキュラムについて
04	体育科教育における教材づくり・授業づくり①（体つくり運動系　器械運動系　陸上運動系）
05	体育科教育における教材づくり・授業づくり②（水泳運動系　ボール運動系　表現運動系）
06	体育科教育における教材づくり・授業づくり③（保健領域と健康教育）
07	体育科教育における教材づくり・授業づくり④（ICTを活用した授業展開）
08	体育科教育における教材づくり・授業づくり⑤（体育科における学習評価）
09	体育科教育における教材づくり・授業づくり⑥（指導計画案の作成・検討）
10	授業の進め方と実際1　模擬授業（体つくりの運動遊びまたは体つくり運動）
11	授業の進め方と実際2　模擬授業（器械・器具を使っての運動遊びまたは器械運動）
12	授業の進め方と実際3　模擬授業（走・跳の運動遊びまたは陸上運動）
13	授業の進め方と実際4　模擬授業（ゲームまたはボール運動）
14	授業の進め方と実際5　模擬授業（表現リズム遊びまたは表現運動）
15	模擬授業の振り返りと授業評価について
16	授業のまとめ

2024年度シラバス

科目名:OH31S0201　幼児と健康	担当者:寺田 恭子、寺田 泰人	開講学科等	保育学部 保育学科
		授業形態	演習
免許･資格:幼稚園教諭1種免許状・保育士資格		開講時期	前期
		配当学年	3
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	選択

授業概要と方法
健康な心と体を育て、自ら健康で安全な生活を作り出す力を養う領域「健康」の指導の基盤となる知識、技能を身に付ける。具体的には、乳幼児の心身の発達、基本的生活習慣、安全な生活、運動発達等において、乳幼児期には大人と違った特徴や意義があることを踏まえ、その相違が指導方法にも関連していることについて理解する。授業ではICTの活用、協働学習も行う（AL)。

授業の到達目標
①乳幼児期の健康課題と健康の発達的意味を理解し、説明できる（DP)。
②乳幼児期の体の諸機能の発達と生活習慣の形成を理解し、説明できる（DP)。
③安全な生活と怪我や病気の予防を理解し、説明できる（DP)。
④乳幼児期の運動発達の特徴と意義を理解し、説明できる（DP)。

【到達目標と深く関連する学科DP】
◎主体的に学ぼうとする力
○専門的な知識・技術
○思考力・判断力・表現力

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
・乳幼児を取り巻く社会状況に関する情報には常に関心を持つようにする。
・授業の事前事後に幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定子ども園教育・保育要領解説をしっかりと確認し、理解を深めるように努める。
・実習等で乳幼児と関わる機会を積極的に活用し、乳幼児の心身の発達、基本的生活習慣を理解することに努める。

評価方法
①授業への取り組みに対する意欲や態度（40%）、②発表・レポート（30%）、③講義内容に関する筆記試験（30%）最終授業時に全体向けにフィードバックを行う

教科書	参考図書
担当教員作成の資料を使用する。	幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定子ども園教育・保育要領解説

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
・授業においてパソコンを使用し、資料の閲覧を行うこともある。
・授業形態としては、各自でまとめた課題レポートを基にグループで話し合ったり、話し合った内容を発表し合ったりする参加型の学習活動を重視する。
・質問や相談等の連絡手段　y-terada@ohkagakuen-u.ac.jp

01	乳幼児の健康問題
02	領域「健康」について
03	乳幼児期の身体の発達的特徴
04	乳幼児期の生活習慣の形成
05	乳幼児期の運動発達の特徴
06	日常生活における運動
07	遊びとしての運動
08	幼児の安全教育と健康管理
09	
10	
11	
12	
13	
14	
15	
16	

科目名:OH31S0202　社会	担当者:松永 康史、嶋守 さやか	開講学科等	保育学部 保育学科
		授業形態	講義
免許・資格:小学校教諭1種免許状		開講時期	前期
		配当学年	3
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	選択

授業概要と方法
小学校社会科の目標や理念を理解し、学習指導の具体的方法や教材の検討を行う。授業は講義を中心にするが、受講生自らが小学校学習指導要領にしたがい、具体的な授業方法も体験する。学習指導要領についての理解を深め、具体的な授業展開についてのレポートやグループ発表・グループディスカッション成果のポスター制作を行う【AL】。担当者松永は、元小学校教諭の経験を踏まえ、教材研究や単元構想についての具体的な説明を行う。

授業の到達目標
社会科を暗記科目ではなく、子どもたちが興味を持ち、調べ考える力を身につけるアクティブラーニングを実践する科目として理解する【DP】。また、子どもたちが人間としての生きる力を養う教科として理解する。
【到達目標と深く関連する学科DP】
◎知識・技能
○思考力・判断力・表現力

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
教材研究に関する資料を読むこと、資料の作成など課題を指示します。

評価方法
前半4回については確認テストの成績40%、授業への参加意欲・態度10%で行う。後半4回については、グループワーク・プレゼンテーションの評価50%にて行います。フィードバック：課題の特徴的な見解や解説は、次回の授業時やMoodleにおいて紹介する。

教科書	参考図書
小学校学習指導要領解説編　社会科	小学校学習指導要領

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
オフィスアワー木曜昼休み（松永）、オフィスアワー木曜日昼休み（嶋守）

01	社会科教育の目指すもの（松永）
02	小学校社会科の学年ごとの目標と内容（松永）
03	教材研究と単元構想（松永）
04	教材研究とICT活用について（松永）
05	３・４年生の社会科指導計画の作成と模擬授業（嶋守）
06	５年生の社会科指導計画の作成と模擬授業（嶋守）
07	６年生の社会科指導計画の作成と模擬授業（嶋守）
08	理解度評価および解説（嶋守）
09	
10	
11	
12	
13	
14	
15	
16	

2024年度シラバス

科目名:OH31S0203　理科	担当者:木村 幸泰	開講学科等	保育学部 保育学科
		授業形態	講義
免許･資格:小学校教諭1種免許状		開講時期	前期
		配当学年	3
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	選択

授業概要と方法
身の回りの自然に潜む不思議を探究する方法や基本的な知識を身につける。講義では、小学校の学習指導要領を中心に教材づくりの基本を学ぶ。その際、観察・実験を子どもたちの目線にたって体験することで、理科における教材の重要性を理解する。また、幼児期の科学体験の自然体験や社会を支える科学技術などとのつながりが理解できる発展的な教材についても取り上げていきたい。

授業の到達目標
・小学校を中心とした理科の指導ができる基本的な知識・技能を身につけることができる。「知識・技能」
・小学校以降の理科の観察・実験を体験することで、子どもたちの疑問や考え方を生かした教材を工夫できる。「思考力・判断力・表現力」
【到達目標と深く関連する学科DP】
◎知識・技能
〇思考力・判断力・表現力

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
事準備学修：次時の授業の学習内容について学習指導要領の記述を調べ、理解をしておく。
事後学修：「子どもたちがどんな疑問をもつか、どのように考えるか」という視点で教材をとらえ、授業に生かす方法をノ考え、ノートにまとめる。

評価方法
①授業への参加度２０％　②　毎時の小レポート３０％　③理科研究レポート５０％
フィードバック：小レポートをもとに、教材の有効な生かし方について話し合ったり、新たな教材の工夫をしたりする。

教科書	参考図書
小学校学習指導要領解説　理科編	なし

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
・子どもたちがどのような点に疑問をもち、教材に関わるかを考えながら実験・観察を進める。
・・質問は、講義内またはMoodleで受け付けます

01	講義の導入（身近なサイエンス：世の中はコマで回っている）
02	自然現象に潜む物理現象（光：虹と光の秘密）
03	生活の中の物理学（ガリレオ・ガリレイの発見と物理実験）：グループワーク
04	身の回りの水溶液とその性質（水溶液の性質と酸・アルカリ）：グループワーク
05	調理の科学（おいしい食べ物と化学変化）
06	植物のからだのつくりとしくみ増え方（植物の花や実の秘密）
07	身の回りの自然現象を調べる方法（理科コンクールの優秀論文をもとにして）
08	なし（課題レポート）
09	
10	
11	
12	
13	
14	
15	
16	

2024年度シラバス

科目名:OH31S0204　体育	担当者:寺田 泰人	開講学科等	保育学部 保育学科
		授業形態	演習
免許・資格:小学校教諭1種免許状		開講時期	前期
		配当学年	3
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	選択

授業概要と方法
体育科の目標である「心と体を一体としてとらえ、適切な運動の経験と健康・安全についての理解を通して、生涯にわたって運動に親しむ資質や能力の基礎を育てるとともに健康の保持増進と体力の向上を図り、楽しく明るい生活を営む態度を育てる」ことを理解する。また現代の子どもの体力の現状についても理解を進める。授業では体系化した体育科の領域構成について、自ら経験することにより児童の体力や技能に応じた運動を提供したり、運動技能の習得に対する適切な指導ができるように実践的に学んでいきます。授業方法にはグループ学習やプレゼンテーションなどを取り入れます。（AL）

授業の到達目標
①各種の運動の行い方を理解するとともに、主体的に取り組む中で基本的な動きや技能を身につける。（DP）
②児童の運動発達過程を理解する。（DP）
③体育授業を担当するために必要な実践力を身につける。（DP）
④運動や健康についての自己の課題を見つけ、その解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝える力を身につける。（DP）

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
・小学校学習指導要領体育科の「目標・内容・内容の取り扱い」について要点をまとめる。
・各学年の目標、各領域の内容について要点をまとめる。
・授業後に自分の気づきを記録する。

評価方法
①毎回の授業内容をまとめた授業ノート（30%）
②授業内で行う実技発表（40%）
③授業への取り組みに対する意欲や態度（30%）
最終授業時に全体向けにフィードバックを行う

教科書	参考図書
小学校学習指導要領（平成29年告示）解説　体育編	授業の事前に適宜資料を配布する。

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
・この授業は体育館での実技が中心になります。運動に適したジャージやシューズを必ず着用してください。また授業内容を記録するノート等を持参してください。・運動するのにふさわしい服装でなければ受講を認めません。
・日頃から運動に親しんだり、戸外で活動したりすることを心がけましょう。　y-terada@ohkagakuen-u.ac.jp

01	オリエンテーション　体育科の内容構成について
02	体つくり運動系の実践と省察
03	器械運動系①（第１学年及び第２学年の内容）の実践と省察
04	器械運動系②（第３学年から第６学年の内容）の実践と省察
05	陸上運動系の実践と省察
06	ボール運動系①（第１学年及び第２学年の内容）の実践と省察
07	ボール運動系②（第３学年から第６学年の内容）の実践と省察
08	表現運動系の実践と省察
09	
10	
11	
12	
13	
14	
15	
16	

科目名:0H31S0205　幼児音楽ⅡＡ	担当者:基村 昌代、赤松 みどり、竹内 理恵、谷田 育代、森野 直子、鬼頭 愛、森 恵美子、後藤 祐里	開講学科等	保育学部 保育学科
		授業形態	演習
免許･資格:		開講時期	前期
		配当学年	3
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	選択

授業概要と方法
　乳幼児期から児童期の子どもの発達理解と発達環境の諸側面の課題をふまえた上で、基礎歌唱法及び弾き歌い奏法を理論と実践で学びます。取り上げる教材は幼児歌曲・わらべうた・斉唱曲・重唱曲です。授業を半分（45分）に分け、弾き歌いやコード譜の個人レッスンと、声の出る仕組みを踏まえた上での歌唱法を学ぶグループレッスンを受講し、個々の課題を追求し、実践力の向上を目指します。最終授業では試験を行い、学びの成果をプレゼンテーションします。また、授業外の準備学修・事後学修の位置付けとして、オンラインの譜読み課題を課します。毎提出後に解答表示にて確認しフィードバックを行い読譜力を高めます。(AL)

授業の到達目標
　任意の弾き歌い12曲以上、コード譜3曲以上習得することを目標とします。乳幼児期から児童期の子どもの発達理解と発達環境の諸側面の課題をふまえた上で、弾き歌い楽曲の奏法・表現方法・内容解釈、基礎歌唱法では音声生理学を踏まえた歌唱法の習得を目指し、音楽表現力を養います。(DP)

【到達目標と深く関連する学科DP】
◎主体的に学ぼうとする力
○思考力・判断力・表現力

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
　少しの時間でもピアノに触れ、歌うことが上達への近道です。毎日、弾き歌い曲の練習と、オンライン譜読み課題を行って下さい。

評価方法
　試験評価100点、弾き歌い個人レッスン(授業への参加態度など)評価100点、歌唱グループレッスン(授業への参加態度など)評価100点、オンライン譜読課題100点の合計400点を100点に平均して算出する。弾き歌いレッスン評価及び歌唱レッスン評価は半期を通して到達度、学修意欲、出欠状況、学習態度を総合して評価する。なお、試験は複数の教員が個々に審査し、合議した上で評価する。最終授業時に個別にフィードバックを行う。

教科書	参考図書
＊教育や保育に携わる人々のための「新・声楽指導教本」（教育芸術社) ＊保育のための歌とあそび「こどもの世界」（ドレミ出版社)	保育所保育指針、幼保連携型認定子ども園教育・保育要領、幼稚園教育要領

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
　カラオケでは歌えるのに授業となると歌えない？　まずは恥ずかしがらず声を出してみましょう。声はその人しか出せない世界で一つの宝物であり、その人の個性でもあります。その素敵な声を活かせるよう、毎日ピアノに触れ、歌うことが上達への近道です。

01	任意の弾き歌い曲１（歌詞に基づいた表現方法）、基礎歌唱法（姿勢・腹式呼吸）、リズム打ち実践(単純拍子)、譜読課題１
02	任意の弾き歌い曲２（歌詞に基づいた表現方法）、基礎歌唱法（頭声と胸声、共鳴）、リズム打ち実践(３拍子）、譜読課題２
03	任意の弾き歌い曲３（歌詞に基づいた表現方法）、基礎歌唱法（音程について）、リズム打ち実践(３拍子）、譜読課題３
04	任意の弾き歌い曲４（楽曲の内容解釈と表現方法）、基礎歌唱法（発語法について）、リズム打ち実践(複合拍子・４拍子）、譜読課題４
05	任意の弾き歌い曲５（楽曲の内容解釈と表現方法）、基礎歌唱法（リズムについて）、リズム打ち実践(複合拍子・４拍子）、譜読課題５
06	任意の弾き歌い曲６（楽曲の内容解釈と表現方法）、基礎歌唱法（フレーズについて）、リズム打ち実践(複合拍子・６拍子）、譜読課題６
07	任意の弾き歌い曲７（楽曲の内容解釈と表現方法）、基礎歌唱法（レガートについて）、リズム打ち実践(複合拍子・６拍子）、譜読課題７
08	総括（フィードバック）、試験
09	
10	
11	
12	
13	
14	
15	
16	

科目名:OH32S0206　幼児音楽ⅡＢ	担当者:基村 昌代、赤松 みどり、竹内 理恵、谷田 育代、森野 直子、鬼頭 愛、森 恵美子、後藤 祐里	開講学科等	保育学部 保育学科
		授業形態	演習
免許･資格:		開講時期	後期
		配当学年	3
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	選択

授業概要と方法
　乳幼児期から児童期の子どもの発達理解と発達環境の諸側面の課題をふまえた上で、基礎歌唱法及び弾き歌い奏法を理論と実践で学びます。取り上げる教材は幼児歌曲・わらべうた・斉唱曲・重唱曲です。授業を半分（45分）に分け、弾き歌いやコード譜の個人レッスンと、声の出る仕組みを踏まえた上での歌唱法を学ぶグループレッスンを受講し、個々の課題を追求し、実践力の向上を目指します。最終授業では試験を行い、学びの成果をプレゼンテーションします。また、授業外の準備学修・事後学修の位置付けとして、オンラインの譜読み課題を課します。毎提出後に解答表示にて確認しフィードバックを行い読譜力を高めます。(AL)

授業の到達目標
　任意の弾き歌い12曲以上、コード譜3曲以上習得することを目標とします。乳幼児期から児童期の子どもの発達理解と発達環境の諸側面の課題をふまえた上で、弾き歌い楽曲の奏法・表現方法・内容解釈、基礎歌唱法では音声生理学を踏まえた歌唱法の習得を目指し、音楽表現力を養います。(DP)

【到達目標と深く関連する学科DP】
◎主体的に学ぼうとする力
○思考力・判断力・表現力

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
　少しの時間でもピアノに触れ、歌うことが上達への近道です。毎日、弾き歌い曲の練習と、オンライン譜読み課題を行って下さい。

評価方法
　試験評価100点、弾き歌い個人レッスン(授業への参加態度など)評価100点、歌唱グループレッスン(授業への参加態度など)評価100点、オンライン譜読課題100点の合計400点を100点に平均して算出する。弾き歌いレッスン評価及び歌唱レッスン評価は半期を通して到達度、学修意欲、出欠状況、学習態度を総合して評価する。なお、試験は複数の教員が個々に審査し、合議した上で評価する。最終授業時に個別にフィードバックを行う。

教科書	参考図書
＊教育や保育に携わる人々のための「新・声楽指導教本」（教育芸術社) ＊保育のための歌とあそび「こどもの世界」（ドレミ出版社)	保育所保育指針、幼保連携型認定子ども園教育・保育要領、幼稚園教育要領

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
　カラオケでは歌えるのに授業となると歌えない？　まずは恥ずかしがらず声を出してみましょう。声はその人しか出せない世界で一つの宝物であり、その人の個性でもあります。その素敵な声を活かせるよう、毎日ピアノに触れ、歌うことが上達への近道です。

01	任意の弾き歌い曲１（歌詞に基づいた表現方法）、基礎歌唱法（こどもの声の発達１）、リズム打ち実践(３拍子)、譜読課題１
02	任意の弾き歌い曲２（歌詞に基づいた表現方法）、基礎歌唱法（こどもの声の発達２）、リズム打ち実践(３拍子)、譜読課題２
03	任意の弾き歌い曲３（歌詞に基づいた表現方法）、基礎歌唱法（歌詞の読解、、歌詞に基づいた表現方法１）、リズム打ち実践(４拍子)、譜読課題３
04	任意の弾き歌い曲４（楽曲の内容解釈と表現方法）、基礎歌唱法（歌詞の読解、、歌詞に基づいた表現方法２）、リズム打ち実践(４拍子)、譜読課題４
05	任意の弾き歌い曲５（楽曲の内容解釈と表現方法）、基礎歌唱法（歌詞の読解、、歌詞に基づいた表現方法３）、リズム打ち実践(複合拍子・４拍子)、譜読課題５
06	任意の弾き歌い曲６（楽曲の内容解釈と表現方法）、基礎歌唱法（歌詞の読解、、歌詞に基づいた表現方法４）、リズム打ち実践(複合拍子・６拍子)、譜読課題６
07	任意の弾き歌い曲７（楽曲の内容解釈と表現方法）、基礎歌唱法（歌詞の読解、、歌詞に基づいた表現方法５）、リズム打ち実践(複合拍子・９拍子)、譜読課題７
08	総括（フィードバック）、試験
09	
10	
11	
12	
13	
14	
15	
16	

2024年度シラバス

科目名:OH12S0205　幼児造形Ⅱ	担当者:淺野 卓司	開講学科等	保育学部 保育学科
		授業形態	演習
免許･資格:		開講時期	後期
		配当学年	3
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	選択

授業概要と方法
本講は、教育・保育に関する専門的な知識・技能等を身につけることを目的とする。保育者を目指す学生が、小学校図画工作等の学習活動を見通しながら、乳幼児の造形表現を支援・指導することに必要な知識・技能、思考力・判断力・表現力を身に付ける。「幼児造形Ⅱ」は、「幼児と表現Ⅰ」「幼児と表現」「保育内容指導法表現」で学んだことをベースに、協同的学修（AL)の学修形態をとりながら、立体表現を体験（全６回）しその学修成果をICTを使ってまとめる（１回）。

授業の到達目標
（1）子どもの造形活動に関して主体的に学ぼうとする力
教育・保育の専門職として求められる実践内容や方法についての知識や技能、思考力・判断力・表現力を身につけるため、題材に関する視覚的情報（図表、イラスト等）や資料を自ら進んで収集し参考にしながら意欲的に学ぶ。実際の体験を通して学んだ内容をわかりやすく伝えようとする（DP)。
（2）造形実践に必要な思考力・判断力・表現力
教育・保育の専門職として求められる実践内容や方法に関する知識や技能を基に、授業カード（PowerPointを）を使ったポートフォリオ作成を通して題材の捉え方や実践の方法について工夫を行ったり改善した結果をわかりやすく伝えることができる（DP)。

【到達目標と深く関連する学科DP】
◎主体的に学ぼうとする力
○思考力・判断力・表現力

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
・自ら進んで、様々な実践事例に触れながら、造形活動の意義や支援・指導について学びます。
・実践事例を調べ、実技で取り組んだことを含めてポートフォリオにまとめます（15時間）。

評価方法
学修内容の学びや気づきを活動の記録として授業題材毎のポートフォリオとしてまとめたものを学びの過程として評価を行います（70%）。その他、造形指導に関する基本的・基礎的な知識・技能や感じたことや考えたことを評価します。（30%）。第4回までの授業内容について中間まとめとして評価し、フィードバックする。

教科書	参考図書
「よくわかる！造形あそびの材料・用具」サクラクレパス 幼稚園教育要領解説、保育所保育指針解説、幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説	

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
本講は、Microsoft Teamsを使います。かならず毎時間PCを持ってくること。
連絡先：asano-t@ohkagakuen-u.ac.jp

01	第１回：乳幼児の造形活動と題材について
02	第２回：土に触れる活動
03	第３回：土粘土の精製と粘土遊びについて
04	第４回：粘土活動における用具の利用と環境構成
05	第５回：紙粘土を使った表現（小学校図画工作との関連）
06	第６回：粘土と他の素材を組み合わせた表現
07	第７回：紙粘土への着色について
08	第８回：活動を振り返って（ICTを使った活動評価とまとめ）
09	
10	
11	
12	
13	
14	
15	
16	

科目名:0H31S0206　幼児体育Ⅱ	担当者:木村 達志	開講学科等	保育学部 保育学科
		授業形態	演習
免許･資格:		開講時期	前期
		配当学年	3
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	選択

授業概要と方法
授業概要と方法<200文字>
幼児の身体および運動能力の発育・発達について理解するとともに、幼児体育の意義やねらいを明らかにする。その上で、運動遊びの具体的な内容や指導方法について理解・修得し、保育者として実践力を身につける。本演習を通して、自らも運動遊びを楽しみかつ創造できる力を取得する（AL)。幼児が実施している様々な運動遊びを自ら経験することによって、幼児の発育・発達段階に応じた運動遊びを提供したり、運動動作の習得に対する適切な援助・指導ができるように実践的に学んで行く。そのためグループ学習やプレゼンテーションを取り入れる（AL）。

授業の到達目標
①様々な運動遊びを経験し、上達を目指して主体的に取り組む中で、運動の楽しさを知り運動技能の向上を図る（DP）。
②幼児期の運動発達過程を理解する（DP）。
③工夫や協力により、より良い保育教材や保育環境を作ることができるようになる（DP）。
④運動のコツを理解し、適切な援助ができるようになる。（DP）。

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
・事前学習として、シラバスに記載してある運動遊びについて文献等で調べておくこと。
・事後学習として、授業中に取ったメモを整理し、毎回の授業内容について、授業ノートを作成・提出する。
・学外実習やボランティア活動を通して、子どもの運動発達を理解する。

評価方法
① 毎回の授業内容をまとめた授業ノート（50%） ② 授業内で行う実技発表（30%） ③ 授業への取り組みに対する意欲や態度（20%）

教科書 特になし	参考図書 日本発育発達学会編、幼児期運動指針実践ガイド、杏林書院

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
水遊びは集中講義で開講する予定です。詳細は授業内で案内します。高校などで使用していたスポーツウエア、スポーツシューズ、体育館シューズを用意し、それらを着用して授業へ臨んで下さい。毎回の授業ではメモ用紙と筆記具を携行してください。運動禁忌の場合は申し出て下さい。日頃から運動に親しんだり、戸外で活動したりすることを心がけましょう。

01	オリエンテーション、簡単なルールの鬼遊び（実践）
02	助け鬼
03	椅子使った遊び
04	ボールを受かった遊び
05	巧技台、跳び箱、鉄棒、マットを利用した運動遊び
06	運動会の実践　リレー遊び
07	水遊び
08	授業のまとめ
09	
10	
11	
12	
13	
14	
15	
16	

2024年度シラバス

科目名:OH31S0207　子どもの保健	担当者:木村 達志	開講学科等	保育学部 保育学科
		授業形態	講義
免許･資格:保育士資格		開講時期	前期
		配当学年	3
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	必須

授業概要と方法
子どもの保健では、子どもの健やかな成長や発達、病気の特徴や予防法などを学びます。この講義では子ども達の健全な成長を支援するため、子どもの保健の意義を理解し、発育（月齢や年齢）にともない変化する身体的な特徴、生理機能、運動機能や精神機能（社会性）の発達、子どもの疾病とその予防について学びます。

授業の到達目標
1.子どもの身体発育、生理機能、運動機能、疾病などに関する幅広い知識を習得し、体系的・総合的に理解を深める(DP)
2.ICT スキル（PC を用いて学習を展開するスキル）の基礎を獲得する(DP)
【到達目標と深く関連する学科DP】
◎知識・技能
○思考力・判断力・表現力

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
子どもの保健では習得すべき内容が多く、その知識を確実なものとするため、授業外での復習を行って下さい。子どもを取り巻く社会状況に関する情報には常に関心を持って下さい。

評価方法
授業への取組20%、授業内での提出物30%、学期末試験50%
最終授業時に全体向けにフィードバックを行う。

教科書	参考図書
保育者のためのわかりやすい子どもの保健（日本総合医学社）	幼稚園教育要領及び解説、保育所保育指針及び解説、幼保連携型認定こども園教育・保育要領及び解説

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
連絡は t-kimura@ohkagakuen-u.ac.jp まで
Moodleを利用しますので、毎回の授業へノートパソコンを持参してください。
自身の母子健康手帳があれば、手元に用意しておいて下さい。
授業内容を実習などで応用するため、実習のタイミングに合わせ授業計画を変更する場合があります。

01	ガイダンスおよび子どもの保健の現状、保健水準
02	子どもの発育発達、子どもの健康管理
03	子どもの貧困、エコチル調査
04	子どもの死亡率を低下させる方策
05	胎児の形態発達、DOHaD仮説
06	年齢階級別の死因、低出生体重児とは
07	虐待の防止と支援
08	発育と発達の評価　成長曲線、統計用語の理解
09	子どもの運動機能の発達、スキャモンの臓器別発育曲線
10	子どもの生理機能の発達、体温調節、熱中症予防
11	幼児が身につけるべき基本的生活習慣、子どもの歯牙の発達
12	子どもの健康状態の観察
13	感染症の種類と予防(AL)
14	感染症対策(AL)
15	子どもに多い疾患、アレルギー
16	まとめと試験

科目名:OH32S0208　子どもの健康と安全	担当者:木村 達志	開講学科等	保育学部 保育学科
		授業形態	演習
免許･資格:保育士資格		開講時期	後期
		配当学年	3
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	選択

授業概要と方法
子どもの健康及び安全は、子どもの生活の基本である。この授業では、子どもの健康管理や安全の確保について、関連するガイドラインなどを参照しながら学習を進めていく。安全の確保の一環として防災についても学習する。

授業の到達目標
1.保健的観点を踏まえた保育環境や援助について理解する(DP)。
2.関連するガイドライン等を踏まえ、保育における衛生管理・事故防止及び安全対策・危機管理・災害対策について、具体的に理解する(DP)。
3.子どもの体調不良等に対する適切な対応について、具体的に理解する(DP)。
4.子どもの健康及び安全の管理に関わる、組織的取組や保健活動の計画及び評価等について、具体的に理解する(DP)。

【到達目標と深く関連する学科DP】
○主体的に学ぼうとする力
◎思考力・判断力・表現力

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
子どもの保健で覚えるべき内容が多く、その知識を確実なものとするため、授業外での復習を必ず行って下さい。子どもを取り巻く社会状況に関する情報には常に関心を持って下さい。

評価方法
授業への取り組み（30%)、プレゼンテーション課題、提出物（30%)、講義内容に関する筆記試験（40%)
最終授業時に全体向けにフィードバックを行う。

教科書	参考図書
保育者のためのわかりやすい子どもの保健（総合医学社）、 前期の子どもの保健で使用したもの	厚生労働省のホームページにある各種のガイドライン

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
連絡は t-kimura@ohkagakuen-u.ac.jp まで
Moodleを利用しますので、授業時にノートパソコンを持参してください。

01	子どもの健康と安全とは、オリエンテーション
02	不慮の事故、現場での事故対応
03	保育所における感染症対策ガイドラインなど(AL)
04	感染症に関するプレゼンテーション(AL)
05	教育・保育施設等における安全管理・衛生管理
06	感染症を予防する手洗いの実践(AL)
07	傷害予防、避難訓練、防災訓練
08	まとめと確認テスト
09	
10	
11	
12	
13	
14	
15	
16	

科目名:OH31S0208　子どもの食と栄養Ⅰ	担当者:辻岡 和代、鈴村 昌子	開講学科等	保育学部 保育学科
		授業形態	演習
免許･資格:保育士資格		開講時期	前期
		配当学年	3
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	必須

授業概要と方法
１．健康な生活の基本として食生活の意義や栄養に関する基礎知識を学ぶための講義（6回）
２．子どもの発育・発達と食生活、特別な配慮を要する子どもの食についての理解を深める為の演習（6回）
３．グループ学習とプレゼンテーション（3回）

授業の到達目標
１．食と健康がどのように関わっているかを理解できる。【DP】
２．保育者として必要な栄養についての基礎知識や技能、食育、食生活に関する諸問題について理解できる。【DP】
３．保育園、幼稚園、小学校における食育を実践するための基礎的なスキルを身につけ、仲間と協力しながら他者へ伝えることができる。【DP】

【到達目標と深く関連する学科DP】
◎知識・技能
○思考力・判断力・表現力

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
自分自身の食生活についての振り返りを常に行ってください。また、食と栄養に関する情報の真偽が自分で判断できるように授業内での学習をもとに積極的に考える力を養ってください。さらに、子どもの食について理解を深めるため、ボランティア活動や実習の際には、園での取り組みをしっかり学んできてください。
具体的な学修活動については、授業内で提示します。

評価方法
授業への参加態度30％、確認テスト40％、プレゼンテーション30％の割合で評価します。
提出された課題のフィードバックは、次回授業内での話題提供、提出物の返却、Moodle等を通して行います。

教科書	参考図書
子どもの食と栄養　建帛社	保育所保育指針　等

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
質問等は、メール、Moodleまたはオフィスアワーで受け付けます。詳細については授業で開示します。

01	子どもの健康と食生活の意義　　（辻岡）
02	栄養の基本的概念と栄養素の種類と機能（１）炭水化物　（鈴村）
03	栄養の基本的概念と栄養素の種類と機能（２）タンパク質　（鈴村）
04	栄養の基本的概念と栄養素の種類と機能（３）脂質　（鈴村）
05	栄養の基本的概念と栄養素の種類と機能（４）ビタミン（鈴村）
06	栄養の基本的概念と栄養素の種類と機能（５）ミネラル　（鈴村）
07	食事摂取基準　（鈴村）
08	子どもの栄養と生理　（鈴村）
09	乳児期の授乳・離乳の意義と食生活（１）母乳・育児用ミルク　（辻岡）
10	乳児期の授乳・離乳の意義と食生活（２）冷凍母乳・離乳食　（辻岡）
11	幼児期・学童期の心身の発達と食生活・家庭や児童福祉施設における食事と栄養　（辻岡）
12	特別な配慮を要する子どもの食と栄養　（辻岡）
13	食育の基本と内容　（辻岡）
14	プレゼンテーションとその活用　（辻岡）　【AL】
15	総括と確認テスト　（辻岡・鈴村）
16	

科目名:OH32S0209　子どもの食と栄養Ⅱ	担当者:辻岡 和代、鈴村 昌子	開講学科等	保育学部 保育学科
		授業形態	演習
免許･資格:保育士資格		開講時期	後期
		配当学年	3
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択

授業概要と方法
１．子どもの食と栄養Ⅰで学んだ基礎知識をさらに深める為の講義と演習（各回）
２．乳児期から学童期までの発達の特徴を踏まえた調理実習（各回）
３．食育の組み立てと実習（各回：幼児弁当実習および食育実習は学生主体で行う）

授業の到達目標
１．保育者として子どもの精神的な満足や個々の体質に配慮した食生活の支援について主体的に考える事ができる。【DP】
２．子どもの食を想定した食材の選択、献立作成、調理方法、衛生管理について他者と協力しながら実践的に学ぶ事ができる。
３．保育所における食育を実践するためのスキルを身につける事ができる。【DP】

【到達目標と深く関連する学科DP】
○主体的に学ぼうとする力
◎思考力・判断力・表現力

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
自分自身の食生活についての振り返りを常に行いながら自宅でも積極的に調理を行うこと。また、授業内で意見交換するためのレシピや調理法について準備学修を行うこと。さらに、子どもの食について理解を深めるため、ボランティア活動や実習の際には、園での取り組みをしっかり学んでくること。具体的な学修活動については、授業内で提示する。（4時間程度）

評価方法
授業態度50%、レポート試験50%の割合で評価する。
提出された課題のフィードバックは、次回授業内での話題提供、提出物の返却、Moodle等を通して行う。

教科書	参考図書
子どもの食と栄養演習書　　医歯薬出版	教科書 子どもの食と栄養実習書　　医歯薬出版 参考図書 保育所保育指針　等　授業態度50%、レポート試験50%の割合で評価する教科書 子どもの食と栄養実習書　　医歯薬出版 参考図書 保育所保育指針　等保育所保育指針　等

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
・質問等は、Moodleまたはオフィスアワーで受け付ける。詳細については授業で開示する。
・食材費(自費：3200円)がかかります。

01	オリエンテーション、簡単な調理の基礎　（辻岡・鈴村）
02	乳児栄養実習　　（辻岡）
03	離乳食実習①　講義・実習準備　　（辻岡）
04	離乳食実習②　実習・試食・評価・振り返り　（辻岡）
05	幼児食実習①　講義・実習準備　（鈴村）
06	幼児食実習②　実習・試食・評価・振り返り　（鈴村）
07	幼児弁当実習①　講義　演習　実習準備　（辻岡）　【AL】
08	幼児弁当実習②　実習　試食　評価　振り返り　（辻岡）　【AL】
09	アレルギー食実習①　講義　演習　実習準備　（辻岡）　【AL】
10	アレルギー食実習②　実習　試食　評価　振り返り　（辻岡）【AL】
11	食育実習①　講義　演習　実習準備　（鈴村）　【AL】
12	食育実習②　実習　試食　評価　振り返り　（鈴村）【AL】
13	行事食実習①　講義　演習　実習準備　（鈴村）
14	行事食実習②　実習　試食　評価　振り返り　（鈴村）
15	総合実習　（鈴村）　【AL】
16	

科目名:OH32S0210　障害児保育	担当者:小柳津 和博、藤井 七瀬、柏倉 秀克	開講学科等	保育学部 保育学科
		授業形態	演習
免許･資格:保育士資格		開講時期	後期
		配当学年	3
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択

授業概要と方法
【担当者の実務経験】特別支援学校教諭
この授業科目では、元特別支援学校教諭としての経験を踏まえ、障害等により特別の支援を必要とする子どもを保育する保育所、施設等における指導・支援方法について具体的な検討を行う。また、障害児保育を実施するための支援計画・指導計画の作成・活用について体験的に学ぶことができるようにする。【ＡＬ】

１．障害児保育を支える理念、２． 障害児等の理解と保育における発達の援助、３．障害児その他の特別な配慮を要する子どもの保育の実際、４．家庭及び自治体・関係機関との連携 、５．障害児その他の特別な配慮を要する子どもの保育に関わる現状 と課題 、これらについてDVD等の映像や事例を活用しながら学ぶ。

授業の到達目標
① 障害児保育を支える理念や歴史的変遷について学び、障害児及びその保育について理解する。[DP]
② 個々の特性や心身の発達等に応じた援助や配慮について理解する。[DP]
③ 障害児その他の特別な配慮を要する子どもの保育における計画の作成や援助の具体的な方法について理解する。[DP]
④ 障害児その他の特別な配慮を要する子どもの家庭への支援や関係機関との連携・協働について理解する。[DP]
⑤ 障害児その他の特別な配慮を要する子どもの保育に関する現状と課題について理解する。[DP]

【到達目標と深く関連する学科DP】
○主体的に学ぼうとする力
◎知識・技能

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
教科書を読み、授業内容の発表を学生が行う。オリエンテーションでグループ分けを行う。
事例検討についてもグループ分けし、支援の方法を学び合う。障害のある子どもに係わるテレビや新聞・ネットの記事などに普段から着目するようにしていくこと。

評価方法
3名の教員の評価点を合計して、成績評価を行う。授業内容発表（5%）、事例検討会発表（10%）、小テスト・レポート（75%）、授業への参加態度（10%）により総合的に評価する。
授業の最後にフィードバックを行う。

教科書	参考図書
特別の支援を必要とする子どもの理解―共に育つ保育を目指して―（勝浦眞仁編著、ナカニシヤ出版）	保育所保育指針及び解説、幼保連携型認定こども園教育・保育要領及び解説

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
保育者を目指す学生にとって、障害のある子どもたちとの出会いは貴重な機会であり、自身の保育観・障害観を見つめ直す機会となる。２年生での学びやこれまでの実習での体験を基に、さらに理解を深めてほしい。
連絡先：kashiwakura@ohkagakuen-u.ac.jp
oyaizu@ohkagakuen-u.ac.jp
fujiin@ohkagakuen-u.ac.jp

01	オリエンテーション、障害に関するイントロダクション
02	＜柏倉担当＞　障害児保育の歴史的変遷―統合保育まで―
03	障害児保育の現状―インクルージョンに向けて―
04	特別支援教育からインクルーシブ教育へ―障害者権利条約と合理的配慮―
05	関係者との連携（地域専門機関、小学校）
06	＜小柳津担当＞　子ども同士の関わり合い・育ち合い
07	個々の発達を促す生活と遊びの環境
08	保護者・家族との連携
09	個別の支援計画・指導計画の作成と活用、ケース会議
10	＜藤井担当＞　障害児保育の対象：特別な配慮を必要とする子ども（気になる子ども）
11	ＮＰＯ・学童保育での障害児保育
12	子どもの健康と安全、医療的ケア児の保育
13	乳幼児健康診査、就学時健康診断
14	事例検討会の準備
15	事例検討会（発表）
16	試験なし

2024年度シラバス

科目名:OH31S0209　乳児保育Ⅱ	担当者:武藤 直子	開講学科等	保育学部 保育学科
		授業形態	演習
免許･資格:保育士資格		開講時期	前期
		配当学年	3
受講者制限:　乳児保育Ⅰを修得したもの		単位数	1
		必須.選択	選択

授業概要と方法
【担当者の実務者経験】保育士・保育所園長
乳児保育の重要性を自覚し、保育士としての専門性をよりめる為に、乳児の生活と保育について講義と演習により具体的に学ぶ（AL）。産休明け児からの乳児保育について、より具体的で実践的な援助の仕方が学べるように事例検討やグループ討議により学びを深める（AL）。手遊びやふれあい遊びなどを実践的に学ぶ（AL）。

授業の到達目標
①乳児保育1を踏まえ、乳児保育に必要な知識や技術をさらに習得し、保育士としての自覚をもち、専門性を高める（DP）。②乳児保育をするためのより具体的な保育実践について考え、子どもや保護者に対する援助の仕方を習得する（DP）。③保育に必要な教材研究を主体的に行い、実際にそれを活用した保育実践力が身につく（DP）。

【到達目標と深く関連する学科DP】〇主体的に学ぼうとする力◎思考力・判断力・表現力

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
乳児保育における保育士としての専門性や実践力をより高めるための授業です。
乳幼児の発達の理解が深まるよう乳幼児と接触する機会を積極的に作り、援助の仕方を体験しながら習得できるようにしましょう。乳児保育に役立つふれあい遊び、手遊びの習得と乳児保育に必要な環境や手作りおもちゃについて関心を深めましょう。

評価方法
筆記試験（６０％）、授業への参加態度（２０％）、課題・提出物（２０％）を総合的に判断する。フィードバック方法は毎回の授業時に学び、感想や質問を記載する。筆記試験は希望者に開示、それ以外のレポートや提出物の評価については、評価の基準内容を第１回目授業に示し、評価して返却する。

教科書	参考図書
「やさしい乳児保育」神蔵幸子ら編著（青踏社）・保育所保育指針解説平成30年厚生労働省編（フレーベル）	授業時に適宜紹介

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
子どもに関するニュースや社会の動きについて関心を持ち、積極的に情報収集する。日頃から乳幼児と触れ合う機会を多く作り乳幼児の理解に努める。子育て支援センターなどで、子育て支援について理解を深める。連絡はメールで行う。研究室7402。

01	授業概要等の説明
02	年度始めにおける乳児保育、アタッチメント
03	乳児保育におけるふれあい遊びの意義 ふれあい遊びの意義
04	保護者との連携
05	事故防止対策と事故発生時の対応
06	感染症対策と対応、アレルギー対応
07	夏季における乳児保育
08	まとめ、定期試験
09	
10	
11	
12	
13	
14	
15	
16	

科目名:OH31S0210　医療保育Ⅱ	担当者:小柳津 和博	開講学科等	保育学部 保育学科
		授業形態	演習
免許･資格:		開講時期	前期
		配当学年	3
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	選択

授業概要と方法
外来・病棟の保育・施設見学
外来：①外来保育活動を見学
　　②外来での検査などのプレパレーション・ディストラクションの見学
病棟：5病棟（NICU・PICUを以外）の見学
　　①病棟での集団・個別保育活動の見学
　　②手術・検査などのプレパレーション・ディストラクションの見学
　　③HPS資格を併せ持つ医療保育士の役割や支援内容を理解する。

授業の到達目標
①小児専門病院のチーム医療を知る。
②HPS資格を併せ持つ医療保育士の役割や支援内容を理解する（DP）。

【到達目標と深く関連する学科DP】
◎主体的に学ぼうとする力
○思考力・判断力・表現力

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
特になし

評価方法
①実習態度(50%)②実習記録（30%）③実習発表会(20%)。発表に関するフィードバックを行う。

教科書 特になし	参考図書 特になし

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
医療保育実習に出る場合は、実習費(1日1,500円)が必要になる。病院での受け入れは5名までである。
各種ワクチン接種の証明書、抗体検査等の証明書が必要となる。ワクチン接種、証明書取得に関する費用が必要となる。
服装：動きやすい服装。首、脇が大きく開いてないもの。長ズボン。
連絡はoyaizu@ohkagakuen-u.ac.jpまで。

01	オリエンテーション
02	医療保育実習の記録の書き方
03	外来の医療保育見学
04	病棟の保育見学①
05	病棟の保育見学②
06	病棟の保育見学③
07	病棟の保育見学④
08	医療保育事後報告会
09	
10	
11	
12	
13	
14	
15	
16	

2024年度シラバス

科目名:OH31S0301　知的障害児の心理・生理・病理	担当者:藤井 七瀬	開講学科等	保育学部 保育学科
		授業形態	講義
免許・資格:特別支援学校教諭		開講時期	前期
		配当学年	3
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択

授業概要と方法
知的障害児の障害特性について、心理学的、生理学的、病理学的側面について検討する。また、知的障害児の発達を学んだうえで、アセスメントや指導・支援について、理解を深める。

授業の到達目標
①知的障害および発達障害（ASD・ADHD・LD）の定義・分類について理解する。
②知的障害の起因となる病理的な疾患や心理面及び生理面の特徴について理解する。
③知的障害児の発達の特徴を理解し、適切な支援・指導法について考えることができる。[DP]

【到達目標と深く関連する学科DP】
◎知識・技能
○思考力・判断力・表現力

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
準備学修としては知的障害児・者に関わるテレビやネット記事などに普段から着目しておくこと。
事後学修としてはボランティア体験など知的障害児に対し実践的にかかわる体験をできるだけ多く持つことが望ましい。

評価方法
テスト（60%）、授業への参加態度（30%）、授業内課題（10%）により、総合的に判断する。

教科書	参考図書
授業中に配布する資料を使用する。	勝二博亮編著（2022）知的障害児の心理・生理・病理-エビデンスに基づく特別支援教育のために-　北大路書房

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
障害のある子どもの特性を理解することは、子どもたちの実態を正しく見立てる礎となる。
また、実習先やボランティア活動等での経験をもとに、理解を深めてほしい。
【連絡先】藤井七瀬 fujiin@ohkagakuen-u.ac.jp

01	オリエンテーション　知的障害児の理解
02	知的障害の定義・障害特性について
03	知的障害に関する心理面の基礎知識
04	知的障害と発達障害（ASD・ADHD・LD）との関連について
05	知的障害の起因疾患（遺伝子疾患・染色体疾患・代謝異常）及び医学的基礎知識
06	知的障害児の認知特性
07	知的障害児の言語・コミュニケーション
08	知的障害児の障害特性を踏まえた文字や数の指導
09	知的障害児と運動機能・健康問題
10	知的障害児と問題行動
11	知的障害児の理解と支援①応用行動分析
12	知的障害児の理解と支援②知能検査・発達検査
13	知的障害児の理解と支援③TEACCH・情報保障
14	知的障害児の理解と支援④保護者・家族支援
15	まとめのテストと解説
16	試験なし

科目名:OH31S0302　肢体不自由児の心理・生理・病理	担当者:小柳津 和博、辻 健史	開講学科等	保育学部 保育学科
		授業形態	講義
免許・資格:特別支援学校教諭		開講時期	前期
		配当学年	3
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択

授業概要と方法
肢体不自由児の心理・生理・病理に関する基礎的な知識を習得する。
医療としての肢体不自由児の理解や支援について学ぶ。
肢体不自由児を理解するための基礎知識を得る中で、特別支援教育教員として必要な力量について考察する。

授業の到達目標
①肢体不自由の起因疾患（脳原性疾患、脊髄疾患、末梢神経疾患）となる病理面と心理面及び生理面の特徴並びにそれらの相互作用について理解している。[DP]
②観察や検査を通して、幼児、児童又は生徒一人一人の肢体不自由の状態や感覚機能の発達、知能の発達及び認知の特性を把握することを理解している。[DP]
③家庭や医療機関との連携の重要性について理解している。[DP]

【到達目標と深く関連する学科DP】
◎知識・技能
○思考力・判断力・表現力

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
肢体不自由児・者に係わるテレビや新聞・ネットの記事などに普段から着目するようにしていくこと。

評価方法
２名の教員の評価点を合計して、成績評価を行う。
授業内課題（30%）、小テスト（30%）、授業への参加態度（40%）により総合的に評価する。
各担当者の授業の最後でフィードバックを行う。

教科書	参考図書
授業中に配布する資料を使用する。	特別支援学校幼稚部教育要領・特別支援学校小学部・中学部学習指導要領

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
特別支援教育に携わる教員を目指す学生にとって、障害のある子どもの心理・生理・病理を理解することは、子どもたちの実態を正しく見立てる基礎となる。２年次までの学びやこれまでの実習での体験を基に、さらに理解を深めてほしい。
連絡先：小柳津：oyaizu@ohkagakuen-u.ac.jp、辻：初回授業時に連絡先を伝える

01	＜小柳津担当＞オリエンテーション、肢体不自由児の理解
02	肢体不自由児の起因疾患（脳原性疾患、脊髄疾患、末梢神経疾患）
03	肢体不自由児の障害特性を理解する疑似体験
04	脳性まひをはじめとする肢体不自由児の生活・学習を支援する補助具
05	肢体不自由児の発達と障害特性（肢体不自由の状態・感覚機能の発達・認知の特性）
06	肢体不自由児への心理的支援（心理リハビリテイションの理論・実践）
07	肢体不自由児の支援（家庭・医療機関との連携）、まとめ
08	＜辻担当＞脳性麻痺（総論）
09	脳性麻痺の発生と病理
10	脳性麻痺の合併症（てんかん）
11	脳性まひの合併症（精神・睡眠）
12	脳性麻痺の合併症（呼吸障害・栄養）
13	重症心身障害児の医療的ケア
14	在宅と教育現場での支援
15	障害児虐待
16	試験なし

2024年度シラバス

科目名:OH31S0303　病弱児の心理・生理・病理	担当者:勝浦 眞仁	開講学科等	保育学部 保育学科
		授業形態	講義
免許･資格:特別支援学校教諭		開講時期	前期
		配当学年	3
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択

授業概要と方法
病気と共に生きる子どもたちやその家族を支援できるように、主な基礎疾患の生理や病理、対応する際の留意点、および病弱児や家族の心理などについて学ぶ。

授業の到達目標
１、病弱教育の意義について理解する。（DP）
２、病気の生理と病理を理解する。
３、病弱児の心理について理解を深め、支援する方法および態度を知る。

【到達目標と深く関連する学科DP】
◎知識・技能
○思考力・判断力・表現力

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
病弱のある児童・生徒とかかわる機会をもつようにしてほしい。そのため、ボランティアやインターンシップなどへの参加が望ましい。

評価方法
授業取組意欲（20%）、確認テスト（40%）、事例検討会（20%）、最終レポート(20%)。授業に関する意見・質問およびテストについて、毎回のコメントおよび最終試験にてフィードバックを行う。

教科書	参考図書
特になし	特別の支援を必要とする子どもの理解―共に育つ保育を目指して―（勝浦　眞仁編著、ナカニシヤ出版） 特別支援学校教育要領・学習指導要領

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
katuura@ohkagakuen-u.ac.jp

01	オリエンテーション　病弱教育とは―病気のある子どもの理解
02	病気の生理と病理①　循環器疾患の理解（オンデマンド）
03	病気の生理と病理②　呼吸器疾患の理解（オンデマンド）
04	病気の生理と病理③　悪性腫瘍（ガン）の理解（オンデマンド）
05	病気の生理と病理④　腎・泌尿器疾患の理解（オンデマンド）
06	病気の生理と病理⑤　低身長・糖尿病の理解（オンデマンド）
07	病気の生理と病理⑥　心身症などの理解(オンデマンド)
08	病気の生理と病理⑦　医療的ケア児の理解（オンデマンド）
09	病気の生理と病理⑧　その他の疾患の理解（オンデマンド）
10	病弱児の心理的特徴①　乳幼児期・学童期
11	病弱児の心理的特徴②　思春期・青年期・ＡＹＡ世代
12	病弱児の心理的特徴③　長期入院児への教育保障
13	医学的・心理学的介入①　医学的アプローチ
14	医学的・心理学的介入②　臨床心理学的アプローチ
15	事例検討会②
16	試験なし

2024年度シラバス

科目名:OH32S0301　知的障害教育論Ⅰ	担当者:藤井 七瀬	開講学科等	保育学部 保育学科
		授業形態	講義
免許・資格:特別支援学校教諭		開講時期	後期
		配当学年	3
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択

授業概要と方法
知的障害のある児童生徒の学習特性に応じた各教科等や教育課程編成、個別の教育支援計画・個別の指導計画などについて、体験的な学習を中心として主体的に学ぶ。【AL】

授業の到達目標
①知的障害（発達障害を含む）教育における教育課程に係る法令及び学習指導要領を理解し、説明できる。
②知的障害（発達障害を含む）のある子どもに関する知識・理解を深め、実態把握や支援方法について考えることができる。
③知的障害教育の課題、教員の専門性について理解し、自ら専門性を高めるように情報を得ることができる。（DP）

【到達目標と深く関連する学科DP】
○知識・技能
◎思考力・判断力・表現力

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
幼稚園教育要領、小学校学習指導要領、特別支援学校幼稚部教育要領　小学部・中学部学習指導要領を予習しておくこと。また、日常的に知的障害児・者に関するニュース、話題、映画などに触れ、自分自身の疑問や考えを持つように心がけること。

評価方法
授業への参加態度（20%）、課題（30%）、定期試験（50%）の達成度をもとに総合的に評価する。

教科書	参考図書
特別支援学校幼稚部教育要領　小学部・中学部学習指導要領及び解説（総則編、自立活動編）	特別支援学校学習指導要領解説　各教科等編（小学部・中学部）　幼稚園教育要領 ③　小学校学習指導要領 特別支援学校学習指導要領解説　各教科等編（小学部・中学部）、幼稚園教育要領、小学校学習指導要領

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
知的障害児の教育方法について理解するだけでなく、特別の教育的ニーズに応じた適切な支援・指導について主体的に考えを深めてほしい。
【連絡先】藤井七瀬　fujiin@ohkagakuen-u.ac.jp

01	オリエンテーション　知的障害の定義、知的障害教育の変遷
02	知的障害教育を展開する学びの場・教育課程に関わる法令・カリキュラムマネジメント
03	知的障害のある幼児児童生徒の障害特性・アセスメント・支援・配慮・工夫
04	知的障害教育における各教科の特徴とその指導
05	知的障害教育における領域・教科を合わせた指導（日常生活の指導・遊びの指導）
06	知的障害教育における領域・教科を合わせた指導（生活単元学習・作業学習）
07	知的障害教育に対する教科別・領域別の指導(自立活動①：自立活動とは、授業づくり)
08	知的障害教育に対する教科別・領域別の指導(自立活動②：指導の実際)
09	模擬授業：発表・相互検討（自立活動）
10	知的障害教育における教科別・領域別の指導（国語・算数）・障害特性に即したICTの活用
11	知的障害教育における教科別・領域別の指導（その他の教科）
12	知的障害教育における個別の教育支援計画・個別の指導計画
13	知的障害教育におけるキャリア教育
14	知的障害者の卒業後の生活と支援・知的障害教育を巡る今日的な課題
15	本講義のまとめ・授業内テスト
16	試験なし

2024年度シラバス

科目名:OH32S0302　肢体不自由教育論Ⅰ	担当者:小柳津 和博	開講学科等	保育学部 保育学科
		授業形態	講義
免許・資格:特別支援学校教諭		開講時期	後期
		配当学年	3
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択

授業概要と方法
肢体不自由教育に関する基礎的な知識の習得から、実際の学校現場における指導方法および支援の方策について学ぶ。参加者同士で体験したり、検討したりする中で、特別支援教育教員として必要な力量について考察する。【AL】

授業の到達目標
①特別支援学校（肢体不自由）の教育において教育課程が有する意義を理解する。[DP]
②幼児、児童又は生徒の肢体不自由の状態や特性及び心身の発達の段階等並びに特別支援学校（肢体不自由）の教育実践に即した教育課程の編成の方法とカリキュラム・マネジメントの考え方を理解する。[DP]
③肢体不自由の状態や特性及び心身の発達の段階等を踏まえた各教科等における配慮事項について理解するとともに、自立活動及び自立活動の指導と関連付けた具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を身に付ける。[DP]

【到達目標と深く関連する学科DP】
○知識・技能
◎思考力・判断力・表現力

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
肢体不自由児・者に係わるテレビや新聞・ネットの記事などに普段から着目するようにしていくこと。

評価方法
授業内発表課題（70%）、授業への参加態度（30%）により総合的に評価する。
授業の最後でフィードバックを行う。

教科書
①特別支援学校幼稚部教育要領　小学部・中学部学習指導要領
②特別支援学校教育要領・学習指導要領解説　総則編（幼稚部・小学部・中学部）
③特別支援学校教育要領・学習指導要領解説　自立活動編（幼稚部・小学部・中学部）

参考図書
①特別支援学校学習指導要領解説　各教科等編（小学部・中学部）
②幼稚園教育要領
③小学校学習指導要領

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
肢体不自由児の教育方法について理解することによって、特別の教育的ニーズに応じた適切な支援・指導ができるようになる。他の特別支援教育に関わる科目と関連させながら理解を深めてほしい。
連絡先：oyaizu@ohkagakuen-u.ac.jp

01	オリエンテーション、肢体不自由教育の変遷および現状と課題
02	肢体不自由児を評価する指標の活用
03	肢体不自由教育を展開する学びの場、教育課程・カリキュラムマネジメント
04	肢体不自由教育における支援・配慮・工夫
05	肢体不自由教育における授業づくりの視点（各教科等の教育内容・学習指導）
06	肢体不自由教育における授業作り①（国語・算数）・学習指導案の作成
07	肢体不自由児の障害特性を踏まえた国語・算数の指導
08	模擬授業①発表・相互検討（国語・算数）
09	肢体不自由児の障害特性を踏まえた各教科の指導の留意点、ICTの活用
10	肢体不自由教育における自立活動の学習指導
11	肢体不自由教育における授業作り②（教科等を合わせた指導）・学習指導案の作成
12	模擬授業②発表・相互検討（教科等を合わせた指導）
13	肢体不自由教育における教科等を合わせた指導・キャリア教育（授業実践から考える）
14	肢体不自由教育における自立活動の指導体験（身体の動き・食べる・飲むことを通した指導）、肢体不自由児への余暇活動支援の体験（パラスポーツ：ボッチャ）
15	肢体不自由教育における個別の教育支援計画・個別の指導計画の作成、本講義のまとめ
16	試験なし

2024年度シラバス

科目名:OH32S0303　病弱教育論	担当者:小柳津 和博	開講学科等	保育学部 保育学科
		授業形態	講義
免許・資格:特別支援学校教諭		開講時期	後期
		配当学年	3
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択

授業概要と方法
病弱教育に関する基礎的な知識の習得から、実際の学校現場における指導方法および支援の方策について学ぶ。参加者同士で体験したり、検討したりする中で、特別支援教育教員として必要な力量について考察する。【AL】

授業の到達目標
①特別支援学校（病弱）の教育において教育課程が有する意義を理解する。[DP]
②幼児、児童又は生徒の病気や障害の状態、特性及び心身の発達の段階等並びに特別支援学校（病弱）の教育実践に即した教育課程の編成の方法とカリキュラム・マネジメントの考え方を理解する。[DP]
③病気や障害の状態、特性及び心身の発達の段階等を踏まえた各教科等における配慮事項について理解するとともに、自立活動及び自立活動の指導と関連付けた具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を身に付ける。[DP]

【到達目標と深く関連する学科DP】
○知識・技能
◎思考力・判断力・表現力

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
病気の子どもに係わるテレビや新聞・ネットの記事などに普段から着目するようにしていくこと。

評価方法
授業内発表課題（40%）、小テスト（30%）、授業への参加態度（30%）により総合的に評価する。
授業の最後でフィードバックを行う。

教科書
①特別支援学校幼稚部教育要領　小学部・中学部学習指導要領
②特別支援学校教育要領・学習指導要領解説　総則編（幼稚部・小学部・中学部）
③特別支援学校教育要領・学習指導要領解説　自立活動編（幼稚部・小学部・中学部）

参考図書
①特別支援学校学習指導要領解説　各教科等編（小学部・中学部）
②幼稚園教育要領
③小学校学習指導要領

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
病弱児への教育方法について理解することによって、特別の教育的ニーズに応じた適切な支援・指導ができるようになる。他の特別支援教育に関わる科目と関連させながら理解を深めてほしい。
連絡先：oyaizu@ohkagakuen-u.ac.jp

01	オリエンテーション、病気とは
02	病弱教育の変遷及び現状と課題、病気の子どもが教育を受ける場
03	病気の子どもとの関係作り・不安解消
04	病気のある子どもの病因と特性（地域の園・学校、特別支援学校）
05	病弱教育における組織的連携・チーム作り
06	病弱教育に必要な手続きと関連法令等（個別の教育支援計画・個別の指導計画）
07	病弱教育における各教科の指導・自立活動の指導、教育課程・カリキュラムマネジメント
08	病気の子どもたちへの担任としての関わり（姿勢・休養確保・転籍への対応）
09	施設内教育の実際
10	病気の子どもに必要な教育支援①（学習空白への対応、間接・疑似体験、ICTの活用）
11	病気の状態に応じた授業作り（各教科、自立活動）、学習指導案の作成
12	模擬授業発表・相互検討
13	病気の子どもの事例検討（進行性疾患）
14	病気の子どもに必要な教育支援②（医療的ケア、キャリア教育、死を迎える子ども）
15	病気の子どもを取り巻く課題を考える（出生前診断）、本講義のまとめ、小テスト
16	試験なし

2024年度シラバス

科目名:OH31S0304　視覚障害児の心理・生理・病理	担当者:柏倉 秀克	開講学科等	保育学部 保育学科
		授業形態	講義
免許・資格:特別支援学校教諭		開講時期	前期
		配当学年	3
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	選択

授業概要と方法 この授業科目では、視覚に障害がある幼児・児童・生徒の障害特性について心理学的、生理学的、病理学的側面から検討します。さらに障害の原因となっている眼疾患、その他の要因が視覚に障害がある児童生徒に与える影響について検討します。
授業の到達目標 ①視覚に障害がある幼児・児童・生徒の障害特性について心理学的、生理学的、病理学的な知識・技能を身につける。②視覚障害の原因疾患、その他の要因についての知識・技能を身につける。③視覚障害児のアセスメントについての思考力・判断力・表現力を身につける。【DP】④視覚障害児の心理・生理・病理に関する知識・技能を身につける。⑤視覚障害児の心理・生理・病理に関する思考力・判断力・表現力を身につける。
授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修 準備学修としては視覚障害教育に関する基本文献を各自が予習すること。事後学修としてはボランティア体験など視覚障害児に対し実践的にかかわる体験をできるだけ多く持つことが求められる。
評価方法 出席態度（10%）、レポート・小テスト(20%)、定期試験(70%)により総合的に評価する。 授業の最後にフィードバックを行う。

教科書	参考図書
授業中にレジュメを配布する。	「特別支援学校教育要領・学習指導要領」

その他(学生へのアドバイス、連絡手段) 受講するにあたって視覚障害教育に関する「問い」や「疑問」を持ち寄っていただき、その答えや解決への道筋を皆さんとともに授業の中で追及していきたい。連絡先：kashiwakura@ohkagakuen-u.ac.jp

01	視覚障害の概要
02	視機能と視機能障害
03	原因疾患とその病理
04	盲児の触知覚
05	弱視児の視覚特性
06	先天性障害と中途障害の心理
07	地域の社会資源との連携
08	ロービジョンケアと視覚障害教育
09	
10	
11	
12	
13	
14	
15	
16	

2024年度シラバス

科目名:OH31S0305　視覚障害教育論	担当者:柏倉 秀克	開講学科等	保育学部 保育学科
		授業形態	講義
免許・資格:特別支援学校教諭		開講時期	前期
		配当学年	3
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	選択

授業概要と方法
視覚障害教育の概要について理解を深めた上で、視覚障害教育の特殊性、歴史、教育課程の特色について学びます。さらに特別支援学校、特別支援学級、通常学級における教育支援について実践的に理解します。【AL】

授業の到達目標
①視覚障害教育の概要についての知識・技能を身につける。②盲児の学修ニーズについて理解するとともに支援方法についての知識・技能を身につける。【DP】③弱視児の学修ニーズについて理解するとともに支援方法について思考力・判断力・表現力を身につける。【DP】④視覚障害教育に関する知識・技能を身につける。⑤視覚障害教育に関する思考力・判断力・表現力を身につける。

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
準備学修としては視覚障害教育に関する基本文献を各自が予習すること。事後学修としてはボランティア体験など視覚障害児に対し実践的にかかわる体験をできるだけ多く持つことが求められる。

評価方法
出席態度（10%）、レポート・小テスト(20%)、定期試験(70%)により総合的に評価する。
授業の最後にフィードバックを行う。

教科書	参考図書
授業中にレジュメを配布する。	「特別支援学校教育要領・学習指導要領」

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
受講するにあたって視覚障害教育に関する「問い」や「疑問」を持ち寄っていただき、その答えや解決への道筋を皆さんとともに授業の中で追及していきたい。連絡先：kashiwakura@ohkagakuen-u.ac.jp

01	視覚障害教育の歴史
02	視覚障害児の学びの場
03	視覚障害乳幼児の発達と支援
04	盲児に対する支援
05	弱視児に対する支援
06	点字教科書と拡大教科書
07	視覚障害児のキャリア教育
08	視覚障害児の自立活動
09	
10	
11	
12	
13	
14	
15	
16	

科目名:OH32S1001　教育実習Ⅲ	担当者:淺野 卓司、上村 晶、伊藤 茂美	開講学科等	保育学部 保育学科
		授業形態	実習
免許・資格:幼稚園教諭1種免許状		開講時期	後期
		配当学年	3
受講者制限:		単位数	3
		必須.選択	選択

授業概要と方法
【担当者の実務経験】幼稚園教諭
本科目は、幼稚園教育実習における実践的な学びを体験・学修する。特に、元幼稚園教諭の立場から、実習現場が実習生に求める実践的指導力などを事前に具体的に提示したり、訪問指導時等で学生と共有したりする中で、幼稚園教育実習における学びを学生が更に深めることができるようにする。【AL】

教育実習Ⅰの学びや体験を活かして、自ら課題を持ちながら幼児と関わりを深める中で、幼稚園教育の実際を体験的に学ぶ。また、教師としての職業倫理の理解をさらに深め、応用的・発展的な知識・技術・態度について体験的に学習すると同時に、教師としての実践的指導力の基礎を培う。
同様に、修得した理論を自ら応用しながら実践することを通して、教師としての専門性や資質を理解し、自らの保育観・教育観を持つようになる。

授業の到達目標
①幼稚園の役割や機能や、施設・設備・環境構成等を踏まえた幼稚園教育の在り方について、実際に即して学ぶ(DP) ②発達に応じた幼児の実際の姿を通して幼児理解を深める (DP) ③観察、参加、指導実習（部分・総合）等を通して、指導計画の立案や実践の展開・評価などの幼稚園教育の実際を体験的に学ぶ (DP) ④幼稚園教諭の職務内容について実際に即して学ぶ (DP) ⑤地域の幼児教育センターとしての幼稚園の役割について、実際に即して学ぶことを通して、幼稚園と家庭・地域等との関係についての理解を深める (DP) ⑥幼小接続の在り方や、特別な支援を必要とする幼児への指導の実際、教育課程に係る教育時間終了後などに行う教育活動（預かり保育）の実際について、理解を深める (DP) ⑦幼児の教育・保育に関する自らの問題意識や課題意識を実際に即して検証し深める (DP)

【到達目標と深く関連する学科DP】
◎主体的に学ぼうとする力
○思考力・判断力・表現力

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
①実習の実施に先立って、教育実習指導Ⅲで学んだことをよく確認すること。②事前訪問時に実習園からいただいた指導をよく確認して、実習の事前準備をすること。
【留意事項】実習開始までに以下の科目を履修または単位修得していること。
◆領域に関する専門的事項：幼児と健康・幼児と人間関係・幼児と環境・幼児と言葉・幼児と表現から3単位以上
◆保育内容の指導法及び教育の基礎的理解に関する科目等：保育者論・保育内容総論・教育原理・子ども理解の理論と方法・教育の方法・教育心理学・保育内容指導法（人間関係）・保育内容指導法（環境）・保育内容指導法（言葉）・保育内容指導法（表現）
◆教育実習関連科目：教育実習指導Ⅰ・教育実習Ⅰ

評価方法
実習園からの評価60%、実習日誌20%、実習事後レポート10%、その他（実習への意欲・実習状況など）10%を総合して評価する。
フィードバックの方法：実習園の評価等は、2月に教育保育職支援センターにて、個別面談による口頭開示を行う。

教科書	参考図書
教育実習Ⅲの手引き・Campus Life Gide	幼稚園教育要領解説、幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説（平成29年告示版）

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
①本実習を行うに当たり、原則、当該年度の「教育実習指導Ⅲ」を履修することが条件となります（未履修者は本実習に参加することはできません）。②実習期間中の遅刻・早退・欠席等については、事前にその旨を申し出、許可を受けること。特に欠席の場合は大学・実習園へ必ず電話連絡すること（大学の受付は教務課実習担当：0562－85－2345）。

01	実習実施期間：2024年11月18日（月）～12月6日（金）3週間 事前訪問期間：10月7日（月）～10月25日（金） 巡回教員研究室訪問期間：10月28日（月）～11月7日（木） 【実習概要】幼稚園における120時間（計3週間）の実習を通して、観察・参加・指導実習（部分・総合）を体験する。①観察・参加を通しては、幼稚園での幼児の姿、幼稚園教諭の教育や園務の実際、家庭や地域との関係、施設・設備・環境構成等の幼稚園教育の在り方について、常に自己課題を持ちながら、体験を通して理解する。また、幼小の架け橋についても理解を深める。
02	
03	
04	
05	
06	
07	
08	
09	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

16	

科目名:OH32S1002　教育実習指導Ⅲ	担当者:淺野 卓司、上村 晶、伊藤茂美	開講学科等	保育学部 保育学科
		授業形態	演習
免許・資格:幼稚園教諭1種免許状		開講時期	前期・後期
		配当学年	3
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	選択

授業概要と方法
【担当者の実務経験】幼稚園教諭
本科目は、元幼稚園教諭としての経験を活かしながら、幼稚園教育実習における実習生の学びの深め方について、具体的に検討する。また、実習現場で求められる指導計画や実践的指導力などを具体的に検討・共有することを通じて、幼稚園教育実習に必要な知識・技能などを体験的に学ぶことができるようにする。【AL】

教育実習Ⅲのための事前事後指導としての本授業では、実習のあり方、指導案の作成、実習への心構えを学び、実習後の振り返り、自己課題を明らかにし、今後の課題に活かしていく。

授業の到達目標
①幼稚園における教育実習の意義や目標を理解する（DP）②実習の心構えを学び、実践に必要な準備に自ら取り組む（DP）③観察実習、参加実習、責任実習の内容について理解し、準備・実践・振り返りに意欲的に取り組む（DP）④実習終了後、実習への取り組みを振り返り、自己課題を把握し、今後の学習や就職に活かしていく（DP）

【到達目標と深く関連する学科DP】
◎主体的に学ぼうとする力
○思考力・判断力・表現力

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
1・2年の実習を踏まえて、本実習ではさらに何を学びたいのかの自己課題を明確にもてるよう、自ら進んで授業外学修をすること。毎回の予習課題に取り組み、事前学修を深めておくこと。

評価方法
予習復習課題（4×8回＝32%）・各回のFB（5×8回＝40%）、指導案発表（20%）、授業への意欲（8%）を総合的に評価する。
フィードバックの方法：指導案発表に関しては、発表時に教員からも口頭で講評を行う。また、各回の学びに関する質問については、次回の授業時に口頭（もしくはMoodle）で補足説明・回答をする。

教科書	参考図書
教育実習Ⅲの手引き・Campus Life Gide	幼稚園教育要領解説、幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説書（平成29年告示版）

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
・本授業は、幼稚園教諭免許状の取得を目指す全ての学生が履修する必要があります。
・公欠以外の理由で事前指導を3回以上欠席した学生や、正当な理由なく無断で授業を欠席・遅刻した学生は、実習を実施することができなくなります。授業を欠席する場合は、その前後に必ず、教務課または授業担当教員に直接連絡をしてください（要課題）。なお、30分以上の遅刻は欠席扱いとなります。
・下記8回の授業の他、教育実習Ⅲを履修する学生は、①実習園発表や実習倫理に関するガイダンス（誓約書・個人票作成）、②事前訪問ガイダンス、③実習評価票に基づく個別面談などが、授業外のガイダンスとして実施しますので、必ず忘れずに参加してください。

01	教育実習Ⅲの課題と幼稚園における教育の理解　－幼稚園教育の実際－
02	教育実習における指導計画の立て方
03	学年別の指導案の作成と発表（１）年少児
04	学年別の指導案の作成と発表（２）年中児
05	学年別の指導案の作成と発表（３）年長児
06	教育実習に向けての幼児理解と記録　―日誌の書き方―
07	教育実習直前指導（教師としての心構えや教職倫理）
08	教育実習事後指導　―学びの振り返りと自己課題の明確化―
09	
10	
11	
12	
13	
14	
15	
16	

科目名:OH31S1001　保育実習Ⅰ（保育所）	担当者:基村 昌代、武藤 直子	開講学科等	保育学部 保育学科
		授業形態	実習
免許･資格:保育士資格		開講時期	前期
		配当学年	3
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択

授業概要と方法
保育所の役割や意義について、子どもや保護者との関わりながら具体的に学ぶ（AL）。観察や子どもとのかかわりを通して子どもへの理解を深める（AL）。記録・指導計画について担当保育士等からの指導を受け具体的に理解する（AL）。保育士の仕事について観察や補助的な役割を担当しながら、保育士の仕事内容について理解する（AL）。

授業の到達目標
①保育所保育指針の示す養護と教育を一体的に行うということはどのようなことかを実体験しながら理解する。②保育の計画・観察・記録及び自己評価について具体的に理解する。③保育士の業務内容や職業倫理について具体的に理解する。④実習の自己評価から自己課題について確認し、次の実習に生かせるようにする。（DP）
【到達目標と深く関連する学科DP】◎主体的に学ぼうとする力　○思考力・判断力・表現力

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
日頃から健康管理に気をつけ、体力づくりをしたり、実習前の事前準備をしっかり行っておくことが重要です。以下のことを念頭に置いて実習に臨みましょう。
実習先で好まれている遊びや手遊びを事前に学び、実践で生かせるようにする。実際に子どもの状況を観察し、子どもの発達や子ども理解についての学修を深め、子どもへの援助や関わり方に生かせるようにする。
記録や計画、保育実践について指導されたことを改善し次に生かせるようにする。

評価方法
実習への参加や態度　１０％　実習の評価　６０％　実習日誌　２0%　実習事後レポート　１０％　実習園評価は全員開示、それ以外のレポートトや提出物の評価については、評価の基準内容をMoodleに示し、評価して返却する。フィードバックは実習園の評価を個別に開示する。

教科書	参考図書
保育所保育指針　幼保連携型認定こども園教育・保育要領 キャンパスガイド、　保育実習Ⅰ実習の手引き　　実習の記録と指導案	その他適宜紹介する。

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
実習前から体調管理に気を付けましょう。実習中に体調が悪くなった時には無理をせず、早めに実習園と大学に連絡を取るようにして、指示を受けましょう。教員の連絡先は授業で開示します。

01	実習先への事前訪問から実習が始まることを理解し、実習に臨む意識が明確にできるように実習生としての自覚について直前指導をしっかり行う。保育士になるという意識が持てるよう、担当保育士等の子どもや保護者への関わり方をしっかり観察しながら学修することを伝える。 実習期間中に教員による実習園訪問を行う。
02	
03	
04	
05	
06	
07	
08	
09	
10	
11	
12	
13	
14	
15	
16	

科目名:OH31S1002　保育実習指導Ⅰ（保育所）	担当者:基村 昌代、樋口 桂子、武藤 直子	開講学科等	保育学部 保育学科
		授業形態	演習
免許･資格:保育士資格		開講時期	前期
		配当学年	3
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	選択

授業概要と方法
実習の内容や実習に必要な知識や技術について、講義と演習により学ぶ（AL）。実習施設で自信をもって意欲的に取り組めるようにするために、自主的に記録の書き方や指導計画についての学びを実践的に学び、実習に必要な知識や技術を習得できるようにする（AL）。実習生としてふさわしい心構え・態度や行動について確認し学修する。

授業の到達目標
①保育実習の意義や目的を理解し、実習施設での保育内容や子どもの観察・実習の計画・実践・記録・評価について具体的に理解する（DP）。②実習内容を理解し、実習施設における子どもの最善の利益を考慮した保育や職業倫理ついて理解する。③実習生としてふさわしい態度や行動を身に着けるとともに、実習の目標や自らの課題を明確にする（DP）。

【到達目標と深く関連する学科DP】◎主体的に学ぼうとする力　○思考力・判断力・表現力

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
実習生としてふさわしい態度・行動ができるように日頃から心掛けることや健康管理や体力づくりに心がけることは実習に臨むための基本です。そのことを念頭に置きながら以下のことを準備しておきましょう。
乳幼児との触れ合う機会を多くし、子どもの発達や子ども理解に努める。記録や指導計画については予習復習をしっかり行い記載方法に慣れておくようにする。また、できるだけ多くの絵本の読み聞かせや手遊びを覚え練習して、保育実践に備えておく。

評価方法
授業への出席と授業態度４0%　提出物４0%　総合評価２０%。授業態度、レポートや提出物の評価については、評価の基準内容を第１回目授業に示し、評価して返却する。フィードバックは授業時に学び、感想や質問を記載する。

教科書
　キャンパスガイド、　保育実習Ⅰ実習の手引き　　保育所保育指針　幼保連携型認定こども園教育・保育要領　実習の記録と指導案

参考図書
　その他適宜紹介する

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
実習日までに保育実践に使える歌遊びや手遊びを覚えるとともに、記録や指導計画の書き方を自主的に学修する機会を多くし、自信をもって実習に臨めるようにしておきましょう。

01	保育実習について（オリエンテーション）
02	保育実習の流れの説明と諸注意
03	保育所の説明と保育所の生活の流れについて
04	教材研究（教材の制作）
05	記録の書き方と指導計画について
06	指導計画の作成について①
07	指導計画の作成と展開②
08	健康指導・必要書類の作成
09	直前指導　（記録・指導計画・外部講師）
10	事後指導（自己評価・お礼状）
11	
12	
13	
14	
15	
16	

科目名:OH31S1003　学校インターンシップ指導	担当者:辻岡 和代、森川 拓也、松永 康史、千種 彰典	開講学科等	保育学部 保育学科
		授業形態	演習
免許･資格:小学校教諭1種免許状		開講時期	前期
		配当学年	3
受講者制限:　２年生時に教育実習Ⅱを履修していること。小学校教員を志す意思があること。		単位数	1
		必須.選択	選択

授業概要と方法
【担当者の実務経験】小学校教諭
この授業科目では、元小学校教諭としての経験を踏まえ、小学校での授業実践を行う力量を高めるために具体的な指導を展開していく。また、小学校における教育活動の心構えや子どもへの支援について実践的な方法を学べるようにする。【AL】
年間を通した小学校での児童の姿や発達、授業や行事などの教育活動、校務の実際、家庭や地域との関係、施設・設備・環境構成等、小学校教育のあり方について、自ら意識的に体験をして理解を深めることができるよう指導し、実習後の振り返りから自己課題を検証し、今後の課題に繋げていく。

授業の到達目標
①小学校におけるインターンシップの意義や目標、課題を理解する。【DP】
②子どもを指導する立場としての心構えを学び、実践に必要な準備に自ら取り組むことができる。【DP】
③インターンシップの活動内容についてグループ学習を通して協同的に学び合うことができる。【DP】
④インターンシップの取り組みを振り返り、自己課題を把握し、今後の学習や教育実習Ⅳに活かしていくことができる。【DP】

【到達到達目標と深く関連する学科DP】
◎主体的に学ぼうとする力
○思考力・判断力・表現力

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
1・2年の実習を踏まえて、学校インターンシップではさらに何を学びたいのか自己課題を明確にもてるよう自ら進んで事前学修をすること。出された課題は確実に取り組み、授業で報告できるようにしておくこと。具体的な学修活動については、授業内で提示する。また、提出された課題のフィードバックは、次回授業内での話題提供、提出物の返却、Moodle等を通して行う。

評価方法
課題（ワークシート等・実習ファイル)70%、授業への参加態度30%を総合的に評価する。

教科書	参考図書
学校インターンシップ手引き　　愛知県教員研修の手引き	小学校学習指導要領

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
本授業を受講する学生は、。２年生時に教育実習Ⅱを履修していること。小学校教員を志す意思があること。
連絡手段は授業時に伝達する。

01	学校インターンシップに関するガイダンス
02	学校事前訪問に向けての準備と心構え
03	学校インターンシップの課題と事前事後指導の計画について
04	学校インターンシップにおける心構え
05	各種記録物の書き方についての理解と練習
06	学校インターンシップの事前学習と事後学習①　小学校での児童の姿や発達
07	学校インターンシップの事前学習と事後学習②　小学校における授業
08	学校インターンシップの事前学習と事後学習③　特別支援学級における授業
09	学校インターンシップの事前学習と事後学習④ 教員の役割
10	学校インターンシップの事前学習と事後学習⑤ 施設・設備・環境構成
11	学校インターンシップの事前学習と事後学習⑥ 行事（遠足・運動会・野外活動等）
12	学校インターンシップの事前学習と事後学習⑦ 長期インターンシップ
13	学校インターンシップの事前学習と事後学習⑧ 人権集会等の企画
14	学校インターンシップの事前学習と事後学習⑨　自己目標と課題
15	総括
16	

科目名:OH32S1003　学校インターンシップ	担当者:辻岡 和代、森川 拓也、松永 康史、千種 彰典	開講学科等	保育学部 保育学科
		授業形態	実習
免許・資格:小学校教諭1種免許状		開講時期	後期
		配当学年	3
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	選択

授業概要と方法
【担当者の実務経験】小学校教諭
この授業科目では、元小学校教諭としての経験を踏まえ、小学校での授業実践を行う力量を高めるために具体的な指導を展開していく。また、小学校における教育活動の心構えや子どもへの支援について実践的な方法を学べるようにする。
年間を通して、担任業務の細かな内容を知り、学校の職員の一人としての心構えや留意することなどを学ぶ。また児童を支援する活動を行うことで、児童の見方・支援の方法などを体験的に学ぶ。主に前半に観察実習、参加実習が中心となる。

授業の到達目標
①小学校の役割や機能について具体的に学び、教職意欲の向上を図ることができる【DP】
②児童の実際の姿や活動を通して子ども理解を深めることができる【DP】
③学級活動・授業の観察、参加、学校行事への参加を通して、授業づくり・学級経営についての技量を学ぶことができる【DP】
④教育実習Ⅳに向けての自分の目標を設定することができる【DP】
①～④について、自らの問題意識や課題意識を実際に即して検証し深める。

【到達目標と深く関連する学科DP】
◎主体的に学ぼうとする力
○思考力・判断力・表現力

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
①学校インターンシップの実施に先立って、学校インターンシップ指導で学んだことをよく確認すること。 ②事前・事後学習の内容を深めること。

評価方法
実習校からの「教育実習評価表」の評価と（60%）、日誌（20%）及び事後レポート（20%）を総合的に評価する。

教科書	参考図書
学校インターンシップの手引き　　愛知県教員研修の手引き	小学校学習指導要領

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
本授業を受講する学生は、２年生時に教育実習Ⅱを履修していること。小学校教員を志す意思があること。
連絡手段は授業時に伝達する。

01	実施期間：毎月1回、さらに11月の２週間、その他行事等（小学校年間計画による） 小学校におけるインターンシップから、教育の実際を体験的に学び、理解する。 ①小学校の役割や機能についての理解　② 小学校における子どもの実際についての理解　③ 小学校での授業づくり・学級経営についての理解　④教育活動（行事等）の意義の理解⑤学校経営の意義の理解　⑥教育実習に対する課題の確認
02	
03	
04	
05	
06	
07	
08	
09	
10	
11	
12	
13	
14	
15	
16	

2024年度シラバス

科目名:OH31S2001　総合演習ⅡＡ	担当者:淺野 卓司	開講学科等	保育学部 保育学科
		授業形態	演習
免許･資格:		開講時期	前期
		配当学年	3
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	必須

授業概要と方法
　子どもの造形活動に関する今日的な課題について触れながら、教育・保育実践に関する自らの課題を「卒業研究」としてまとめるために、以下の内容を目標とする。
【研究法の理解】
①卒業研究を進めるための基礎的な知識・技能を身につける（全2回）
②文献ノートの作成方法、マインドマップによる検討について学ぶ（全２回）
③子どもの造形活動に関する課題を環境・教材・援助の視点からDVDを視聴し、討論を行う（全２回）
④教材開発について体験的に学ぶ（１回）
【研究テーマの設定】
⑤研究キーワードの抽出を行い研究計画について検討を行う（１回）
【研究準備】
⑥先行研究の調査を行い、概要のまとめをゼミでプレゼンし、研究目的・方法・対象の検討を行い、研究デザインとフレームを確定する。（全6回）。
⑦フィールド研究のための倫理的配慮事項について理解し、協力園（校）への調査依頼書を作成する（1回）

授業の到達目標
【研究基礎力】
①ゼミでの学びや活動に主体的に取り組める（主体的に学ぼうとする力）（DP)
②ゼミでの他者の学びや体験を共有できる（協同的に学び合う力）（DP)

【到達目標と深く関連する学科DP】
◎主体的に学ぼうとする力
○協同的に学び合う力

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
【研究法の理解】
①資料をもとに卒業研究を進めるための基礎的な知識について要点をまとめる（4時間）
②文献ノートを作成し、マインドマップソフトを使って研究テーマに関する論点をまとめる（4時間）
③子どもの造形活動に関するDVDを視聴し内容を要約して、自分の考えをまとめる。討論の内容をまとめる（4時間）
④体験した教材について実践に活用する際の注意点や発展的な活動について意見をまとめる（2時間）
【研究テーマの設定】
⑤研究キーワードの抽出を行い、研究計画を事前に作成しておく（2時間）

評価方法
文献ノート、研究計画書等を30%　ICTを用いたプレゼン資料及び発表を70%として評価する。研究計画や発表に対するフィードバックを授業時等に行う。

教科書	参考図書
初学者のための質的研究26の教え（医学書院）	

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
・授業においてパソコンを利用し、資料の閲覧を行う。資料提示はMicrosoft Teamsにて行う（キーボードを使った入力に慣れるため、スマートフォンの利用はしない）。
・欠席が3回を超えた時点で失格とする。
・３年ゼミ（総合演習Ⅱ）の履修対象者は、原則的に１年ゼミ（基礎演習）および２年ゼミ（総合演習Ⅰ）を修了した者とする。但し２年ゼミが、やむを得ない事由から単位修得に至らなかった場合に限り、３年ゼミと２年ゼミの同時履修について、特別に認められることがある。

01	研究準備①　ガイダンス（保育学科の教育理念と卒業研究の位置づけ、研究指導スケジュール）
02	研究準備②　問題意識を持ってテーマを決めよう
03	研究準備③　文献を読もう（先行研究に学ぶ）
04	研究準備④　文献の検索と文献リストの作成について理解しよう
05	研究準備⑤　「私の研究計画」（研究目的と対象・方法）
06	研究準備⑥　研究の方法（文献研究、観察法、質問紙法、面接法、実践研究）
07	研究準備⑦　論文の構成と表現について（論文を読んでみよう）
08	研究準備⑧　マインドマップの使い方
09	先行研究の収集と検討①　文献検索とまとめ
10	先行研究の収集と検討②　図書館での文献検索（グループAの面談）
11	先行研究の収集と検討③　図書館での文献検索（グループBの面談）
12	先行研究の収集と検討④　図書館での文献検索（グループCの面談）
13	先行研究の収集と検討⑤　パワーポイントでの資料作成
14	先行研究の収集と検討⑥　ハンドアウトの作成
15	研究成果のまとめ（ICTを使った発表）
16	

科目名:OH31S2001　総合演習ⅡＡ	担当者:辻岡 和代	開講学科等	保育学部 保育学科
		授業形態	演習
免許･資格:		開講時期	前期
		配当学年	3
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	必須

授業概要と方法
１．卒業論文のテーマの検討、研究手法の検討（9回）
２．学外研修に関する準備・実践・反省（3回）
３．その他　ガイダンスなど（3回）

授業の到達目標
１．保育・教育の現場で取り組まれる「食育」について、ゼミ内において発表・考察することができる【DP】
２．先行研究を読み、研究テーマ・研究手法を検討することができる【DP】
３．食育講座における準備と実践を仲間と協力して行う事ができる【DP】

【到達目標と深く関連する学科DP】
◎主体的に学ぼうとする力
○協同的に学び合う力

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
討論や研究に主体的に参加出来る様に、授業外でも沢山の文献を読み、調理体験や保育実践を積み重ねる努力をすること。
具体的な学修活動については、授業内で提示する。(4時間程度)

評価方法
各課題の取り組み40％（授業計画の各項目に課題を設定します）・ゼミ活動への参加態度60%とし評価する。
提出された課題のフィードバックは、次回授業内での話題提供、提出物の返却、Moodle等を通して行う。

教科書 使用しない	参考図書 適宜紹介する

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
総合演習ⅡＡの履修対象者は、原則的に総合演習ＩA・ＩBを修了した者とする。但し総合演習ＩA・ＩBが、やむを得ない事由から単位修得に至らなかった場合に限り、総合演習ⅡＡと総合演習ＩAの同時履修について、特別に認められることがある。質問等は、Moodleまたはオフィスアワーで受け付ける。詳細については授業で開示する。

01	ガイダンス
02	教職履修カルテの振り返り
03	学外研修について
04	先行研究の紹介と討議
05	先行論文の調べ方
06	卒業論文について
07	研究手法について
08	卒業研究課題の検討①　調理学研究　【AL】
09	卒業研究課題の検討②　栄養学研究　【AL】
10	卒業研究課題の検討③　食育研究　【AL】
11	卒業研究課題の検討④　食物アレルギー研究　【AL】
12	卒業研究課題の検討⑤　その他の研究　【AL】
13	学外研修：食育講座に関する準備
14	学外研修：食育講座
15	学外研修反省会　【AL】
16	

科目名:0H31S2001　総合演習ⅡＡ	担当者:基村 昌代	開講学科等	保育学部 保育学科
		授業形態	演習
免許･資格:		開講時期	前期
		配当学年	3
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	必須

授業概要と方法
　この授業では音楽表現活動を「直接体験」し、子どもの年齢に沿った音楽的発達を学び、子どもの豊かな感性を育むための表現活動について研究します。多くの表現に触れて「心を動かす経験」をし、自らが表現することの楽しさや喜びを味わうことが重要であり、それを味わった者は、子どもが表現する気持ちに共感し、寄り添うことが出来ると考えます。子どもの音楽表現活動、音楽劇制作などの実践を通し、学生自らが体験し、感性や想像力を育み、保育者・教育者としての資質向上につなげます。その活動は地域に密着したアウトリーチ活動において実践します。(AL)

授業の到達目標
　子どもの音楽表現活動や音楽劇制作に触れる上で、子どもが主体的に自分たちで作り上げる表現活動のあり方、ねらいを踏まえた上で、子どもの表現活動がどうあるべきか考察する。また創りあげた制作を地域で披露し、自ら「感動体験」を味わい、子どもにとっての発表体験が如何に大きな機会であるか体験し、子どもの表現活動を様々な視点から援助できる教育者・保育者を目指す。(DP)

【到達目標と深く関連する学科DP】
◎主体的に学ぼうとする力
○協同的に学び合う力

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
　ボランティア活動などを行ない、実践力を養うよう努力し、積極的に研究を行って下さい。

評価方法
　実技・作品の評価100点、レポート提出100点、平常点100点の合計300点を100点に平均して算出する。平常点は半期を通して到達度、学修意欲、授業への参加態度を総合して評価します。最終授業時に全体向けにフィードバックを行います。

教科書	参考図書
テキストは担当教員が随時提示	幼稚園教育要領解説・幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説・保育所保育指針解説書

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
　３年ゼミ（総合演習Ⅱ）の履修対象者は、原則的に１年ゼミ（基礎演習）および２年ゼミ（総合演習Ⅰ）を修了した者とする。但し２年ゼミが、やむを得ない事由から単位修得に至らなかった場合に限り、３年ゼミと２年ゼミの同時履修について、特別に認められることがあります。

01	ガイダンス、自己紹介等相互交流と役割分担、卒業研究に向けての構想
02	乳幼児の音楽的発達と領域「表現」の理解（１）
03	乳幼児の音楽的発達と領域「表現」の理解（２）
04	映像による事例研究及びディスカッション（１）
05	映像による事例研究及びディスカッション（２）
06	子どもの音楽表現活動についてのフィールドワーク（１）
07	子どもの音楽表現活動についてのフィールドワーク（２）
08	子どもの音楽表現活動についてのフィールドワーク（３）
09	子どもの音楽表現活動についてのフィールドワーク（４）
10	活動実践プロジェクト（１）
11	活動実践プロジェクト（２）
12	活動実践プロジェクト（３）
13	近隣でのアウトリーチ活動実践（２）
14	近隣でのアウトリーチ活動実践（２）
15	実践の反省会、総括（フィードバック）
16	

科目名:OH31S2001　総合演習ⅡＡ	担当者:上村 晶	開講学科等	保育学部 保育学科
		授業形態	演習
免許･資格:		開講時期	前期
		配当学年	3
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	必須

授業概要と方法
①幼児教育学・保育学を基づく保育方法や保育者の在り方について、学びを深めるよう展開する。
②研究の在り方を学ぶと同時に、卒業論文執筆の土台作りをしていく（保育トピックや研究方法・自身の関心テーマに関するレジュメ発表とディスカッション：1人につき計2回）。【AL】

授業の到達目標
①保育実践に関連したテーマについて主体的・協同的に語り合う中で、自ら考えを深めるようになる（HDP2）。
②幼児教育・保育学の多様な考え方を理解し、知識を拡げながら関心のあるテーマについて探究すると同時に、自ら問いを立てて、主体的かつ意欲的に研究に取り組む（HDP1）。

【到達目標と深く関連する学科DP】◎HDP1：主体的に学ぼうとする力　○HDP2：協同的に学び合う力

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
①各自のレポートは、文献を読んだり配布資料を作成したりするなど、事前準備をします。また、発表やディスカッション・指導後には、再度見つめ直して各自レポートを作成してもらいます。
②保育学・幼児教育学の学びをより実践的に深めるために、可能な限りボランティア活動などを通じて保育現場に出向き、保育現場に埋め込まれた問いを発見してほしいと願っています。

評価方法
授業への取り組み（20%）と2種類の課題発表（80%）の割合で評価する。
フィードバックの方法：課題発表等においては、発表時に総評と次の課題作成への留意事項を伝える。

教科書 なし	参考図書 適宜紹介する

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
①前期は、選定図書の輪読とレジュメ発表を通して、卒論テーマ選定と研究デザインの素案作りをします。仲間と共に学ぶ意識をもち主体的な参加を希望します（連絡先・OH等は初回に提示します）。
②３年ゼミ（総合演習Ⅱ）の履修対象者は、原則的に１年ゼミ（基礎演習）および２年ゼミ（総合演習Ⅰ）を修了した者とします。但し２年ゼミが、やむを得ない事由から単位修得に至らなかった場合に限り、３年ゼミと２年ゼミの同時履修について、特別に認められることがあります。

01	オリエンテーション・2年間の教職に関する学びの省察（学びのカルテの振り返り）
02	卒業研究の進め方と研究方法（１）先行研究・検索の方法
03	卒業研究の進め方と研究方法（２）レビューの仕方
04	卒業研究の進め方と研究方法（３）レジュメの作成方法
05	保育学について考える（１）課題A発表とディスカッション
06	保育学について考える（２）課題A発表とディスカッション
07	保育学について考える（３）課題A発表とディスカッション
08	各自の研究テーマを考える（１）関心トピックの選定
09	各自の研究テーマを考える（２）先行研究の引用方法
10	各自の研究テーマを考える（３）研究倫理について
11	研究計画と先行研究発表（１）課題B発表とディスカッション
12	研究計画と先行研究発表（２）課題B発表とディスカッション
13	研究計画と先行研究発表（３）課題B発表とディスカッション
14	学外体験（ボランティア活動）と保育実践研究におけるフィールドワーク
15	前期のまとめ
16	

2024年度シラバス

科目名:0H31S2001　総合演習ⅡＡ	担当者:金子 晃之	開講学科等	保育学部 保育学科
		授業形態	演習
免許･資格:		開講時期	前期
		配当学年	3
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	必須

授業概要と方法
　①共通テキストの輪読を行ない、教育・保育の問題点や到達点について皆で考察する。②教育・保育・福祉の実践、思想、理論、自叙伝、かつての日本社会での人の育ち方、教育・保育での事件（当事者や関係者が書いた本）、教育・保育の今日の問題点などを、各自が文献・資料を通して考察する。これらの作業を織り交ぜながら、皆で共有して考えて行く作業を行いつつ、各自の卒業論文テーマを浮き上がらせていく。

授業の到達目標
①文献・資料の内容を理解し、整理し報告する力を身に付ける（保育学科DP3）。②学外実習や学外体験（ボランティア活動参加）を振り返りながら、文献・資料と「現場の現実」とを繋げて考察する思考力を身に付ける（可能であれば教育・保育の「現場の現実」を把握できるような体験も行う）（保育学科DP1、3）。③他者の意見や報告を共有し、自分自身や他者の考えを広げて行ける発言と思考力を身に付ける（保育学科DP1、2、3）。

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
次回の準備学修、および毎回の振り返り（事後学修90分）は、随時必要となる。各自がそれらの作業を行って参加しないと、総合演習は成り立たないので、強く自覚して参加すること。

評価方法
　参加態度（20点）、発言内容（20点）、報告・発表の内容（60点）を合計して100点満点で評価する。ゼミ報告の内容についてのフィードバックはゼミ内で行います。

教科書	参考図書
特に設定しない。	適宜、指示する。

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
　受講要件は、３年ゼミ（総合演習Ⅱ）の履修対象者は、原則的に１年ゼミ（基礎演習）および２年ゼミ（総合演習Ⅰ）を修了した者とする。但し２年ゼミが、やむを得ない事由から単位修得に至らなかった場合に限り、３年ゼミと２年ゼミの同時履修について、特別に認められることがある。オフィスアワー　木曜日昼休み　研究室

01	演習のテーマと方法について
02	各自の問題関心の報告①
03	各自の問題関心の報告②
04	各自の問題関心の報告③
05	共通テキスト輪読①
06	共通テキスト輪読②
07	共通テキスト輪読③
08	卒研についての検討①
09	卒研についての検討②
10	共通テキスト輪読④
11	共通テキスト輪読⑤
12	共通テキスト輪読⑥
13	卒研についての検討③
14	卒研についての検討④
15	夏休み課題およびフィールドワークの確認
16	試験なし

科目名:0H31S2001　総合演習ⅡＡ	担当者:森川 拓也	開講学科等	保育学部 保育学科
		授業形態	演習
免許･資格:		開講時期	前期
		配当学年	3
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	必須

授業概要と方法
教育・保育の実践者として「どんな教育・保育者になりたいのか、どんな実践をしたいのか」を具体的に描きながら、自身の成長を目的とした研究をするための基礎的知識・能力を高めるために行う。それぞれが積極的に調査・分析し、ディスカッションを重ねることを大切にし、卒業研究への道筋を見つける。

授業の到達目標
①個々の研究テーマ・ゼミの共通課題に主体的に取り組むことができる【DP】
②個々の研究テーマ・ゼミの共通課題についての学びや体験を共有できる【DP】
③個々の研究テーマ・ゼミの共通課題を探求するための知識基礎的な知識・技能・体験を理解し身に付けている【DP】
④学修した知識・技能・体験を用いて、思考し判断し表現できる【DP】
【到達目標と深く関連する学科DP】
◎主体的に学ぼうとする力
○協同的に学び合う力

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
主体的に様々な文献や資料にあたり、報告レポートや配付資料の作成など十分な準備をしておく。学んだことをしっかりと事後学修し、次の報告に生かすようにする。

評価方法
フィードバック：レポートや個別課題・報告について、適宜評価し課題点や留意事項などを直接伝える
授業に参加する姿勢・活動（40%）　レポート・課題・提出物・発表（40%）　ゼミへの協力（20%）以上を総合して評価する。

教科書 適宜紹介する。	参考図書 適宜紹介する。

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
受講要件として３年ゼミ（総合演習Ⅱ）の履修対象者は、原則的に１年ゼミ（基礎演習）および２年ゼミ（総合演習Ⅰ）を修了した者とする。但し２年ゼミが、やむを得ない事由から単位修得に至らなかった場合に限り、３年ゼミと２年ゼミの同時履修について、特別に認められることがある。連絡はメール（t-morikawa@ohkagakuen-u.ac.jp）を使用する。

01	卒業研究に向けてのガイダンス
02	履修カルテの振り返り
03	レポート・報告書の書き方と討議の進め方について
04	教育・保育の実践に関する演習（教材研究）
05	ブックレポート作成について
06	ブックレポート発表・話題提供・討議①
07	ブックレポート発表・話題提供・討議②
08	教育・保育の実践に関する演習（言語的活動）
09	個々の課題意識の発表・交流①
10	個々の課題意識の発表・交流②
11	教育・保育の実践に関する演習（表現的活動）
12	研究構想の立て方と研究方法について
13	個々の研究構想の発表・交流①
14	個々の研究構想の発表・交流②
15	個々の研究構想の発表・交流③
16	夏季休業中の課題について

2024年度シラバス

科目名:0H31S2001　総合演習ⅡＡ	担当者:小柳津 和博	開講学科等	保育学部 保育学科
		授業形態	演習
免許･資格:		開講時期	前期
		配当学年	3
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	必須

授業概要と方法
　卒業研究に向けて、先行研究の調べ方、論文のまとめ方など論文執筆に必要な基本的事項について学ぶ。その中で特別の支援を必要とする子どもたちへの指導・支援のあり方について検討する。各自の興味・関心を基にした研究活動を通して「子どもから学ぶ姿勢」を身につける。

授業の到達目標
①卒業研究に向けて、論文執筆をする上で必要な知識を身に付ける。[DP]
②体験的な活動の中から、各自の興味・関心をより具体的なものにして卒業研究のテーマを見つける。[DP]
③特別の支援を必要とする子どもへのよりよい指導・支援のあり方を検討する中で「子どもから学ぶ姿勢」を身につける。[DP]

【到達目標と深く関連する学科DP】
◎主体的に学ぼうとする力
○協同的に学び合う力

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
　卒業研究に向け、必要に応じて個別指導を行う。その際、各自のテーマに沿って提示する課題に沿って取り組むこと。発表時には自分の考えを正しく相手に伝えられるよう、責任をもって準備を進めてほしい。

評価方法
授業への参加態度（50%）、課題（50%）により総合的に評価する。
各課題の後で対面、メールにてフィードバックを行う。

教科書	参考図書
プリント資料	幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領、小学校学習指導要領

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
　すべての子どもにとって理解しやすい（ユニバーサルデザイン）指導・支援ができるよう、特別の支援を必要とする子どもたちへの学びのあり方について、ゼミの仲間と共に考えましょう。初回授業時にオフィスアワーや連絡先を伝えます。３年ゼミ（総合演習Ⅱ）の履修対象者は、原則的に１年ゼミ（基礎演習）および２年ゼミ（総合演習Ⅰ）を修了したものとします。但し、２年ゼミがやむを得ない事由から単位習得に至らなかった場合に限り、３年ゼミと２年ゼミの同時履修について特別に認められることがあります。

01	ガイダンス（自己紹介、ゼミの進め方、方向性、ゼミの年間計画、役割分担）
02	２年後期学びのカルテ振り返り、人間関係づくりトレーニング・イニシアティブゲーム
03	車いす乗車・介助体験、パラスポーツ体験
04	４年生の発表から学ぶ
05	研究方法の紹介（事例、実験、質問紙、文献等）
06	興味・関心のある内容についての発表・対話（現段階での関心について）、OC展示・体験ブース準備
07	特別支援学校　見学
08	特別支援学校児童との交流　計画
09	特別支援学校児童との交流　教材づくり
10	特別支援学校児童との交流　リハーサル
11	特別支援学校児童との交流　実施
12	特別支援学校児童との交流　反省
13	卒業研究に向けたテーマの設定①
14	卒業研究に向けたテーマの設定②
15	夏休みの研究課題（参考文献の収集）
16	なし

科目名:0H31S2001　総合演習ⅡＡ	担当者:松永 康史	開講学科等	保育学部 保育学科
		授業形態	演習
免許･資格:		開講時期	前期
		配当学年	3
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	必須

授業概要と方法
　教育・保育現場に出た時、向き合う子どもの発言や行動をどのように理解し、授業づくりを進めていくのか検討し、学びます。これまでの先行研究や先人の実践記録、資料、文献をもとに議論、考察する中で、各自の卒業論文のテーマについて深めていきます。

授業の到達目標
　自分自身の被教育体験も振り返りながら、資料・文献を読み、報告・議論し、事象や手立てなど深く考察する力を養う【DP】。議論する中で、自分自身の問題意識を明確にし、卒論研究テーマを設定していく【DP】。
【到達目標と深く関連する学科DP】
◎主体的に学ぼうとする力
○協同的に学び合う力

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
　資料や文献を読み、議論する際は、事前にレジュメを作成するなど準備が必要です。考察、議論後は、自分自身の問題意識と照らし合わせ、卒業研究に役立ててください

評価方法
授業への参加態度（発言・報告・活動）50%、レジュメ・課題で50%
フィードバック：課題の特徴的な見解や解説は、授業時に適宜行う。

教科書	参考図書
適宜紹介します	適宜紹介します

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
教育現場や学外施設への参観が可能な場合は連絡しますので、参加してください。参観について日時未定のため、授業計画が入れ替わることもあります。オフィスアワー木曜昼休み。３年ゼミ（総合演習Ⅱ）の履修対象者は、原則的に１年ゼミ（基礎演習）および２年ゼミ（総合演習Ⅰ）を修了した者とする。但し２年ゼミが、やむを得ない事由から単位修得に至らなかった場合に限り、３年ゼミと２年ゼミの同時履修について、特別に認められることがある。

01	ガイダンス
02	教職履修カルテの振り返り
03	資料・文献講読とディスカッション①
04	資料・文献講読とディスカッション②
05	資料・文献講読とディスカッション③
06	資料・文献講読とディスカッション④
07	資料・文献講読とディスカッション⑤
08	教育現場の参観
09	教育現場の参観報告・交流
10	研究の進め方
11	個別の問題意識の発表・交流①
12	個別の問題意識の発表・交流②
13	個別の問題意識の発表・交流③
14	個別の問題意識の発表・交流④
15	個別の問題意識の発表・交流⑤
16	

科目名:0H31S2001　総合演習ⅡＡ	担当者:五十嵐 睦美	開講学科等	保育学部 保育学科
		授業形態	演習
免許･資格:		開講時期	前期
		配当学年	3
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	必須

授業概要と方法
ICT機器などを利用しながら卒業研究に向けた基本的な資料収集や執筆方法について学び、音楽を中心とした表現の研究について議論しながら理解を深める。また、子育て支援室や親子コンサート、保育現場での表現活動への参加を通して、教育者・保育者に求められる表現力を身につける。【AL】

授業の到達目標
①卒業研究に向けた基本的な研究方法や執筆の手だてについて理解する。②子どもの音楽的表現や指導法などに関する研究や実践について、集団中の相互作用によって理解を深める。(DP) ③保育所・幼稚園や施設等での表現活動を通して子ども理解を深め、保育者に求められる表現力や実践力を身につける。(DP)

【到達目標と深く関連する学科DP】
◎主体的に学ぼうとする力
○協同的に学び合う力

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
・ディスカッションが中心となるため、各回の話題に沿ってあらかじめ情報収集を行うこと。
・各々の興味関心に沿って、積極的にボランティア活動を行うこと。
・発表を担当する際は責任を持って事前準備を行い、必要な書類は印刷した上で発表に臨むこと。
・欠席・遅刻が5回を超えた場合は受講資格を失うこととする。

評価方法
授業への取り組み（50%）、発表（50%）
課題（発表資料、実践）にはコメントを付して返却、または口頭でフィードバックを行う。

教科書 特になし	参考図書 適宜紹介する

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
積極的に人とかかわる姿勢を忘れずに取り組むこと。連絡手段については、授業内で開示する。受講要件として３年ゼミ（総合演習Ⅱ）の履修対象者は、原則的に１年ゼミ（基礎演習）および２年ゼミ（総合演習Ⅰ）を修了した者とする。但し２年ゼミが、やむを得ない事由から単位修得に至らなかった場合に限り、３年ゼミと２年ゼミの同時履修について、特別に認められることがある。

01	ガイダンス（自己紹介、ゼミの進め方、役割分担）
02	ゼミ年間計画の立案
03	自己課題の発表
04	研究方法の紹介（1）
05	研究方法の紹介（2）
06	文献収集と調査の進め方
07	事例研究の分析とディスカッション（1）
08	事例研究の分析とディスカッション（2）
09	表現活動の実践―子育て支援―
10	表現活動の実践―歌唱・楽器を通した表現遊び―
11	表現活動の実践―さくら・さくらんぼ保育のリズム遊び―
12	興味関心に沿った先行研究の紹介（1）
13	興味関心に沿った先行研究の紹介（2）
14	研究テーマの発表（1）
15	研究テーマの発表（2）
16	なし

2024年度シラバス

科目名:0H31S2001　総合演習ⅡＡ	担当者:寺田 泰人	開講学科等	保育学部 保育学科
		授業形態	演習
免許･資格:		開講時期	前期
		配当学年	3
受講者制限: 原則として、1年ゼミ(基礎演習)および2年ゼミ（総合演習Ⅰ）を修了した者		単位数	1
		必須.選択	必須

授業概要と方法
この授業では、「子どもの健康・スポーツ」を大きなテーマとして、「乳幼児期および児童期の運動機能発達の理解」とそれを前提とした「教師・保育者の役割」について具体的な教育・保育現場の事例を用いながら考えて行きます。また卒業研究に向けて、論文の書き方や先行研究の調べ方など、論文執筆の基本的な作法を学びます。

授業の到達目標
１．個々の研究テーマ・ゼミの共通課題に主体的に取り組むことができる（DP）。
２．個々の研究テーマ・ゼミの共通課題についての学びや体験を共有できる（DP）。
３．個々の研究テーマ・ゼミの共通課題を探求するための知識・技能・体験を理解し、身につけている（DP）。
４．学修した知識・技能・体験を用いて、思考し判断し表現できる（DP）。

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
教育・保育現場でのボランティアに可能な限り積極的に参加し、自分の興味関心に対して調べる習慣を身につける。またゼミ発表に向けて、文献を読んだり、配布資料を作成するなど、事前準備をしっかりすること。

評価方法
レポート・提出物等80%、ゼミ活動への取り組み状況・授業への参加態度20%を総合的に判断する。
最終授業時に全体向けにフィードバックを行う

教科書	参考図書
適宜、紹介します。	適宜、紹介します。

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
受講要件として3年ゼミ（総合演習Ⅱ）の履修対象者は、原則的に1年ゼミ(基礎演習)および2年ゼミ（総合演習Ⅰ）を修了した者とする。但し2年ゼミが、やむを得ない事由から単位修得に至らなかった場合に限り、3年ゼミと2年ゼミの同時履修について、特別に認められることがある。オフィスアワーは初回授業でのガイダンスで知らせるとともに研究室ドア等に掲示します。
メールアドレス：y-terada@ohkagakuen-u.ac.jp

01	ガイダンス（学びのカルテの振り返りを含む）
02	ゼミの年間計画（卒業研究を含む）の検討
03	研究の進め方①
04	研究の進め方②
05	研究の進め方③
06	事例研究とディスカッション①
07	事例研究とディスカッション②
08	事例研究とディスカッション③
09	各自の研究テーマを考える①
10	各自の研究テーマを考える②
11	各自の研究テーマを考える③
12	研究計画の作成と先行研究発表①
13	研究計画の作成と先行研究発表②
14	研究計画の作成と先行研究発表③
15	前期のまとめ
16	なし

科目名:0H31S2001　総合演習ⅡＡ	担当者:堀 由里	開講学科等	保育学部 保育学科
		授業形態	演習
免許･資格:		開講時期	前期
		配当学年	3
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	必須

授業概要と方法
保育や幼児教育の現場に出てからも絶えず研究と修養が求められています。そのため、自身の探究すべきテーマを見つけ、調べ、分析し、他者に向けて発表するという一連の学びのプロセスを経験する授業にします（AL）。研究は心理学をベースとした方法論に則って行い、前期は実際にグループ研究を行います。研究テーマは人（子ども・保護者・保育者）の心が関連していれば、そして社会的に役に立つものであれば、何でも大丈夫です。

授業の到達目標
1）研究をすることの意味が理解できる（DP）。
2）主体的に問題を発見し、解決するための方法を理解することができる（DP）。
3）他者との協同において適切な社会的スキルを身につけることができる（DP)。

【到達目標と深く関連する学科DP】
◎主体的に学ぼうとする力
○協同的に学び合う力

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
準備学修：共同研究および個人の卒業研究のための先行研究を探し、まとめましょう。また、人に伝えることを意識して発表準備をしましょう。
事後学修：他者からもらった意見をもとに再考する癖をつけましょう。

評価方法
授業への主体的・協調的な参加状況（50%）、発表・レポート（50%）
発表・レポートに関しては適宜、授業内でフィードバックを行う。

教科書	参考図書
適宜、資料配布	適宜、紹介

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
個別指導も多くなると思います。教員・仲間とのコミュニケーションを面倒がらず、楽しんでゼミ活動をしましょう。オフィス・アワーや連絡手段については授業内で伝えます。受講要件として３年ゼミ（総合演習Ⅱ）の履修対象者は、原則的に１年ゼミ（基礎演習）および２年ゼミ（総合演習Ⅰ）を修了した者とする。但し２年ゼミが、やむを得ない事由から単位修得に至らなかった場合に限り、３年ゼミと２年ゼミの同時履修について、特別に認められることがある。

01	ガイダンス
02	保育・幼児教育に活かす研究とは何か
03	先行研究の調べ方
04	研究方法の紹介（観察・質問紙）
05	研究方法の紹介（実験 研究方法の紹介（実験・面接）
06	子ども発達の現代的課題
07	子どもを知る（観察）
08	共同研究の目的設定
09	共同研究の方法論の決定
10	共同研究のデータ取得の実施
11	共同研究の分析
12	共同研究の考察
13	共同研究の発表準備
14	共同研究の成果発表
15	前期のまとめ、夏休み中の課題設定
16	なし

科目名:0H31S2001　総合演習ⅡＡ	担当者:小原 倫子	開講学科等	保育学部 保育学科
		授業形態	演習
免許･資格:		開講時期	前期
		配当学年	3
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	必須

授業概要と方法
人間の発達及び、人間を取り巻く様々な環境との関係性について、心理学をベースとした方法論に則って論理的・分析的に考える力を習得することを目的とします。自らが探求したいテーマを見つけ、ゼミの仲間と話し合い、協力してお互いの目標を達成することを通して研究の楽しさを学んでほしいと思います。前期は、関心の高いテーマの文献購読を行います。レジュメにまとめグループ発表し、受講生全員でディスカッションを行います。【AL】

授業の到達目標
1.発達心理学を中心とした、心理学に関する幅広い知識を学ぶことで、発達の様々な事象を論理的・分析的に考えることができる（DP）
2.文献検索、文献講読、専門用語の理解、レジュメの作成方法、プレゼンテーションやゼミでの討論の方法を習得する（DP）
3.ゼミの仲間と話し合い、協力してお互いの目標を達成することを通して専門職連携の基本を身につける（DP）

【到達目標と深く関連する学科DP】
◎主体的に学ぼうとする力
○協同的に学び合う力

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
【準備学習】卒業研究のための先行研究となる文献を検索し、概要をまとめゼミでのプレゼンテーション資料を作成する。
【事後学習】他の人のプレゼンテーションから自分の研究に参考となるリサーチクエスチョンや研究方法について気づいたことを調べなおし、まとめる。

評価方法
ゼミの発表（50%）授業への取組意欲（20%）小レポート（30%）により総合的に評価する。授業において提示した課題（プレゼンテーション、レポート等）に対しては、次回の授業日で、個別にフィードバックする。また、特徴的な見解についての解説や学生のよくできた資料や発表内容などのに対する全体講評を行う。

教科書 使用しない	参考図書 授業時に指示する

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
【連絡方法・オフィスアワー】授業で開示する。【資料提示・課題提出】Moodleで受け付ける。【その他】授業に関する積極的な質問や主体的な授業参加を歓迎します。常に疑問や関心を持ちながら受講し、教育や保育にどのように活かせるのかを一緒に考え続けていきましょう。連絡先等の詳細は初回の授業内で伝えます。３年ゼミ（総合演習Ⅱ）の履修対象者は、原則的に１年ゼミ（基礎演習）および２年ゼミ（総合演習Ⅰ）を修了した者とする。但し２年ゼミが、やむを得ない事由から単位修得に至らなかった場合に限り、３年ゼミと２年ゼミの同時履修について、特別に認められることがある。

01	ガイダンス（自己紹介、ゼミの進め方）
02	ゼミの年間計画の検討、役割分担 ＊オンデマンド型授業のため、ポータルサイトで配信した課題に対するレポート提出を要する
03	乳幼児を中心とした発達心理学研究の最新の知見を紹介し、教育、保育実践とつなげて考察する
04	関心のあることや身近な話題から研究テーマを設定しリサーチクエスチョンを立てる
05	研究テーマに関連する学術論文の検索方法とレジュメのまとめ方
06	文献講読(1)発表とディスカッション　グループ発表
07	文献講読(2)発表とディスカッション　グループ発表
08	文献講読(3)発表とディスカッション　グループ発表
09	文献講読(4)発表とディスカッション　グループ発表
10	研究方法の概要の紹介と実習(1)観察法
11	研究方法の概要の紹介と実習(2)面接法
12	研究方法の概要の紹介と実習(3)実験・調査法
13	研究方法に関連する先行研究を整理したレポートの発表とディスカッション　グループ発表
14	研究方法に関連する先行研究を整理したレポートの発表とディスカッション　グループ発表
15	前期のまとめ、夏休み中の課題設定
16	なし

2024年度シラバス

科目名:0H31S2001　総合演習ⅡＡ	担当者:武藤 直子	開講学科等	保育学部 保育学科
		授業形態	演習
免許･資格:		開講時期	前期
		配当学年	3
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	必須

授業概要と方法
子どもの生活実態や子どもを取り巻く社会環境に目を向けながら、保育者としての実践力を習得するための学習を行う。理論的な学習とともに、実際に保育体験を行ったり、ディスカッションしたりする中で、卒業研究のテーマを見つける。（AL）

授業の到達目標
保育実践に関連したテーマについて主体的に考える中で、自ら学ぼうとする力を身につける(DP)。ゼミ内で、自分の役割や責任を理解し、互いに力を合わせていくことができる力を身につける(DP)。

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
卒業研究に取り組むために、関心のあるテーマの文献を読む。子どもや子育てに関する情報を積極的に得る。ボランティア活動に積極的に参加する。

評価方法
授業への参加態度（70%）、課題・レポート等の提出物（30%）で評価する。レポートや提出物の評価については、評価の基準内容を第１回目授業に示し、評価して返却する。

教科書	参考図書
なし	必要に応じて適宜紹介する

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
2年ゼミが、やむを得ない事由から単位取得に至らなかった場合に限り、3年ゼミと2年ゼミの同時履修について特別に認められることがある。

01	ガイダンス（ゼミの進め方、予定、役割分担）、2年後期履修カルテの振り返り
02	乳幼児の生活と文化について
03	卒業研究の進め方と研究方法
04	乳幼児の生活と遊びについて（実践的研究）
05	乳幼児の生活と遊びについて（実践的研究）
06	乳幼児の生活と遊びについて（実践的研究）
07	保育所（幼稚園）見学
08	保育所（幼稚園）見学の振り返りとディスカッション
09	保育所（幼稚園）見学
10	保育所（幼稚園）見学の振り返りとディスカッション
11	各自の研究テーマを考える（１）関心のあるテーマを挙げる
12	各自の研究テーマを考える（２）先行研究を探す
13	研究計画と先行研究発表（１）
14	研究計画と先行研究発表（２）
15	前期のまとめ
16	

2024年度シラバス

科目名:OH31S2001　総合演習ⅡＡ	担当者:藤井 七瀬	開講学科等	保育学部 保育学科
		授業形態	演習
免許･資格:		開講時期	前期
		配当学年	3
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	必須

授業概要と方法
本ゼミの中心的なテーマは、発達障害（気になる子ども等も含む）の理解およびアセスメント、個に応じた指導法の検討である。卒業研究に向けて、先行研究の調べ方、論文のまとめ方など論文執筆に必要な基本的事項について学ぶ。また、学生同士話し合い議論しながら、特別の支援を必要とする子どもたちへの指導・支援のあり方について検討する。【AL】

授業の到達目標
①卒業研究に向けて、論文執筆をする上で必要な知識を身に付ける。[DP]
②体験的な活動や先行研究の中から、各自の興味・関心をより具体的なものにして卒業研究のテーマを見つける。[DP]
③学生同士話し合い議論しながら、特別の支援を必要とする子どもたちへの指導・支援のあり方について検討する。 [DP]

【到達目標と深く関連する学科DP】
◎主体的に学ぼうとする力
○協同的に学び合う力

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
卒業研究に向け、必要に応じて個別指導を行う。その際、各自のテーマに沿って提示する課題に沿って取り組み、事前に資料を準備し、責任をもって進めてほしい。また、発表の際には、積極的に質問や意見を交わし、議論を深め合ってほしい。

評価方法
ゼミでの発表および対話への参加態度（50%）、各学期の課題レポート（50%）により総合的に評価する。レポートおよび発表に対するコメントによりフィードバックを行う。

教科書
配布資料にて進める

参考図書
幼稚園・保育園・こども園用
長所活用型指導で子どもが変わるPart4（藤田和弘監修，図書文化）
幼稚園・保育園・こども園用
長所活用型指導で子どもが変わるPart4（藤田和弘監修，図書文化）
幼稚園・保育園・こども園用　長所活用型指導で子どもが変わるPart4（藤田和弘監修，図書文化）

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
３年ゼミ（総合演習Ⅱ）の履修対象者は、原則的に１年ゼミ（基礎演習）および２年ゼミ（総合演習Ⅰ）を修了したものとします。但し、２年ゼミがやむを得ない事由から単位習得に至らなかった場合に限り、３年ゼミと２年ゼミの同時履修について特別に認められることがあります。
【連絡先】藤井七瀬 fujiin@ohkagakuen-u.ac.jp

01	ガイダンス（自己紹介、ゼミの進め方、ゼミの年間計画）
02	発達障害・気になる子に関する現状及び課題
03	研究のテーマ設定・まとめ方について・文献の探し方
04	研究方法の紹介（事例、実験、質問紙、文献等）
05	興味・関心のある内容についての発表・対話（現段階での関心について）
06	知的・発達障害児のアセスメント①行動面
07	知的・発達障害児のアセスメント②学習面
08	フィールドワーク①
09	フィールドワーク②
10	事例検討①
11	事例検討②
12	卒業研究に向けたテーマの設定①
13	卒業研究に向けたテーマの設定②
14	レジュメ発表・グループディスカッション
15	夏休みの研究課題（参考文献の収集）
16	なし

科目名:OH31S2001　総合演習ⅡＡ	担当者:柏倉 秀克	開講学科等	保育学部 保育学科
		授業形態	演習
免許･資格:		開講時期	前期
		配当学年	3
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	必須

授業概要と方法
病気や障害，貧困など特別なニーズがある子どもに対する支援をさまざまな視点から検討します。さらに子どもを取り巻く家族や物的，人的環境のあり方について検討します。

授業の到達目標
①特別なニーズがある子どもたちを見る眼（アセスメント）を身につけることができる。
②人を対象とする研究に主体的に取り組むことができる。【DP】
③ゼミの共通課題について学びや体験を共有することができる。【DP】

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
仲間とともにさまざまな体験や活動に積極的に参加することが求められます。調査対象となるのは特別なニーズがある子どもたちやその家族，セルフヘルプ・グループ（本人の会や親の会）などです。調査フィールドは統合保育の現場，特別支援学校，児童発達支援センター，母子通園施設，小児医療センターなどを想定しています。

評価方法
出席態度（40%），課題レポート（60%）で総合的に評価します。
授業の最後にフィードバックを行う。フィードバックの方法としては演習内容を各自がプレゼンし、教員が評価する。

教科書	参考図書
使用しない。	授業で紹介する。

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
３年ゼミ（総合演習Ⅱ）の履修対象者は、原則的に１年ゼミ（基礎演習）および２年ゼミ（総合演習Ⅰ）を修了した者とする。但し２年ゼミが、やむを得ない事由から単位修得に至らなかった場合に限り、３年ゼミと２年ゼミの同時履修について、特別に認められることがある。
ゼミは学ぶ場であるとともに仲間づくりや思い出作りの場でもあります。さまざまな時間を仲間や教員と共有できる学生を待っています。連絡先：kashiwakura@ohkagakuen-u.ac.jp

01	ガイダンス
02	対人支援と自己理解(1)
03	対人支援と自己理解(2)
04	文献購読の方法と進め方
05	文献購読(1)
06	文献購読(2)
07	文献購読(3)
08	文献購読(4)
09	文献購読(5)
10	文献購読のまとめ（グループ発表）
11	フィールドワークの準備と振り返り(1)
12	フィールドワークの準備と振り返り(2)
13	インクルーシブ保育(教育)の理解(1)
14	インクルーシブ保育(教育)の理解(2)
15	前期のまとめ
16	なし

科目名:0H31S2001　総合演習ⅡＡ	担当者:嶋守 さやか	開講学科等	保育学部 保育学科
		授業形態	演習
免許･資格:		開講時期	前期
		配当学年	3
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	必須

授業概要と方法
　総合演習ⅡAの学習テーマは、「子どもの遊びと環境整備の理解」です。障がいや発達から子どもを理解し、音楽遊び、野外遊び、障がい児・者との運動会を企画・実施します。

授業の到達目標
　子どもの発達と障がい理解、音楽活動、野外遊びの活動成果をまとめてグループ発表をする。（DP◎○）

【到達目標と深く関連する学科DP】
◎主体的に学ぼうとする力
○協同的に学び合う力

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
　活動ごとに活動内容・ふりかえりレポートをゼミノートに作成することを準備学習・事後学習とします。実際に活動に参加し、ゼミノートに各自記した内容をゼミのメンバーで共有することで理解と学びを深めます。ゼミの学修テーマに則り、基本的な研究方法や文献調査方法を理解します。

評価方法
　ふりかえりレポートを２回作成します（80%）。レポートを添削し、評価を行ったレポートをゼミ生にて返却します。グループワーク・グループディスカッションによるプレゼンテーション20%（ふりかえりレポートにその評点を記載します）にて評価を行います。

教科書 適宜指示します。	参考図書 適宜指示します。

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
　３年ゼミ（総合演習Ⅱ）の履修対象者は、原則的に１年ゼミ（基礎演習）および２年ゼミ（総合演習Ⅰ）を修了した者とする。但し２年ゼミが、やむを得ない事由から単位修得に至らなかった場合に限り、３年ゼミと２年ゼミの同時履修について、特別に認められることがある。オフィスアワーは毎週火、水、木曜日のお昼休みとします。

01	一年の目標・予定・係決め・ゼミの決まり等
02	２年後期の教職履修カルテの振り返り
03	合同ゼミ
04	障がい児・者との遊び①企画
05	障がい児・者との遊び②運営
06	障がい児・者との遊び③参加
07	障がい児・者との遊び④ふりかえりグループディスカッション
08	卒業研究に向けて①調査方法を理解する（文献調査、社会調査の基礎）
09	卒業研究に向けて②卒業研究テーマについてのグループディスカッション
10	子どもと音楽遊び①企画
11	子どもと音楽遊び②運営
12	子どもと音楽遊び③参加
13	子どもと音楽遊び③ふりかえりグループディスカッション
14	子育て支援実習の準備
15	総合演習ⅡA（前期）のふりかえり
16	なし

科目名:OH31S2001　総合演習ⅡＡ	担当者:内田 将平	開講学科等	保育学部 保育学科
		授業形態	演習
免許･資格:		開講時期	前期
		配当学年	3
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	必須

授業概要と方法
　本ゼミは、教育方法学やカリキュラムをめぐる問題について見識を深めることを目標としています。またそれを基盤に、1・2年次の学習を振り返り、各自の関心に基づき、先行研究を収集し考察する中で、卒業研究のテーマを決めていきます。そして研究発表と討議を重ねる中で、各自の問題意識をより明確していき研究テーマを焦点化していきます。

授業の到達目標
①教育・保育に関する情報を収集・選択する力を身につける(DP)。
②収集した情報を適切にまとめる力を身につける。
③まとめた情報を伝わりやすく発信する力を身につける(DP)。
④①～③を繰り返し、各自の卒業論文テーマを探る。

【到達目標と深く関連する学科DP】
◎主体的に学ぼうとする力
○協同的に学び合う力

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
　日頃から教育・保育に関する新聞（ネットニュース含む）スクラップ等を行い、各自の興味関心のある分野の情報収集を行うようにしてください。また、発表の順番が回ってきた時には、リハーサルをするなど各自十分に準備し、責任をもって行ってください（準備学修）。
　MoodleやTeams上に蓄積された学習成果をもとに、積極的に振り返り活動を行うようにしてください（事後学修）。

評価方法
　授業への参加態度50%、研究発表50%で総合評価します。授業への参加態度には、コメントシートの記入が含まれています。これは他者の発表内容・態度や討議内の自己の質問内容を評価するためのものです。毎回、内田がコメントを付して返却します(FB)。

教科書	参考図書
使用しない。	講義内で適宜指示をする。

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
　受講要件として３年ゼミ（総合演習Ⅱ）の履修対象者は、原則的に１年ゼミ（基礎演習）および２年ゼミ（総合演習Ⅰ）を修了した者とする。但し２年ゼミが、やむを得ない事由から単位修得に至らなかった場合に限り、３年ゼミと２年ゼミの同時履修について特別に認められることがあります。オフィスアワーや連絡先は初回講義の際に伝えます。

01	ガイダンス（メンバーの自己紹介、役割分担、ゼミの年間計画及び進め方）
02	論文検索の仕方と論文執筆の基本的な作法の確認、研究倫理について
03	研究方法の紹介（文献レビュー、観察、インタビュー）
04	発表レジュメの作成方法と報告の仕方
05	関心がある論文の要約発表と討議⑴：Aグループ1回目
06	関心がある論文の要約発表と討議⑵：Bグループ1回目
07	関心がある論文の要約発表と討議⑶：Cグループ1回目
08	関心がある論文の要約発表と討議⑷：Aグループ2回目
09	関心がある論文の要約発表と討議⑸：Bグループ2回目
10	関心がある論文の要約発表と討議⑹：Cグループ2回目
11	研究発表と関心トピック焦点化への指導⑴：Aグループ
12	研究発表と関心トピック焦点化への指導⑵：Bグループ
13	研究発表と関心トピック焦点化への指導⑶：Cグループ
14	研究発表と関心トピック焦点化への指導⑷：全グループ
15	リフレクション
16	なし

2024年度シラバス

科目名:0H32S2001　総合演習ⅡＢ	担当者:淺野 卓司	開講学科等	保育学部 保育学科
		授業形態	演習
免許･資格:		開講時期	後期
		配当学年	3
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	必須

授業概要と方法
　子どもの造形活動に関する今日的な課題について触れながら、教育・保育実践に関する自らの課題を「卒業研究」としてまとめるために、以下の内容を目標とする。
【実践報告研究】
①研究協力園（校）での実践について報告し、検討を行う。（全６回）
【指導方法・カリキュラム面の検討】
②実践場面の改善保育案やカリキュラム、保育者の関わりについて検討を行う（全６回）
【データ分析】
③データ分析について学ぶ（全２回）
【まとめ】
④図表によるまとめ方について学び、得られた結果の評価を行う。発表用のレジュメを作成し発表を行う（全3回）

授業の到達目標
①ゼミでの学びや活動に主体的に取り組める（主体的に学ぼうとする力）（DP）
②ゼミでの他者の学びや体験を共有できる（協同的に学び合う力）（DP）

【到達目標と深く関連する学科DP】
◎主体的に学ぼうとする力
○協同的に学び合う力

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
【実践報告研究】
①研究協力園（校）での実践について報告書を作成する。話し合いの検討の結果をレポートにまとめる。（12時間）
【指導方法・カリキュラム面の検討】
②実践場面の改善保育案やカリキュラムを作成する。保育者の関わりについて検討した結果をレポートにまとめる（12時間）
【データ分析】
③データ分析について事前に、指定された箇所の資料を読んでおく（2時間）
【まとめ】
④図表によるまとめ方について事前に資料を読み、発表用のレジュメを作成する（6時間）

評価方法
文献ノート、研究計画書等を30%　ICTを用いたプレゼン資料及び発表を70%として評価する。第7回までの授業内容について中間まとめとして評価し、フィードバックする。

教科書	参考図書
初学者のための質的研究26の教え（医学書院）	

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
・授業においてパソコンを利用し、資料の閲覧を行う。資料提示はMicrosoft Teamsにて行う（キーボードを使った入力に慣れるため、スマートフォンの利用はしない）。
・欠席が3回を超えた時点で失格とする。
・３年ゼミ（総合演習Ⅱ）の履修対象者は、原則的に１年ゼミ（基礎演習）および２年ゼミ（総合演習Ⅰ）を修了した者とする。但し２年ゼミが、やむを得ない事由から単位修得に至らなかった場合に限り、３年ゼミと２年ゼミの同時履修について、特別に認められることがある。

01	ガイダンス（後期スケジュールの確認）
02	研究報告検討会①　夏季休業中の研究報告検討
03	研究報告検討会②　夏季休業中の研究報告検討
04	研究報告検討会③　夏季休業中の研究報告検討
05	研究報告検討会④　夏季休業中の研究報告検討
06	研究報告検討会　まとめとテーマの確定
07	保育実践研究について
08	実践場面の改善保育案の作成①
09	実践場面の改善保育案の作成②
10	改善保育案の発表　グループ①
11	改善保育案の発表　グループ②
12	改善保育案の発表　グループ③
13	データ分析法
14	データ分析のまとめ方
15	研究概要の発表
16	

2024年度シラバス

科目名:OH32S2001　総合演習ⅡＢ	担当者:辻岡 和代	開講学科等	保育学部 保育学科
		授業形態	演習
免許･資格:		開講時期	後期
		配当学年	3
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	必須

授業概要と方法
１．学外研修に関する準備・実践・反省（3回）
２．卒業研究課題の検討、研究手法の検討（11回）
３．その他　ガイダンスなど（1回）

授業の到達目標
１．先行研究を読み、研究テーマ・研究手法を検討しながら研究計画を立案し、卒業研究をすすめることができる。【DP】
２．食育講座における立案、準備、実践を仲間と協力して行う事ができる。【DP】

【到達目標と深く関連する学科DP】
◎主体的に学ぼうとする力
○協同的に学び合う力

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
討論や研究に主体的に参加出来る様に、授業外でも沢山の文献を読み、調理体験や保育実践を積み重ねる努力をすること。
具体的な学修活動については、授業内で提示する。(4時間程度)

評価方法
各課題の取り組み40％（授業計画の各項目に課題を設定します）・ゼミ活動への参加態度60%とし評価する。
提出された課題のフィードバックは、次回授業内での話題提供、提出物の返却、Moodle等を通して行う。

教科書 使用しない	参考図書 適宜紹介する

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
総合演習ⅡＢの履修対象者は、原則的に総合演習ＩA・ＩBを修了した者とする。但し総合演習ＩA・ＩBが、やむを得ない事由から単位修得に至らなかった場合に限り、総合演習ⅡＢと総合演習ＩＢの同時履修について、特別に認められることがある。質問等は、Moodleまたはオフィスアワーで受け付ける。詳細については授業で開示する。

01	ガイダンス　教職履修カルテの振り返り
02	学外研修に関する準備
03	学外研修
04	学外研修反省会　【AL】
05	卒業研究課題に対する研究手法の検討①　調理学研究　【AL】
06	卒業研究課題に対する研究手法の検討②　栄養学研究　【AL】
07	卒業研究課題に対する研究手法の検討③　食育研究　【AL】
08	卒業研究課題に対する研究手法の検討④　食物アレルギー研究　【AL】
09	卒業研究課題に対する研究手法の検討⑤　その他の研究　【AL】
10	研究内容のプレゼンテーション①　調理学研究　【AL】
11	研究内容のプレゼンテーション②　栄養学研究　【AL】
12	研究内容のプレゼンテーション③　食育研究　【AL】
13	研究内容のプレゼンテーション④　食物アレルギー研究　【AL】
14	研究内容のプレゼンテーション⑤　その他の研究　【AL】
15	総合演習ⅡBの総括と今後の研究の方向性
16	

科目名:0H32S2001　総合演習ⅡＢ	担当者:基村 昌代	開講学科等	保育学部 保育学科
		授業形態	演習
免許･資格:		開講時期	後期
		配当学年	3
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	必須

授業概要と方法
　この授業では音楽表現活動を「直接体験」し、子どもの年齢に沿った音楽的発達を学び、子どもの豊かな感性を育むための表現活動について研究します。多くの表現に触れて「心を動かす経験」をし、自らが表現することの楽しさや喜びを味わうことが重要であり、それを味わった者は、子どもが表現する気持ちに共感し、寄り添うことが出来ると考えます。子どもの音楽表現活動、音楽劇制作などの実践を通し、学生自らが体験し、感性や想像力を育み、保育者・教育者としての資質向上につなげます。その活動は地域に密着したアウトリーチ活動において実践します。(AL)

授業の到達目標
　子どもの音楽表現活動や音楽劇制作に触れる上で、子どもが主体的に自分たちで作り上げる表現活動のあり方、ねらいを踏まえた上で、子どもの表現活動がどうあるべきか考察する。また創りあげた制作を地域で披露し、自ら「感動体験」を味わい、子どもにとっての発表体験が如何に大きな機会であるか体験し、子どもの表現活動を様々な視点から援助できる教育者・保育者を目指す。(DP)

【到達目標と深く関連する学科DP】
◎主体的に学ぼうとする力
○協同的に学び合う力

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
　ボランティア活動などを行ない、実践力を養うよう努力し、積極的に研究を行って下さい。

評価方法
　実技・作品の評価100点、レポート提出100点、平常点100点の合計300点を100点に平均して算出する。平常点は半期を通して到達度、学修意欲、授業への参加態度を総合して評価します。最終授業時に全体向けにフィードバックを行う。

教科書	参考図書
テキストは担当教員が随時提示	幼稚園教育要領解説・幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説・保育所保育指針解説書

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
　３年ゼミ（総合演習Ⅱ）の履修対象者は、原則的に１年ゼミ（基礎演習）および２年ゼミ（総合演習Ⅰ）を修了した者とする。但し２年ゼミが、やむを得ない事由から単位修得に至らなかった場合に限り、３年ゼミと２年ゼミの同時履修について、特別に認められることがあります。

01	子どもの音楽表現活動についてのフィールドワーク（１）
02	子どもの音楽表現活動についてのフィールドワーク（２）
03	子どもの音楽表現活動についてのフィールドワーク（３）
04	子どもの音楽表現活動についてのフィールドワーク（４）
05	活動実践プロジェクト（１）
06	活動実践プロジェクト（２）
07	活動実践プロジェクト（３）
08	近隣でのアウトリーチ活動実践（１）
09	近隣でのアウトリーチ活動実践（２）
10	実践の反省会（１）
11	近隣でのアウトリーチ活動実践（３）
12	近隣でのアウトリーチ活動実践（４）
13	実践の反省会（２）、子どもの表現活動についてのレポート作成
14	子どもの表現活動についてのレポート報告①、意見交換
15	子どもの音楽表現活動についてのレポート報告②、意見交換、総括（フィードバック）
16	

科目名:OH32S2001　総合演習ⅡＢ	担当者:上村 晶	開講学科等	保育学部 保育学科
		授業形態	演習
免許･資格:		開講時期	後期
		配当学年	3
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	必須

授業概要と方法
①幼児教育学・保育学を基づく保育方法や保育者の在り方について、学びを深めるよう展開する。
②研究の在り方を学ぶと同時に、卒業論文執筆の土台作りをしていく（保育トピックや研究方法・自身の関心テーマに関するレジュメ発表とディスカッション：1人につき計2回）。【AL】

授業の到達目標
①保育実践に関連したテーマについて主体的・協同的に語り合う中で、自ら考えを深めるようになる（HDP2）。
②幼児教育・保育学の多様な考え方を理解し、知識を拡げながら関心のあるテーマについて探究すると同時に、自ら問いを立てて、主体的かつ意欲的に研究に取り組む（HDP1）。

【到達目標と深く関連する学科DP】◎HDP1：主体的に学ぼうとする力　○HDP2：協同的に学び合う力

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
①各自のレポートは、文献を読んだり配布資料を作成したりするなど、事前準備をします。また、発表やディスカッション・指導後には、再度見つめ直して各自レポートを作成してもらいます。
②保育学・幼児教育学の学びをより実践的に深めるために、可能な限りボランティア活動などを通じて保育現場に出向き、保育現場に埋め込まれた問いを発見してほしいと願っています。

評価方法
授業への取り組み（20%）と2種類の課題発表（80%）の割合で評価する。
フィードバックの方法：課題発表等においては、発表時に総評と次の課題作成への留意事項を伝える。

教科書 なし	参考図書 適宜紹介する

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
①後期は、各自の研究の取り組みに関する発表とディスカッション・個別指導が中心となります。仲間と共に学ぶ意識をもち主体的な参加を希望します（連絡先・OH等は初回に提示します）。
②３年ゼミ（総合演習Ⅱ）の履修対象者は、原則的に１年ゼミ（基礎演習）および２年ゼミ（総合演習Ⅰ）を修了した者とします。但し２年ゼミが、やむを得ない事由から単位修得に至らなかった場合に限り、３年ゼミと２年ゼミの同時履修について、特別に認められることがあります。

01	オリエンテーション・夏季学外体験等の振り返り
02	教職に関する学びの省察（学びのカルテの振り返り）
03	芸術やアートと保育・幼児教育の関連について考える（芸術鑑賞）
04	卒業研究の経過発表と指導（１）課題C発表とディスカッション
05	卒業研究の経過発表と指導（２）課題C発表とディスカッション
06	卒業研究の経過発表と指導（３）課題C発表とディスカッション
07	保育実践研究におけるフィールドワークの方法（１）問いを立てるとは
08	保育実践研究におけるフィールドワークの方法（２）質的研究
09	保育実践研究におけるフィールドワークの方法（３）量的研究
10	教育実習の振り返りを踏まえた保育者の在り方と保育実践研究
11	卒業研究の経過発表と指導（４）課題D発表とディスカッション
12	卒業研究の経過発表と指導（５）課題D発表とディスカッション
13	卒業研究の経過発表と指導（６）課題D発表と中間発表会への準備
14	卒業研究の経過発表と指導（７）課題D発表と中間発表会への準備
15	後期のまとめ
16	

2024年度シラバス

科目名:0H32S2001　総合演習ⅡＢ	担当者:金子 晃之	開講学科等	保育学部 保育学科
		授業形態	演習
免許･資格:		開講時期	後期
		配当学年	3
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	必須

授業概要と方法
①共通テキストの輪読を行ない、教育・保育の問題点や到達点について皆で考察する。②教育・保育・福祉の実践、思想、理論、自叙伝、かつての日本社会での人の育ち方、教育・保育での事件（当事者や関係者が書いた本）、教育・保育の今日の問題点などを、各自が文献・資料を通して考察する。これらの作業を織り交ぜながら、皆で共有して考えて行く作業を行いつつ、各自の卒業論文テーマを浮き上がらせていく。

授業の到達目標
①文献・資料の内容を理解し、整理し報告する力を身に付ける（保育学科DP1、3）。②学外実習や学外体験（ボランティア活動参加）を振り返りながら、文献・資料と「現場の現実」とを繋げて考察する思考力を身に付ける（可能であれば教育・保育の「現場の現実」を把握できるような体験も行う）（保育学科DP3）。③他者の意見や報告を共有し、自分自身や他者の考えを広げて行ける発言と思考力を身に付ける（保育学科DP1、２、3）。

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
次回の準備学修、および毎回の振り返り（事後学修90分）は、随時必要となる。　各自がそれらの作業を行って参加しないと、総合演習は成り立たないので、強く自覚して参加すること。

評価方法
参加態度（20点）、発言内容（20点）、報告・発表の内容（60点）を合計して100点満点で評価する。ゼミ報告の内容のフィードバックについては、ゼミ内で行います。

教科書	参考図書
特に設定しない。	適宜、指示する。

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
受講要件は、３年ゼミ（総合演習Ⅱ）の履修対象者は、原則的に１年ゼミ（基礎演習）および２年ゼミ（総合演習Ⅰ）を修了した者とする。但し２年ゼミが、やむを得ない事由から単位修得に至らなかった場合に限り、３年ゼミと２年ゼミの同時履修について、特別に認められることがある。オフィスアワー　木曜日昼休み　研究室

01	学外体験の振り返りとレポート課題の報告①
02	学外体験の振り返りとレポート課題の報告②
03	学外体験の振り返りとレポート課題の報告③
04	学外体験の振り返りとレポート課題の報告④
05	卒業研究の構想の検討会①
06	卒業研究の構想の検討会②
07	卒業研究の構想の検討会③
08	卒業研究の構想の検討会④
09	卒業研究の構想の検討会⑤
10	実習体験のカンファレンス①
11	実習体験のカンファレンス②
12	文献購読
13	卒業研究中間報告会に向けた報告①
14	卒業研究中間報告会に向けた報告②
15	卒業研究中間報告会に向けた報告③
16	試験なし

2024年度シラバス

科目名:OH32S2001　総合演習ⅡＢ	担当者:森川 拓也	開講学科等	保育学部 保育学科
		授業形態	演習
免許･資格:		開講時期	後期
		配当学年	3
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	必須

授業概要と方法
教育・保育の実践者として「どんな教育・保育者になりたいのか、どんな実践をしたいのか」を具体的に描きながら、自身の成長を目的とした研究をするための基礎的知識・能力を高めるために行う。それぞれが積極的に調査・分析し、ディスカッションを重ねることを大切にし、卒業研究を進める。

授業の到達目標
①個々の研究テーマ・ゼミの共通課題に主体的に取り組むことができる【DP】
②個々の研究テーマ・ゼミの共通課題についての学びや体験を共有できる【DP】
③個々の研究テーマ・ゼミの共通課題を探求するための知識基礎的な知識・技能・体験を理解し身に付けている【DP】
④学修した知識・技能・体験を用いて、思考し判断し表現できる【DP】

【到達目標と深く関連する学科DP】
◎主体的に学ぼうとする力
○協同的に学び合う力

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
主体的に様々な文献や資料にあたり、報告レポートや配付資料の作成など十分な準備をしておく。学んだことをしっかりと事後学修し、次の報告に生かすようにする。教育・保育の現場において実地調査を行う。

評価方法
フィードバック：レポート・個別課題・報告を適宜評価し、課題点や留意事項などを直接伝える
授業に参加する姿勢・活動（40%）　レポート・課題・提出物・発表（40%）　ゼミへの協力（20%）以上を総合して評価する。

教科書	参考図書
適宜紹介する。	適宜紹介する。

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
受講要件として３年ゼミ（総合演習Ⅱ）の履修対象者は、原則的に１年ゼミ（基礎演習）および２年ゼミ（総合演習Ⅰ）を修了した者とする。但し２年ゼミが、やむを得ない事由から単位修得に至らなかった場合に限り、３年ゼミと２年ゼミの同時履修について、特別に認められることがある。連絡はメール（t-morikawa@ohkagakuen-u.ac.jp）を使用する。

01	履修カルテの振り返り
02	夏季休業中の課題の交流と討議①
03	夏季休業中の課題の交流と討議②
04	研究計画提案・検討①
05	研究計画提案・検討②
06	教育・保育における実践的研究（教材研究）
07	教育・保育における実践的研究（表現的活動）
08	教育・保育における実践的研究（実地見学）
09	研究途中経過報告・分析①
10	研究途中経過報告・分析②
11	研究途中経過報告・分析③
12	中間まとめ作成①
13	中間まとめ作成②
14	個別研究報告・指導①
15	個別研究報告・指導②
16	総括と今後の研究の進め方の確認

2024年度シラバス

科目名:0H32S2001　総合演習ⅡＢ	担当者:小柳津 和博	開講学科等	保育学部 保育学科
		授業形態	演習
免許･資格:		開講時期	後期
		配当学年	3
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	必須

授業概要と方法
卒業研究に向けて、先行研究の調べ方、論文のまとめ方など論文執筆に必要な基本的事項について学ぶ。その中で特別の支援を必要とする子どもたちへの指導・支援のあり方について検討する。各自の興味・関心を基にした研究活動を通して「子どもから学ぶ姿勢」を身につける。

授業の到達目標
①卒業研究に向けて、論文執筆をする上で必要な知識を身に付ける。[DP]
②体験的な活動の中から、各自の興味・関心をより具体的なものにして卒業研究のテーマを見つける。[DP]
③特別の支援を必要とする子どもへのよりよい指導・支援のあり方を検討する中で「子どもから学ぶ姿勢」を身につける。[DP]

【到達目標と深く関連する学科DP】
◎主体的に学ぼうとする力
○協同的に学び合う力

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
卒業研究に向け、必要に応じて個別指導を行う。その際、各自のテーマに沿って提示する課題に沿って取り組むこと。発表時には自分の考えを正しく相手に伝えられるよう、責任をもって準備を進めてほしい。

評価方法
授業への参加態度（50%）、課題（20%）、テーマ登録・中間発表資料（30%）により総合的に評価する。
各課題の後で対面もしくはメールでフィードバックを行う。

教科書 プリント資料	参考図書 幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領、小学校学習指導要領

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
　すべての子どもにとって理解しやすい（ユニバーサルデザイン）指導・支援ができるよう、特別の支援を必要とする子どもたちへの学びのあり方について、ゼミの仲間と共に考えましょう。初回授業時にオフィスアワーや連絡先を伝えます。３年ゼミ（総合演習Ⅱ）の履修対象者は、原則的に１年ゼミ（基礎演習）および２年ゼミ（総合演習Ⅰ）を修了したものとします。但し、２年ゼミがやむを得ない事由から単位習得に至らなかった場合に限り、３年ゼミと２年ゼミの同時履修について特別に認められることがあります。

01	ガイダンス、夏休みの研究課題の発表、３年前期学びのカルテ振り返り
02	合同ゼミ　卒業研究について、就職活動について
03	卒業研究のテーマ再検討
04	院内保育所、特別支援学校施設内教育　見学
05	インクルーシブ保育施設保育補助　特別支援学校学習指導補助　体験
06	インクルーシブ保育施設保育補助　特別支援学校学習指導補助　体験
07	論文のまとめ方に関する解説（担当教員の論文をもとに構成について学ぶ）
08	卒業研究の目的を深める
09	卒業研究の方法を深める
10	卒業研究の方向性確認（テーマ、目的、方法、参考資料、現段階での進捗状況）
11	テーマ登録・中間発表に向けた準備①（資料作成）
12	テーマ登録・中間発表に向けた準備②（資料作成）
13	中間発表会の練習①
14	中間発表会の練習②　１年間の振り返り
15	中間発表会　発表
16	なし

科目名:0H32S2001　総合演習ⅡＢ	担当者:松永 康史	開講学科等	保育学部 保育学科
		授業形態	演習
免許･資格:		開講時期	後期
		配当学年	3
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	必須

授業概要と方法
　教育・保育現場に出た時、向き合う子どもの発言や行動をどのように理解し、授業づくりを進めていくのか検討し、学びます。これまでの先行研究や先人の実践記録、資料、文献をもとに議論、考察する中で、各自の卒業論文のテーマを見つけていきます。見つけたテーマに対して、どのように研究を進めていくのか具体的な計画を立て、進めていく。

授業の到達目標
　自分自身の被教育体験も振り返りながら、資料・文献を読み、報告・議論し、事象や手立てなど深く考察する力を養う【DP】。卒業研究中間報告に向けて、テーマを設定し、計画、主体的に研究に取り組むことができる【DP】。

【到達目標と深く関連する学科DP】
◎主体的に学ぼうとする力
○協同的に学び合う力

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
　資料や文献を読み、議論する際は、事前にレジュメを作成するなど準備が必要です。考察、議論後は、研究テーマについて再考し、中間発表に向けて具体的に資料を作成してください。

評価方法
授業への参加態度（発言・報告・活動）50%、中間発表に向けての研究で50%
フィードバック：課題の特徴的な見解や解説は、授業時に適宜行う。

教科書	参考図書
適宜紹介します。	適宜紹介します。

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
　教育現場や学外施設への参観が可能な場合は連絡しますので、参加してください。参観について日時未定のため、授業計画が入れ替わることもあります。３年ゼミ（総合演習Ⅱ）の履修対象者は、原則的に１年ゼミ（基礎演習）および２年ゼミ（総合演習Ⅰ）を修了した者とする。但し２年ゼミが、やむを得ない事由から単位修得に至らなかった場合に限り、３年ゼミと２年ゼミの同時履修について、特別に認められることがある。オフィスアワー木曜昼休み。

01	卒業論文に関する進め方
02	教職履修カルテの振り返り
03	資料・文献講読とディスカッション
04	資料・文献講読とディスカッション
05	資料・文献講読とディスカッション
06	個別研究報告と研究・指導①
07	個別研究報告と研究・指導②
08	個別研究報告と研究・指導③
09	個別研究報告と研究・指導④
10	個別研究報告と研究・指導⑤
11	芸術鑑賞
12	個別研究報告と研究・指導
13	卒業研究中間発表と今後の研究に向けて①・経過報告
14	学外研修
15	卒業研究中間発表と今後の研究に向けて②・まとめ
16	

科目名:OH32S2001　総合演習ⅡＢ	担当者:五十嵐 睦美	開講学科等	保育学部 保育学科
		授業形態	演習
免許･資格:		開講時期	後期
		配当学年	3
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	必須

授業概要と方法
総合演習ⅡAで培った研究の執筆方法を基に、子どもの音楽的表現や指導法などを含めた個別の研究テーマに沿って調査し、ICT機器を活用しながら分析を行う。また、子育て支援室や親子コンサート、保育現場での表現活動への参加を通して、教育者・保育者に求められる表現力を身につける。【AL】

授業の到達目標
①研究テーマに沿って実践や調査を進め、多角的に思考する力を身につける。(DP)②子どもの音楽的表現や指導法などに関する研究や実践について、集団中の相互作用によって理解を深める。(DP)③保育所・幼稚園や施設等での表現活動を通して子ども理解を深め、保育者に求められる表現力や実践力を身につける。(DP)

【到達目標と深く関連する学科DP】
◎主体的に学ぼうとする力
○協同的に学び合う力

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
・ディスカッションが中心となるため、各回の話題に沿ってあらかじめ情報収集を行うこと。
・各々の興味関心に沿って、積極的にボランティア活動を行うこと。
・発表を担当する際は責任を持って事前準備を行い、必要な書類は印刷した上で発表に臨むこと。
・欠席・遅刻が5回を超えた場合は受講資格を失うこととする。

評価方法
授業への取り組み（50%）、発表（50%）
課題（発表資料、実践）にはコメントを付して返却、または口頭でフィードバックを行う。

教科書	参考図書
特になし	適宜紹介する

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
常に自分の内面と向き合いながら課題を見つけ、研究テーマに対して根気強く取り組む姿勢を大切にすること。連絡手段については、授業内で開示する。受講要件として３年ゼミ（総合演習Ⅱ）の履修対象者は、原則的に１年ゼミ（基礎演習）および２年ゼミ（総合演習Ⅰ）を修了した者とする。但し２年ゼミが、やむを得ない事由から単位修得に至らなかった場合に限り、３年ゼミと２年ゼミの同時履修について、特別に認められることがある。

01	研究計画の確認
02	夏休み課題の発表（1）
03	夏休み課題の発表（2）
04	先行研究を基にしたディスカッション（表現分野1）
05	先行研究を基にしたディスカッション（表現分野2）
06	先行研究を基にしたディスカッション（表現分野3）
07	研究手法や実践方法の検討（1）
08	研究手法や実践方法の検討（2）
09	卒業研究中間発表会に向けたガイダンス
10	プレゼンテーションの準備（1）
11	プレゼンテーション準備（2）
12	プレゼンテーションの準備（3）
13	プレゼンテーションとディスカッション（1）
14	プレゼンテーションとディスカッション（2）
15	プレゼンテーションとディスカッション（3）
16	なし

科目名:0H32S2001　総合演習ⅡＢ	担当者:寺田 泰人	開講学科等	保育学部 保育学科
		授業形態	演習
免許･資格:		開講時期	後期
		配当学年	3
受講者制限: 原則として、1年ゼミ(基礎演習)および2年ゼミ（総合演習Ⅰ）を修了した者とする。		単位数	1
		必須.選択	必須

授業概要と方法
この授業では、「子どもの健康・スポーツ」を大きなテーマとして、「乳幼児期および児童期の運動機能発達の理解」とそれを前提とした「教師・保育者の役割」について具体的な教育・保育現場の事例を用いながら考えて行きます。また卒業研究に向けて、文献を読み、各自の教育・保育に関する問題意識を明確にし、その課題を理論的に検討する方法を学び、卒業研究の論文執筆へ具体的な作業を行っていきます。

授業の到達目標
１．個々の研究テーマ・ゼミの共通課題に主体的に取り組むことができる（DP）。
２．個々の研究テーマ・ゼミの共通課題についての学びや体験を共有できる（DP）。
３．個々の研究テーマ・ゼミの共通課題を探求するための知識・技能・体験を理解し、身につけている（DP）。
４．学修した知識・技能・体験を用いて、思考し判断し表現できる（DP）。

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
教育・保育現場でのボランティアに積極的に参加し、自分の興味関心に対して調べる習慣を身につける。またゼミ発表に向けて、文献を読んだり、配布資料を作成するなど、事前準備をしっかりすること。

評価方法
レポート・提出物等80%、ゼミ活動への取り組み状況・授業への参加態度20%を総合的に判断する。
最終授業時に全体向けにフィードバックを行う

教科書	参考図書
適宜、紹介します。	適宜、紹介します。

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
受講要件として3年ゼミ（総合演習Ⅱ）の履修対象者は、原則的に1年ゼミ(基礎演習)および2年ゼミ（総合演習Ⅰ）を修了した者とする。但し2年ゼミが、やむを得ない事由から単位修得に至らなかった場合に限り、3年ゼミと2年ゼミの同時履修について、特別に認められることがある。オフィスアワーは月曜日３・４限。
メールアドレス：y-terada@ohkagakuen-u.ac.jp

01	ガイダンス（学びのカルテの振り返りを含む）
02	卒業研究のテーマの設定と研究デザイン
03	卒業研究に向けた文献レビュー①
04	卒業研究に向けた文献レビュー②
05	卒業研究に向けた文献レビュー③
06	研究文献の講読とレジュメ発表①
07	研究文献の講読とレジュメ発表②
08	研究文献の講読とレジュメ発表③
09	卒業研究の取り組みに関する指導①
10	卒業研究の取り組みに関する指導②
11	卒業研究の取り組みに関する指導③
12	卒業研究の取り組みに関する指導④
13	卒業研究の取り組みに関する指導⑤
14	卒業研究中間発表①
15	卒業研究中間発表②
16	なし

科目名:0H32S2001　総合演習ⅡＢ	担当者:堀 由里	開講学科等	保育学部 保育学科
		授業形態	演習
免許･資格:		開講時期	後期
		配当学年	3
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	必須

授業概要と方法
保育や幼児教育の現場に出てからも絶えず研究と修養が求められています。そのため、自身の探究すべきテーマを見つけ、調べ、分析し、他者に向けて発表するという一連の学びのプロセスを経験する授業にします（AL)。後期は卒業研究につながるように論文講読から研究計画の立案を中心に行います。研究テーマは人（子ども・保護者・保育者）の心が関連していれば、そして社会的に役に立つものであれば、何でも大丈夫です。

授業の到達目標
1）研究をすることの意味が理解できる（DP）。
2）主体的に問題を発見し、解決するための方法を理解することができる（DP）。
3）他者との協同において適切な社会的スキルを身につけることができる（DP）。

【到達目標と深く関連する学科DP】
◎主体的に学ぼうとする力
○協同的に学び合う力

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
準備学修：共同研究および個人の卒業研究に向けて、先行研究を調べ、まとめる。また、人に伝えることを意識して発表準備をしましょう。
事後学修：他者からもらった意見をもとに再考する癖をつけましょう。

評価方法
授業への主体的・協調的な参加状況（50%）、発表・レポート（50%）
発表・レポートに関しては適宜、授業内でフィードバックを行う。

教科書	参考図書
適宜、資料配布	適宜、紹介

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
個別指導も多くなると思います。教員・仲間とのコミュニケーションを面倒がらず、楽しんでゼミ活動をしましょう。オフィス・アワーや連絡手段については授業内で伝えます。受講要件として３年ゼミ（総合演習Ⅱ）の履修対象者は、原則的に１年ゼミ（基礎演習）および２年ゼミ（総合演習Ⅰ）を修了した者とする。但し２年ゼミが、やむを得ない事由から単位修得に至らなかった場合に限り、３年ゼミと２年ゼミの同時履修について、特別に認められることがある。

01	カルテの振り返り
02	夏休みの課題発表とディスカッション（1）
03	夏休みの課題発表とディスカッション（2）
04	保育環境・保育教材の作成（1）
05	保育環境・保育教材の作成（2）
06	問いをたてる（興味関心を言葉にする）
07	関連する先行研究を紹介する
08	問いの社会的背景・学術的背景についてまとめる
09	研究目的をしぼる
10	目的に即した方法論を検討する
11	行事を体験する（1）
12	行事を体験する（2）
13	行事を体験する（3）
14	中間発表会に向けた準備
15	後期のまとめ
16	なし

科目名:0H32S2001　総合演習ⅡＢ	担当者:小原 倫子	開講学科等	保育学部 保育学科
		授業形態	演習
免許･資格:		開講時期	後期
		配当学年	3
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	必須

授業概要と方法
人間の発達及び、人間を取り巻く様々な環境との関係性について、心理学をベースとした方法論に則って論理的・分析的に考える力を習得することを目的とします。自らが探求したいテーマを見つけ、ゼミの仲間と話し合い、協力してお互いの目標を達成することを通して研究の楽しさを学んでほしいと思います。後期は前期に立てたリサーチクエスチョンを基にデータ収集や分析の手法、研究倫理について学びます。研究計画書としてまとめ、受講生全員による発表とディスカッションを行います。

授業の到達目標
1.研究をすることの意味を理解することができる（DP)
2.主体的に課題を見つけ、科学的な手法で解決するためのスキルを身につける（DP)
3.ゼミの仲間と話し合い、協力してお互いの目標を達成することを通して専門職連携の基本を身につける（DP)

【到達目標と深く関連する学科DP】
◎主体的に学ぼうとする力
○協同的に学び合う力

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
【準備学修】卒業研究のための研究計画書をまとめ、ゼミでのプレゼン資料を作成する。
【事後学修】他の人のプレゼン資料から自分の研究に参考となる研究の目的や仮説の立て方、データ分析についてまとめ、自らの研究計画書をブラッシュアップする。

評価方法
ゼミの発表及び参加態度（60%）、課題レポート（40%)により総合的に評価します。
フィードバックは、授業時等において、課題等に関して個別あるいは全体講評等を行います。

教科書 使用しない。	参考図書 授業中に指示する。

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
【連絡方法・オフィスアワー】授業で開示する。【資料提示・課題提出】Moodleで受け付ける。【その他】授業に関する積極的な質問や主体的な授業参加を歓迎します。常に疑問や関心を持ちながら受講し、教育や保育にどのように活かせるのかを一緒に考え続けていきましょう。連絡先等の詳細は初回の授業内で伝えます。３年ゼミ（総合演習Ⅱ）の履修対象者は、原則的に１年ゼミ（基礎演習）および２年ゼミ（総合演習Ⅰ）を修了した者とする。但し２年ゼミが、やむを得ない事由から単位修得に至らなかった場合に限り、３年ゼミと２年ゼミの同時履修について、特別に認められることがある。

01	ガイダンス（後期スケジュールの確認及びフィールドワークの計画と準備)
02	夏休みの課題発表とディスカッション(1)
03	夏休みの課題発表とディスカッション(2)
04	フィールドワークの実施（受講生のテーマに関連するフィールドでの観察・調査学修)
05	フィールドワークの振り返り
06	研究倫理に関して各自で調べた資料を基にディスカッション
07	データ収集、データ整理の実習（統計ソフトウェアの操作)
08	データ分析の実習（統計ソフトウェアの操作)
09	データ分析の実習（統計ソフトウェアの操作)
10	問題と目的、仮説、研究方法について先行研究をふまえて検討する
11	卒業研究中間発表会準備(1)
12	卒業研究中間発表会準備(2)
13	卒業研究中間発表会(1)
14	卒業研究中間発表会(2)
15	後期のまとめ、卒業研究に向けての課題
16	なし

2024年度シラバス

科目名:0H32S2001　総合演習ⅡＢ	担当者:武藤 直子	開講学科等	保育学部 保育学科
		授業形態	演習
免許･資格:		開講時期	後期
		配当学年	3
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	必須

授業概要と方法
子どもの生活実態や子どもを取り巻く社会環境に目を向けながら、保育者としての実践力を習得するための学習を行う。理論的な学習とともに、実際に保育体験を行ったり、ディスカッションしたりする中で、卒業研究のテーマを見つける。（AL）

授業の到達目標
保育実践に関連したテーマについて主体的に考える中で、自ら学ぼうとする力を身につける（DP)。ゼミ内で、自分の役割や責任を理解し、互いに力を合わせていくことができる力を身につける（DP)。

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
卒業研究に取り組むために、関心のあるテーマの文献を読む。子どもや子育てに関する情報を積極的に得る。ボランティア活動に積極的に参加する。

評価方法
授業への参加態度（70%）、課題・レポート等の提出物（30%）で評価する。レポートや提出物の評価については、評価の基準内容を第１回目授業に示し、評価して返却する。

教科書 なし	参考図書 必要に応じて適宜紹介する。

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
2年ゼミが、やむを得ない事由から単位取得に至らなかった場合に限り、3年ゼミと2年ゼミの同時履修について特別に認められることがある。

01	ガイダンス、履修カルテの振り返り
02	卒業研究に関する文献学習、ディスカッション
03	卒業研究に関する文献学習、ディスカッション
04	卒業研究の経過発表、ディスカッション
05	卒業研究に関する文献学習、ディスカッション
06	保育所（幼稚園）見学
07	事例研究
08	保育所（幼稚園）見学
09	事例研究
10	卒業研究の経過発表、指導
11	卒業研究の経過発表、指導
12	卒業研究の経過発表、指導
13	卒業研究の経過発表、中間発表会の準備
14	卒業研究の経過発表、中間発表会の準備
15	後期のまとめ
16	

科目名:OH32S2001　総合演習ⅡＢ	担当者:藤井 七瀬	開講学科等	保育学部 保育学科
		授業形態	演習
免許･資格:		開講時期	後期
		配当学年	3
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	必須

授業概要と方法
本ゼミの中心的なテーマは、発達障害（気になる子ども等も含む）の理解およびアセスメント、個に応じた指導法の検討である。卒業研究に向けて、先行研究の調べ方、論文のまとめ方など論文執筆に必要な基本的事項について学ぶ。また、学生同士話し合い議論しながら、特別の支援を必要とする子どもたちへの指導・支援のあり方について検討する。【AL】

授業の到達目標
①卒業研究に向けて、論文執筆をする上で必要な知識を身に付ける。[DP]
②体験的な活動や先行研究の中から、各自の興味・関心をより具体的なものにして卒業研究のテーマを見つける。[DP]
③学生同士話し合い議論しながら、特別の支援を必要とする子どもたちへの指導・支援のあり方について検討する。 [DP]

【到達目標と深く関連する学科DP】
◎主体的に学ぼうとする力
○協同的に学び合う力

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
卒業研究に向け、必要に応じて個別指導を行う。その際、各自のテーマに沿って提示する課題に沿って取り組み、事前に資料を準備し、責任をもって進めてほしい。また、発表の際には、積極的に質問や意見を交わし、議論を深め合ってほしい。

評価方法
ゼミでの発表および対話への参加態度（50%）、各学期の課題レポート（50%）により総合的に評価する。レポートに対して、コメントによるフィードバックを行う。

教科書 なし	参考図書 随時紹介する

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
すべての子どもにとって理解しやすい指導・支援ができるよう、特別の支援を必要とする子どもたちへの学びのあり方について、ゼミの仲間と共に考えましょう。３年ゼミ（総合演習Ⅱ）の履修対象者は、原則的に１年ゼミ（基礎演習）および２年ゼミ（総合演習Ⅰ）を修了したものとします。但し、２年ゼミがやむを得ない事由から単位習得に至らなかった場合に限り、３年ゼミと２年ゼミの同時履修について特別に認められることがあります。
【連絡先】藤井七瀬　fujiin@ohkagakuen-u.ac.jp

01	ガイダンス、夏休みの研究課題の発表、３年前期学びのカルテ振り返り
02	合同ゼミ（就職・卒論ガイダンス）
03	卒業研究のテーマ再検討
04	研究手法の紹介―インタビュー法―
05	研究手法の紹介―アンケートとKJ法―
06	研究手法の紹介―観察法―
07	フィールドワーク（子育て支援室）
08	卒業研究の目的を深める
09	卒業研究の方法を深める
10	卒業研究の方向性確認（テーマ、目的、方法、参考資料、現段階での進捗状況）
11	テーマ登録・中間発表に向けた準備①（資料作成）
12	テーマ登録・中間発表に向けた準備②（資料作成）
13	中間発表会の練習①
14	中間発表会の練習②　１年間の振り返り
15	中間発表会　発表
16	なし

2024年度シラバス

科目名:OH32S2001　総合演習ⅡＢ	担当者:柏倉 秀克	開講学科等	保育学部 保育学科
		授業形態	演習
免許･資格:		開講時期	後期
		配当学年	3
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	必須

授業概要と方法
病気や障害，貧困など特別なニーズがある子どもに対する支援をさまざまな視点から検討します。さらに子どもを取り巻く家族や物的，人的環境のあり方について検討します。

授業の到達目標
①特別なニーズがある子どもたちを見る眼（アセスメント）を身につけることができる。
②人を対象とする研究に主体的に取り組むことができる。【DP】
③ゼミの共通課題について学びや体験を共有することができる。【DP】
④卒業研究に向けた計画書を作成する。

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
仲間とともにさまざまな体験や活動に積極的に参加することが求められます。調査対象となるのは特別なニーズがある子どもたちやその家族，セルフヘルプ・グループ（本人の会や親の会）などです。調査フィールドは統合保育の現場，特別支援学校，児童発達支援センター，母子通園施設，小児医療センターなどを想定しています。

評価方法
出席態度（40%），課題レポート（60%）で総合的に評価します。
授業の最後にフィードバックを行う。フィードバックとして演習内容を各自がプレゼンする。

教科書 使用しない。	参考図書 授業で紹介する。

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
３年ゼミ（総合演習Ⅱ）の履修対象者は、原則的に１年ゼミ（基礎演習）および２年ゼミ（総合演習Ⅰ）を修了した者とする。但し２年ゼミが、やむを得ない事由から単位修得に至らなかった場合に限り、３年ゼミと２年ゼミの同時履修について、特別に認められることがある。
ゼミは学ぶ場であるとともに仲間づくりや思い出作りの場でもあります。さまざまな時間を仲間や教員と共有できる学生を待っています。連絡先：kashiwakura@ohkagakuen-u.ac.jp

01	ガイダンス
02	研究論文の目的と構造
03	研究計画書の作り方
04	研究テーマの設定(1)
05	研究テーマの設定(2)
06	参考文献の検索方法
07	研究方法の基礎：質的研究法
08	研究方法の基礎：量的研究法
09	フィールドワークの準備と振り返り(1)
10	フィールドワークの準備と振り返り(2)
11	研究計画書の作成と発表(1)
12	研究計画書の作成と発表(2)
13	中間発表に向けた準備(1)
14	中間発表に向けた準備(2)
15	後期のまとめ
16	なし

2024年度シラバス

科目名:OH32S2001　総合演習ⅡＢ	担当者:嶋守 さやか	開講学科等	保育学部 保育学科
		授業形態	演習
免許･資格:		開講時期	後期
		配当学年	3
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	必須

授業概要と方法
　卒業研究内容についてのグループディスカッションを行い、卒業論文執筆方法等を理解する。また、教育実習の事後学習として、てあそびブックと絵本ブックを作成する。子どもと野外遊びの実際を理解する。

授業の到達目標
　卒業研究中間発表レジュメを作成する。子どもと野外遊びの企画・運営をする（DP◎○）。

【到達目標と深く関連する学科DP】
◎主体的に学ぼうとする力
○協同的に学び合う力

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
　卒業研究中間発表に向けて、各自、文献研究、調査を実施しましょう。わからないところは、積極的に個人的に相談すること。

評価方法
　卒業研究内容についての学修レポート90％　グループワーク・グループディスカッションによるプレゼンテーション10％にて評価を行います。評価については提出されたレポートに評点を付けて返却します。

教科書	参考図書
適宜、指示します。	適宜、指示します。

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
　３年ゼミ（総合演習Ⅱ）の履修対象者は、原則的に１年ゼミ（基礎演習）および２年ゼミ（総合演習Ⅰ）を修了した者とする。但し２年ゼミが、やむを得ない事由から単位修得に至らなかった場合に限り、３年ゼミと２年ゼミの同時履修について、特別に認められることがある。オフィスアワーは毎週金曜日のお昼休みとします。

01	総合演習ⅡB（後期）の目標・予定の確認
02	３年前期の教職履修カルテの振り返り
03	卒業研究内容についての映像による学修①
04	卒業研究内容についての映像による学修②
05	卒業研究内容についての映像による学修③
06	卒業研究内容についての映像による学修レポート作成
07	卒業研究内容についての映像による学修についてのプレゼンテーション
08	卒業研究内容についての論文講読と所感レポート作成①
09	卒業研究内容についての論文講読と所感レポート作成②
10	卒業研究内容についての論文講読と所感レポートのプレゼンテーション①
11	卒業研究内容についての論文講読と所感レポートのプレゼンテーション②
12	卒業研究中間発表に向けて、ゼミ内発表とグループディスカッション①
13	卒業研究中間発表に向けて、ゼミ内発表とグループディスカッション②
14	卒業研究中間発表会のリハーサル①
15	卒業研究中間発表会のリハーサル②
16	なし

2024年度シラバス

科目名:OH32S2001　総合演習ⅡＢ	担当者:内田 将平	開講学科等	保育学部 保育学科
		授業形態	演習
免許･資格:		開講時期	後期
		配当学年	3
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	必須

授業概要と方法
　本ゼミは、教育方法学やカリキュラムをめぐる問題について見識を深めることを目標としています。またそれを基盤に、1・2年次の学習を振り返り、各自の関心に基づき、先行研究を収集し考察する中で、卒業研究のテーマを決めていきます。そして研究発表と討議を重ねる中で、各自の問題意識をより明確していき研究テーマを焦点化していきます。

授業の到達目標
①教育・保育に関する情報を収集・選択する力を身につける(DP)。
②収集した情報を適切にまとめる力を身につける。
③まとめた情報を伝わりやすく発信する力を身につける(DP)。
④①～③を繰り返し、各自の卒業論文テーマを決める。
⑤卒業論文執筆の準備をする。

【到達目標と深く関連する学科DP】
◎主体的に学ぼうとする力
○協同的に学び合う力

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
発表の順番が回ってきた時には、リハーサルをするなど各自十分に準備し、責任をもって行ってください（準備学修）。
MoodleやTeams上に蓄積された学習成果をもとに、積極的に振り返り活動を行うようにしてください（事後学修）。

評価方法
授業への参加態度50％、研究発表50％で総合評価します。授業への参加態度には、コメントシートの記入が含まれています。これは他者の発表内容・態度や討議内の自己の質問内容を評価するためのものです。毎回、内田がコメントを付して返却します(FB)。

教科書	参考図書
使用しない。	講義内で適宜指示をする。

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
　受講要件として３年ゼミ（総合演習Ⅱ）の履修対象者は、原則的に１年ゼミ（基礎演習）および２年ゼミ（総合演習Ⅰ）を修了した者とする。但し２年ゼミが、やむを得ない事由から単位修得に至らなかった場合に限り、３年ゼミと２年ゼミの同時履修について特別に認められることがあります。オフィスアワーや連絡先は初回講義の際に伝えます。

01	ガイダンス（前期ゼミ活動の振り返りと後期スケジュールの確認）
02	研究関心領域の確認と研究テーマの選定（研究計画書の作成）
03	卒業研究の経過発表と指導⑴：Aグループ1回目
04	卒業研究の経過発表と指導⑵：Bグループ1回目
05	卒業研究の経過発表と指導⑶：Cグループ1回目
06	卒業研究の経過発表と指導⑷：Aグループ2回目
07	卒業研究の経過発表と指導⑸：Bグループ2回目
08	卒業研究の経過発表と指導⑹：Cグループ2回目
09	卒業研究の経過発表と指導⑺：Aグループ3回目
10	卒業研究の経過発表と指導⑻：Bグループ3回目
11	卒業研究の経過発表と指導⑼：Cグループ3回目
12	卒業研究の経過発表と指導⑽：Aグループ4回目
13	卒業研究の経過発表と指導⑾：Bグループ4回目
14	卒業研究の経過発表と指導⑿：Cグループ4回目
15	リフレクション
16	なし

科目名:OH21S0001　子ども家庭福祉Ⅱ	担当者:新沼 英明	開講学科等	保育学部 保育学科
		授業形態	講義
免許･資格:		開講時期	前期
		配当学年	2
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	選択

授業概要と方法
　子ども家庭福祉Ⅱでは、主に児童虐待に関する内容を取り扱う。子ども家庭福祉や社会的養護Ⅰなどで学んだ児童虐待の基礎知識を踏まえながら、問題の背景や支援現場の実際について、より深く切り込んでいく。講義及び事例を用いたグループディスカッション（またはクラスディスカッション）を組み合わせながら、参加型の授業を進めていく。【AL】
【担当者の実務経験】児童心理治療施設・児童養護施設職員
　実際の事例（一部編集）に触れながら、子ども虐待問題の深刻さと専門職の役割、責任について考察する。

授業の到達目標
児童虐待の背景や子どもへの影響について説明できる。（DP）
子ども家庭が抱える複合的な困難を読み解くためのアセスメントについて説明できる。（DP）
虐待の世代間連鎖を防ぐための子ども家庭に対する支援を理解できる。（DP）

【到達目標と深く関連する学科DP】
◎知識・技能
○思考力・判断力・表現力

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
・授業中にとったノートを見返し、授業内容を振り返るとともに、メモの修正や補足を加えることで知識の定着を図る。また、その過程で生じた疑問点をノートにまとめておく。
・提示された事例について、事象の背景や対応方法を検討し、具体的にノートにまとめる。
・事例検討時の自己を振り返り、自身の行動、考え、感情等を整理してノートにまとめる。
・授業内容については批判的に吟味し、考察を行った上で、疑問点については次回授業日に質問ができるように整理しておく。

評価方法
　確認テスト：60%、ミニレポート：20%、授業への参加姿勢（コメントシート、発言、態度など）：20%
　授業後、コメントシート、メールなどで寄せられた質問や疑問については、翌授業日または第8回まとめにてフィードバックする。

教科書	参考図書
担当者作成のレジュメ・資料を用いて授業を行う。	保育所保育指針および幼保連携型認定こども園教育・保育要領

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
　ノート（ルーズリーフ可）を持参すること。講義内容は丁寧にノートをとるよりも、「素早くメモをとる」ことを心がける。質問等は授業後、またはコメントシート、メールでも受け付ける。

01	オリエンテーション
02	事例①：子どもの問題行動（グループディスカッション）
03	事例②：ひとり親家庭の貧困（グループディスカッション）
04	虐待の世代間連鎖
05	ジェノグラムを用いたアセスメント
06	児童虐待に対応する専門機関の実際
07	虐待から子どもと家族を守る保育者の資質
08	まとめと確認テスト

科目名:OH22S0001　子ども家庭支援論	担当者:武藤 直子	開講学科等	保育学部 保育学科
		授業形態	講義
免許･資格:保育士資格		開講時期	後期
		配当学年	2
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	必須

授業概要と方法
【担当者の実務経験】保育士・保育園長
具体的な事例検討を行い、子育て家庭の支援の在り方を学び理解を深め実践力を高めていく（AL）。子育て家庭を取り巻く様々な問題や課題を抱えている子育て家庭の現状把握と支援策を学びながら、保育所や地域の子育て家庭のニーズや社会的課題を踏まえた支援ができるよう理解を深めていく。

授業の到達目標
①子育て家庭を取り巻く現状を把握し、子ども家庭支援の意義と保育者の役割について理解する（DP）。②子育て家庭の支援体制について理解する（DP）。③子育て家庭のニーズに応じた多様な支援の展開と保育所や地域との連携について理解する（DP）。

【到達目標と深く関連する学科DP】◎知識・技能　○思考力・判断力・表現力

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
子どもを取り巻く状況に関心を持ち、子育て家庭の実態と課題を把握し、子育て支援に関連する専門職として必要な知識について自らの学びを確認しながら、授業内容を幅広い知識をもって学ぶようにする。予習復習をして、教科書に記された大切な用語等を理解し覚えておく事。居住地の子育て家庭の状況や支援対策を知っておくこと。子育て支援センター等に出向き、親子のかかわり方を観察したり、保護者の子育て観や子育ての悩みを聞き、子育て支援についての学びを深めること。

評価方法
筆記試験（８０％）、授業への参加態度・レポート・提出物（２０％）。フィードバックは毎回の授業ノートに学び、内容や質問を記載する。筆記試験は希望者に開示、それ以外のレポートや提出物の評価については、評価の基準内容を第１回目授業に示し、評価して返却する。

教科書	参考図書
学ぶ・わかる・みえる　保育と子ども家庭支援論　第2版（編）石動瑞代　（みらい）	保育所保育指針解説、　幼稚園教育要領解説、　幼保連携型認定子ども園教育・保育要領解説

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
新聞等の報道による子育て家庭に関連した記事に関心を持ち、子育て家庭の現状をより理解するよう努めましょう。自身のワークライフバランスを考えた時にどのような支援が必要か考えてみましょう。　連絡はメールで行います。研究室740２。

01	授業概要及び評価方法等の説明、子ども家庭支援とは
02	子どもと家庭を取り巻く環境
03	保育者が実践する子ども家庭支援①基本的な考え方・視点
04	保育者が実践する子ども家庭支援②保育者の専門性を生かした支援
05	子育て家庭を支える法・制度・社会資源
06	保育者に求められる基本的態度・技術
07	保育者が行う子ども家庭支援の実際①保育所の特性
08	保育者が行う子ども家庭支援の実際②具体的な保育場面
09	地域の子育て家庭への支援
10	さまざまな子ども家庭の理解と支援
11	不適切な養育環境の子どもやその家庭への支援
12	発達障害児等の理解と家庭への支援
13	子どもの貧困の理解と家庭への支援
14	ソーシャルワーク・小学校との接続
15	まとめ・今後の課題と保育者としての支援の在り方
16	定期試験

2024年度シラバス

科目名:OH21S0002　社会的養護Ⅰ	担当者:小尾 康友	開講学科等	保育学部 保育学科
		授業形態	講義
免許･資格:保育士資格		開講時期	前期
		配当学年	2
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	必須

授業概要と方法
近年、児童虐待事件がメディアにも大きく取り上げられ、重要な社会問題として注目されている。社会的養護の意義はより一層高まっているが、課題も多く残っている。本講義では、社会的養護に関する基礎知識を学びながら、地域支援・子育て環境の現状と課題について検討、考察していく。
講義（パワーポイント使用）を中心とするが、クラス内で意見交換を行うことで理解を深めると共に考える力を養っていく。【AL】
【担当者の実務経験】児童心理治療施設・児童養護施設職員・地域支援・居場所事業等
　子ども・家族への支援の実際や直面している課題について触れながら、実践的な考察を行う。

授業の到達目標
社会的養護に関する基礎知識を習得する。(DP)
児童虐待やその他の困難に直面する子ども・家族の実態や課題について理解する。(DP)
子どもや家族への支援の在り方や課題について多角的に理解する。(DP)

【到達目標と深く関連する学科DP】◎知識・技能　○思考力 判断力 表現力

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
各自、配布資料を用いて自己学習し、基礎知識の習得に努力すること。また、児童関連の文献やネット・メディアなどで学生自身で情報収集を心がける。
特に「児童虐待」「愛着：アタッチメント」「発達障害」についての情報、基礎知識を頭に入れておくと授業内容の理解と考察がより一層深まる。

評価方法
確認テスト：60%　レポート：20%　授業への参加姿勢（コメントシート、発言、態度など）：20%
授業後、コメントシートなどで出た質問や疑問については、翌授業または第14回総括にてフィードバックする。

教科書	参考図書
なし（必要に応じてプリントを配布する）	保育所保育指針

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
質問などは授業前後またはメールにて受け付ける。

01	オリエンテーション（社会的養護とは）
02	児童福祉法の理解
03	児童虐待の現状と課題
04	治療的養育の理解（援助技術）
05	対人援助技術（子どもへの関わり方）
06	アセスメント（ジェノグラム）
07	アセスメント（問題行動の背景）
08	児童養護施設の現状と課題
09	家庭養護（地域支援、セーフティネットワークの必要性）
10	家庭養護（里親支援の理解）
11	施設養護（各機関の理解①）
12	施設養護（各機関の理解②）
13	施設養護（各機関の理解③）
14	総括（リフレクション、フィードバック）
15	まとめと確認テスト
16	試験なし

科目名:OH22S0002　社会的養護Ⅱ	担当者:上田　一稔	開講学科等	保育学部 保育学科
		授業形態	演習
免許･資格:保育士資格		開講時期	後期
		配当学年	2
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	選択

授業概要と方法
　本授業は保育学部の教育・保育の本質・目的に関する科目に配置された専門教育科目であり、子どもを社会的に養護していくための知識や技術について学修する。具体的には施設養護と家庭養護の特性把握、個々の子どもに応じた支援計画の作成、日常生活支援・心理的支援・自立支援の方法を理解し、保育者としての支援力を習得する。授業は毎回演習方式で少人数のグループを作り、各事例に対してグループワークを行う(AL)。

授業の到達目標
１．社会的養護における子どもの権利擁護について理解する。
２．施設養護および家庭養護の役割や機能について理解する(DP)。
３．個々の子どもに応じた個別支援計画書の作成の意味と留意点を理解する(DP)。
４．社会的養護における保育士の専門性を学び、支援者としての援助実践力を身につける(DP)。

【到達目標と深く関連する学科DP】
○自主的、主体的に学び学習する力。
◎専門的な知識・技術、思考力、判断力を身につける力。

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
　社会的に養護を必要とする子どもを支援する保育者は、適切な支援および技術を習得する必要がある。したがって、社会的養護に関連する文献(虐待・障害・貧困等)を読み、児童福祉施設でのボランティア活動および見学(1回4時間程度)を行うなどして研鑽することを推奨する。

評価方法
確認テスト(40%)、授業への参加態度(30%)、レポート(30%)により総合的に評価する。
レポートは提出期限後に模範解答を示し、授業時の演習問題は毎回参考解答を示し解説する。
最終授業時に全8回のフィードバックを行う。

教科書	参考図書
授業時に資料配布するため、教科書は指定しない。適宜参考文献等を紹介する。 保育所保育士指針、幼保連携型子ども園。保育要領。	保育所保育指針。

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
　日頃から子どもを取り巻く報道(虐待・障害・貧困等)に関心を寄せ、自分の見解を持ち、授業時に発表できるようにする。授業後30分をオフィスアワーとする。連絡先は授業で開示する。

01	オリエンテーション・子どもの権利擁護
02	施設養護の特性および実際①(乳児院・児童養護施設・母子生活支援施設)
03	施設養護の特性および実際②(障害児施設・児童自立支援施設・児童心理治療施設)
04	家庭養護の特性および実際
05	社会的養護の内容(日常生活支援・心理的支援・自立支援)
06	個別支援計画の作成(自立支援計画、障害児支援計画)・記録および自己評価
07	社会的養護における保育士の専門性および相談援助の知識と技術の実践
08	社会的養護の課題および展望・確認テスト
09	
10	
11	
12	
13	
14	
15	
16	

科目名:OH21S0003　教育職論	担当者:青山 佳代	開講学科等	保育学部 保育学科
		授業形態	講義
免許・資格:小学校教諭1種免許状		開講時期	前期
		配当学年	2
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	必須

授業概要と方法
「教育職とは何か」について、望ましい教育者像を多面的に考察しながら、教職の意義、教師の役割と責任などから学ぶ。教育職についての基本的な知識を身につけ、学校や子どもに関する課題を発見し、クラスメイトの意見に耳を傾け、教育職について幅広い視野を獲得する。

授業の到達目標
教師の仕事の本質と実際について理解する（チーム学校運営への対応も含む）。
◎教師の仕事、役割について理解する【DP】。
◎日本における教職の歴史について理解できるようになる【DP】。
◎教職をめぐる法律について理解できるようになる【DP】。
○自らの教育者像について他者に語ることができるようになる【DP】。

【到達目標と深く関連する学科DP】
◎知識・技能
○思考力・判断力・表現力

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
テキストを読んで事前学習をしておくことが望ましい。教育職を取り巻く社会情勢について、日ごろから新聞やインターネットから情報を得ておくことが望ましい。どのような教育者になるべきか、自分の教育者像について語れるようになっておくことが望ましい（教育者像は学習や実習によって変化するので、アップデートしておくこと）。

評価方法
授業内小レポート（毎回）45%、確認テスト（第15回）55%
フィードバックは、授業時等において、課題等に関して個別あるいは全体講評等を行う。

教科書	参考図書
津田徹／広岡義之編著（2021）『教職論』（ミネルヴァ教職専門シリーズ３）、ミネルヴァ書房	小学校学習指導要領、幼稚園教育要領（平成29年告示）、生徒指導提要（平成４）

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
特にありませんが、他人が不愉快になる態度・行為は控えましょう。
なお、授業担当者との連絡手段（メールアドレス）については授業内で伝えます。

01	教職の意義と教師に求められる資質・能力（ガイダンス）
02	教員の研修および教員の任免と服務
03	教師の仕事
04	校務分掌と教員組織
05	学校に関わりを持つ人々ーチームとしての学校ー
06	学校と学童保育
07	わが国の教職の歴史
08	現代の教育課題①ー子どもの貧困
09	特別支援教育
10	小学校での学習
11	現代の教育課題②ー多様性を受け入れる教育（グローバル、ジェンダー）
12	学校安全と安全教育
13	教員に求められる事務能力
14	教育の担い手ー専門性と専門職性ー
15	自らの教育者像について考える（まとめと確認テスト）
16	試験なし

科目名:OH21S0101　子ども理解の理論と方法	担当者:小原 倫子	開講学科等	保育学部 保育学科
		授業形態	演習
免許･資格:幼稚園1種免許状・保育士資格		開講時期	前期
		配当学年	2
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	必須

授業概要と方法
子ども理解についての考え方や基礎的態度を理解し、教育、保育の場における実践方法を具体的に学びます。特に、一般化された発達理論を参照枠として、個々の事例に基づいた臨床的視点から発達を学ぶことで、子どもの日常的文脈に即した子ども理解を目指します。授業方法は視覚資料を使用し、一斉授業及び幼児のVTR資料を用いたグループ・ワークを行います。【AL】

授業の到達目標
① 子ども理解の意義を理解している（DP）
② 子ども理解から発達や学びを捉える原理を理解している（DP）
③ 子ども理解を深めるための教師、保育者の基礎的な態度を理解している（DP）
④ 子ども理解の意義や原理、基礎的な態度を理解したうえで、教育、保育の場における実践的な課題解決に取り組むことができるようになる（DP）

【到達目標と深く関連する学科DP】
◎知識・技能
○思考力・判断力・表現力

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
【準備学習】あらかじめMoodleにアップされている配布資料を読み、疑問点を確認し、自ら調べ、考えた内容を記録する。（2時間）
【事後学習】Moodleを通して各授業ごとの課題を提出するとともに、理解が不十分な点を教員に確認し、自ら調べてまとめなおす。（2時間）

評価方法
確認テスト（70%）、授業参加態度（30%）により総合的に評価する。授業において提示した課題（試験、レポート）に対しては、最終授業時に全体向けにフィードバックを行う。

教科書
松本峰雄監修　(2021) 子どもの理解と援助演習ブック　ミネルヴァ書房

参考図書
保育所保育指針及び解説（平成29年告示板）、幼稚園教育要領及び解説、幼保連携型認定こども園教育・保育要領及び解説（平成29年告示板）。

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
連絡方法・オフィスアワー】授業で開示する。【資料提示・課題提出】Moodleで受け付ける。【その他】授業に関する積極的な質問や主体的な授業参加を歓迎します。常に疑問や関心を持ちながら受講し、教育や保育にどのように活かせるのかを一緒に考え続けていきましょう。

01	保育・教育における子ども理解の意義
02	子どもに対する関わりと共感的理解
03	子どもの生活や遊び
04	保育における人的環境としての保育者と子どもの発達
05	子ども相互の関わりと関係づくり
06	集団における経験と育ち
07	発達における葛藤やつまずき
08	保育の環境の理解と構成
09	子ども理解のための観察・記録・省察・評価(VTR資料を用いたグループワークとグループ発表)
10	発達の課題に応じた援助と関わり
11	特別な配慮を必要とする子どもの理解と援助
12	子ども理解を育てるための園内研修（園内研修のグループワーク実践)
13	保護者との連携と理解
14	事例を通して幼児理解とその他対応を学ぶ
15	確認テストおよび解説とフィードバック、まとめ
16	試験なし

科目名:OH21S0102　特別支援基礎論	担当者:小柳津 和博	開講学科等	保育学部 保育学科
		授業形態	講義
免許･資格:幼稚園・小学校教諭1種免許状・保育士資格		開講時期	前期
		配当学年	2
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	必須

授業概要と方法
様々な障害等により特別の支援を必要とする幼児、児童が生きる力を身に付けていくことができるような支援方法について学ぶ。幼児、児童の学習上又は生活上の困難を理解し、個別の教育的ニーズに対して、他の教員や関係機関と連携しながら組織的に対応していくために必要な知識・支援方法について学ぶ。

授業の到達目標
①インクルーシブ教育システムを含めた特別支援教育に関する制度の理念や仕組みを理解する。[DP]
②発達障害をはじめとする特別の支援を必要とする幼児、児童の心身の発達、心理的特性及び学習の過程を理解する。[DP]
③視覚障害・聴覚障害・知的障害・肢体不自由・病弱等を含む様々な障害のある幼児、児童及び生徒の学習上又は生活上の困難について基礎的な知識を身に付ける。[DP]
④母国語や貧困の問題等により特別の教育的ニーズのある幼児、児童及び生徒の学習上又は生活上の困難や組織的な対応の必要性を理解する。[DP]

【到達目標と深く関連する学科DP】
◎知識・技能
○思考力・判断力・表現力

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
教科書を読み、授業内容について予習をする。
障害のある子どもに係わるテレビや新聞・ネットの記事などに普段から着目するようにしていくこと。

評価方法
試験（60%）、授業への参加態度（40%）、により総合的に評価する。
授業に関する意見・質問およびテストについて、毎回のコメントシートおよび最終授業にてフィードバックを行う。

教科書	参考図書
特別の支援を必要とする子どもの理解―共に育つ保育を目指して―（勝浦眞仁編著、ナカニシヤ出版）	保育所保育指針、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領、小学校学習指導要領

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
教師を目指す学生は、特別の支援を必要とする子どもの基礎的な理解を深め、インクルーシブ教育システム構築を担うための理解を深めてほしい。
連絡先：oyaizu@ohkagakuen-u.ac.jp

01	オリエンテーション、障害とは、特別支援教育（インクルーシブ教育システム）の理念、仕組み、課題
02	発達障害児の理解（障害の原因・特性、支援の方法）
03	知的障害児の理解（障害の原因・特性、支援の方法）
04	視覚障害児、聴覚障害児の理解（障害の原因・特性、支援の方法）
05	肢体不自由児、病弱児の理解（障害の原因・特性、支援の方法）
06	特別の教育的ニーズのある子どもの理解（外国籍、貧困、性別違和、被虐待、愛着問題）
07	特別支援教育における教育課程（自立活動、通級指導教室）
08	海外の特別支援教育、本講義のまとめ、試験・解説
09	
10	
11	
12	
13	
14	
15	
16	

科目名:OH22S0201　教育課程論	担当者:内田 将平	開講学科等	保育学部 保育学科
		授業形態	講義
免許・資格:小学校教諭1種免許状		開講時期	後期
		配当学年	2
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	必須

授業概要と方法
　この授業科目では、幼稚園および小学校における教育課程の役割や意義について、教育課程の基準となる幼稚園教育要領や小学校学習指導要領の歴史的変遷や現行要領の特徴である主体的・対話的で深い学びの実現について講義する。MoodleやTeamsを活用した相互意見交流の機会を設ける【AL】。また本授業では、適宜、講義内容をオンデマンド配信し見逃すことがないように努める。さらに毎回の講義の冒頭で前回の復習を行う。

授業の到達目標
①教育課程編成の意義と役割を理解する(DP)。
②幼稚園教育要領の変遷と役割を理解する。
③小学校学習指導要領の変遷と役割を理解する。
④カリキュラム・マネジメントの意義と方法を理解する(DP)。

【到達目標と深く関連する学科DP】
◎知識・技能
○思考力・判断力・表現力

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
　日頃から保育・教育に関する新聞（ネットニュースを含む）スクラップ等を行い、各自の興味関心のある分野の情報収集を行うようにしてください。またグループディスカッションに参加する際には、事前に必ず講義動画を視聴し基礎的な学習内容を各自で把握するだけでなく、予習課題にも取り組み、フォーマットに則り資料を作成してきてください。グループディスカッションでは、相互に意見交流する活動を通して、異なる考え方に触れ、視野を広めるように努めてください。

評価方法
授業への取り組み・意欲 40%　確認テスト 60%
最終授業時に全体向けにフィードバックを行う。
※確認テスト実施日に欠席した場合は、各回(2~14回)のノートテイクをzipファイル形式でまとめて提出してもらいます。そのうえで確認テストと同等のレポート課題を課します。

教科書	参考図書
特に使用しない。	幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領、小学校学習指導要領及びそれらの解説。その他、講義内で適宜指示をする。

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
　MoodleやTeams等を活用した授業資料や課題の提示、相互意見交流の機会を設けます。講義にはPCが必携です。オフィスアワーや連絡先は初回講義で伝えます。

01	オリエンテーション
02	教育課程の基礎知識と教育課程行政
03	幼稚園教育要領の位置づけと歴史的変遷
04	小学校学習指導要領の位置づけと歴史的変遷
05	学校におけるカリキュラム編成
06	授業者によるカリキュラム編成と授業づくり
07	カリキュラム評価とカリキュラム・マネジメント
08	子どもとともにつくる授業
09	ヒドゥンカリキュラムとアンチバイアスカリキュラム
10	「経験」としてのカリキュラム
11	特色ある幼稚園づくりと教育課程編成の実際
12	幼小接続期のカリキュラム
13	諸外国の教育課程①：イタリア
14	諸外国の教育課程②：ドイツ
15	確認テストおよび解説とフィードバック
16	試験なし

2024年度シラバス

科目名:OH22S0202　保育内容指導法（人間関係）	担当者:青山 裕美	開講学科等	保育学部 保育学科
		授業形態	演習
免許･資格:幼稚園教諭1種免許状・保育士資格		開講時期	後期
		配当学年	2
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	必須

授業概要と方法
【担当者の実務経験】保育園園長　保育士として子ども理解に基づく人間関係の成長発達を考慮した保育実践をし、管理職となってからはその経験を生かし後進の指導に努めた。
保育所保育指針等に示された領域「人間関係」のねらい及び内容について、乳幼児の姿と保育実践とを関連させて理解を深める【AL】。そのうえで、乳幼児の発達にふさわしい主体的・対話的で深い学びを実現する保育を具体的に構想し、実践する方法を身に付ける【AL】。具体的には模擬保育の計画・実践を授業内で取り入れる。

授業の到達目標
1）指針や要領に示された保育・教育の基本を踏まえ、領域「人間関係」のねらい及び内容を理解する（DP）。
2）乳幼児の発達や学びの過程を理解し、領域「人間関係」に関わる具体的な指導場面を想定した保育を構想する方法を身に付ける（DP）。

【到達目標と深く関連する学科DP】
◎主体的に学ぼうとする力
○思考力・判断力・表現力

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
準備学修：発表に向けて必要な資料を収集するなど、グループごとで必要な予習・復習を考え合って、進んで取り組むように心がける。
事後学修：授業内で行った事例検討について再度、他学生の意見も踏まえて考え直す。また授業内で製作した教材の活用方法を考え、実践に向けた練習を行う。

評価方法
授業やグループ活動への参加（30%）、課題・レポート等提出物や発表（30%）、確認テスト（40%）
課題のフィードバックについては、次回の授業日で、課題の中の特徴的な見解や誤解についての解説を行う。

教科書	参考図書
無藤隆監修　(2018)　新訂　事例で学ぶ保育内容　領域　人間関係　萌文書林	「保育所保育指針」、「幼稚園教育要領」、「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
受講生同士のグループ活動において、互いの意見を尊重すること。また、グループ活動に積極的に参加することを心がけ、より深い学びとより良い人間関係づくりに必要な姿勢を自ら学ぶこと。連絡方法については授業内で伝えます。

01	領域「人間関係」の振り返りと保育内容全体像の理解
02	保育者との信頼関係と園生活における安定感を形成する援助の在り方
03	自立心を育む環境構成と援助
04	友達との遊びを楽しむ中で多様な感情を経験し、自他の気持ちに気付く援助の在り方
05	自他の気持ちの違いに気付き、自分の気持ちを調整する力を育む援助の在り方
06	きまりをめぐる様々な幼児の葛藤と援助
07	ルールのある遊びと援助
08	個と集団の育ちを考える
09	協同的な遊びの中で育ち合う長期的な保育の展開を考える
10	幼児にとって意味のある行事のねらいと活動内容を考える
11	小学校との交流活動を考える
12	小学校以降の生活や学習でいかされる力
13	家庭との連携・地域の人との関わりを考える
14	特別に支援が必要な子どもへの援助
15	まとめと確認テスト
16	なし

科目名:OH22S0203　保育内容指導法（表現）	担当者:淺野 卓司、基村 昌代	開講学科等	保育学部 保育学科
		授業形態	演習
免許･資格:幼稚園教諭1種免許状・保育士資格		開講時期	後期
		配当学年	2
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	必須

授業概要と方法
　幼稚園教育要領等の領域「表現」を理解するとともに、主に幼稚園教諭における指導者の立場として音楽・造形等に関する知識を得る。子どもの表現に関する理論を学ぶ。また子どもと豊かに関わり育ちを支えるための表現力を磨き他者と協力して創意工夫することを学ぶ。
　自分が表現するだけでなく、子どもに対してどのように指導を行えばよいのかを授業全体を通して考え、模擬授業ができるまでの技術を身につける。また保育における豊かな感性や表現する力を養い、想像力を豊かにする。

授業の到達目標
授業の到達目標及びテーマ：
(1)教育・保育の専門職として求められる実践内容や方法についての知識や技能、思考力・判断力・表現力を身につけるため、題材に関する視覚的情報（図表、イラスト等）や資料を自ら進んで収集し参考にしながら意欲的に学ぶ（主体的に学ぼうとする力）（DP）
(2)乳幼児の成長発達や実態に応じて、保育における表現活動のねらいを明確にした指導計画について、適切な言葉がけ、意図的な環境の構成などを工夫し立案することができる（思考力・判断力・表現力）（DP)。
(3)他者の模擬授業を踏まえながら指導方法・内容の改善点に気づいて、自らの指導計画における環境構成や指導の流れと比較し、改善点を述べることができる（思考力・判断力・表現力）（DP)。

【到達目標と深く関連する学科DP】
◎主体的に学ぼうとする力
〇思考力・判断力・表現力

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
・保育所保育指針、幼稚園教育要領等の「表現」に関わる解説を読み、要点をまとめておく。
・保育指導計画について、事例を収集しておく。
・模擬保育に必要な教材研究を行っておく。
・模擬保育の反省点をまとめておく。

評価方法
指導計画に関連した教材研究（40%）、指導計画（20%）、授業ノート・模擬保育の振り返り（40%）で評価を行う。

教科書	参考図書
幼稚園教育要領解説・保育所保育指針解説書・幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説 『子どもの姿からはじめる領域・表現』株式会社みらい	

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
教科書は「幼児と表現」と同じものを使用。

01	（担当：基村）ガイダンス、子どもの音楽表現活動１（年齢別音楽的発達、音程感覚、歌唱指導、）
02	（担当：基村）子どもの音楽表現活動２（音や歌から発展する表現活動、リトミック）
03	（担当：基村）子どもの音楽表現活動３（模倣・リズム・ことば遊びなどから発展する表現活動）
04	（担当：基村）五領域の中の表現、ねらい、幼稚園境域の評価、小学校の教科とのつながり
05	（担当：基村）音や音楽による表現活動の立案　※パソコンを持参
06	（担当：基村）指導計画の立て方、作成　※パソコンを持参
07	（担当：基村）模擬授業1（模擬保育　保育者と子どもの立場でロールプレーイング）
08	（担当：基村）模擬授業2（模擬保育　保育者と子どもの立場でロールプレーイング）
09	（担当：淺野）ガイダンス、Microsoft Teamsの確認、紙の帯を使って遊ぶ　※パソコンを持参
10	（担当：淺野）子どもの発達と造形活動 0~2歳児　教科書p.55~62
11	（担当：淺野）子どもの発達と造形活動 3~5歳児 教科書p.62~68
12	（担当：淺野）DVDから学ぶ環境構成（幼児の主体的な活動から造形を考える）※幼稚園教育要領を持参
13	（担当：淺野）指導計画の立て方　教科書p.135~154
14	（担当：淺野）教材研究
15	（担当：淺野）模擬授業1（模擬保育　保育者と子どもの立場でロールプレーイング）
16	（担当：淺野）模擬授業2（模擬保育　保育者と子どもの立場でロールプレーイング）

科目名:OH22S0204　国語科教育法	担当者:森川 拓也	開講学科等	保育学部 保育学科
		授業形態	講義
免許・資格:小学校教諭1種免許状		開講時期	後期
		配当学年	2
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択

授業概要と方法
【担当者の実務経験】小学校教諭
この授業科目では、元小学校教諭としての経験を踏まえ、小学校で国語の授業を行うための具体的指導方法を学ぶ機会を具体的に展開していく。また、小学校における教育活動の心構えや子どもへの支援のあり方について実践的に学べるようにする。

小学校における国語科教育の目標・内容のすべてにわたっての基礎を学んだ上で、国語科の授業を担当するための知識・技能・教材研究の方法・学習指導の方法を具体的に学び、習得します。グループ・ワーク、ディスカッション・発表などを数多く行います。【AL】

授業の到達目標
①国語科教育の目標を理解した上で、言葉を使って「話す」「聞く」「書く」「考える」という力を指導するための授業を構想する力を身につける【DP】
②国語科の授業構想をもとに、子どもに適切に対応しながら授業を展開する実践力を身につける【DP】

【到達目標と深く関連する学科DP】
○知識・技能
◎思考力・判断力・表現力

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
教材を読んで課題を考えておいたり、参考資料を調べたりすること、またそれぞれで教材研究を行うことなどがあります。さらに授業案の作成も課題になります。

評価方法
フィードバック：フィードバック：レポート・課題・模擬授業等を適宜評価し課題点や留意事項などを直接伝える
授業に参加する姿勢・活動（20%）　レポート・課題・提出物・発表（40%）　筆記試験（40%）以上を総合して評価します。

教科書	参考図書
小学校学習指導要領解説　国語編	適宜紹介します。

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
国語辞典が必要です。（電子辞書も可）　　各回に配付する資料は失くさないようにしてください。　連絡先・手段は授業時に伝えます。

01	オリエンテーション（現在の現場で求められる国語の力についての理解）
02	国語科教育の目標と内容（新学習指導要領の理解）の授業への具体化についての理解
03	国語の授業と子どもの学習能力の育成についての理解
04	国語の授業の具体例から学ぶ（授業映像の分析・検討）
05	教材研究から授業づくりへ①　　文学教材をどう読み、どう指導するか（教材研究）【AL】
06	教材研究から授業づくりへ②　　文学教材をどう読み、どう指導するか（発問検討）【AL】
07	教材研究から授業づくりへ③　　文学教材をどう読み、どう指導するか（指導案作成）【AL】
08	模擬授業演習①　実践と振り返り【AL】
09	教材研究から授業づくりへ④　　説明文教材をどう読み、どう指導するか（教材研究）【AL】
10	教材研究から授業づくりへ⑤　　説明文教材をどう読み、どう指導するか（指導案作成）【AL】
11	教材研究から授業づくりへ⑥　　「話すこと・聞くこと」をどう指導するか
12	教材研究から授業づくりへ⑦　　「書くこと」「言語文化」をどう指導するか
13	教材研究から授業づくりへ⑧　　発問検討・指導案作成【AL】
14	模擬授業演習②　実践と振り返り【AL】
15	まとめ
16	筆記試験

2024年度シラバス

科目名:OH22S0205　算数科教育法	担当者:小池 嘉志	開講学科等	保育学部 保育学科
		授業形態	講義
免許・資格:小学校教諭1種免許状		開講時期	後期
		配当学年	2
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択

授業概要と方法
・算数科の各領域における内容を、よい授業を行うという視点でとらえ、指導法を中心に考察する。具体的な教材の扱い方を模擬授業などを通して検討したり、指導のポイントについて考察したりする。 【AL】【担当者の実務経験】小中学校長、指導主事。小学校現場で役立つ実用的な学習内容、学習指導法、子ども理解について学修します。

授業の到達目標
算数科の各領域についての授業を行うことができる。また授業観察を通して、適切に授業を評価する能力を身につけることができる。 （ＤＰ）

【到達目標と深く関連する学科DP】
○知識・技能
◎思考力・判断力・表現力

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
・準備学修として模擬授業の計画を提示するので、授業構想を創ってくるようにしてください。

評価方法
教科書を使用した模擬授業、小テスト、レポート、授業中の発問に関する回答や授業態度などを総合的に評価する。毎回の講義・模擬授業観察のレポート２０％，模擬授業３０％、確認テスト２０％、学期末のレポート２０％、授業中の態度１０％程度。

教科書	参考図書
毎回、プリントを配布する	小学校学習指導要領解説・算数編（東洋館出版社），小学校学習指導要領

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
必ず模擬授業の構想を創り、授業に参加するようにしてください。

01	オリエンテーション：算数を教えるということーわかる仕組みと教え方ー
02	算数授業の基本形としての問題解決的な授業の進め方
03	よりよい授業づくりと指導案，板書計画
04	○つけ法とその実際　－ 机間指導のあり方と実技 －
05	復唱法とその実際　－ 子どもたちの発言の取り上げ方と復唱法のあり方と実技 －
06	示範授業ー発見的追跡法の授業についてー
07	模擬授業（１）　１年：くり下がりのあるひき算
08	模擬授業（２）　２年：ふえたのはいくつ
09	模擬授業（３）　２年：九九を広げて
10	模擬授業（４）　３年：あまりを考えて
11	模擬授業（５）　３年：何倍でしょう
12	模擬授業（６）　４年：何倍になるか考えて
13	模擬授業（７）　５年：速さ
14	模擬授業（８）　６年：面積の公式を使って
15	まとめと確認テスト
16	試験(レポート)

科目名:OH22S0206　生活科教育法	担当者:千種 彰典	開講学科等	保育学部 保育学科
		授業形態	講義
免許・資格:小学校教諭1種免許状		開講時期	後期
		配当学年	2
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	必須

授業概要と方法
　生活科の目標、内容、指導計画・方法等について理解する。授業の資料・テキストを作ったり実践記録を読み合ったりすることで、授業づくりの力を高める。保幼小の連携・接続についても取り上げる。

授業の到達目標
　生活科の目標や内容、活動を充実させるための教師の役割について理解し、授業の設計や指導の基本的な能力を身に付けることができる【DP】。

【到達目標と深く関連する学科DP】
○知識・技能
◎思考力・判断力・表現力

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
・身の回りを見つめ、授業に活用できそうなものを見つけること。
・必要な文献を読んだり参考資料を調べたりすること。

評価方法
試験 60%、課題20%、授業への参加態度20%
フィードバック：個別の課題やグループワークについて適宜評価し、課題点や留意事項などを伝える。

教科書	参考図書
小学校学習指導要領解説　生活編	小学校学習指導要領、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領 、保育所保育指針

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
相談時間は授業内で伝える。

01	生活科授業の実際－教科書の検討
02	生活科の基本的な考え方－保幼小の接続
03	生活科の学習内容（１）遊びを中心に
04	生活科の学習内容（２）自然の観察を中心に
05	生活科の学習内容（３）植物の観察を中心に
06	生活科の学習内容（４）生き物の観察・飼育を中心に
07	生活科の学習内容（５）自己の身体を中心に
08	生活科で使える素材資料づくり（１）遊び①
09	生活科で使える素材資料づくり（２）遊び②
10	生活科で使える素材資料づくり（３）植物の種類や特徴①
11	生活科で使える素材資料づくり（４）植物の種類や特徴②
12	生活科で使うテキストづくり（１）生き物の特徴①
13	生活科で使うテキストづくり（２）生き物の特徴②
14	素材資料・テキストづくりのまとめ
15	生活科指導法の展望と課題
16	筆記試験

科目名:OH22S0207　図画工作科教育法	担当者:淺野 卓司	開講学科等	保育学部 保育学科
		授業形態	講義
免許・資格:小学校教諭1種免許状		開講時期	後期
		配当学年	2
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択

授業概要と方法
　本講は、保育学科のDP及びCPにある、教育・保育に関する専門的な知識・技能等を身につけることを目的とする。小学校図画工作の学習を通して育つ「資質・能力」、教科の特性に応じた「見方・考え方」と〔共通事項〕との関係理解を深める（全7回）。また、子供が主体となり対話的な活動から学習が深まる授業づくりとその模擬授業（全８回)を通して、各学年においてふさわしく展開される授業の指導場面を想定し構想できる方法が身につくようにする。

授業の到達目標
・児童の成長発達や実態に応じて、授業のねらいを明確にした指導計画について、適切な発問や読みやすい板書、意図的な環境の構成などを踏まえて立案することができる（知識・技能）（DP)。
・他者の模擬授業を踏まえながら指導方法・内容の改善点に気づいて、自らの指導計画における環境構成や指導の流れと比較し、改善点を述べることができる（思考力・判断力・表現力）（DP)。
表現や鑑賞活動の展開にふさわしい教材の提示方法について考え、児童にわかりやすい示し方について述べることができる（思考力・判断力・表現力）（DP)。

【到達目標と深く関連する学科DP】
○知識・技能
◎思考力・判断力・表現力

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
・その日の授業で学んだことをMicrosoft TeamsにアップしたPowerPointを使ってまとめる（40時間）。
・授業前に指定された教科書の部分を熟読する（10時間)
・模擬授業に必要な教材研究とその準備を行う（10時間)

評価方法
授業フィードバックを30%、図画工作の指導に関する基礎的な理解については定期試験を行い評価する（50%）。教材研究を10%、模擬授業の振り返りを10%として評価する。

教科書	参考図書
小学校学習指導要領（平成29年3月　文部科学省） 小学校学習指導要領解説　図画工作編（平成29年6月　文部科学省） ※文部科学省HPよりダウンロードできますので、あらたに購入する必要はありません。	

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
・授業においてパソコンを利用し、資料の閲覧を行う。資料提示はMicrosoft Teamsにて行う（キーボードを使った入力に慣れるため、スマートフォンは原則利用しない）。
・欠席が3回を超えた時点で失格とする。ただし実習、出校停止による欠席を含まない。
・連絡先　asano-t@ohkagakuen-u.ac.jp

01	小学校学習指導要領　図画工作の目標と学習領域に関する理解
02	各学年の目標及び内容と「資質・能力」について
03	造形遊びに関する映像事例を使った子供の認識や思考、学力の理解と指導上の留意点について
04	絵や立体・工作に表す活動に関する理解
05	鑑賞教育の目標と内容、〔共通事項〕についての理解
06	他教科の単元と図画工作の題材との連関についての理解（教科書研究）
07	幼児期の表現活動や小学校低学年の生活科等との関連についての理解
08	ICTを利用した授業の展開について（鑑賞教育における活用）
09	指導案の作成と評価に関する基礎的な理解
10	グループによる指導案の検討と作成
11	指導案に基づいた教材研究
12	模擬授業（指導グループ１）
13	模擬授業（指導グループ２）
14	模擬授業（指導グループ３）
15	模擬授業の振り返りと授業評価について
16	定期試験

科目名:OH21S0201　道徳教育の指導法	担当者:松永 康史	開講学科等	保育学部 保育学科
		授業形態	講義
免許・資格:小学校教諭1種免許状		開講時期	前期
		配当学年	2
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	必須

授業概要と方法
【担当者の実務経験】小学校教諭
　本授業では、元小学校教諭の経験を踏まえ、教材研究や授業実践の分析について具体的な検討を行う。また、指導方法の工夫などを学ぶことができるようにする。
　本授業では、「学習指導要領」等を理解し、学校現場において行う道徳科の目標、教育内容、指導法について理解を深める。また、児童の道徳性の発達についての知識をもち、道徳科の授業づくりを検討する。授業づくりにおいては、授業実践例の検討や教材研究を行う。その際、「考え、議論する道徳」を想定した授業づくりの力を養う。授業の最初に道徳の内容項目に関する動画を見て、グループディスカッションを行う【AL】。

授業の到達目標
　道徳の意義や原理を踏まえ、学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育と道徳科の目標、内容、指導計画等を理解し、児童の道徳性の発達をふまえた教材研究や授業実践の分析等を通して、授業づくりの力を身につける【DP】。
【到達目標と深く関連する学科DP】
○知識・技能
◎思考力・判断力・表現力

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
　道徳資料を読むこと、指導案の作成など課題を指示します。

評価方法
試験80%、課題・授業への参加態度（授業振り返りシート）20%
フィードバック：振り返りシートでの質問・課題の特徴的な見解や解説は、次回の授業時に紹介する。

教科書	参考図書
文部科学省『小学校学習指導要領　特別の教科　道徳編』	『小学校学習指導要領』、その他適宜連絡します

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
オフィスアワー木曜昼休み

01	道徳の本質と「考え、議論する」道徳
02	学習指導要領の理解①：学校の教育活動全体における道徳教育
03	学習指導要領の理解②：道徳科
04	日本における道徳教育の歴史
05	子どもの発達と道徳性：コールバーグ等の理論
06	道徳教育に関する授業理論
07	授業実践の事例検討①：低学年
08	授業実践の事例検討②：中学年
09	授業実践の事例検討③：高学年
10	学習指導案の構成と内容、作成手順
11	学習指導案の作成　資料収集と資料分析
12	学習指導の多様な展開①：1時間の授業における指導方法の工夫
13	学習指導の多様な展開②：ICT活用を含む指導方法の工夫
14	道徳教育、道徳科における評価
15	これからの道徳教育に求められる実践的指導力と課題
16	試験

科目名:OH21S0202　教育の方法	担当者:内田 将平	開講学科等	保育学部 保育学科
		授業形態	講義
免許･資格:幼稚園・小学校教諭1種免許状		開講時期	前期
		配当学年	2
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	必須

授業概要と方法
　この授業では、小学校・幼稚園における教育の方法・技術についての講義を行う。その際、適宜、小学校・幼稚園における実践記録を読んだり、実践場面のビデオを見たりする。MoodleやTeamsを活用した相互意見交流の機会を設ける【AL】。また本授業では、適宜、講義内容をオンデマンド配信し見逃すことがないように努める。さらに毎回の講義の冒頭で前回の復習を行う。

授業の到達目標
①幼稚園教育の方法・技術を理解する(DP)。
②小学校との連携についてその方法・技術を理解する(DP)。
③小学校の教育の方法・技術について理解する(DP)。
④教育・保育におけるICTの活用方法を理解する。

【到達目標と深く関連する学科DP】
◎知識・技能
○思考力・判断力・表現力

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
　日頃から保育・教育に関する新聞（ネットニュースを含む）スクラップ等を行い、各自の興味関心のある分野の情報収集を行うようにしてください。またグループディスカッションに参加する際には、事前に必ず講義動画を視聴し基礎的な学習内容を各自で把握するだけでなく、予習課題にも取り組み、フォーマットに則り資料を作成してきてください。グループディスカッションでは、相互に意見交流する活動を通して、異なる考え方に触れ、視野を広めるように努めてください。

評価方法
授業への取り組み・意欲 40%　 確認テスト 60%
最終授業時に全体向けにフィードバックを行う。
※確認テスト実施日に欠席した場合は、各回(2~14回)のノートテイクをzipファイル形式でまとめて提出してもらいます。そのうえで確認テストと同等のレポート課題を課します。

教科書
特に使用しない。

参考図書
幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領、小学校学習指導要領及びそれらの解説。その他、講義内で適宜指示をする。

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
　MoodleやTeams等を活用した授業資料や課題の提示、相互意見交流の機会を設けます。講義にはPCが必携です。オフィスアワーや連絡先は初回講義で伝えます。

01	オリエンテーション
02	教育方法・技術の理論
03	西洋における教育思想と教育方法の歴史
04	日本における教育改革と教育改革の歴史
05	授業研究の歴史
06	教室言語
07	資質・能力の育成と教育方法
08	情報活用能力の育成
09	学習評価
10	授業づくり・技術とICTを活用した学習指導
11	「子どものための哲学（Philosophy for Children, P4C）」の方法論
12	諸外国の教育方法
13	パンデミック禍の学びと教育実践－学校の困難と変容の検討－
14	教職の専門性
15	確認テストおよび解説とフィードバック
16	試験なし

科目名:OH21S0203　ICT活用の理論と実践	担当者:佐久間 潔	開講学科等	保育学部 保育学科
		授業形態	講義
免許・資格:小学校教諭1種免許状		開講時期	前期
		配当学年	2
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	選択

授業概要と方法
教育現場におけるICT（情報通信技術）の活用について、その歴史的経緯、現状、今後の方向性を理解する。授業における児童・生徒および教員によるICT活用の他、授業準備、学習評価に関する活用、校務における活用や教育データの処理手法を取り上げる。
また、情報社会を生きていくための資質・能力である情報活用能力について、学習展開用のツールを具体的に使用して実社会での対応力を身につけさせる。
さらに、プログラミング教育ツールを使用し、児童・生徒へSTEM教育の４分野の能力を身につけさせる手法を検討する。本科目では、講義およびパワーポイント教材による解説・事例紹介を行う。
学生は、自身のＰＣを始めとする各種ICT機器、環境を具体的に使用して、体験的に学修する機会を中心に学ぶ。

授業の到達目標
(1) 教育現場におけるICT活用の意義や理論について理解する。（DP1）
(2) ICTを活用した学習指導や校務の実際と今後の在り方について理解する。（DP2）
(3) 情報活用能力（情報モラルを含む。）を育成するために必要な指導法を身につける。（DP2）

【到達目標と深く関連する学科DP】
(DP1) ◎自主的、主体的に学び活動する力
(DP2) ○他者と交流・協力し、学び合う力

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
授業で利用するディバイス（パソコン）を使用してシステムやツールについて、提供元のホームページにて確認、準備学修すること。また事後学修については、授業時間内で紹介した資料等を読み込むこと。

評価方法
授業に対する取り組み（毎授業に対するレポートをMoodleに提出）40%および確認試験60%
最終回のまとめ時に全体に向けてフィードバックを実施する。

教科書	参考図書
随時配布	「小学校学習指導要領」　その他、授業時に適宜紹介する

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
・毎回、パソコン使用します。
・質問等はメール（sakuma@ohkagakuen-u.ac.jp）または、情報総合センターで受け付けます

01	オリエンテーション　現代社会におけるＩＣＴの役割
02	教育のＩＣＴ化の歴史と変遷、ICT利活用時代の考察
03	情報端末１人一台時代における教師のICT 活用指導力
04	現場の情報端末の状況を踏まえたICT 活用能力（情報モラルを含む。）の醸成
05	双方向化されたＩＣＴ活用術とLCMSやリアルタイムツールを使用した遠隔授業
06	特別支援・幼児教育を含めた児童・生徒に対するＩＣＴ活用能力（情報モラルを含む。）の醸成
07	校務でのICT活用（統合型校務支援システムを含む。）と児童・生徒の成績データなどデータ処理
08	まとめと確認試験

2024年度シラバス

科目名:OH21S0204　幼児と人間関係	担当者:青山 裕美	開講学科等	保育学部 保育学科
		授業形態	演習
免許･資格:幼稚園教諭1種免許状・保育士資格		開講時期	前期
		配当学年	2
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	選択

授業概要と方法
【担当者の実務経験】保育園園長　保育士として子ども理解に基づく人間関係の成長発達を考慮した保育実践をし、管理職となってからはその経験を生かし後進の指導に努めた。
　現代の乳幼児の人間関係の育ちに影響を与えている社会的要因について理解し、保育・教育で保障すべき内容に関する知識を身につける。特に、領域「人間関係」の指導の基盤となる基礎理論として、関係発達論的視点について学び、他者との関係や集団との関係の中で乳幼児期の人と関わる力が育つことを理解する。

授業の到達目標
1）乳幼児を取り巻く人間関係をめぐる現代的課題を理解する（DP）。2）乳幼児期の人間関係の発達について、園生活における関係発達論的視点から理解する（DP)。

【到達目標と深く関連する学科DP】
◎知識・技能
○思考力・判断力・表現力

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
準備学修：オリエンテーションで示したテキストの該当ページに目を通しておくこと
事後学修：配布プリントを自分なりにまとめ直す

評価方法
授業内での話し合い・意見発表等の取り組み（30%）、課題等提出物（30%）、確認テスト（40%）
課題のフィードバックについては、次回の授業日で、課題の中の特徴的な見解や誤解についての解説を行う。

教科書	参考図書
無藤隆監修　(2018)　新訂　事例で学ぶ保育内容　領域　人間関係　萌文書林	「保育所保育指針」、「幼稚園教育要領」、「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
授業内での少グループでの話し合いでは意見をまとめることよりも互いに尊重しながら様々な考え方に触れて多様な見方考え方を学ぶこと。連絡手段については授業内で伝えます。

01	領域「人間関係」について考える。
02	乳児における「人間関係」
03	自我や自己主張の芽生え
04	乳幼児の人間関係の広がり
05	いざこざやけんかを通してみる人間関係の発達
06	乳幼児期の道徳性・規範意識の芽生えと育ち
07	幼児の共同性の育ち
08	まとめ・確認テスト
09	
10	
11	
12	
13	
14	
15	
16	

2024年度シラバス

科目名:OH21S0205　幼児と表現	担当者:淺野 卓司、基村 昌代、五十嵐 睦美	開講学科等	保育学部 保育学科
		授業形態	演習
免許･資格:幼稚園教諭1種免許状・保育士資格		開講時期	前期
		配当学年	2
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	選択

授業概要と方法
領域「表現」の指導において、幼稚の発達を踏まえた表現活動の在り方や、子どもの主体的な活動に結びつく楽しさの要因について体験的に理解するとともに、総合的な表現遊びの実践づくりを通して、幼児期の表現活動を支援するための知識・技能、表現力を身に付ける。

授業の到達目標
(1)乳幼児期の表現活動の意義や特徴について要領・指針等を踏まえて理解し、表現することの喜びを味わうことを通して、保育実践のための基礎的な技能を養う（知識・技能）（DP)。
(2)教育・保育の専門職として求められる実践内容や方法に関する知識や技能を基に、自らの考えを深め、課題を解決し、その結果を他者に正確に伝える力を身につけている（思考力・判断力・表現力）（DP)。

【到達目標と深く関連する学科DP】
◎知識・技能
○思考力・判断力・表現力

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
・保育内容指導法「表現」のねらい及び内容について解説書を事前に読み、要点をまとめておく。
・授業内容の記録をまとめる。

評価方法
授業ごとに気付いたことや感じたことをポートフォリオに図等を用いてまとめたものを評価する（70%）。ICTを用いた活動全体の総括について評価を行う（30%）。課題（実技試験、発表、振り返りシート等）について、総合的に評価しフィードバックを行う。※成績開示の際に、評価に応じたコメントを添付する。

教科書	参考図書
幼稚園教育要領解説・保育所保育指針解説書・幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説	

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
園での保育ボランティア等へ参加し、子どもの表現活動についての観察を行う。
連絡はyouji_hyougen@googlegroups.comまで。
教科書は「保育内容指導法（表現）」の授業でも引き続き使用します。

01	全体ガイダンス、子どもの表現とは
02	（ゲスト）歌唱・身体表現に関する特別講演、ワークショップゲスト)
03	（担当：五十嵐）音楽を通した身体表現①　“おかあさんといっしょ”のお姉さんになりきろう
04	（担当：五十嵐）音楽を通した身体表現②　表情・声・動きを工夫しながら表現しよう
05	（担当：基村）幼児歌曲やわらべうたの歌詞の内容を理解して表現豊かに歌おう
06	（担当：基村）幼児歌曲やわらべうたのねらいと活動を考えて弾き歌いをしよう
07	（担当：淺野）0~2歳児の発達と造形題材①　指絵の具で遊ぼう
08	（担当：淺野）0~2歳児の発達と造形題材②　マステ・シールを使ってデコろう
09	
10	
11	
12	
13	
14	
15	
16	

2024年度シラバス

科目名:OH21S0206　国語	担当者:森川 拓也	開講学科等	保育学部 保育学科
		授業形態	講義
免許･資格:小学校教諭1種免許状		開講時期	前期
		配当学年	2
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	選択

授業概要と方法
【担当者の実務経験】小学校教諭
この授業科目では、元小学校教諭としての経験を踏まえ、教育の実践者として必要な基本的な国語力と言語表現力を養う授業を展開する。国語科は「言葉の学習」としての教科であるということの理解を深め、教材研究を中心に、国語科の授業づくりの基礎を学ぶ。講義形態だが、グループワーク・実習・発表などの活動を積極的に取り入れる。【AL】

授業の到達目標
①国語科教育の本質と意義を理解し、言葉を使って「話す」「聞く」「書く」「考える」という基本的な力を育成する指導のための知識・技能を身につける。【DP】
②教育の専門職として必要な「国語科の授業」に関する知識・技能を基に、自らの考えを深め、課題を解決し、その結果を他者に的確に表出する力を身につける。【DP】

【到達目標と深く関連する学科DP】
◎知識・技能
○思考力・判断力・表現力

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
教材を読んで課題を考えておいたり、参考資料を調べたりすること、またそれぞれで教材研究を行うことなどがあります。

評価方法
フィードバック：レポート・課題等を適宜評価し課題点や留意事項などを直接伝える
授業に参加する姿勢・活動（20%）　レポート・課題・提出物・発表（40%）　筆記試験（40%）以上を総合して評価します。

教科書	参考図書
小学校学習指導要領解説　国語編	適宜紹介します。

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
国語辞典が必要です。（電子辞書も可）　　各回に配付する資料は失くさないようにしてください。　連絡先・手段は授業時に伝えます。

01	オリエンテーション　国語科は「言葉の学習である」ことの理解
02	国語の教材研究の重要性とその方法①（「言葉を学ぶ学習」の観点から）
03	国語の教材研究の重要性とその方法②（「主体的・対話的な学習」の観点から）
04	国語の教材研究の重要性とその方法③（「思考力・表現力を育む学習」の観点から）
05	伝統的な言語文化と日本語文法の基礎と表現についての理解
06	言葉を使って「書く」ということの理解と実習
07	言葉とイメージ（言葉のよる表現活動）の理解と実習
08	保幼小接続の観点から国語科を考える　まとめ
09	筆記試験
10	
11	
12	
13	
14	
15	
16	

2024年度シラバス

科目名:OH21S0207　算数	担当者:小池 嘉志	開講学科等	保育学部 保育学科
		授業形態	講義
免許･資格:小学校教諭1種免許状		開講時期	前期
		配当学年	2
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	選択

授業概要と方法
・算数科の内容の数学的背景にある数学的構造が何であるかを理解し、見通しを持って指導できる力量と子どもたちが数学的に考える態度が育成され、子どもたちの発想をうまく引き出すことができる力をつけることを目指す。数学的な構造が生活経験的な概念の段階でとどまってしまうことの無いよう数学的な意味づけを重視する。【AL】【担当者の実務経験】小中学校長、指導主事。小学校現場で役立つ実用的な学習内容、学習指導法、子ども理解について学修します。

授業の到達目標
・算数科の内容の数学的背景にある数学的構造が何であるかを理解し、見通しを持って指導できる力量を身につけることができる【DP】。また、子どもたちの発想をうまく引き出すことができる授業展開の方法を理解することができる【DP】。

【到達目標と深く関連する学科DP】
◎知識・技能
○思考力・判断力・表現力

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
・授業で学修したことを、学習指導要領の該当ページで必ず復習するようにしてください。

評価方法
具体的達成目標にあげた内容が理解でき、活用できるかどうか、学習指導要領算数編の内容の理解、算数の背景、算数と中学以上の学校数学との関連など、小テストやレポート、授業中の発表や態度などで評価する。毎回の講義のレポート３０％、確認テスト３０％，学期末のレポート３０％，授業中の態度１０％程度。

教科書	参考図書
毎回、プリントを配布する	小学校学習指導要領解説算数科（東洋館出版社）

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
今まで皆さんが学修してきたことを指導者の立場から見直します。決して蒸すか強いないようではありませんので積極的に取り組んでください。

01	オリエンテーション：数学の誕生と歴史　－数と数字－
02	加法・減法の概念形成と小学生の特性
03	乗法の概念形成とその仕組み
04	除法の概念形成とその仕組み
05	面積の指導
06	割合の指導 割合の指導
07	変化と関係とその指導
08	まとめと確認テスト
09	
10	
11	
12	
13	
14	
15	
16	

科目名:OH21S0208　生活	担当者:千種　彰典	開講学科等	保育学部 保育学科
		授業形態	講義
免許・資格:小学校教諭1種免許状		開講時期	前期
		配当学年	2
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	必須

授業概要と方法
【担当者の実務経験】小学校教諭
　本授業では、元小学校教諭の経験を踏まえ、教材研究や授業実践の分析について具体的な検討を行う。また、指導方法の工夫などを学ぶことができるようにする。
　生活科の目標や内容を確認しながら、子どもの立場になって活動や体験（グループワークを含む）をし【AL】、生活科の学びついてイメージをもつ。活動における気付きを大切にし、気付きの交流を通して生活科の在り方を考える。

授業の到達目標
活動や体験を通して、生活科における教材を研究する力を身につける。活動や体験から考えたことの交流を通して、「気付きの質を高める」ことが生活科の「深い学び」に結び付くことを理解する【DP】。
【到達目標と深く関連する学科 DP】
◎知識・技能
〇思考力・判断力・表現力

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
・事前学習として示したことを基に計画的に学ぶ。
・授業で使う道具や材料を準備する。
・気付きの交流の意見を踏まえて教材研究し、資料を作成する。

評価方法
試験 60%、課題20%、授業への参加態度20%
フィードバック：個別の課題やグループワークについて適宜評価し、課題点や留意事項などを伝える。

教科書	参考図書
小学校学習指導要領解説　生活編	小学校学習指導要領、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領 、保育所保育指針

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
・製作に必要な道具を各自準備すること。
・準備物の用意のために学修内容を入れ替える場合があります。
・相談時間は授業内で伝えます。

01	生活科教育の特質－どんな力を育てるのか
02	自然や物を使った遊び①身近な物を使ったおもちゃ製作の計画
03	自然や物を使った遊び②身近な物を使ったおもちゃ製作の資料作成
04	物を使った遊び①伝承遊びや昔遊びから学ぶこと
05	物を使った遊び②伝承遊びや昔遊びのおもしろさ
06	自然や物を使った遊び③身近な物を使ったおもちゃ製作の実際①おもちゃA
07	自然や物を使った遊び④身近な物を使ったおもちゃ製作の実際②おもちゃB
08	生活科の展望と課題・筆記試験
09	
10	
11	
12	
13	
14	
15	
16	

2024年度シラバス

科目名:OH21S0209　図画工作	担当者:淺野 卓司	開講学科等	保育学部 保育学科
		授業形態	演習
免許・資格:小学校教諭1種免許状		開講時期	前期
		配当学年	2
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	選択

授業概要と方法
本講は、保育学科のDP及びCPにある、教育・保育に関する専門的な知識・技能等を身につけることを目的とする。主として小学校図画工作の表現活動で使用する材料や用具の扱い（全7回）、コンピュータ、カメラなどの情報機器の利用の仕方についての学び（１回）を通して、指導に必要な基礎的な知識・技能・表現力を身につける。

授業の到達目標
（1）学習指導要領に基づいた教科の目標及び各学年の目標や、指導における配慮事項について説明できる（知識・技能）（DP)。
（2）各学年の題材の特徴や題材の関連について理解するとともに、活動で用いる材料・用具の基本的な扱いができる（知識・技能）（DP)。
（３）自分なりの美的な捉え方を持って判断し表現することができると同時に、児童の作品や造形的な創造活動について共感的に理解することの大切さについて考えることができる（思考力・判断力・表現力）（DP)。

【到達目標と深く関連する学科DP】
◎知識・技能
○思考力・判断力・表現力

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
・授業後に授業を通して学んだことをロイロノートカードにまとめたポートフォリを作成する。ポートフォリオは、制作した作品や、制作を通して学んだこと（発想や構想、技能等）を記載する（15時間）。
・ポートフォリオは、Microsoft TeamsへアップしたPowerPointを授業後に更新する。

評価方法
学修課題に関する学びや気づきをポートフォリオにわかりやすくまとめ、学生自身の学びの過程が可視化されたものをもとに評価を行う（70%）。造形表現に必要な材料・用具に関する基礎的な理解については確認テストを行い評価する（30%）
第4回までの授業内容について中間まとめとして評価し、フィードバックする。

教科書	参考図書
小学校学習指導要領解説　図画工作編（平成29年6月　文部科学省） 淺野卓司「よくわかる！造形あそびの材料・用具」（令和元年　サクラクレパス）	授業の事前に適宜資料を配付する。

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
・実技に必要な用具（個人用絵の具、彫刻刀等）を購入すること。
・連絡先：asano-t@ohkagakuen-u.ac.jp

01	小学校学習指導要領　図画工作における「内容の取り扱いと指導上の配慮事項」について
02	第１学年及び第２学年における材料・用具の体験　「絵の具と水のハーモニー」
03	絵の具を用いた造形遊びの活動事例
04	第３学年及び第４学年における材料・用具の体験　「ほってすって見つけて」
05	版に表す活動事例（下絵）
06	版に表す活動事例（彫りの効果と刷り）
07	第5学年及び第6学年における材料・用具の体験
08	ICT機器を使った作品展示と鑑賞について
09	
10	
11	
12	
13	
14	
15	
16	

科目名:OH21S0210　児童文化	担当者:浦中 こういち	開講学科等	保育学部 保育学科
		授業形態	演習
免許･資格:幼稚園教諭1種免許状・保育士資格		開講時期	前期
		配当学年	2
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択

授業概要と方法
保育士としての現場での経験、現在活動している、絵本作家、あそび作家の経験を活かし、「今」の保育現場、子ども理解等を学び、その中から子どもたちと共に楽しめるシアター、模倣遊びに繋がる教材等の製作、グループでの演習等を行いながら、児童文化を学び、保育に活用できる言葉・技術等に関する知識や技術を学ぶ。
【担当者実務経験：保育士9年／学童指導員2年／障がい者施設陶芸指導員１0年～／絵本作家／あそび作家／保育アドバイザー／保育造形アドバイザー】

授業の到達目標
１）子どもの発達と絵本、紙芝居、パネルシアター、紙皿シアター、言葉あそび等に関する知識と技術（２）子どもが児童文化に親しむ保育環境（３）子どもの経験や様々な表現活動と児童文化を結びつける遊びの展開についての知識と技術を習得する。（DP）そして、様々な児童文化教材の特性を理解し、実際に教材作りを行い、子どもの遊びやイメージを豊かにし感性を養う環境構成や保育の展開方法を学ぶ（DP）ことを目的とする。

【到達目標と深く関連する学科DP】
○主体的に学ぼうとする力
◎知識・技能

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
グループ別にてプレゼンテーションを行う準備（２h)
シアターについての資料収集や製作(2h)
絵本の特性・理解し学んだことを踏まえた選書(1h)

評価方法
授業への参加態度・姿勢・取り組み方50%　数回のミニレポート・製作物提出40%　シアター等の発表(グループワーク）10%
フィードバックは、授業時等において、制作物等に関して個別あるいは全体講評等を行う。
授業への参加態度を重視する。実践向けのあそびへの積極的参加、忘れ物、提出物（期日厳守）、授業への取り組み。
課題以外の製作物提出。

教科書
保育園・幼稚園で２歳からたのしい忍者あそびがいっぱい　（著：浦中こういち　出版：かもがわ出版）

参考図書
子どもがおしえてくれましたほんとうの本のおもしろさ
保育所保育指針　幼稚園教育要領　幼保連携型認定こども園教育・ 保育要領
1年中作れる！　0から5歳児の製作・造形あそび
センス・オブ・ワンダー

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
●児童文化の授業はオンライと対面にて行います。スケジュール授業時配布します。
●児童文化を学びながらより実践に近い製作・実技・演習・グループでの発表があります。実際に保育現場で働くことを目的に行います。
●教材製作（パネルシアター. 紙皿シアター）について
必要な教材を各自準備していただきます。製作材料については丸善等にて販売しております。授業時に詳細をお知らせします。
●連絡方法について
Moodleまたはメール

01	子どもの発達と言葉あそびの特性と理解／児童文化についての理解
02	子どもの発達と絵本特製・理解（次回授業のパネルシアター紹介）
03	子どもの発達とパネルシアターの特製・理解（教材作り）
04	パネルシアター製作　（教材作り　色付け方法）
05	パネルシアター製作　（教材作り　色付け方法２）
06	パネルシアター製作　（教材作り　縁取り／仕掛けの作り方）
07	パネルシアター制作　（仕掛け作り／演じ方）
08	パネルシアターを使っての保育の展開を学ぶ（グループ発表／演習）
09	様々なシアターを使って保育展開を学ぶ　（紙皿シアターについて）
10	紙皿シアター製作　（教材作り　製作の仕方、テキストの作り方等）
11	紙皿シアター製作　（教材作り　製作の仕方、テキストの作り方等）
12	紙皿シアター製作　（教材作り　製作の仕方、テキストの作り方等）
13	紙皿シアターを使っての保育の展開を学ぶ（グループ発表／演習）
14	乳幼児保育に生かせる言葉遊び（製作・演習・テキストを使っての制作）
15	学習の総まとめ（授業と確認テスト）
16	定期試験なし

科目名:0H22S0208　乳児保育Ⅰ	担当者:武藤 直子	開講学科等	保育学部 保育学科
		授業形態	講義
免許･資格:保育士資格		開講時期	後期
		配当学年	2
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	必須

授業概要と方法
【担当者の実務経験】　保育士・保育園長
授業担当者の保育現場での経験を活かし、3歳未満児の保育について、事例を示しながら実践力を高める学びができるようにする。3歳未満児の子どもの気持ちを受け止め理解するためには保育者としての専門性と感性が必要となる。乳児保育の意義、理念、内容、方法、子育てに関する専門的知識を講義やグループ学習、事例検討のアクティブラーニングで学ぶ（AL）。手遊びや歌遊びなど乳児保育の実践に役立つ技術を演習で習得できるようにする（AL）。

授業の到達目標
①乳児保育の意義や現状を踏まえ、乳児保育に必要な知識や技術を習得し、乳幼児理解や保護者支援についての理解を深める（DP）。
②3歳未満児の発育、発達を踏まえた保育の内容と生活の流れ、保育所、乳児院など多様な保育の場における乳児保育の現状と課題を理解する（DP）。③乳児保育のために必要な実践力を身につける（DP）。
【到達目標と深く関連する学科DP】◎知識・技能　○思考力・判断力・表現力

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
乳児保育の基礎を理解するためには積極的に乳幼児とのかかわりを増やし、座学での学びを実体験で確認していくことが大切です。ボランティアや子育て支援センターでの観察や関わりの機会を増やしていきましょう。
日頃から以下のことを自主的に心がけ、乳児保育の学びを深めましょう。
3歳未満児の発達の理解を深めるために乳幼児との接触の機会を積極的に作る。乳児の生活に必要な環境、用具やおもちゃについて関心を持つようにする。

評価方法
筆記試験（８０％）、授業への参加態度・レポート・提出物（２０％）。フィードバックは毎回の授業ノートに学び、感想や質問を記載。筆記試験は希望者に開示、それ以外のレポートや提出物の評価については、評価の基準内容を第１回目授業に示し、評価して返却する。

教科書	参考図書
「やさしい乳児保育」神蔵幸子、金允貞編著（青踏社）・保育所保育指針解説平成30年３月厚生労働省編（フレーベル）	適宜授業時に紹介

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
授業の空き時間や長期休暇等を利用し、ボランティアや 乳幼児と触れ合う機会を多く作り乳児の理解に努める。乳児保育に必要な手遊び・歌あそびを覚え、手作りおもちゃを作るなど、保育実践に役立つ技術の習得や教材研究を積極的に行う。
連絡手段はメールで行う。研究室７４０２。

01	授業概要及び評価方法等の説明　乳児保育の意義
02	乳児保育の変遷と現状
03	保育園における乳児保育
04	０歳児の保育（6カ月未満までの機能の発達と援助、家庭との連携）
05	０歳児の保育（6カ月から1歳未満までの機能の発達と援助、家庭との連携）
06	１歳児の保育（発育・発達の特徴）
07	１歳児の保育（生活・遊びの援助と環境の工夫）
08	２歳児の保育（機能の発達、生活・遊びの援助と環境の工夫）
09	保育の計画（０歳児の指導計画の作成）
10	保育の計画（1歳児の指導計画の作成）
11	乳児保育の環境（人的環境）
12	乳児保育の環境（物的環境、自然環境）
13	乳児保育における保健活動（乳児期に多い症状、感染症と対策）
14	乳児保育における保健活動（事故防止と安全対策）
15	まとめ
16	定期試験

科目名:OH22S0209　医療保育Ⅰ	担当者:棚瀬 佳見	開講学科等	保育学部 保育学科
		授業形態	講義
免許･資格:		開講時期	後期
		配当学年	2
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	選択

授業概要と方法
テーマ：小児病院における保育士やホスピタル・プレイ・スペシャリスト（HPS）などの療養環境の専門家の役割やその専門性を理解する。
①パワーポイントにて講義
②病院紹介
③小児病院における保育士やホスピタル・プレイ・スペシャリスト（HPS）などの療養環境の専門家の役割やその専門性を紹介

授業の到達目標
テーマ：小児病院における保育士や療養環境の専門家の役割やその専門性を理解できるようになる。（DP）

【到達目標と深く関連する学科DP】
◎知識・技能：医療保育の具体的な支援内容を知る。
○思考力・判断力・表現力：多角的な支援を実践する医療保育士の役割や専門性を捉える。

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
特にありませんが、これまでの病児・障害児保育の授業の振り返りやテキストを参考にして下さい。

評価方法
①授業態度（50%）②レポート内容（50%）
レポートから、到達目標と深く関連する学科DP内容が理解され、表現できているかを評価する。
フィードバックは、授業時等において、レポート等に関して個別あるいは全体講評等を行う。

教科書 なし	参考図書 なし

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
当日の講義で連絡手段などを周知する。

01	病院紹介と病棟･外来における保育・HPS活動
02	プレパレーション･ディストラクション紹介と実践
03	子ども権利条約を学ぼう
04	きょうだい支援
05	こころと身体の安全教育「ケアキットプログラム」紹介と実践
06	ドックセラピー触れ合い体験
07	在宅支援・ターミナル支援
08	当センターボランィア活動・東北遊び支援紹介まとめ
09	
10	
11	
12	
13	
14	
15	
16	

科目名:OH21S0211　多文化共生保育・教育論	担当者:内田 将平	開講学科等	保育学部 保育学科
		授業形態	講義
免許･資格:		開講時期	前期
		配当学年	2
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	選択

授業概要と方法
　保育現場には、様々な文化背景をもつ子どもたちが増加しており、保育・教育の多文化・国際化に対応することのできる保育者が求められています。この授業では、外国人増加の背景や実態を理解し、その上で、多文化社会の中で文化背景の異なる人々が相互理解し、多様性を尊重し、共に生きていくためにはどうしたらよいかを考えます。MoodleやTeamsを活用した相互意見交流の機会を設ける【AL】。また本授業では、適宜、講義内容をオンデマンド配信し見逃すことがないように努める。さらに毎回の講義の冒頭で前回の復習を行う。

授業の到達目標
　性差、民族、国籍や地域、宗教などの違いだけでなく、異なる環境で成育した様々な背景、価値観を理解し、それらを受け入れながら、豊かな保育・教育のあり方を目指していく（DP）。

【到達目標と深く関連する学科DP】
◎知識・技能
○思考力・判断力・表現力

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
　日頃から保育・教育に関する新聞（ネットニュースを含む）スクラップ等を行い、各自の興味関心のある分野の情報収集を行うようにしてください。またグループディスカッションに参加する際には、事前に必ず講義動画を視聴し基礎的な学習内容を各自で把握するだけでなく、予習課題にも取り組み、フォーマットに則り資料を作成してきてください。グループディスカッションでは、相互に意見交流する活動を通して、異なる考え方に触れ、視野を広めるように努めてください。

評価方法
授業への取り組み・意欲 40%　 確認テスト 60%
最終授業時に全体向けにフィードバックを行う。
※確認テスト実施日に欠席した場合は、各回(1~7回)のノートテイクをzipファイル形式でまとめて提出してもらいます。そのうえで確認テストと同等のレポート課題を課します。

教科書	参考図書
特に使用しない（必要に応じて、プリントを配布します）。	咲間まりこ（2014）『多文化保育・教育論』みらい。

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
MoodleやTeams等を活用した授業資料や課題の提示、相互意見交流の機会を設けます。講義にはPCが必携です。オフィスアワーや連絡先は初回講義で伝えます。

01	オリエンテーション、多文化共生保育・教育とは何か
02	在日外国人の動向と福祉ニーズ
03	外国につながる子どもの保育・教育と保護者への支援
04	多文化保育・教育における保育者・教師の専門性と役割
05	行政の多文化共生への取り組み―多文化保育・教育をふまえて―
06	海外の子育て支援の現状
07	今後の多文化保育・教育の課題と展望
08	確認テストおよびその解説とフィードバック
09	
10	
11	
12	
13	
14	
15	
16	

科目名:OH22S0301　特別支援教育論	担当者:柏倉 秀克	開講学科等	保育学部 保育学科
		授業形態	講義
免許・資格:特別支援学校教諭		開講時期	後期
		配当学年	2
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	必須

授業概要と方法
【担当者の実務経験】特別支援学校教諭
　この授業科目では、元特別支援学校教諭としての経験を踏まえ、障害等により特別の支援を必要とする幼児・児童・生徒に対する支援方法について具体的な検討を行う。また、特別支援教育を実施するための支援計画・指導計画の作成・活用について体験的に学ぶことができるようにする。
　特別支援教育について多方面から学びを深めるとともに、特別支援教育の理念と歴史、教育課程と指導法、特色ある自立活動、進路指導の概要について理解を深める。

授業の到達目標
①特別な教育的ニーズのある子どもたちに対する教育支援に関する思考力・判断力・表現力を身につける。【DP】②特別支援学校、特別支援学級、通常学級の役割についての知識・技能を身につける。③特別支援教育の教育内容の概要について知識・技能を深めることができる。④特別支援教育における自立活動、地域連携、キャリア教育等について知識・技能を深めることができる。④特別支援教育に関する思考力・判断力・表現力を身につける。⑤特別支援教育に関する思考力・判断力・表現力を身につける。

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
準備学修としては特別支援教育に関する基本文献を各自が予習すること。事後学修としてはボランティア体験など障害児に対し実践的にかかわる体験をできるだけ多く持つことが求められる。

評価方法
出席態度（10%）、レポート・小テスト(20%)、定期試験(70%)により総合的に評価する。
授業の最後にフィードバックを行う。

教科書	参考図書
授業中にレジュメを配布する。	「特別支援学校教育要領・学習指導要領」

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
受講するにあたって特別支援教育に関する「問い」や「疑問」を持ち寄っていただき、その答えや解決への道筋を皆さんとともに授業の中で追及していきたい。連絡先：kashiwakura@ohkagakuen-u.ac.jp

01	特別支援教育の理念
02	特殊教育から特別支援教育へ
03	特別支援教育の場
04	教育課程の概要
05	特別支援教育（視覚障害教育）の対象と指導方法の概要
06	特別支援教育（聴覚障害教育）の対象と指導方法の概要
07	特別支援教育（知的障害教育）の対象と指導方法の概要
08	特別支援教育（肢体障害教育）の対象と指導方法の概要
09	特別支援教育（病弱虚弱教育）の対象と指導方法の概要
10	特別支援教育における自立活動
11	特別支援教育におけるキャリア教育
12	地域における社会資源との連携
13	特別支援教育の専門性
14	障害者権利条約と特別支援教育
15	特別支援教育論のまとめ・授業内テスト
16	試験なし

科目名:OH22S1001　教育実習Ⅱ	担当者:辻岡 和代、森川 拓也、松永 康史、千種 彰典	開講学科等	保育学部 保育学科
		授業形態	実習
免許・資格:小学校教諭1種免許状		開講時期	後期
		配当学年	2
受講者制限: １年生時に指定された小学校でのボランティア活動・体験的学習を終了していること 。小学校教員を志す強い意志があること		単位数	1
		必須.選択	選択

授業概要と方法
【担当者の実務経験】小学校教諭
この授業科目では、元小学校教諭としての経験を踏まえ、小学校での授業実践を行う力量を高めるために具体的な指導を展開していく。また、小学校における教育活動の心構えや子どもへの支援について実践的な方法を学べるようにする。
学校現場での授業づくり・学級経営の実際を見て、教材研究や発問、児童への対応など、具体的なものとして学び、教職への意欲を高める機会とする。また、児童に関わることで、幼保小の接続の観点を確かなものとし、幼保の子どもと小学生の違いを学ぶ。

授業の到達目標
①小学校の役割や機能について実際に即して学び、教職への意欲を高める【DP】②児童の実際の姿や活動を通して子ども理解を深め、考察したことを表現することができる【DP】③学級活動・授業の観察、参加を通して、授業づくり・学級経営について理解する。①～③について、自らの問題意識や課題意識を実際に即して検証し深める。
【到達目標と深く関連する学科DP】
◎主体的に学ぼうとする力
○思考力・判断力・表現力

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
①実習の実施に先立って、教育実習指導Ⅱで学んだことをよく確認すること。 ②事前訪問時に実習校からいただいた指導をよく確認して、実習の事前準備をすること。

評価方法
フィードバック：最終授業時に、実習校からの評価を勘案してフィードバックを行う。
実習校からの評価 60%、実習日誌 20%、実習事後レポート 20%を総合して評価する。

教科書	参考図書
教育実習Ⅱの手引き	小学校学習指導要領

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
① 本実習を行うにあたり、１年生時に指定された小学校でのボランティア活動・体験的学習を終了していること、小学校教員を志す強い意志があることが条件となる。また教育実習Ⅰの単位を修得済みであること、第2学年前期までに、国語・算数・生活・図画工作から2単位以上、教育原理・教育の方法・教育職論・道徳教育の指導法・特別支援基礎論から5単位以上を修得していることが必要である。 ② 実習期間中の遅刻・早退・欠席等については、事前にその旨を申し出、許可を受けること。特に欠席の場合は大学にも連絡すること

01	実習実施期間：2024年9月ー10月の1週間 小学校における実習で、観察、参加を通し、教育の実際を体験的に学び、理解する。 ①小学校の役割や機能についての理解 ② 小学校における子どもの実際についての理解 ③ 小学校での授業づくり・学級経営についての理解 ④教職に対する意欲の向上
02	
03	
04	
05	
06	
07	
08	
09	
10	
11	
12	
13	
14	
15	
16	

科目名:OH22S1002　教育実習指導Ⅱ	担当者:辻岡 和代、森川 拓也、松永 康史、千種 彰典	開講学科等	保育学部 保育学科
		授業形態	演習
免許・資格:小学校教諭1種免許状		開講時期	前期
		配当学年	2
受講者制限: 1年生時に指定されたボランティア活動・体験的学習を終了していること。小学校教員を志す意思があること。		単位数	1
		必須.選択	選択

授業概要と方法
【担当者の実務経験】小学校教諭
この授業科目では、元小学校教諭としての経験を踏まえ、小学校での授業実践を行う力量を高めるために具体的な指導を展開していく。また、小学校における教育活動の心構えや子どもへの支援について実践的な方法を学べるようにする。
教育実習Ⅱのための事前事後指導として、実習のあり方、観察記録の書き方、実習への心構えを学び、実習後の振り返り、自己課題を明らかにし、今後の課題に活かしていく。

授業の到達目標
①小学校教育実習の意義や目標を理解する、②観察実習や参加実習の内容について理解し、観察・参加記録の練習に取り組む【DP】。③実習終了後、実習への取り組みを振り返り、自己課題を明確にする【DP】
【到達目標と深く関連する学科DP】
◎主体的に学ぼうとする力
○思考力・判断力・表現力

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
1年時のボランティア活動・体験的学習を踏まえて、本実習ではさらに何を学びたいのか自己課題を明確にもてるよう自ら進んで事前学修をすること。

評価方法
課題（ワークシート・実習ファイル）70%、授業への参加態度30%を総合的に評価する。
フィードバック：最終授業時に全員に対して、それまでの課題等を含めたフィードバックを行う

教科書 教育実習Ⅱの手引き	参考図書 小学校学習指導要領

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
本授業を受講する学生は、1年生時に指定されたボランティア活動・体験的学習を終了していること。小学校教員を志す意思があること。

01	教育実習Ⅱの課題と事前事後指導の計画の理解
02	小学校教育について　小学校の役割と学校運営について
03	小学校教育について　児童の実態と授業づくりについて
04	観察・参加の具体的な方法と記録の書き方について
05	小学校実地観察学習
06	介護等体験について
07	教育実習に向けての直前指導・事前訪問における確認
08	教育実習事後指導　　学びの振り返り・自己課題の明確化　事後指導
09	
10	
11	
12	
13	
14	
15	
16	

科目名:OH22S1003　保育実習Ⅰ（施設）	担当者:新沼 英明、五十嵐 睦美	開講学科等	保育学部 保育学科
		授業形態	実習
免許･資格:保育士資格		開講時期	後期
		配当学年	2
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択

授業概要と方法
児童福祉施設等において概ね10日間の実習を円滑に行い、特に社会的養護が必要な子どもの自立支援と権利擁護を学ぶための事前学習を行う。特に社会福祉施設における保育士の役割についての理解を深めるとともに、施設における保育士の支援を実際に体験することを通して、保育士の多様な役割を深く理解する。

授業の到達目標
１．児童福祉施設等の役割や機能を具体的に理解する(DP)。２．観察や子ども（利用者）とのかかわりを通して子ども（利用者）への理解を深める。３．既習の内容を踏まえ、施設での養護内容や生活環境について総合的に学ぶ。 ４．支援計画の理解と活用、記録及び自己評価等について具体的に理解する(DP)。５．施設における保育士の業務内容や職業倫理について具体的に学ぶ（DP）。

【到達目標と深く関連する学科DP】
◎主体的に学ぼうとする力
○思考力・判断力・表現力

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
施設実習に行くためには、保育実習指導Ⅰの「すべての授業で出席であること」、「すべての課題で合格すること」、これら２点をクリアしておくことが求められる。保育実習指導Ⅰにおける無断欠席や遅刻、提出物忘れ等に加えて、普段からのあいさつは、実習生としての資質にかかわることであるから、十分に注意されたい。

評価方法
園（施設）評価60%、実習日誌20%、実習レポート10%、実習への取り組み（実習への意欲・実習状況など）10%を総合して判断する。また評価に関するフィードバックも行う。

教科書	参考図書
随時紹介する。	保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
実習前から健康管理に気をつけること。実習中は遅刻、早退、欠席をせず、充実した実習ができるように心がけること。急病など致し方ない事情で欠席する場合は、ただちに実習先と大学事務に電話すること。保育実習Ⅰ（施設）を再履修する学生においても、保育実習指導Ⅰを再受講することが原則で、実習の履修資格になる。

01	＜居住型児童福祉施設等及び障害児通所施設等における実習の内容＞ １．施設の役割と機能 （１）施設の生活と一日の流れ （２）施設の役割と機能 ２．子どもの理解 （１）子どもの観察とその記録 （２）個々の状態に応じた援助や関わり ３．施設における子どもの生活と環境 （１）計画に基づく活動や援助 （２）子どもの心身の状態に応じた生活と対応 （３）子どもの活動と環境　（４）健康管理、安全対策の理解 ４．計画と記録 （１）支援計画の理解と活用 （２）記録に基づく省察・自己評価 ５．専門職としての保育士の役割と倫理
02	
03	
04	
05	
06	
07	
08	
09	
10	
11	
12	
13	
14	
15	
16	

科目名:OH22S1004　保育実習指導Ⅰ（施設）	担当者:五十嵐 睦美、樋口 桂子、新沼 英明	開講学科等	保育学部 保育学科
		授業形態	演習
免許･資格:保育士資格		開講時期	後期
		配当学年	2
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	選択

授業概要と方法
児童福祉施設等において概ね10日間の実習を円滑に行い、特に社会的養護が必要な子どもの自立支援と権利擁護を学ぶための事前学習を行う。特に社会福祉施設における保育士の役割についての理解を深めるとともに、施設における保育士の支援を実際に体験することを通して、保育士の多様な役割を深く理解する。

授業の到達目標
１．児童福祉施設等の役割や機能を具体的に理解する（DP）。２．観察や子ども（利用者）とのかかわりを通して子ども（利用者）への理解を深める。３．既習の内容を踏まえ、施設での養護内容や生活環境について総合的に学ぶ。 ４．支援計画の理解と活用、記録及び自己評価等について具体的に理解する(DP)。５．施設における保育士の業務内容や職業倫理について具体的に学ぶ(DP)。

【到達目標と深く関連する学科DP】
◎主体的に学ぼうとする力
○思考力・判断力・表現力

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
施設実習に行くためには、保育実習指導Ⅰの「すべての授業で出席であること」、「すべての課題で合格すること」、これら２点をクリアしておくことが求められる。保育実習指導Ⅰにおける無断欠席や遅刻、提出物忘れ等に加えて、普段からのあいさつは、実習生としての資質にかかわることであるから、十分に注意されたい。

評価方法
課題状況60%、出席態度30%、その他（実習への意欲・実習状況など）10%を総合して判断する。課題にコメントを付してフィードバックを行う。

教科書 特になし	参考図書 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
毎回出席をとり、無断欠席があった場合や遅刻が多い場合は原則として実習に行くことができない。
病欠、忌引きなどの止むを得ない事情の場合は、必ず教務課に連絡すること。翌日担当教員から課題の指示するので必ず教育・保育職センターに聞きに行くこと。（欠席課題の他に、次回までの共通課題がある場合がある）

01	施設実習オリエンテーション
02	児童福祉施設の理解を深めるための学習・実習施設の希望調査
03	実習施設の発表と実習前健康指導
04	事前訪問指導
05	日誌の書き方
06	直前指導（実習の心構え、自己課題設定、実習評価について）
07	事後指導Ⅰ（ポスター作り・自己評価）
08	事後指導Ⅱ（ポスター発表会）
09	
10	
11	
12	
13	
14	
15	
16	

科目名:0H21S2001　総合演習ＩＡ	担当者:淺野 卓司、辻岡 和代、基村 昌代、金子 晃之、森川 拓也、小柳津 和博、寺田 泰人、小原 倫子、伊藤 茂美	開講学科等	保育学部 保育学科
		授業形態	演習
免許･資格:		開講時期	前期
		配当学年	2
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	必須

授業概要と方法
　それぞれのゼミで、保育、幼児教育の基礎、表現活動支援の基礎、特別支援教育・保育の基礎、保幼小連携・児童教育に関する基礎を学び、保育、教育に関する実践力を身につける。また、各領域に関する課題をもち、専門的に深く探求する力を養う。

授業の到達目標
①ゼミでの学びや活動に主体的に取り組める【DP】
②ゼミでの他者の学びや体験を共有できる【DP】
③ゼミで学ぶ知識・技能・体験を理解し身に付けている【DP】
④学修した知識・技能・体験を用いて、思考し判断し表現できる【DP】

【到達目標と深く関連する学科DP】
◎主体的に学ぼうとする力
○協同的に学び合う力

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
　次回の準備学修、および毎回の振り返り（事後学修）が必要である。
　随時、レポート、報告書等の課題の提出が必要である。
　自らボランティア活動・体験的学習に参加する。

評価方法
フィードバック：個別指導及び集団指導の中で、適宜講評し課題点や留意事項などを直接伝える
参加態度（20点）、発言内容（20点）、報告・発表の内容（60点）を合計して100点満点で評価する。

教科書	参考図書
各ゼミ担当の先生が指示する。	各ゼミ担当の先生が指示する。

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
　受講要件として２年ゼミ（総合演習Ｉ）の履修対象者は、原則的に１年ゼミ（基礎演習）を修了した者とする。但し１年ゼミが、やむを得ない事由から単位修得に至らなかった場合に限り、１年ゼミの同時履修について、特別に認められることがある。連絡方法は各ゼミ担当者から指示がある。

01	前期ガイダンス　(2年ゼミで学ぶ意義・目標・内容・年間計画の確認)　学びのカルテ確認
02	スペシャリスト基礎①
03	スペシャリスト基礎②
04	スペシャリスト基礎③
05	スペシャリスト基礎④
06	スペシャリスト基礎⑤
07	スペシャリスト基礎⑥
08	スペシャリスト基礎⑦
09	スペシャリスト基礎⑧
10	スペシャリスト基礎⑨
11	スペシャリスト基礎⑩
12	芸術鑑賞会
13	スペシャリスト基礎⑪
14	スペシャリスト基礎⑫まとめ
15	前期の学びのまとめ　夏休み課題　フィールドワークの準備
16	

科目名:OH22S2001　総合演習ＩＢ	担当者:淺野 卓司、辻岡 和代、基村 昌代、金子 晃之、森川 拓也、小柳津 和博、寺田 泰人、小原 倫子、伊藤 茂美	開講学科等	保育学部 保育学科
		授業形態	演習
免許･資格:		開講時期	後期
		配当学年	2
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	必須

授業概要と方法
それぞれのゼミで、保育、幼児教育の基礎、表現活動支援の基礎、特別支援教育・保育の基礎、保幼小連携・児童教育に関する基礎を学び、保育、教育に関する実践力を身につける。また、各領域に関する課題をもち、専門的に深く探求する力を養う。

授業の到達目標
①ゼミでの学びや活動に主体的に取り組める【DP】
②ゼミでの他者の学びや体験を共有できる【DP】
③ゼミで学ぶ知識・技能・体験を理解し身に付けている【DP】
④学修した知識・技能・体験を用いて、思考し判断し表現できる【DP】

【到達目標と深く関連する学科DP】
◎主体的に学ぼうとする力
○協同的に学び合う力

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
　次回の準備学修、および毎回の振り返り（事後学修）が必要である。
　随時、レポート、報告書等の課題の提出が必要である。
　自らボランティア活動・体験的学習に参加する。

評価方法
フィードバック：個別指導及び集団指導の中で、適宜講評し課題点や留意事項などを直接伝える
参加態度（20点）、発言内容（20点）、報告・発表の内容（60点）を合計して100点満点で評価する。

教科書	参考図書
各ゼミ担当の先生が指示する。	各ゼミ担当の先生が指示する。

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
　受講要件として２年ゼミ（総合演習Ｉ）の履修対象者は、原則的に１年ゼミ（基礎演習）を修了した者とする。但し１年ゼミが、やむを得ない事由から単位修得に至らなかった場合に限り、１年ゼミの同時履修について、特別に認められることがある。連絡方法は各ゼミ担当者から指示がある。

01	後期ガイダンス　学びのカルテの確認
02	夏休み課題＆フィールドワークの報告①
03	夏休み課題＆フィールドワークの報告②
04	スペシャリスト基礎⑪
05	スペシャリスト基礎⑫
06	スペシャリスト基礎⑬
07	スペシャリスト基礎⑭
08	個別研究テーマの設定と報告①
09	個別研究テーマの設定と報告②
10	個別研究テーマの設定と報告③
11	個別研究テーマの設定と報告④
12	個別研究テーマの設定と報告⑤
13	学びの振り返り
14	合同ゼミ①（各ゼミの学びの報告会）
15	合同ゼミ②（各ゼミの学びの報告会）
16	

2024年度シラバス

科目名:OH12S0001　教育原理	担当者:金子 晃之	開講学科等	保育学部 保育学科
		授業形態	講義
免許･資格:幼稚園・小学校教諭1種免許状・保育士資格		開講時期	後期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	必須

授業概要と方法
　教育と学校の歴史・理念・思想についての知識を理解し、特性や問題点について展望できる思考力を獲得する（保育学科DP3）。方法は、各回、ムードルに資料を掲載し、授業時に説明し、各自がその資料に書き込みをして学修を進める。それと共に、授業ノートをムードルへ提出する(15回)。映像を用いて説明し事例検討を行う。グループ・ディスカション(2回)。毎回、パソコンを持参すること。【AL】

授業の到達目標
　到達目標は、①家族・社会を含めた教育・学校の理念・目的・営みの歴史について知識を身に付けること、②近代の教育・学校の理念・目的・営みが、どのようなものとして出現し展開してきたのか、そこにおける特性や課題は何かについて展望する思考力を身に付けることにある。（保育学科DP3）

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
　基本的に、次回の資料を開示するので、予習として読んでおくこと（事前学修30分）。授業後は、書き込んだ資料を読み直し、ポイントを振り返りながら、授業ノートを記載し後日提出すること(事後学修90分)。

評価方法
　事後学修として毎回提出する授業ノートを合計して100点満点で評価する。授業ノートのフィードバックについては授業内で行う。

教科書	参考図書
毎回、資料と授業ノートをムードルに掲載する。	「幼稚園教育要領」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」「保育所保育指針」「小学校学習指導要領」その他については授業時に指示する。

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
　毎回、パソコンを持参して下さい。
　オフィスアワー　木曜日　昼休み。　　メールアドレス　t-kaneko@ohkagakuen-u.ac.jp

01	人間形成と学校教育
02	明治期以前の家族・学校・社会と人間形成
03	明治期の家族・学校・社会と教育①　近代教育制度の歴史・理論
04	明治期の家族・学校・社会と教育②　幼稚園・保育所の歴史・思想
05	大正期の家族・学校・社会と教育①　新教育運動と日本型学校文化の歴史・思想
06	大正期の家族・学校・社会と教育②　幼稚園の歴史・思想と教育家族
07	昭和期の家族・学校・社会と教育①　軍国主義下の教育の歴史・理論
08	昭和期の家族・学校・社会と教育②　戦後教育の歴史・理論
09	昭和期の家族・学校・社会と教育③　詰込み型教育の歴史・理論
10	昭和期の家族・学校・社会と教育④　ゆとり型教育への転換
11	平成期の家族・学校・社会と教育　　学力観の転換
12	欧米近代の家族・学校・社会と教育①　宗教改革と子ども観の転換
13	欧米近代の家族・学校・社会と教育②　家庭教育と学校教育の思想
14	欧米近代の家族・学校・社会と教育③　新教育運動の学校と思想
15	近代の学校と教育の特性と課題について
16	試験なし

科目名:OH12S0002　保育原理	担当者:伊藤 茂美	開講学科等	保育学部 保育学科
		授業形態	講義
免許・資格:保育士資格		開講時期	後期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	必須

授業概要と方法
【担当者の実務経験】公立幼稚園勤務（40年：内11年園長）の経験を踏まえ、保育とは何かを体験を基に講義します。子どもの特性を知った上で、環境を通して行う教育・保育を捉え、保育者の役割について学びを深めます。具体的な事例を通して、子どもの理解・遊び・保育者の関わり・環境の構成を考察します。さらに、教育・保育における三法令・制度、保育の歴史、諸外国の保育について理解を深めます。

授業の到達目標
○到達目標１　教育・保育に関する法令及び制度、教育・保育の歴史、諸外国の保育、保育の状況等について習得する。【DP】
②到達目標２　遊びの重要性、保育者の役割、子どもの主体的な生活について理解し、子どもにとってよりよい保育を創造しようと考える。【DP】
○到達目標３　自分の考えを表したり他者の考えを聞いたりして、自ら学び仲間と一緒に学び合う。【DP】

【到達目標と深く関連する学科DP】
◎幅広い視野と知識と教養
○保育のあり方について考察する力

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
○ボランティア等への積極的参加をし、子どもとのかかわりをもちましょう。
○周りの環境（人・物・事・自然など）に関心をもち感性を磨きましょう。
○主体的に参加し、積極的な発言や質問を期待します。

評価方法
○授業参加（出欠・グループ討議への参加態度）30%　学びの振り返り30%　課題の提出40%
課題については、次回の授業日に、課題の中の特徴的な見解や誤解についての解説や学生のよくできた答案等を紹介する。

教科書
乳幼児教育・保育シリーズ　保育士養成課程準拠　保育原理
　小田豊・神長美津子・箕輪潤子編著　　光生館

参考図書
幼稚園教育要領（解説書）・保育所保育指針（解説書）・幼保連携型認定こども園教育・保育要領（解説書）
保育所保育指針
幼保連携型教育・保育要領

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
アドレスs-itou@ohkagakuen-u.ac.jp

01	子どもの特性を知る
02	保育を知る（養護と教育、環境を通して行う教育）
03	保育・幼児教育における法令と制度　（１）保育所に関する法令と制度
04	保育・幼児教育における法令と制度　（２）幼稚園・認定こども園に関する法令と制度
05	保育者の役割
06	遊びを知る（遊びの特質・学び）
07	遊びを知る（遊びの充実・発展）
08	幼稚園の教育内容
09	保育所の保育内容・幼保連携型認定こども園の教育・保育内容
10	保育の計画と実践の方法
11	保育所の生活　保育の現場を知る（１）
12	幼稚園の生活　保育の現場を知る（２）
13	認定こども園の生活　保育の現場を知る（３）
14	保育の歴史
15	諸外国の保育・確認テスト 日本の保育の現状　確認テスト
16	試験なし

科目名:OH12S0003　子ども家庭福祉	担当者:新沼 英明	開講学科等	保育学部 保育学科
		授業形態	講義
免許･資格:保育士資格		開講時期	後期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	必須

授業概要と方法
　子どもの成長発達と生活を保障するとともに、家庭・保護者（妊産婦を含む）に対して子育ての支援（保障）を目的として実施する種々の社会的な施策・援助を子ども家庭福祉という。講義では以下の５点、すなわち、①現代社会における子ども家庭福祉の意義と歴史的変遷についての理解、②子ども家庭福祉と保育との関連性及び子どもの人権についての理解、③子ども家庭福祉の制度や実施体系等の理解、④子ども家庭福祉の現状と課題についての理解、⑤子ども家庭福祉の動向と展望の５点について学習する。　授業は、担当者作成のレジュメに基づき進める。なお、本科目は、「教育・保育の本質・目的に関する科目群」に位置づく科目である。

授業の到達目標
　①子ども家庭福祉の意義と歴史的変遷（DP）、②子ども家庭福祉と保育との関連性及び児童の人権（DP）、③子ども家庭福祉の制度や実施体系（DP）、④子ども家庭福祉の現状と課題（DP）、⑤子ども家庭福祉の動向と展望（DP）、を理解する。

【到達目標と深く関連する学科DP】
◎知識・技能
○思考力・判断力・表現力

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
児童をとりまく環境は、その保護者をとりまく社会経済状況の変化に大きな影響を受けます。普段から社会事象に関心を持つよう、新聞記事等には日常的に接してください。その上で、各回のテーマに即した資料やテキストの該当箇所を事前に提示しますので、それらについて事前に目を通すようにしてください。事後にあっては、学修したテーマの概要を簡単にノート等にまとめるようにしてください。　授業前後に予習復習として2時間程度の学修が必要。

評価方法
小レポート20%、確認テスト80%
　【試験に対するフィードバックについて】
小テストの際は採点、確認後速やかにフィードバックを行います。
試験については追再試験後にteamsによりフィードバックを行います。

教科書	参考図書
こどもまんなか福祉論　新沼英明編著　中央法規	保育所保育指針および幼保連携型認定こども園教育・保育要領

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
毎回、穴埋め式のレジュメを配布します。A4版のフラットファイルなどを用意し、資料の整理に努めてください。　質問等のある学生は、８号館２階の研究室に来室するかteamsのチャット機能を用いてください。

01	オリエンテーション・子ども家庭福祉を学ぶ意義と目的
02	現代社会と子ども家庭福祉
03	子ども家庭福祉の歴史的展開
04	子どもの権利擁護（子どもの権利）
05	子ども家庭福祉の法律と行財政
06	子ども家庭福祉の実施機関・施設と専門職
07	少子化と子育て支援サービス
08	母子保健と子どもの健全育成
09	多様な保育ニーズへの対応
10	児童虐待とドメスティック・バイオレンス①（児童虐待を中心に）
11	児童虐待とドメスティック・バイオレンス②（DVを中心に）
12	障害のある子どもへの対応
13	少年非行への福祉的支援
14	子ども・子育て支援と子ども家庭福祉の今後の展望
15	保育と子ども家庭福祉との関連の整理と確認テスト
16	

科目名:OH11S0001　社会福祉	担当者:新沼 英明	開講学科等	保育学部 保育学科
		授業形態	講義
免許･資格:保育士資格		開講時期	前期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	必須

授業概要と方法
　本講義では、「社会福祉」の理念、法制度、援助技術などの基本を学習しながら、日本社会が抱える福祉的課題を見つめていく。特に、子どもや家庭に関わる社会問題に着目し、専門職に求められる役割や今後の課題について検討する。講義（パワーポイント使用）を中心とするが、クラス内で意見交換を行うことで理解を深めると共に考える力を養っていく。【AL】
【担当者の実務経験】児童心理治療施設・児童養護施設職員
　福祉現場の実際や直面している課題に触れながら、法制度の問題点や必要な専門性について実践的な考察を行う。

授業の到達目標
近年の日本社会が抱える生活問題と、それらが生じた要因や背景について説明できる。（DP）
社会福祉の理念と代表的な法制度や福祉サービスについて説明できる。（DP）
支援を要する人々に対して共感的な眼差しを持ち、ソーシャルワークの技術や考え方を述べることができる。（DP）

【到達目標と深く関連する学科DP】
◎知識・技能
○思考力・判断力・表現力

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
・授業中にとったノートを見返し、授業内容を振り返るとともに、メモの修正や補足を加えることで知識の定着を図る。また、その過程で生じた疑問点をノートにまとめておく。
・関連するテーマについて、書籍、新聞、インターネット等から情報を収集し、ノートにまとめておく。
・授業内容については批判的に吟味し、考察を行った上で、疑問点については次回授業時に質問ができるように整理しておく。

評価方法
　確認テスト：60%、ミニレポート：20%、授業への参加姿勢（コメントシート、発言、態度など）：20%
授業後、コメントシート、メールなどで寄せられた質問や疑問については、翌授業日または第15回まとめにてフィードバックする。

教科書	参考図書
担当者作成のレジュメ・資料を用いて授業を行う。	保育所保育指針および幼保連携型認定こども園教育・保育要領

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
　ノート（ルーズリーフ可）を持参すること。講義内容は丁寧にノートをとるよりも、「素早くメモをとる」ことを心がける。質問等は授業後、またはコメントシート、メールでも受け付ける。

01	オリエンテーション・事例紹介
02	子ども、家庭のための福祉①　～子ども虐待の現状と課題～
03	子ども、家庭のための福祉②　～子ども虐待の防止と保育・教育者の役割～
04	家族問題（困難）が顕在化した歴史的背景
05	障害児・者のための福祉①　～「障害」か「障がい」か～
06	障害児・者のための福祉②　～共生社会の実現と課題～
07	社会福祉の理念と法制度
08	社会福祉をとりまく状況と社会保障
09	社会福祉を支える専門職と倫理
10	事例から学ぶソーシャルワーク（相談援助）
11	対人援助職のコミュニケーション技術　～子どもの声を聴く～
12	権利擁護と第三者評価　～施設内虐待にどう向き合うか～
13	諸外国の社会福祉の動向　～日本との比較検討～
14	在宅・地域で生きる、支え合うための専門職の役割
15	まとめと確認テスト
16	試験なし

科目名:OH11S0002　保育者論	担当者:上村 晶	開講学科等	保育学部 保育学科
		授業形態	講義
免許･資格:幼稚園教諭1種免許状・保育士資格		開講時期	前期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	必須

授業概要と方法
【担当者の実務経験】幼稚園教諭
本科目は、現代社会における保育者の在り方について理解を深める。特に、幼稚園教諭の立場から、実践現場に根差した保育者の在り方を深く考えることを基軸に、幼稚園教諭・保育教諭・保育士など保育者の役割が変化しつつあることを踏まえながら、保育者としての制度的位置づけ、職務内容、資質、専門性などを理解するようにする。【AL】

授業の到達目標
①日本における学校教育や教職の社会的意義及び今日的課題について理解し、幼稚園教諭・保育教諭・保育士としての役割や資質能力・多様な職務について理解する（HDP3）。
②教師・保育者の全体的な職務内容を把握すると同時に、教師・保育者としての資質や専門性・義務や職業倫理について理解する（HDP3）。
③地域・家庭・社会的ニーズを踏まえた上で、多様な人材や専門家との協働・連携を通じて組織的に諸課題に対応する必要性について理解する（HDP3）。
④保育者としての資質や専門性を理解する中で、現代に求められる保育者像を明確化する（HDP4）。

【到達目標と深く関連する学科DP】◎HDP3：知識・技能　○HDP4：思考力・判断力・表現力

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
毎回の授業で、課題（次回のテーマ）を発表します。次回の授業までに、事前にテーマについて調べたり考えたりするなどを通して、自身の考えを明確にして授業に臨んでください。また、理想の保育者像に関する課題は、授業での学びを生かしながら作成し、発表・提出に備えてください。

評価方法
理想の保育者像シート（25%）・最終筆記試験（45%）・授業への取組（各回FB：30%）で総合評価を行う。
フィードバックの方法：各回のFB等における質問に関しては、次回授業時の冒頭で口頭回答する。また、理想の保育者像と最終試験に関しては、成績開示後に総合評価と講評、特に留意すべき事項等をMoodle上で解説する。

教科書	参考図書
なし	平成29年告示版　幼稚園教育要領解説、幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説、保育所保育指針解説書

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
1年生の段階で「どのような保育者を目指したいか」を描くことは、今後の皆さんの道標となります。夢や理想を描きつつ、保育現場で必要な力量とは何かを考えながら、常に課題意識を持ちながら授業に臨んでください。また、模擬授業では、聞き手の学びなどに留意しながら、授業展開をしてください（OH等は初回に開示します）。

01	オリエンテーション、保育とは、保育者とは
02	現代における保育者の社会的意義
03	保育者の制度的な位置づけと職業倫理
04	指針・要領にみる保育者の役割
05	保育環境の意義と保育者の役割
06	子どもの主体的な遊びを支える保育者の役割
07	子どもの権利を保障する保育者の役割
08	保育者の職務内容（１）：指導計画をデザイン・評価する保育者
09	保育者の職務内容（２）：家庭や地域と連携・協働する保育者
10	保育者の職務内容（３）：多様性と包括性を意識した保育者
11	国際的な幼児教育・保育の現状
12	保育者の連携と協働
13	保育者の専門職的成長
14	保育者に求められる資質や専門性
15	理想の保育者像プレゼンテーションとまとめ
16	定期試験

科目名:OH11S0101　発達心理学	担当者:堀 由里	開講学科等	保育学部 保育学科
		授業形態	講義
免許･資格:幼稚園教諭1種免許状・小学校教諭1種免許状・保育士資格		開講時期	前期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	必須

授業概要と方法
人間が一生涯発達し続けることを見通しながら、現代の子どもの姿を様々な実験・観察データをもとに考えていきます。特に変化の大きな乳幼児期や児童期の発達に目を向け、保育者・教師として子どもに関わる際に必要な発達に関する基礎的事項について、心理学的視点から学びます。授業方法はスライドを使用した一斉授業をメインとしますが、学生間の意見交流の場をもつ事もあります【AL】。

授業の到達目標
1) 子どもの発達に関わる心理学の基礎を習得することができる（DP）。
2) 発達に関する専門用語を具体的現象にあてはめながら理解することができる（DP）。
3) 子どもの発達と保育・教育の関係について考察することができる（DP）。
4) 生涯発達の視点から、保育・教育のみならず、養育や支援についても考えることができる（DP）。

【到達目標と深く関連する学科DP】
◎知識・技能
○思考力・判断力・表現力

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
準備学修：各ステージの特徴を身体・運動、認知・言語、社会性など様々な視点から考えるため、自身の発達を振り返ったり、身近な人の発達の様相を自分なりの言葉でまとめておきましょう。
事後学修：準備学修したことと授業内で解説したことを再度まとめ直したり、ボランティア等で出会った子どもたちに具体的現象にあてはめながら、専門用語を復習していきましょう。

評価方法
授業への取り組み（30%）、授業内の確認テスト（70%）
毎回の授業への意見は、次回の授業内でフィードバックし、確認テストについては最終授業内で解説を行っていく。

教科書	参考図書
適宜、資料配布	幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育容量（平成29年告示）フレーベル館 その他必要な書籍は随時紹介します。

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
常に疑問を持ちながら受講し、保育や教育にどのように活かせるのかを考え続けましょう。
オフィスアワーや連絡手段については授業内で伝えます。

01	生涯にわたって発達を理解することの意味
02	発達の諸理論と発達の研究方法
03	乳幼児期：愛着、対人関係の発達
04	乳幼児期：身体・運動発達
05	乳幼児期：認知・言語発達
06	児童期：認知発達、動機づけ、道徳判断
07	児童期：親子・きょうだい・友人関係
08	青年期：第2次性徴、性意識の発達
09	青年期：アイデンティティの確立
10	発達の遅れや偏り
11	成人期：パーソナリティと対人関係の親密性
12	成人期：キャリア意識、ストレス
13	中年期：子育て、子どもの巣立ちへの適応
14	老年期：心身の変化、対人関係の変化、死に対する意識の発達
15	まとめと授業内確認テスト
16	試験なし

科目名:OH11S0102　保幼小連携基礎論	担当者:金子晃之、上村 晶、之、松永 康史、藤井 七瀬	開講学科等	保育学部 保育学科
		授業形態	講義
免許･資格:幼稚園教諭1種免許状・小学校教諭1種免許状・保育士資格		開講時期	前期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	必須

授業概要と方法
本授業では、学校教育の社会的現状を踏まえ、保幼小の円滑な接続のための教育の基本、及び教育内容の接続や、今後求められる多様な連携の在り方について、基礎的な理解を深める。

授業の到達目標
１．多様な就学前教育・保育と小学校教育及び特別支援学校小学部教育に着目し、各要領・指針の総則に示された教育・保育の基本について理解する。[DP]
２．多様な就学前教育・保育と小学校教育及び特別支援学校小学部の円滑な接続を見据えた保幼小連携の重要性について、基礎的な理解を深める。[DP]

【到達目標と深く関連する学科DP】
◎知識・技能
○思考力・判断力・表現力

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
各授業担当者が、次週の予習部分について説明しますので、Moodleでの資料の閲覧や参考図書の該当部分の熟読などを通して、事前学修に努めてください。

評価方法
各回における確認課題（小テスト・小レポート等：80%）、授業への取組（20%）によって、総合評価する。
各授業の最後でフィードバックを行う

教科書 配布プリント	参考図書 幼稚園教育要領解説（平成29年告示版文部科学省）、幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説（平成29年度告示版 文部科学省・厚生労働省・内閣府）、保育所保育指針解説書（平成29年告示版 厚生労働省）、小学校学習指導要領（平成29年告示版 文部科学省）、特別支援学校幼稚部教育要領、特別支援学校小学部・中学部学習指導要領（平成29年告示版 文部科学省）

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
多様な子どもの育ちを、幅広くかつ見通しをもって捉えながら、各要領・指針の根幹を理解してほしいと考えています。また、保育士資格や幼稚園・小学校・特別支援学校における教諭免許など、多様な資格・免許が取得できる本学科のスタートアップとして、本授業の学びから様々な教師・保育者の在り方に関心を広げていくことを期待しています。（各授業担当者のOHや連絡手段等は、各回の初回に開示します）。

01	オリエンテーション、教育・保育に係る制度及び関連法令の理解（金子）
02	幼稚園教育要領にみる教育の基本、及び保幼小接続・連携の在り方（上村）
03	保育所保育指針にみる保育の基本原則、及び保幼小接続・連携の在り方（上村）
04	幼保連携型認定こども園教育・保育要領にみる教育・保育の基本、保幼小接続・連携の在り方（上村）
05	小学校学習指導要領にみる教育の基本（松永）
06	小学校学習指導要領にみる幼小接続・連携の在り方（松永）
07	特別支援学校幼稚部教育要領・特別支援学校小学部学習指導要領にみる教育の基本
08	特別支援学校幼稚部教育要領・特別支援学校小学部学習指導要領に基づく幼小接続・連携の在り方
09	
10	
11	
12	
13	
14	
15	
16	

2024年度シラバス

科目名:0H11S0201　保育内容総論	担当者:伊藤 茂美	開講学科等	保育学部 保育学科
		授業形態	演習
免許･資格:幼稚園教諭1種免許状・保育士資格		開講時期	前期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	必須

授業概要と方法
【担当者の実務経験】公立幼稚園勤務（40年：内11年園長）の経験を踏まえ、保育全般について具体的な実践例をまじえながら学んでいけるようにする。
　3法を知り、幼児教育・保育の基本を学び、各年齢及び一人一人に応じた保育内容・指導計画、園と家庭や地域との連携、地域における子育て支援などについて理解する。また、保育内容の変遷、諸外国の保育内容についても学ぶ。さらに、少子化の進行、子どもの生活や遊びの変容による保育ニーズの高まりや今日的課題を考えた保育のあり方について、仲間と話し合い、発表・報告をする。

授業の到達目標
○到達目標１　　幼児教育・保育の基本を習得し、各年齢の発達・保育内容・保育の計画について理解する。【DP】
○到達目標２　　一人一人の子どもの理解・遊び・環境・保育者の関わりについて、子どもの姿をイメージしながら考えることができる。【DP】
○到達目標３　　自分の考えを表したり他者の考えを聞いたりして、自ら学び仲間と一緒に学び合う。【DP】

【到達目標と深く関連する学科DP】
◎幅広い視野と知識と教養
○保育のあり方について考察する力

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
・授業計画を確認して授業に参加する。
・授業内容について教科書を見て予習する。
・授業内容を復習する。

評価方法
授業への参加・学習態度・学びの振り返り30%、課題の提出30%、筆記試験40%にて評価する。
課題については、次回の授業日で、課題の中の特徴的な見解や誤解についての解説や学生のよくできた答案を紹介する。

教科書	参考図書
津金美智子・新井美保子編　新時代の保育双書『子どもの主体性を育む保育内容総論』（株）みらい	幼稚園教育要領　保育所保育指針　幼保連携型認定こども園教育・保育要領

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
・免許・資格を取る学生は、休まず履修する。
・ボランティア活動等への積極的参加をし、子どもとのかかわりをもつ。
・周りの環境（人・物・事・自然など）に関心をもち感性を磨くことに努める。

01	オリエンテーション・授業の進め方・子育てを巡る動向と課題＜グループディスカッション＞
02	子どもを取り巻く社会環境の変化と保育内容（社会環境の変化・保育内容の基準）
03	幼児教育・保育の基本（環境を通して行う保育、育みたい資質・能力、10の姿の理解等）
04	遊びと保育内容（保育内容5領域の総合性）＜グループディスカッション＞
05	子ども理解①（乳児保育に関わる保育内容）
06	子ども理解②(１歳以上3歳未満児の保育内容)
07	子ども理解③（3歳以上児の保育内容）
08	子ども理解④（3歳以上児の保育内容）
09	子ども理解⑤（3歳以上児の保育内容）
10	家庭・地域との連携、健康及び安全、子育て支援
11	保育の計画①（教育課程・全体的計画とカリキュラムマネジメント）
12	保育の計画②（指導計画と保育の展開、保育の記録と評価）
13	保育の計画③（記録の実際）
14	我が国における保育内容の変遷（戦前・戦後、現代の課題）
15	諸外国の保育内容　＜演習＞世界の幼児教育・保育内容の調査発表　　★授業全体まとめ
16	筆記試験

2024年度シラバス

科目名:OH12S0201　保育内容指導法（環境）	担当者:豊田 明子	開講学科等	保育学部 保育学科
		授業形態	演習
免許･資格:幼稚園教諭1種免許状・保育士資格		開講時期	後期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	必須

授業概要と方法
本科目では領域・環境のねらい及び内容を学び、実際に環境のねらいをもった保育活動の指導案を作成するための知識を習得する。子どもの具体的な姿を想像してグループで模擬保育をおこない、積極的にグループで発表・討論することで、学習内容を定着させ、理解を深めていく。【AL】

授業の到達目標
到達目標１はDP１、２はDP２に深く関連する。
１．　領域環境のねらいと内容と学び、子ども生きる力の土台であり、現在の生活を豊かにする保育について理解する。
２．子どもの主体性が発揮できる保育活動を起案し、指導案を書いて、仲間と協力して実践し、リフレクションできるようになる。

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
次回の授業までに、指定する資料等を熟読する。指導案作成等の課題を出すこともある（２時間）。また、事後学修として、課題レポートを完成させる（２時間）。

評価方法
ルーブリックの視点から、レポート試験（50%）、課題（40%）、授業への参加態度(10%)で総合的に評価する。授業のふりかえりはリアクションペーパーを用いておこない、課題のフィードバックは個々にコメントするとともに、必要に応じて全体へも伝える。

教科書	参考図書
とくに指定しない	「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」「幼稚園教育要領」

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
質問等ある場合は、リアクションペーパーか授業前後の時間を使ってください。連絡はOhkamoodleを通してお願いします。

01	オリエンテーション、幼児と環境の学びから保育内容指導法「環境」へ
02	領域・環境のねらいと内容についての考え方と指導計画について
03	乳児保育における領域・環境
04	領域・環境のねらいと内容　①身近な生き物を観察・飼育する方法について
05	領域・環境のねらいと内容　②季節を感じる遊び（ペープサートを使って）
06	領域・環境のねらいと内容　③観察・飼育課題の発表
07	領域・環境のねらいと内容　④観察・飼育課題についてのグループ討議
08	環境構成を支える知識と技術、情報機器の活用法と指導案作成について
09	領域・環境のねらいと内容　⑤絵本のなかの季節を味わう
10	領域・環境のねらいと内容　⑥行事の計画と実践
11	領域・環境のねらいと内容　⑦ものの性質や仕組みを考え、遊びにいかす（毛糸）
12	領域・環境のねらいと内容　⑧ものの性質や仕組みを考え、遊びにいかる（新聞紙）
13	おたより 領域・環境の学びを保護者と共有する方法（おたよりの活用）
14	生活・遊びのなかの環境についての学び
15	省察の方法と実践、学びの共有
16	試験なし

2024年度シラバス

科目名:OH12S0202　保育内容指導法（言葉）	担当者:森川 拓也	開講学科等	保育学部 保育学科
		授業形態	演習
免許･資格:幼稚園教諭1種免許状・保育士資格		開講時期	後期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	必須

授業概要と方法
領域「言葉」のねらい・内容の全てにわたっての基礎を学んだ上で、幼児の発達に即して具体的な「言葉」に関する指導場面を想定し、保育を構想するための知識・技能・方法を習得する。

授業の到達目標
①言葉を育む指導の工夫や指導案づくりなどに取り組み、課題解決のための具体的方法を、自ら導き出す力を身につける【DP】
②児童文化財を用いて子どもの言葉を育む具体的な指導場面を想定し、構想をもちながら子どもに適切に対応しながら指導する実践力を身につける【DP】

【到達目標と深く関連する学科DP】
◎主体的に学ぼうとする力
〇思考力・判断力・表現力

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
配付資料のふりかえり、事前準備としての教材研究等に取り組む必要があります。絵本の読み聞かせの練習、絵本研究なども課題になります。

評価方法
フィードバック：レポート・課題・模擬保育等を適宜評価し課題点や留意事項などを直接伝える
各回のふりかえり（20%）授業・演習課題に対する取り組み姿勢（20%）教材研究（20%）定期試験（40%）以上を総合して評価します

教科書	参考図書
『幼稚園教育要領』『保育所保育指針』『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』	必要に応じて適宜指示する

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
各回に配付する資料は失くさないようにしてください。　連絡先・手段は授業時に伝えます。

01	オリエンテーション　（保育内容の「言葉」とは？）
02	言葉の育ちと保育について　（言葉の育つ道筋）
03	人とつながる言葉について
04	言葉で考えること・表現することについて
05	言葉に出会い言葉を豊かにする指導について①　（絵本の楽しさと活かし方）
06	言葉に出会い言葉を豊かにする指導について②　（絵本の読み聞かせの実践）
07	言葉に出会い言葉を豊かにする指導について③　（紙芝居の楽しさと実践）
08	言葉に出会い言葉を豊かにする指導について④　（言葉遊びの楽しさと活かし方）
09	言葉を育む保育実践①（紙芝居の製作１）【AL】
10	言葉を育む保育実践②（紙芝居の製作２）【AL】
11	言葉を育む保育実践③（保育場面を想定した指導案の作成）
12	言葉を育む保育実践④（模擬保育の実施１）【AL】
13	言葉を育む保育実践⑤（模擬保育の実施２）【AL】
14	言葉を育む保育実践⑥（模擬保育の振り返り）【AL】
15	領域「言葉」から教科「国語」へのつながりとまとめ
16	定期試験

2024年度シラバス

科目名:OH11S0202　幼児と環境	担当者:豊田 明子	開講学科等	保育学部 保育学科
		授業形態	演習
免許･資格:幼稚園教諭1種免許状・保育士資格		開講時期	前期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	選択

授業概要と方法 本科目では、保育・幼児教育における「手段としての環境」、「目的としての環境（領域・環境）」の両方についての理解を深める。とくに、学生自身が五感を磨いて環境の中の学びを見つけながら、子どもと環境との関わりについて共感的に学習することを重視する。視聴覚教材を用い、仲間とコミュニケーションを図りながら学びを深め、リアクションペーパーを使って質疑応答を行う。【AL】
授業の到達目標 DP３に関連し、下記を到達目標とする。 １．子どもが多種多様な環境との関係の中で育まれていることを理解し、それぞれに個性的な存在である仲間と意見を交わし合える。 ２．子どもの育ちには、その環境との五感を通した関わりが大切であることを理解し、言葉で仲間に伝え合える。
授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修 次回の授業までに、指定する教科書の該当ページ・資料等を熟読するとともに、課題に取り組む（２時間）。そして事後学修として、課題レポートを完成させる（２時間）。
評価方法 ルーブリックの視点から、最終レポート（50%）、課題（40%）、授業への参加態度（10%）で総合的に評価する。課題のフィードバックは、個々にコメントを書くとともに、必要に応じて全体へも伝える。

教科書	参考図書
『あそんでまなぶ わたしとせかい』勝間田明子、細田直哉、佐治晴夫著、株式会社みらい	「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」「幼稚園教育要領」

その他(学生へのアドバイス、連絡手段) 質問等ある場合は、授業前後の時間かリアクションペーパーを使ってください。連絡はOhkamoodleを通してお願いします。

01	オリエンテーション　ー環境とは何か
02	手段としての環境　ー環境構成の基礎理論
03	子どもを取り巻く環境　ー遊びの意義
04	身近な環境とのかかわりと感性の育ち　①触覚、聴覚、視覚
05	身近な環境とのかかわりと感性の育ち　②味覚、嗅覚と未分化な感覚
06	環境が育む感性と理性　ー科学絵本を味わう
07	環境のアフォーダンスとは
08	子どもの権利と環境、授業のまとめ
09	
10	
11	
12	
13	
14	
15	
16	

2024年度シラバス

科目名:OH11S0203　幼児と言葉	担当者:森川 拓也	開講学科等	保育学部 保育学科
		授業形態	演習
免許･資格:幼稚園教諭1種免許状・保育士資格		開講時期	前期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	選択

授業概要と方法
【担当者の実務経験】小学校教諭
この授業科目では、元小学校教諭としての経験を踏まえ、具体的な作業・活動を通して、領域「言葉」を指導する実践力の基となる基礎知識を身につける授業を展開する。その上で、子どもが「言葉」を獲得していくことの重要性と保育者の支援を学ぶ機会とする。

授業の到達目標
①子どもの生活を支える「言葉」の重要性と働きについて理解した上で、言葉を育み、言葉の豊かな使い手となるように指導できる知識・技能を身につけ、教材理解ができる。【DP】
②教育・保育の専門職として求められる「幼児の言葉」に関する知識・技能を基に、自らの考えを深め、課題を解決し、その結果を他者に的確に表出する力を身につけている。【DP】

【到達目標と深く関連する学科DP】
◎知識・技能
○思考力・判断力・表現力

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
配付資料のふりかえり、事前準備としての資料や指定図書の研究、日常の子どもの言葉の聞き取り・分析等の課題があります。

評価方法
フィードバック：レポート・課題等を適宜評価し課題点や留意事項などを直接伝える
各回のふりかえり（20%）授業・演習課題に対する取り組み姿勢（20%）演習課題の内容（20%）定期試験（40%）以上を総合して評価します

教科書	参考図書
『幼稚園教育要領』『保育所保育指針』『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』	必要に応じて提示します

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
各回に配付する資料は失くさないようにしてください。　連絡先・手段は授業時に伝えます。

01	なぜ「言葉」を学ぶのか
02	乳幼児期の言葉の発達
03	幼児にとって「言葉」とは何か
04	幼児の言葉から考える
05	人とつながるための言葉
06	子どもの言葉を育てる保育者・保護者の役割
07	子どもの言葉を育てる文化的環境と文化財
08	言葉をめぐるいろいろな問題
09	定期試験
10	
11	
12	
13	
14	
15	
16	

2024年度シラバス

科目名:OH11S0204　幼児音楽ＩＡ	担当者:五十嵐 睦美	開講学科等	保育学部 保育学科
		授業形態	演習
免許･資格:幼稚園教諭1種免許状・保育士資格		開講時期	前期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	選択

授業概要と方法
乳幼児の音楽的表現の姿やその発達、及び領域「表現」の内容について理解するとともに、乳幼児の感性や創造性を豊かにする様々な音楽表現遊びや音楽活動、環境の構成などについて体験的に学ぶ。【AL】
授業は、歌う・聴く・動くの3項目に分けて実施し、多様な表現の面白さ、楽しさを味わいながら子ども理解を深める。

授業の到達目標
音楽的な遊びや活動の体験を通して、乳幼児の音楽的発達や表現の実態について理解する。(DP)
自らの表現の特徴を客観的に捉えながら、教育・保育の専門職に必要となる表現力を身につける。(DP)

【到達目標と深く関連する学科DP】
◎主体的に学ぼうとする力
○思考力・判断力・表現力

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
〈準備学修〉
教科書内に記載された授業内容該当部分について、事前に目を通すこと
普段聴くことがない音楽を聴いてみたり、学外の音楽関連イベントに参加したりするなど、普段から自分自身の感性を磨く努力をすること
〈事後学修〉
振り返りやフィードバックを大切にしながら、授業で学んだことをノートやファイルに蓄積すること

評価方法
振り返りや提出物（50点）、最終レポート（30点）、授業態度(20点)
課題にはコメントを付して返却、または口頭でフィードバックを行う。

教科書	参考図書
石井玲子編著（2020）『表現者を育てるための保育内容「音楽表現」ー音遊びから音楽表現へー」教育情報出版 尾林裕美子ら（2012）『こどもの世界』ドレミ楽譜	保育所保育指針解説書・幼稚園教育要領解説・幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
連絡事項はすべてMoodlleに掲載するため、毎時確認をしてください。
授業に関する質問等は、五十嵐（igarashi@ohkagakuen-u.ac.jp）まで連絡をください。

01	ガイダンス、表現とは、領域「表現」の捉え方
02	乳幼児の音楽的発達
03	うたうー生活の歌や季節の歌とのかかわりー
04	うたうーわらべうたを通した子どもの育ちー
05	きくー自然とのかかわり、音マップの作成ー
06	きくーサウンドエディケーションや音環境の重要性ー
07	うごくー表現遊びやリトミックの実際ー
08	うごくーさくら・さくらんぼ保育のリズム遊びー
09	
10	
11	
12	
13	
14	
15	
16	

科目名:OH12S0203　幼児音楽ＩＢ	担当者:五十嵐 睦美	開講学科等	保育学部 保育学科
		授業形態	演習
免許･資格:幼稚園教諭1種免許状・保育士資格		開講時期	後期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択

授業概要と方法
乳幼児の音楽的表現の姿やその発達、及び領域「表現」の内容について理解するとともに、乳幼児の感性や創造性を豊かにする様々な音楽表現遊びや環境の構成などについて体験的に学ぶ。【AL】
授業は、鳴らす・創る・演じるの3項目に分けて実施し、多様な表現の面白さ、楽しさを味わいながら子ども理解を深める。

授業の到達目標
音楽的な遊びや活動の体験を通して、乳幼児の音楽的発達や表現の実態について理解する。(DP)
自らの表現の特徴を客観的に捉えながら、教育・保育の専門職に必要となる表現力を身につける。(DP)

【到達目標と深く関連する学科DP】
◎主体的に学ぼうとする力
○思考力・判断力・表現力

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
〈準備学修〉
教科書内に記載された授業内容該当部分について、事前に目を通すこと
普段聴くことがない音楽を聴いてみたり、学外の音楽関連イベントに参加したりするなど、普段から自分自身の感性を磨く努力をすること
〈事後学修〉
振り返りやフィードバックを大切にしながら、授業で学んだことをノートやファイルに蓄積すること

評価方法
振り返りや提出物（50点）、最終レポート（30点）、授業態度(20点)
課題にはコメントを付して返却、または口頭でフィードバックを行う。

教科書	参考図書
石井玲子編著（2020）『表現者を育てるための保育内容「音楽表現」ー音遊びから音楽表現へー」教育情報出版 尾林裕美子ら（2012）『こどもの世界』ドレミ楽譜	幼稚園教育要領解説・幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説・保育所保育指針解説書

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
連絡事項はすべてMoodlleに掲載するため、毎時確認をしてください。
授業に関する質問等は、五十嵐（igarashi@ohkagakuen-u.ac.jp）まで連絡をください。

01	乳幼児の音楽的表現、領域「表現」の確認
02	ならすー楽器を通した子どもの育ちー
03	ならすー楽器の奏法、オルフの音楽教育ー
04	つくるー創造性を育む音楽活動とはー
05	つくるーリズムアンサンブルの創作ー
06	つくるーリズムアンサンブルの発表ー
07	なりきるー絵本と音楽の関係ー
08	なりきるー身体表現と音楽の関係ー
09	
10	
11	
12	
13	
14	
15	
16	

2024年度シラバス

科目名:OH11S0205　ピアノ演習ＩA	担当者:赤松 みどり、手嶋 麻利、渡部 真理、竹内 理恵、森野 直子、鈴木 真衣、和沙 舞子、鬼頭 愛、後藤 祐里	開講学科等	保育学部 保育学科
		授業形態	演習
免許･資格:		開講時期	前期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	選択

授業概要と方法
ピアノの演奏技術の修得を通して、基礎的な音楽理論を理解し、教育・保育職に必要な音楽的感覚や演奏の表現力を身につける。授業は小グループで実施し、ピアノレッスンは個別指導を基本とする。音楽理論は課題を通して理解を深め、ピアノ曲の課題は受講者の進度に合わせて決定する（参考：ピアノ初学者はバイエルから始め、経験者はバイエルもしくはその他の独奏曲を演奏する。）

授業の到達目標
教育・保育職に必要な音楽理論について理解する。（DP）
子どもの表現を支えるために必要なピアノの基礎技能を修得する。（DP）

【到達目標と深く関連する学科DP】
◎知識・技能
○思考力・判断力・表現力

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
ピアノの演奏力は、毎日練習をすることで身につきます。1週間に最低3時間以上は練習する習慣を身につけ、根気強く反復練習に取り組むようにしましょう。
音楽理論の理解が難しい場合は、担当教員に質問をする、もしくは配布動画を視聴しながら取り組んでください。

評価方法
実技試験（60点）、音楽理論小テスト（20点）、平常点（20点）
ピアノの個人レッスンでは、毎時口頭でフィードバックを行い、音楽理論の小テストはコメントを付して返却する。

教科書
大塚茜監修（2023）『読む・聴く・書くで楽しくおぼえられる！楽譜がスラスラ読める本』永岡書店（全員購入）
浅田由貴絵ら（2020）『保育士、幼稚園・小学校教員を目指す人のための初心者から使える声楽・ピアノ教本』サーベル社（選択購入）

参考図書
『標準バイエル教則本』全音楽譜
尾林裕美子ら（2012）『こどもの世界』ドレミ楽譜

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
連絡事項はすべてMoodlleに掲載します。
授業に関する質問等は、五十嵐（igarashi@ohkagakuen-u.ac.jp）もしくはレッスン担当教員まで連絡をください。

01	ピアノの進度確認と課題曲の決定（レッスンを含む）／理論課題①（五線譜の理解）
02	ピアノ個人レッスン1（五線譜と音の理解）／理論課題②（音価の種類）
03	ピアノ個人レッスン2（音価とリズム）／理論課題③（リズムの組み合わせ）
04	ピアノ個人レッスン3（拍子とリズム）／理論課題④（拍子の特性と種類）
05	ピアノ個人レッスン4（音楽記号の確認）／理論課題⑤（音楽用語の理解）
06	ピアノ個人レッスン5（調性と指遣い）／理論課題⑥（音階と調名）
07	ピアノ個人レッスン6（曲想に合わせた表現）／音楽理論小テスト
08	ピアノ実技試験、まとめ
09	
10	
11	
12	
13	
14	
15	
16	

科目名:OH12S0204　ピアノ演習ＩＢ	担当者:赤松 みどり、手嶋 麻利、渡部 真理、竹内 理恵、森野 直子、鈴木 真衣、和沙 舞子、鬼頭 愛、後藤 祐里	開講学科等	保育学部 保育学科
		授業形態	演習
免許･資格:		開講時期	後期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	選択

授業概要と方法
基礎的な音楽理論について理解するとともに、教育・保育職に必要な歌唱力や弾き歌いの技能を修得することを目的とする。授業は小グループで実施し、レッスンは個別指導もしくはグループ指導とする。音楽理論は課題を通して理解を深め、弾き歌いの課題は受講者の進度に合わせて決定する。弾き歌いは1授業につき2曲以上演奏することを目標とし、伴奏の難易度は問わない。

授業の到達目標
教育・保育職に必要な音楽理論について理解する。（DP）
子どもの表現を支えるために必要な歌唱力や弾き歌いの技能を修得する。（DP）

【到達目標と深く関連する学科DP】
◎知識・技能
○思考力・判断力・表現力

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
弾き歌いの演奏力は、毎日練習をすることで身につきます。1週間に最低3時間以上は練習する習慣を身につけ、根気強く反復練習に取り組むようにしましょう。
音楽理論の理解が難しい場合は、担当教員に質問をする、もしくは配布動画を視聴しながら取り組んでください。

評価方法
実技試験（60点）、音楽理論小テスト（20点）、平常点（20点）
レッスンでは毎時口頭でフィードバックを行い、音楽理論の小テストはコメントを付して返却する。

教科書	参考図書
大塚茜監修（2023）『読む・聴く・書くで楽しくおぼえられる！楽譜がスラスラ読める本』永岡書店 浅田由貴絵ら（2020）『保育士、幼稚園・小学校教員を目指す人のための初心者から使える声楽・ピアノ教本』サーベル社 尾林裕美子ら（2012）『こどもの世界』ドレミ楽譜	小林美実（2012）『こどものうた200』チャイルド本社 小林美実（2012）『続　こどものうた200』チャイルド本社

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
連絡事項はすべてMoodlleに掲載します。
授業に関する質問等は、五十嵐（igarashi@ohkagakuen-u.ac.jp）もしくはレッスン担当教員まで連絡をください。

01	歌唱と弾き歌いのレッスン1（歌を通した子どもの育ち）／理論課題①（音階と調性の復習）
02	歌唱と弾き歌いのレッスン2（弾き歌いの意義と奏法）／理論課題②（音程;長短系）
03	歌唱と弾き歌いのレッスン3（歌いやすい伴奏とは）／理論課題③（音程;完全系）
04	歌唱と弾き歌いのレッスン4（曲想に応じた歌唱）／理論課題④（音程と和音）
05	歌唱と弾き歌いのレッスン5（曲想に応じた伴奏）／理論課題⑤（コードネームの理解）
06	歌唱と弾き歌いのレッスン6（保育を想定した弾き歌い）／理論課題⑥（コードネームの活用）※補助資料あり
07	歌唱と弾き歌いのレッスン7（子どもの表現をのばす弾き歌い）／音楽理論小テスト
08	弾き歌い試験、まとめ
09	
10	
11	
12	
13	
14	
15	
16	

科目名:OH11S0206　幼児造形Ⅰ	担当者:淺野 卓司	開講学科等	保育学部 保育学科
		授業形態	演習
免許･資格:幼稚園教諭1種免許状・保育士資格		開講時期	前期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	選択

授業概要と方法
この授業科目では、造形活動の楽しさや面白さを味わうとともに、保育者を目指す学生が、乳幼児の造形表現を支援・指導を行う際に必要な基礎的な知識及び技能を身につけることを目的とする。「幼児造形Ⅰ」は紙や絵の具などを中心とした題材を通して材料の特性や用具の基本的な扱いを理解する。製作プロセスの記録や振り返りはICT機器を活用する。フィードバックは、第1～4回目の授業を終えた時点と第5～8回の授業に対して行う。

授業の到達目標
乳幼児期の造形活動で用いる材料・用具の基礎的な知識や扱い方を修得するとともに、紙や絵の具等の活動の意義・目的について理解できるようになる。（DP）
（1）乳幼児期の造形活動で用いる材料・用具の体験
乳幼児の造形表現で用いる材料や用具の基本的な扱いと安全性について理解する。
（2）探求心を育てる造形の環境構成についての理解
紙の可塑性や絵の具の色彩変化から、ども一人一人の探究心を育てる活動や環境構成について考える。
【到達目標と深く関連する学科DP】
◎主体的に学ぼうとする力
○思考力・判断力・表現力

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
準備学修：講義に関連する資料、材料の収集を行うこと。
事後学修：学修した内容についてまとめを授業ノート（PowerPoint）に記入すること。

評価方法
学修内容の学びや気づきについて授業ノートにまとめたものを40%、造形活動に必要な基本的・基礎的な知識・技能の修得評価を40%、まとめレポートを20%で評価する。

教科書	参考図書
幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領幼稚園教育要領 『よくわかる！造形あそびの材料・用具』サクラクレパス（「幼児造形Ⅱ」でも使います）	

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
本講は、Microsoft Teamsを使います。毎回パソコンを持ってくること。
連絡手段：asano-t@ohkagakuen-u.ac.jp

01	乳幼児の育ちと身近な材料（新聞紙で遊ぶ）p12～15（ページ数は教科書の該当）
02	大きな紙を関わる活動「大きな木をかこう」
03	色の不思議　光の折り紙　p.8,9
04	光の不思議　ブラックライトで遊ぼう　p94,95
05	色水で遊ぼう　アイロンビーズのひびきあい　p48,49
06	紙コップの達人　p18,19
07	カラーモールで遊ぼう　p50,51
08	学校の不思議ないきものたち（ICTを使った活動評価とまとめ）
09	
10	
11	
12	
13	
14	
15	
16	

科目名:OH12S0205　幼児造形Ⅱ	担当者:淺野 卓司	開講学科等	保育学部 保育学科
		授業形態	演習
免許･資格:幼稚園教諭1種免許状・保育士資格		開講時期	後期
		配当学年	1
受講者制限: 幼児造形Ⅰを履修していること		単位数	1
		必須.選択	選択

授業概要と方法
この授業科目では、造形活動の楽しさや面白さを味わうとともに、保育者を目指す学生が、乳幼児の造形表現を支援・指導を行う際に必要な基礎的な知識及び技能を身につけることを目的とする。「幼児造形Ⅱ」は、「幼児造形Ⅰ」で学んだことをもとに、粘土、木などを中心とした題材を通して材料の特性や用具の基本的な扱いを理解する。製作プロセスの記録や振り返りはICT機器を活用する。フィードバックは、第1～4回目の授業を終えた時点と第5～8回の授業に対して行う。

授業の到達目標
〃乳幼児期の造形活動で用いる材料・用具の基礎的な知識や扱い方を修得するとともに、粘土、木等の活動の意義・目的について理解できるようになる。（DP）
（1）乳幼児期の造形活動で用いる材料・用具の体験
乳幼児の造形表現で用いる材料や用具の基本的な扱いと安全性について理解する。
（2）探求心を育てる造形の環境構成についての理解
粘土の可塑性や木材を使った構成的な遊びから、ども一人一人の探究心を育てる活動や環境構成について考える。
【到達目標と深く関連する学科DP】
◎主体的に学ぼうとする力
○思考力・判断力・表現力

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
〃準備学修：講義に関連する資料、材料の収集を行うこと。
事後学修：学修した内容についてまとめを授業ノート（PowerPoint）に記入すること。

評価方法
学修内容の学びや気づきについて授業ノートにまとめたものを40%、造形活動に必要な基本的・基礎的な知識・技能の修得評価を40%、まとめレポートを20%で評価する。

教科書	参考図書
〃幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領幼稚園教育要領 『よくわかる！造形あそびの材料・用具』サクラクレパス	

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
本講は、Microsoft Teamsを使います。毎回パソコンを持ってくること。
連絡先：asano-t@ohkagakuen-u.ac.jp

01	お花紙アート（材料の特徴から）p12,13
02	ローラーころころ・ぺったんスタンプ（絵の具の活動）p.82,83
03	ご褒美メダルをつくろう！（製作）p.52~63
04	ホイップクリーム粘土であそぼうp.52~63
05	ご褒美メダルをつくろう！（施釉、焼成）p.52~63
06	毛糸カラメ～ル（毛糸と木を使って）p.33,34
07	本物の石ころはどれ？p.28~31
08	
09	
10	
11	
12	
13	
14	
15	
16	

科目名:OH11S0207　幼児体育Ⅰ	担当者:寺田 泰人	開講学科等	保育学部 保育学科
		授業形態	演習
免許･資格:幼稚園教諭1種免許状・保育士資格		開講時期	前期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	選択

授業概要と方法
幼児の身体および運動能力の発育・発達について理解するとともに、幼児体育の意義やねらいを明らかにする。その上で、運動遊びの具体的な内容や指導方法について理解・修得し、保育者として実践力を身につける。本演習を通して、自らも運動遊びを楽しみかつ創造できる力を取得する（AL)。幼児が実施している様々な運動遊びを自ら経験することによって、幼児の発育・発達段階に応じた運動遊びを提供したり、運動動作の習得に対する適切な援助・指導ができるように実践的に学んで行く。そのためグループ学習やプレゼンテーションを取り入れる。（AL)

授業の到達目標
①様々な運動遊びを経験し、上達を目指して主体的に取り組む中で、運動の楽しさを知り運動技能の向上を図る。（DP)
②幼児期の運動発達過程を理解する。（DP)
③工夫や協力により、より良い保育教材や保育環境を作ることができるようになる。（DP)
④運動のコツを理解し、適切な援助ができるようになる。（DP)。

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
・事前学習として、シラバスに記載してある運動遊びについて文献等で調べておくこと。
・事後学習として、授業中に取ったメモを整理し、毎回の授業内容について、授業ノートを作成・提出する。
・学外実習やボランティア活動を通して、子どもの運動発達を理解する。

評価方法
① 毎回の授業内容をまとめた授業ノート（50%） ② 授業内で行う実技発表（30%） ③ 授業への取り組みに対する意欲や態度（20%）最終授業時に全体向けにフィードバックを行う

教科書	参考図書
特に指定しない。	幼児期運動指針　文部科学省、「幼児の運動あそび　幼児期運動指針に沿って」（チャイルド本社）

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
隔週で開講する予定であり、詳細は初回授業で案内します。高校などで使用していたスポーツウエア、スポーツシューズ、体育館シューズを用意し、それらを着用して授業へ臨んで下さい。毎回の授業ではメモ用紙と筆記具を携行してください。運動禁忌の場合は申し出て下さい。日頃から運動に親しんだり、戸外で活動したりすることを心がけましょう。
y-terada@ohkagakuen-u.ac.jp

01	オリエンテーション、道具を使わない遊び① からだ遊び
02	道具を使わない遊び② 伝承遊び
03	道具を使わない遊び③ 遊びの創作と発表
04	小型遊具を使った遊び① 縄、フープ
05	小型遊具を使った遊び② ボール遊び
06	模倣遊び、ダンスなど表現遊び
07	新聞紙、袋、空き箱などを使った遊びの創作と発表
08	授業のまとめ
09	
10	
11	
12	
13	
14	
15	
16	

2024年度シラバス

科目名:0H12S1001　教育実習Ⅰ	担当者:小原 倫子、内田 将平	開講学科等	保育学部 保育学科
		授業形態	実習
免許･資格:幼稚園教諭1種免許状		開講時期	後期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	選択

授業概要と方法
【担当者の実務経験】幼稚園園長
　本科目は、幼稚園教育実習における実践的な学びを体験・学修する。特に元幼稚園長の立場から、実習現場で求められる実践的指導力などを事前に提示し、幼稚園教育実習における学びを深められるようにする。【AL】
　幼稚園の教育の実際を体験的に学修し、自ら課題を持ちながら幼児と関わるなかで、幼稚園教育の基本、幼児理解、教師の役割・姿勢、子育て支援、地域や小学校との連携等について学ぶ。また、実際の保育と、習得した学習とを関連付けて考え、教師としての専門性や資質を理解する。

授業の到達目標
○到達目標１　　幼稚園実習を通して得られた学びと、これまでの学習とを関連付けて考えようとしたり、課題を見つけたりして自ら学ぶ。【DP】

○到達目標２　　幼稚園実習を通して、幼児理解・環境の構成・教師の援助の実際を知り、実際の保育から捉えたり考えたり、記述したりすることができる。【DP】
【到達目標と深く関連する学科DP】
◎主体的に学ぼうとする力　　○思考力・判断力・表現力

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
①実習のための体調管理を十分に行うこと。
②事前訪問で伺った教育方針や園の概要の理解に努めること。
③絵本の読み聞かせ、手遊び等の事前準備、ピアノ課題（任意）の準備をしておくこと。

評価方法
実習園からの評価60%、実習日誌20%、実習事後レポート10%、実習への取り組み10%を総合して評価する。

教科書	参考図書
教育実習Ⅰ手引き　2024Campus Life Guide	幼稚園教育要領解説　幼保連携型認定こども園教育・保育教育要領解説（平成２９年度告示版）

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
①本実習を行うにあたり、原則、当該年度の「教育実習指導Ⅰ」を履修することが条件となる。（未履修者は本実習に参加できない)
②遅刻・早退・欠席等については、必ず申し出ること。連絡は事務局実習担当まで。

01	＜1日目＞オリエンテーション、園の概要（園児数、クラス編成、教育方針、教育の特徴、職員構成と園務の分掌、施設設備、環境構成、家庭や地域との関係等）についての説明を受け、観察を通して実際的に確認する。（観察） ＜2日目＞教育の様々な場面における幼稚園教諭（教師）の子どもへの働きかけ、関わり方の実際について観察する。（観察) ＜3日目＞幼稚園の１日（教育の実際、子どもたちの降園前と降園後の職員の仕事の実際）について観察する。（観察） ＜4日目＞担任教諭の指示に基づき、教育の特定の場面における子どもへの部分的な働きかけを体験する。（参加）＜5日目＞実習生自ら子どもたちへの積極的な働きかけを体験する。（参加）
02	
03	
04	
05	
06	
07	
08	
09	
10	
11	
12	
13	
14	
15	
16	

科目名:OH11S1001　教育実習指導Ⅰ	担当者:小原 倫子、内田 将平	開講学科等	保育学部 保育学科
		授業形態	演習
免許・資格:幼稚園教諭1種免許状		開講時期	前期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	選択

授業概要と方法
【担当者の実務経験】幼稚園長
　本科目は、元幼稚園長としての経験を活かしながら、幼稚園教育実習における実習生の学びについて、具体的に検討する。また、実習現場で求められる実践的指導力などを具体的に検討・共有することを通じて、幼稚園教育実習に必要な知識・技術などを体験的に学ぶことができるようにする。【AL】
　幼稚園の教育の実際を体験的に学修する実習前指導として、幼稚園教育の基本、教師の役割・姿勢、子育て支援、地域や小学校との連携について、幼稚園教育要領を中心に学ぶ。そして観察記録の視点の持ち方、日誌の書き方について学ぶ。実習事後指導として、グループ討議を通して、実習で学び得たことを振り返り、実習課題を深める。

授業の到達目標
○到達目標１　　幼稚園教諭を体験することに意欲・責任・目標・課題をもち、自ら学ぶ。【DP】
○到達目標２　　幼稚園実習での気付きを仲間と交流し学びを深める。【DP】
○到達目標３　　幼稚園の役割や機能・幼稚園教諭の仕事・実習の目的を理解し、教諭として基礎的な力や態度を身に付ける。【DP】
【到達目標と深く関連する学科DP】
◎主体的に学ぼうとする力
○思考力・判断力・表現力

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
「実習ハンドブック」、「教育実習Ⅰ手引き」、「幼稚園教育要領」を読んで予習・復習をし、理解に努めること。（事前・事後学習）

評価方法
事前の課題等50%、事後課題等40%、授業への取り組み10%を総合的に評価する。
課題については、次回の授業日で、課題の中の特徴的な見解や誤解についての解説やよくできた答案等を紹介する。

教科書	参考図書
教育実習Ⅰ手引き、2024 Campus Life Guide	幼稚園教育要領解説　幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説（平成２９年度告示板）

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
公欠以外の理由で事前指導を3回以上欠席した学生は、実習を実施することができなくなります。授業を欠席する場合は、必ず、教務課実習担当に電話連絡をすること。（欠席者課題有）

01	ガイダンス、教育実習Ⅰの目的
02	幼稚園教諭とは
03	幼稚園の概要及び幼稚園教育要領について
04	教育実習とは
05	保育実技指導
06	実習日誌の書き方について
07	直前指導、幼稚園教育要領ミニテスト
08	事後指導（実習で学んだこと、課題　討議・発表）
09	
10	
11	
12	
13	
14	
15	
16	

科目名:OH12S1002　海外幼児教育インターンシップ	担当者:加藤 あや美	開講学科等	保育学部 保育学科
		授業形態	実習
免許･資格:		開講時期	後期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択

授業概要と方法
海外（主にニュージーランド）における保育・幼児教育の分野でのインターンシップを通して、国際的な視野を持った教育者・保育者としての素地を養います。また、現地での研修に参加することにより、実践的な英語を学びつつ、様々な人や文化と接触し、異文化理解を深める機会とします。授業は、事前指導と現地での語学研修・実習、及び事後指導で構成されています。渡航期間は2月下旬から3月中旬までの3週間程度の予定です。【AL】【EN】

授業の到達目標
研修先であるニュージーランドを中心とする海外の保育・幼児教育事情を知る。また、現地での研修により、異文化に直接触れ、異なる他者への理解を深める。（DP）加えて、日常的な英会話を身につけ、英語を使って現地のこどもと簡単なコミュニケーションをすることを目指す。（DP）

【到達目標と深く関連する学科DP】
◎主体的に学ぼうとする力
○思考力・判断力・表現力

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
ニュージーランドで研修を行うことを踏まえ、その準備段階に当たる事前授業への出席は必須とします。また、事前授業では、コミュニケーションに特化した英語を学んでいきますが、授業以外においてもListening,・Speakingを中心とした英語の学習を怠らないようにしましょう。

評価方法
授業への参加度　30%　現地実習評価　40%　実習記録作成　30%
現地実習終了後に実習記録返却および授業、現地実習に対するフィードバックを行う。

教科書	参考図書
適宜、プリントを配布します。	授業内で紹介します。

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
この科目は後期科目ですが、海外への渡航を伴う科目であるため、事前に説明会を開催します。受講を希望する学生は、必ず参加するようにして下さい。（オフィスアワー：木曜昼休み）

01	事前授業では、プログラム内容の詳細な説明や旅行業者による渡航に関わる提出書類等についての説明を丁寧に行っていきます。また、現地でのコミュニケーションに必要な実践的な英会話のトレーニングにも取り組みます。さらに、昨年度参加者によるプレゼンテーションの機会を設け、海外渡航への不安解消に繋げていく予定をしています。 研修実習国はニュージーランドで、滞在先はホームステイを予定しています。また、参加費用は40～50万円後半までの設定となる見込みです（参加人数等により変動します）。1週目は語学及び文化研修を主とし、
02	
03	
04	
05	
06	
07	
08	
09	
10	
11	
12	
13	
14	
15	
16	